

西横野中部地区遺跡群

二軒在家原田頭遺跡

行田二本杉原東遺跡

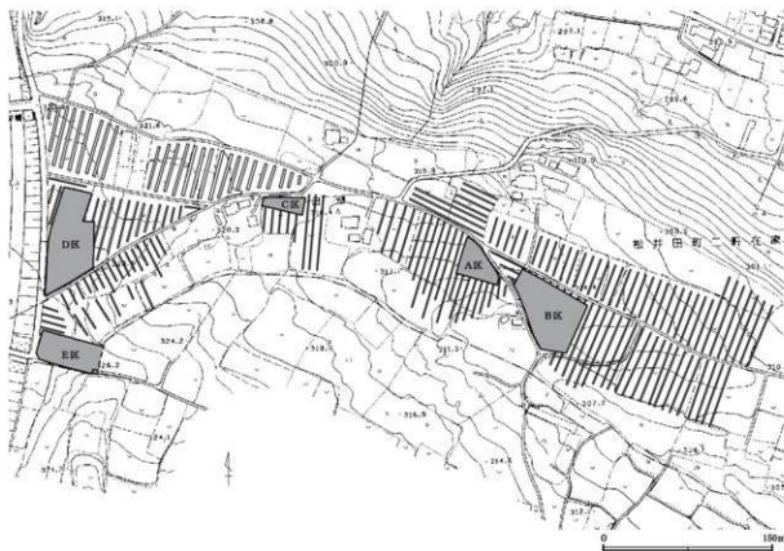
—県営農地整備事業松義中部地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

《第3分冊》

2017

群馬県安中市教育委員会

二軒在家原田頭遺跡



VI 二軒在家原田頭遺跡

1 遺跡の概要

二軒在家原田頭遺跡は妙義山から延びる横野台地の南端に位置し、遺跡地周辺の標高は凡そ 310 ~ 328 m である。本遺跡は東西に延びる台地を縦貫するように東流する高田川の支流、熊野沢川の源頭部北から西側にかけて沢を取り巻くように所在している。

今回の調査では A・B 両区のやや南傾斜の地形に沿うような形で、弥生時代中期後半の集落が展開していることが分かった。これらを構成する住居群についてはあまり出土遺物に時間幅がみられないことから、いずれも栗林 1 ~ 2 式期を中心とした短期間のうちに形成され、消えていった集落と考えられる。なお、本遺跡から熊野沢川を隔てて約 1 km 南東に位置する舌状台地の先端部には、本遺跡と同時期かあるいはやや後出する集落(富岡市上高田社宮子原遺跡)が確認されており、両遺跡の関係が注目される。

本遺跡で確認された遺構は縄文時代の住居址 1 棟、弥生時代の住居址 16 棟、古代~中世の溝 4 条などである。住居址の帰属時期は縄文時代が前期有尾・黒浜式期。弥生時代は前述のとおり中期後葉栗林式期である。溝のうち、富岡市との境界付近を東西に延びるもの(E 区 M-1 号溝)は西横野中部地区遺跡群における過去の調査で台地南側の区画溝として報告している遺構の延長部分に相当する。

(1) 縄文時代の遺構

1. 住居址

D 区内の北東向き緩斜面において前期中葉有尾・黒浜式期の住居址が 1 棟検出された。その他の遺構は確認されなかった。J-1 号住の平面形はやや不整形な隅丸方形を呈し、浅い壁周溝が二重にめぐる。中央とやや西側に地床炉を 2 カ所設け、前者は内側の壁周溝と重複する。これらのことから、本住居は時期差の小さい重複あるいは拡張が行われた住居と考えられる。柱穴と思われるピットは中央の地床炉周辺で 4 基確認された。

(2) 弥生時代の遺構

1. 住居址

A 区で 2 棟、同区と農道を隔てて隣接する B 区において 14 棟の計 16 棟を確認した(住居の可能性があるものも含む)。これらは本来、一連の集落である。両区とも富岡市との境界を流れる熊野沢川北岸の南斜面に立地する。住居群は標高約 311 ~ 315 m にあり、等高線に沿うように帯状になるような形で展開する。なお、本遺跡周辺において同河川は現状で流水を確認できないが、河床面に近いと考えられる B 区南端の標高 309 m 付近において 1 m ほど掘削したところ若干の湧水が認められた。なお、集落の内外を区画するような溝は確認されなかった。

各住居址はいずれも耕作に伴う攪乱が激しく、掘り込みを確認できなかった遺構が多かったが、おおむね住居の平面プランは円形または楕円形(Y-6・11・14 号住など)、隅丸方形(Y-12 号住など)、不整形(Y-1・8・10 号住など)の 3 つに大別できる。炉が確認できたのは 16 棟中 12 棟で、いずれも床面のほぼ中央部に設けられていた。遺物の出土量は住居によって異なるが、帰属時期はおおむね中期後半(栗林 1 ~ 2 式期)が中心と考えられる。

検出状況

原田頭Y-1号住は平面不整形だが壁周溝が全体の3/4周をめぐり、炉と4本の主柱穴を有す。Y-8号住も不整形だが、長軸は約7.8mを測り集落内最大である。同住居東壁付近の土坑（D-1号土坑）中から、21点の黒曜石原石が集積された状態で見つかった。Y-10号住はやや南寄りに炉を設ける。主柱穴は不明だが、床面に複数の炭化材が確認できることから焼失住居と考えられる。なお、本住居の建材は樹種同定の結果、コナラ節とケンボナシ属の木材が用いられていたことが分かった。

本遺跡群において住居同士の重複はY-5・7号住で確認されたのみであった。

規模

長軸と短軸の残存値から求めた平面積（m²）が40を超えるものが2軒（Y-6・8号住）、30以上が5軒（Y-1・7・9・12・16号住）。20以上が6軒（Y-4・5・10・11・14・15号住）、20未溝が3軒（Y-2・3・13号住）であり、比較的ばらつきがみられた。規模の大小と立地についての相関性は不明である。

住居構造

全体的に掘り込みが浅く、住居址壁体の立ち上がりを確認できたものは少ない。住居址の範囲については、わずかに残る壁周溝の推定延長ラインや遺物の分布状況から推定したものも多い。平面形状は楕円形や隅丸方形のものが多く、炉は中央部かやや南寄りに設ける例が多い。柱穴の本数はいずれも4～5基が中心と考えられる。

2. 土坑

B区において2基確認した。いずれも形状は不整形で深さも一定でない。

(3) 古代の遺構

1. 溝跡

E区において古代の溝が1条検出された（M-1号溝）。この溝は上西原遺跡や西横野東部地区遺跡群など、横野台地上で過去に確認された溝の延長にある。覆土の大部分が自然堆積し、上層にA s-B 純層が確認される状況についてもほぼ同じであり、古代以降に掘削されたと判断される。

溝の断面を見ると、旧表土上から緩傾斜に掘りこみ全体的に椀状を呈するが、その法面は北側に比べて南側の方が若干緩い印象を受ける。この傾斜の違いが、単純に溝の掘削時における廃土の搬出方向に起因するものでありその形自体に大きな意味はないのか、あるいは区画溝として台地の内外を区別するような意味をもつのかは不明である。なお、本調査区においては溝の堀底から規則的なピット列は確認できなかった。出土遺物はほとんどなかったが、B区覆土のⅢ層上面（Ⅱ b層直下）において、11世紀代の黒色土器塊が検出された。

また、A区とC区において東西に走行する溝が各1条確認された（M-2号溝）。両者は、確認された位置や覆土の状況から同一のものと判断される。掘り込みはとても浅いが、Ⅱ b層より下位覆土にA s-Bを含まないことから古代の所産と推定される。出土遺物はなかった。溝の堀底部分に硬化面が確認できることから道路状遺構の可能性もあるが、調査範囲が狭小であったため性格は不明である。

D区M-3・4号溝も覆土の状況はM-2号溝と同様であるが、掘り込みが非常に浅く形状も安定しないため、性格は不明である。

(4) 遺物の概要

1. 繩文土器

J-1住1~5はいずれも胎土中に植物纖維を混入する有尾・黒浜式期の深鉢片である。住居址周辺では前期から後期にかけての土器・石器が散見されるものの、いずれも少量である。

2. 弥生土器

本遺跡では16棟の住居址が確認され、いずれも中期後半栗林1~2式を中心とする時期に帰属すると考えられる。器種の傾向としては甕・壺が大半を占めるが、遺構の残存状況が不良なものが多く遺物量にもばらつきが大きいため、小破片でも極力掲載することに努めた。以下、各住居における遺物の概要を記す。

- ・Y-1住 鉢(4)は内外面に赤彩あり。ナデ整形後、2条の平行沈線にて横U字に区画する。甕(8)は櫛歯状工具による横位羽状文施文後、板状工具にて中位に列点文を配す。
- ・Y-3・4住 甕(1)は口唇部に刻み目を施す。内面、植物の茎を原体とする擬縄文施文。
- ・Y-5住 甕(5)は口縁部、ユビオサエにより波状を呈す。
- ・Y-6住 甕(1)は櫛歯状工具による縦位羽状文施文後、中位に刺突文。下半は炭化物とみられる黒色付着物が顕著。(11・12)は擬縄文を施す。小形甕(13)は簾状文と波状文を交互に配す。(30)は壺の頸部。中位に、沈線と刻み目を付した隆帶を巡らせる。
- ・Y-8住 (2)の甕は口縁部に刻み目を付す。胴部中位に列点文を配し、櫛歯状工具による横位短線文、鋸歯文、波状文を交互に施す。(10)は甕か。三角形の区画内に列点文を配す。
- ・Y-10住 甕(10)は縦位垂下文と横位波状文を交互に配すものと思われる。
- ・Y-11住 壺(5)は内面口唇部、櫛歯状工具による斜走文を2段に配す。(9)の壺はナデ後、横線文と簾状文を交互に施す。(22)は甕の底部か。底面に木葉痕が残る。
- ・Y-12住 (2)は蓋か、縄文施文後、棒状工具による逆V字文を重ねる。
- ・Y-14住 甕(1)は外面口端部、ユビオサエ後縄文施文。胸部上半、横位波状文と縦位垂下文を交互に配す。(6)の甕は外面口縁部近くまで重ね「コ」の字文を施す。
- ・Y-16住 (2)は小形壺か。頸部に施した沈線間に竹管文を密に配す。胸部は連弧文を重ねる。(31)は甕または壺の底部か。底面に布目痕が認められる。

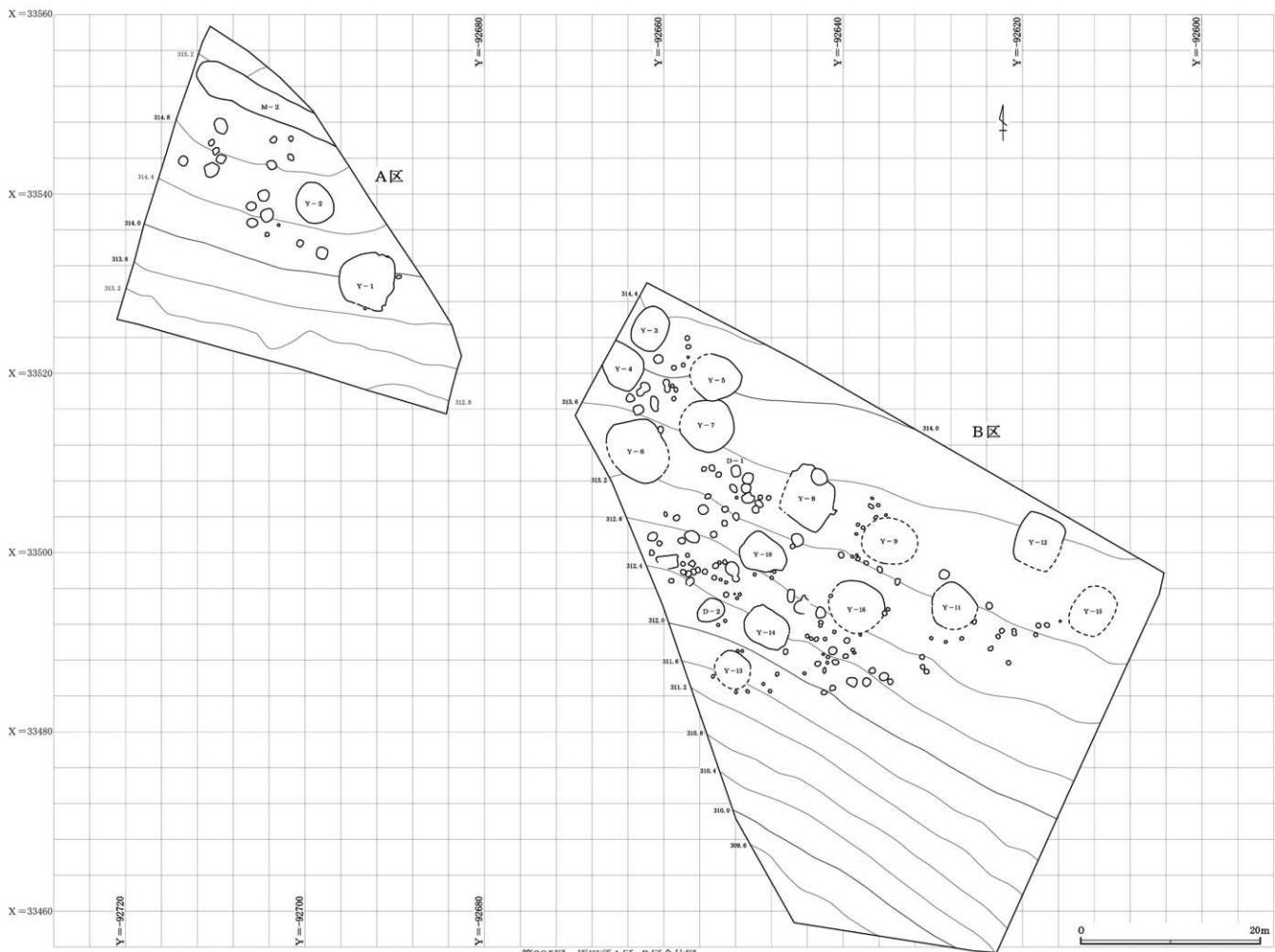
本遺跡では栗林式土器が多数を占める中、北陸地方を中心に分布する小松式系と考えられる土器も少量ながら出土している。簾状文と横線文あるいは波状文を、短い間隔で交互に施文するY-11住(9)やY-14住(14)などがこれに相当すると考えられる。また、内面口端部、あるいは外面に斜行短線文を用いる土器も確認できることから、搬入品も含め小松式の影響を受けた土器の存在も想定される。

また、土器に付着した種子圧痕の観察を行った結果、イネ(Y-6住33)、アワ(Y-5住9・Y-8住1・Y-11住23・Y-14住4)、キビ(Y-13住1)の圧痕が確認された。詳細は付編の論稿を参照されたい。

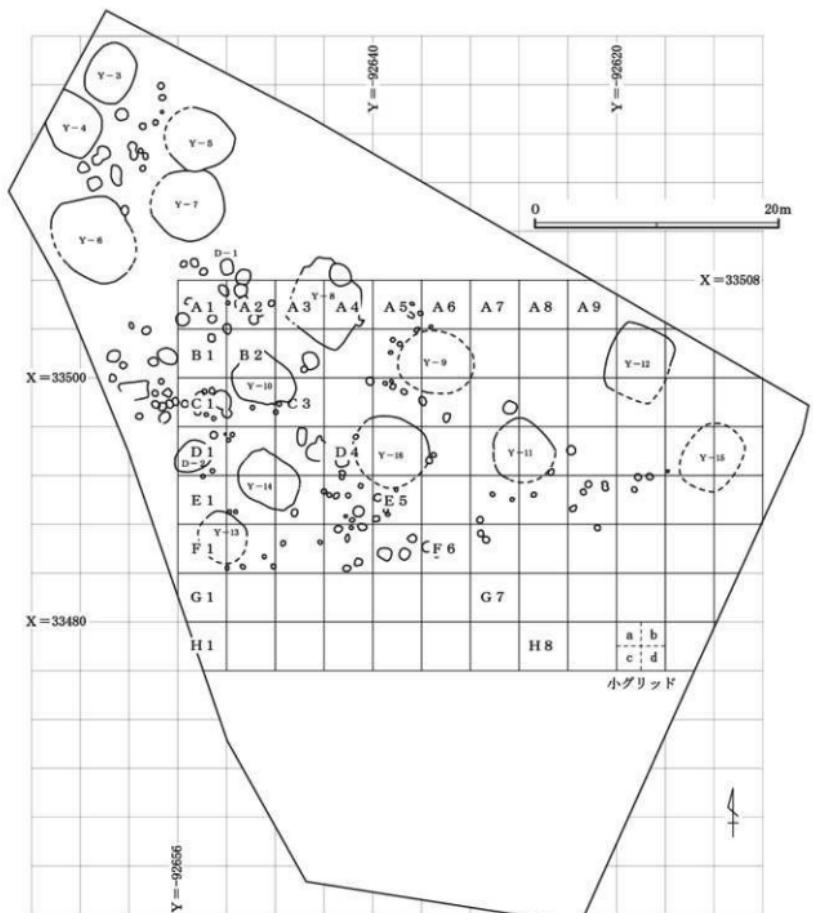
3. 古代の土器

M-1溝の覆土中、A s-B純層下の黒色土層上面にて酸化焰焼成の須恵器碗(1)が出土した。内面に黑色処理を施し、底部は短い高台を付す。

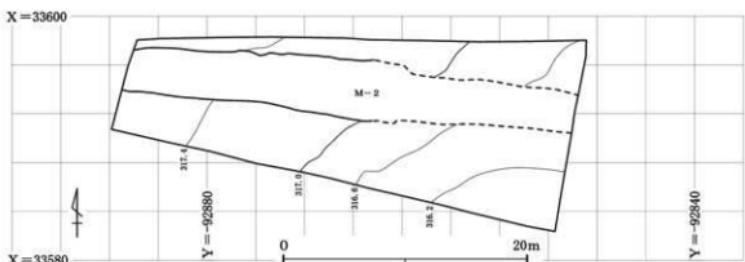
(5)遺構・遺物の実測図



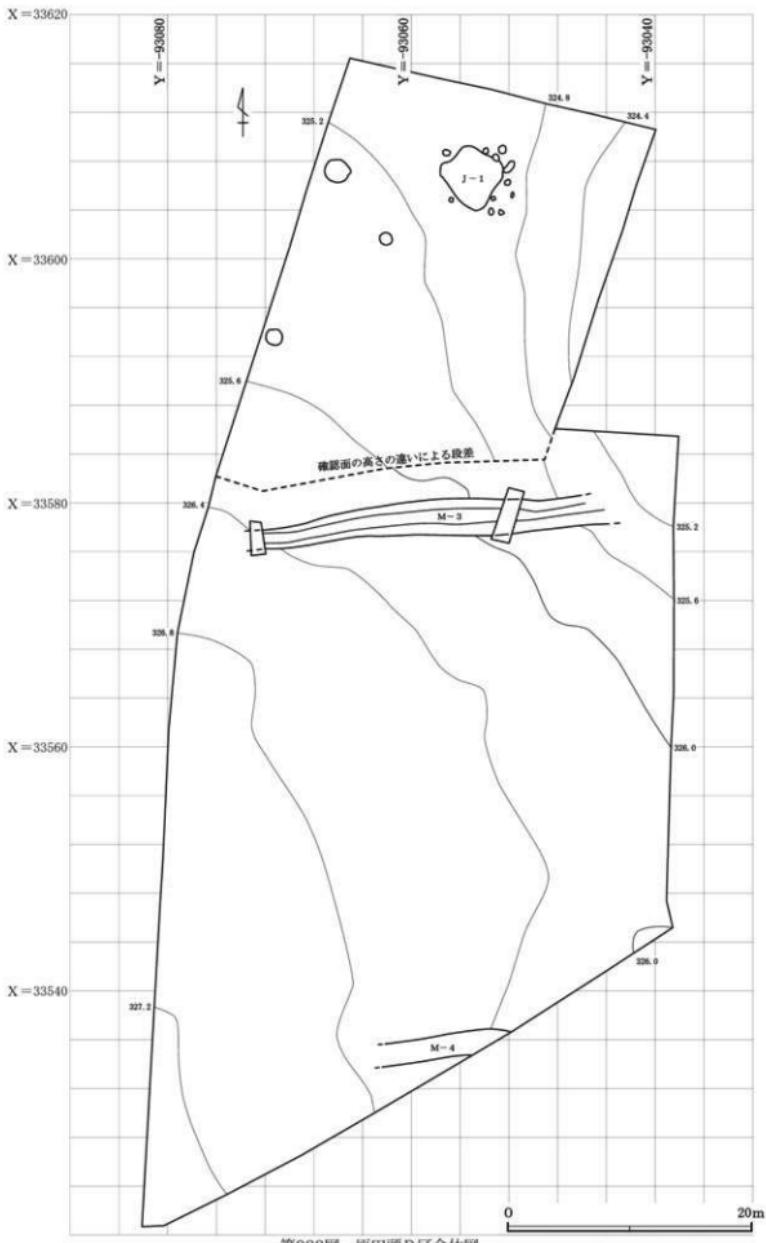
第985図 原田頭A区・B区全体図



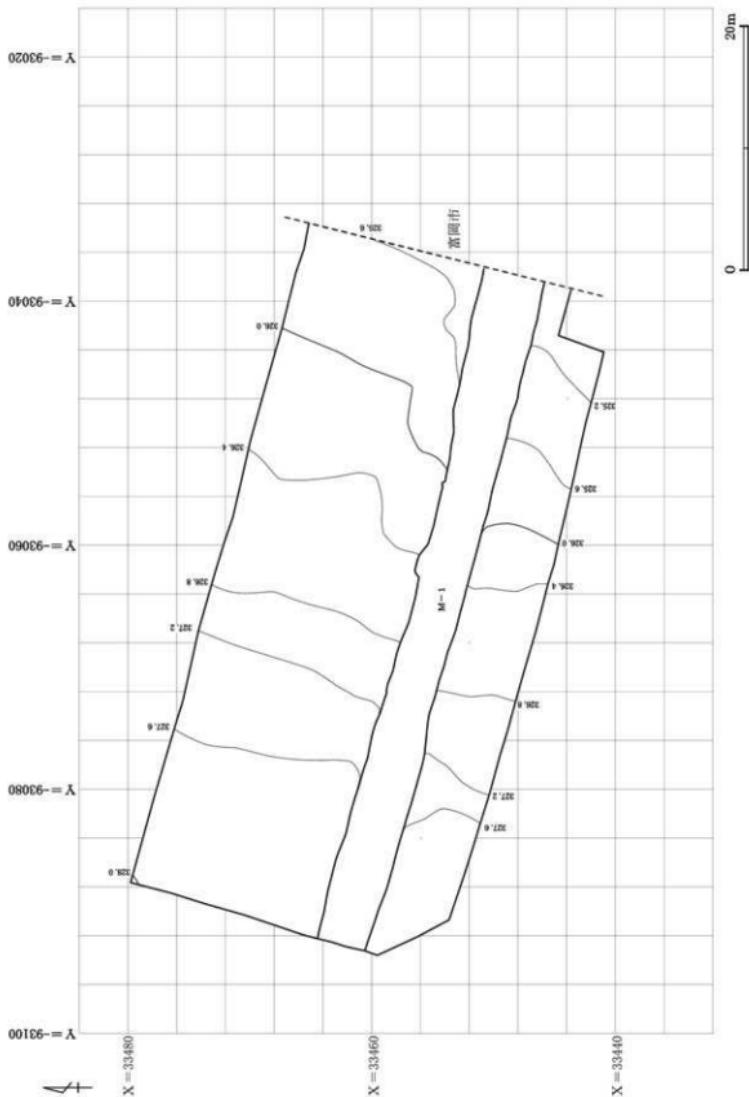
第986図 B区グリッド設定図



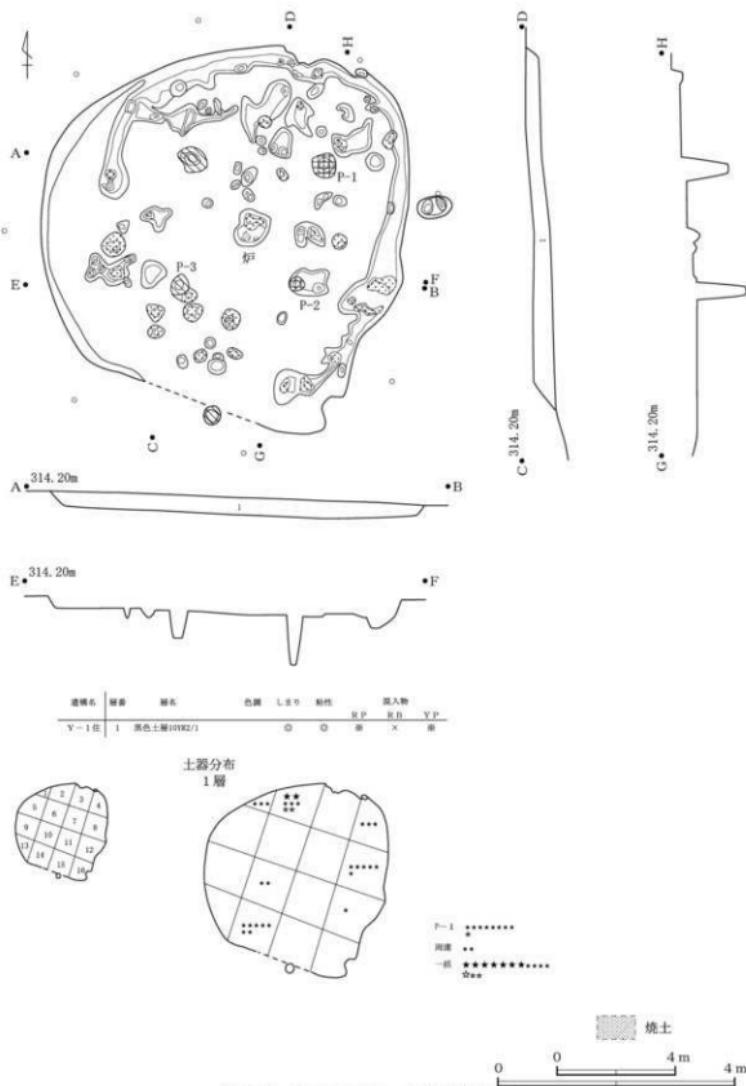
第987図 C区全体図



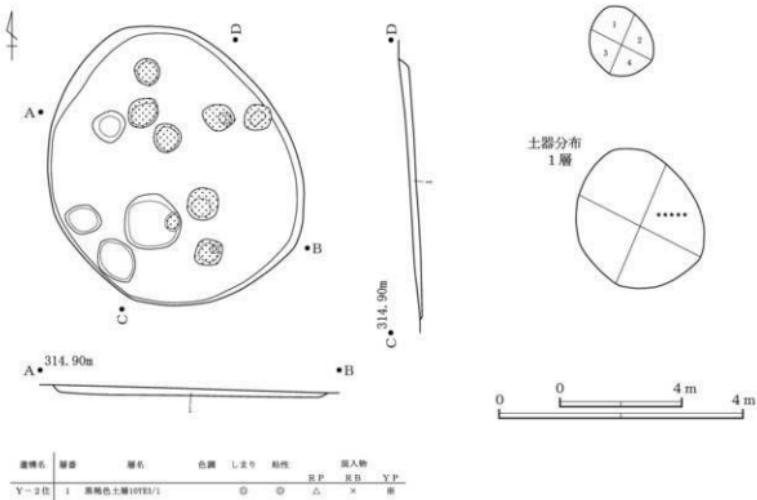
第988図 原田頭D区全体図



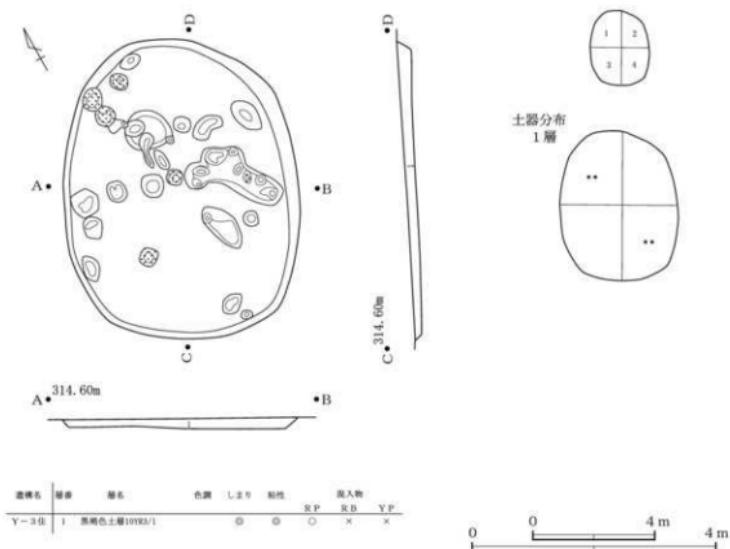
第989図 原田頭E区全体図



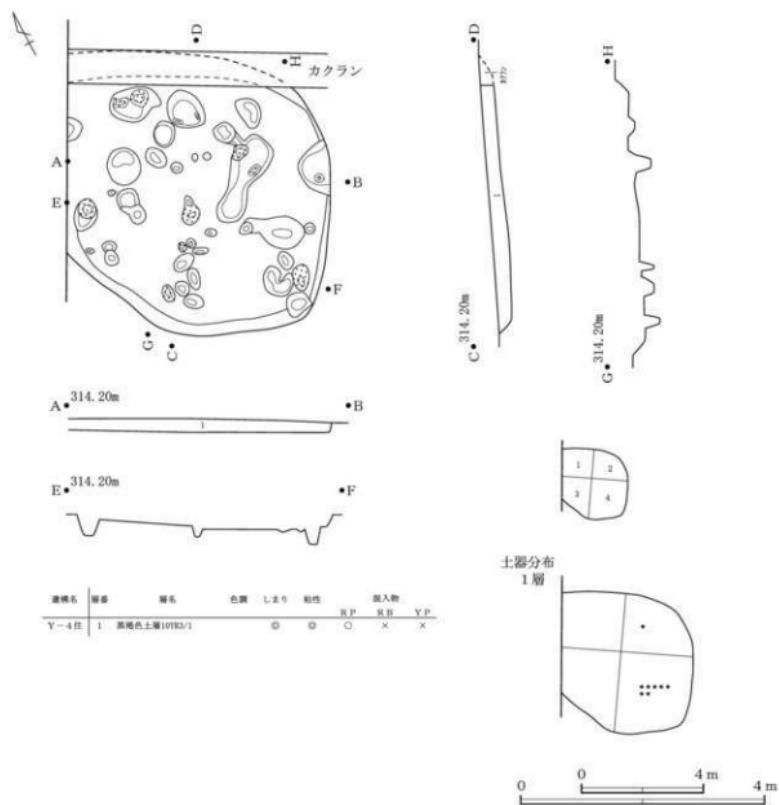
第990図 原田頭A区Y-1号住居址実測図



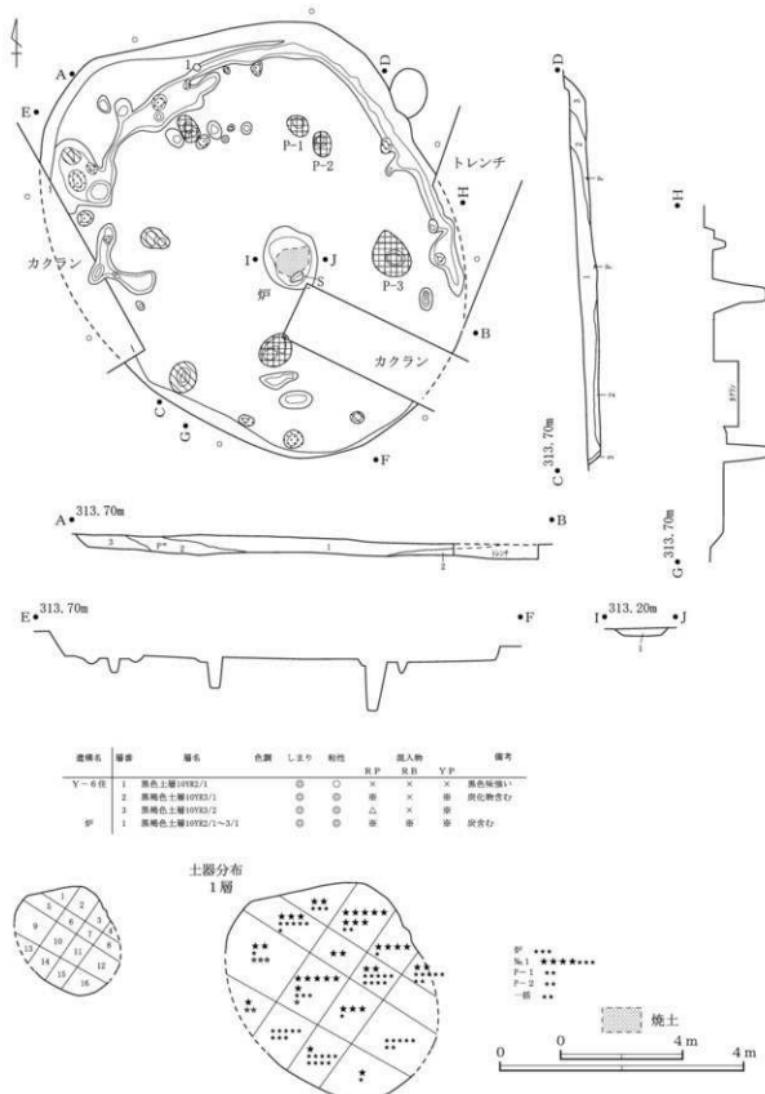
第991図 原田頭A区Y-2号住居址実測図



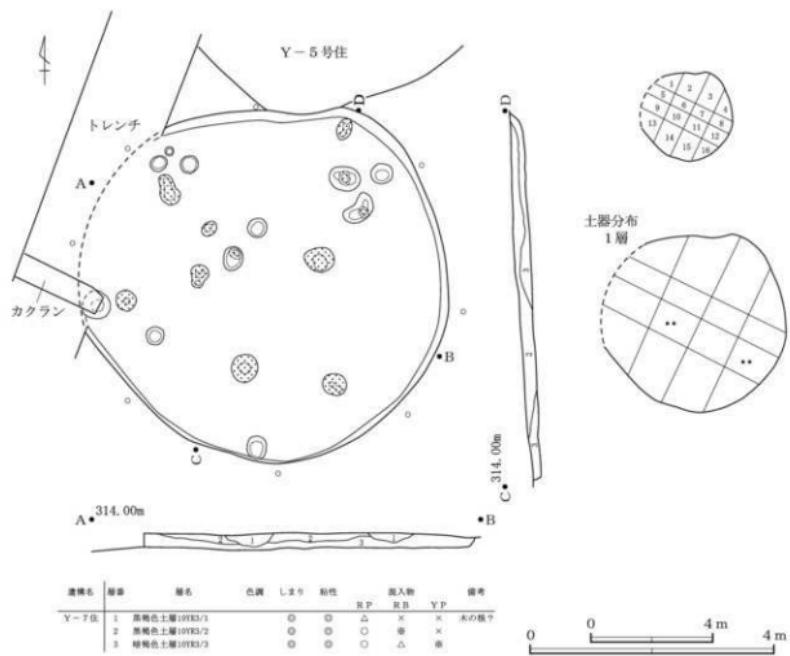
第992図 原田頭B区Y-3号住居址実測図



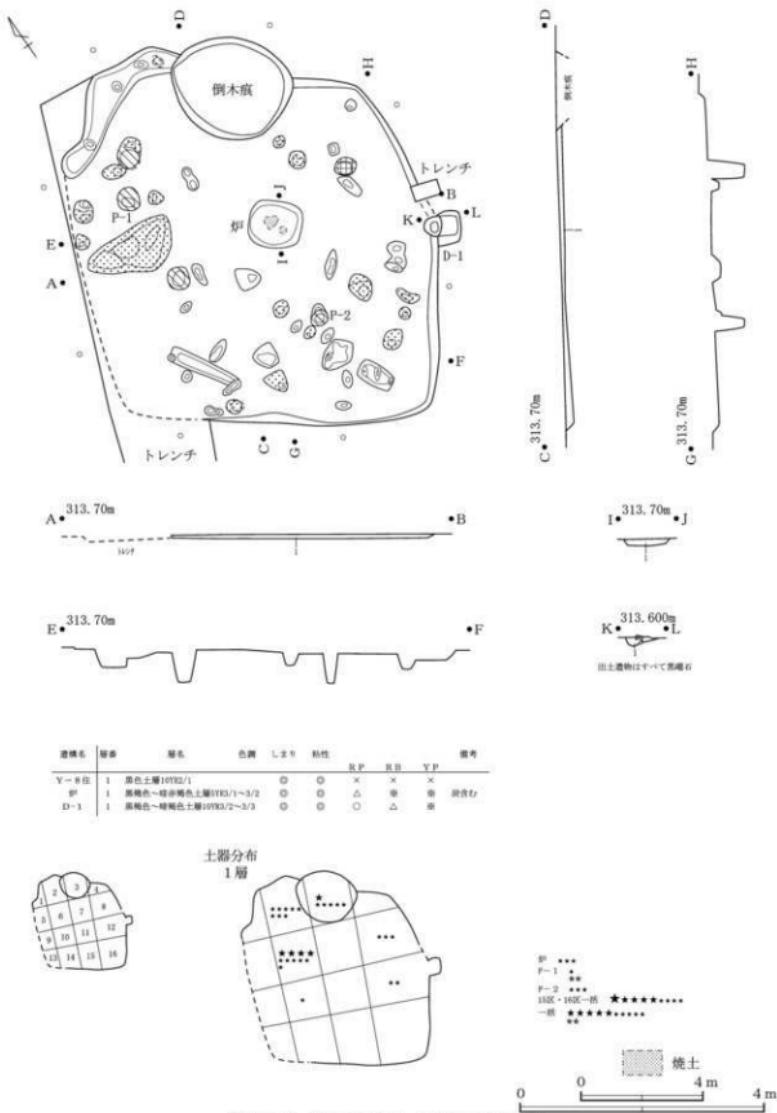
第993図 原田頭B区Y-4号住居址実測図



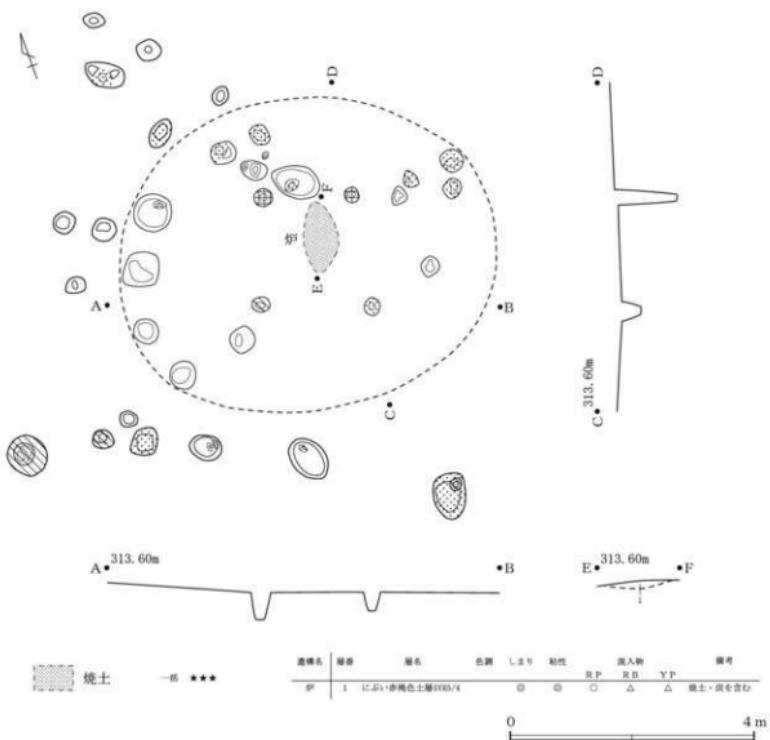
第995図 原田頭B区Y-6号住居址実測図



第996図 原田頭B区Y-7号住居址実測図



第997図 原田頭B区Y-8号住居址実測図



第998図 原田頭B区Y-9号住居址実測図

弥生時代住居址観察表

| 住居名 | 位置 | 平面形態 | | 規模(m) | | 主軸方向 | 施設 | | | 遺物 | 備考 | |
|---------|----|------|-------|-------|-----|------|---------|-----|-----|----|-------|-----------------------------------|
| | | 縦幅 | 横幅 | 長軸 | 短軸 | | 前柱穴 | 主柱穴 | 如 | 壁構 | | |
| 原田頭Y-1住 | A区 | B | 不整形 | 6.3 | 5.3 | 0.3 | N-7°-E | × | 4基 | 中央 | ○ ○ △ | 北平に埋没溝が残る。 遺物量少ない。住居でない可能性あり。 |
| Y-2住 | A区 | D | 椭円形 | 4.7 | 4.0 | 0.1 | N-27°-W | × | — | — | ※ | ※ |
| Y-3住 | B区 | D | 椭円形 | 5.0 | 3.8 | 0.1 | N-20°-E | × | — | — | ※ | ※ |
| Y-4住 | B区 | C | 不整形 | <5.4 | 4.2 | 0.2 | N-15°-W | × | — | — | ※ | ※ |
| Y-5住 | B区 | C | 椭丸方形? | 5.2 | 5.1 | 0.2 | N-30°-W | × | 4基 | 中央 | ○ ○ ○ | Y-7住と一部重複。床面の一部にローム主体の硬化部あり。張り床か。 |
| Y-6住 | B区 | A | 椭円形 | 7.7 | 6.4 | 0.3 | N-35°-W | × | 5基? | 中央 | ○ ○ ○ | 本住居址群中で最大。遺物量多い。機上に炭化物を多く含む。 |
| Y-7住 | B区 | B | 円形 | 6.0 | 6.0 | 0.2 | — | × | — | — | ※ | 遺物量少ない。住居でない可能性あり。 |

第370表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代遺構観察表(1)

| 住居名 | 位置 | 平面形態 | | 規模 (m) | | 主軸方向 | 施設 | | | | 遺物 | 備考 |
|-------|--------|------|-------|--------|-------|------|---------|----|-----|----|----|-----|
| | | 規格 | 形態 | 長軸 | 短軸 | | 貯藏穴 | 柱穴 | 竪溝 | 土器 | | |
| Y-8住 | B区A4他 | A | 不整形 | 7.8 | (6.0) | 0.1 | N-15°-W | × | 5基? | 中央 | ○ | ○ |
| Y-9住 | B区A6他 | B | 楕円形? | (6.2) | (5.1) | - | N-68°-W | × | 4基 | 中央 | × | △ △ |
| Y-10住 | B区B2他 | C | 不整形 | 5.2 | 4.2 | 0.1 | N-52°-W | × | - | 南 | ○ | ○ ○ |
| Y-11住 | B区D8他 | C | 楕円形 | (5.3) | (4.9) | 0.1 | N-31°-W | × | - | 中央 | ○ | △ ○ |
| Y-12住 | B区B10他 | B | 圓丸長方形 | (5.9) | (5.2) | - | N-23°-E | × | 4基? | 中央 | ○ | △ ■ |
| Y-13住 | B区F1他 | D | 円形? | (4.2) | (4.1) | - | - | × | - | 南? | ○ | △ ■ |
| Y-14住 | B区D2他 | C | 楕円形 | 5.2 | 4.0 | 0.2 | N-57°-W | × | - | 南 | ○ | ○ ○ |
| Y-15住 | B区D11他 | C | 楕円形? | (5.7) | (4.5) | - | N-29°-E | × | 4基? | 中央 | × | × ■ |
| Y-16住 | B区D5他 | B | 楕円形 | (6.2) | (5.6) | - | N-48°-W | × | 4基? | 中央 | × | ○ ○ |

凡例

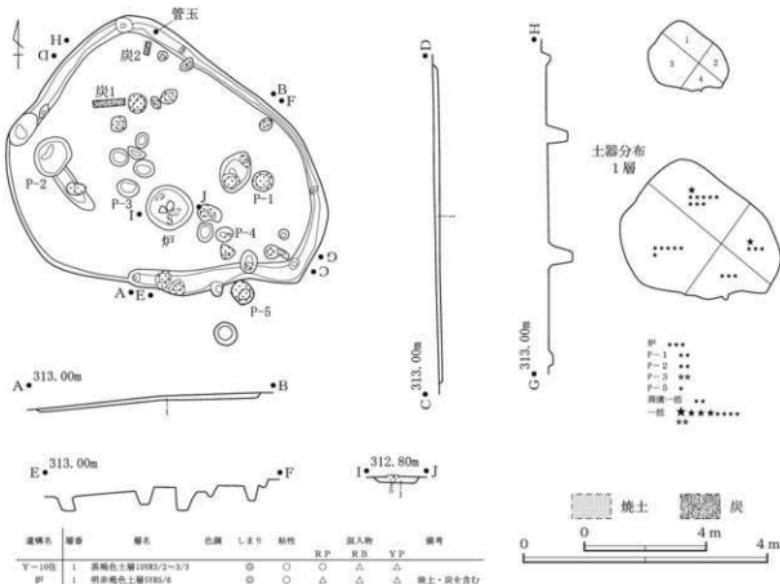
平面形態 圖幅 長軸×短軸の値 A : 4.0以上, B : 3.0以上~4.0未満, C : 3.0未満, D : 2.0未満

壁溝 ○ : 掘仕切り溝を作らうもの。○ : 壁面溝のみ, × : 壁溝なし

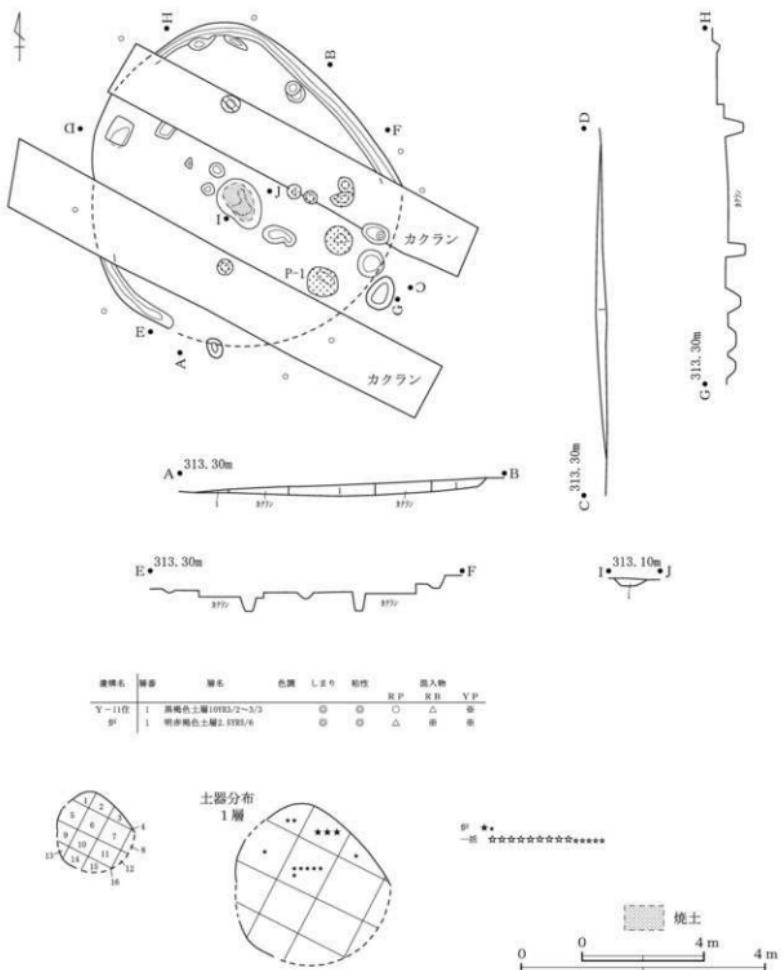
遺物 土器 ■ : 1 ~ 100g, △ : 101 ~ 1,000g, ○ : 1001 ~ 10,000g, ◎ : 10,001g以上

石器・石製品 ■ : 1 ~ 10点, △ : 11 ~ 20点, ○ : 21 ~ 30点, ◎ : 31点以上

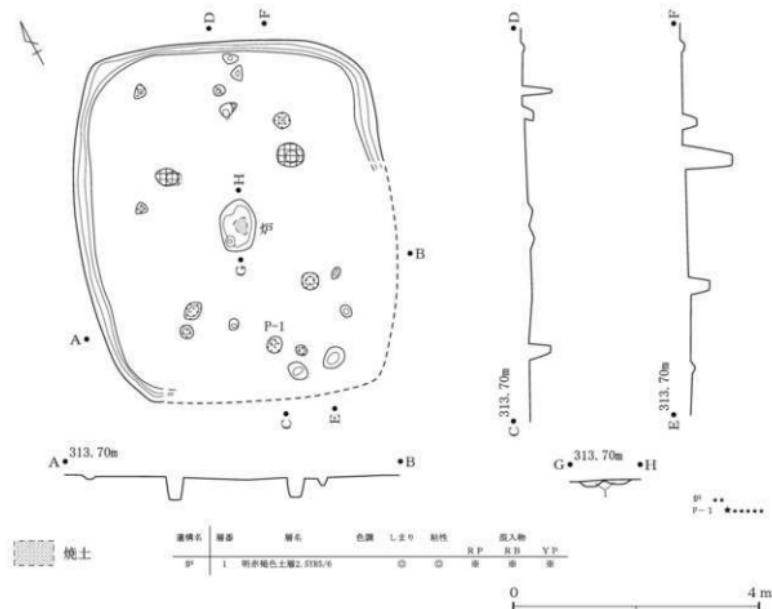
第371表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代遺構観察表(2)



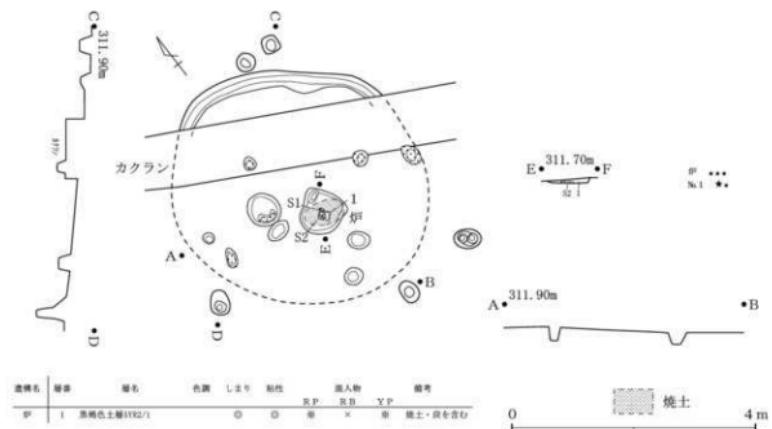
第999図 原田頭B区Y-10号住居址実測図



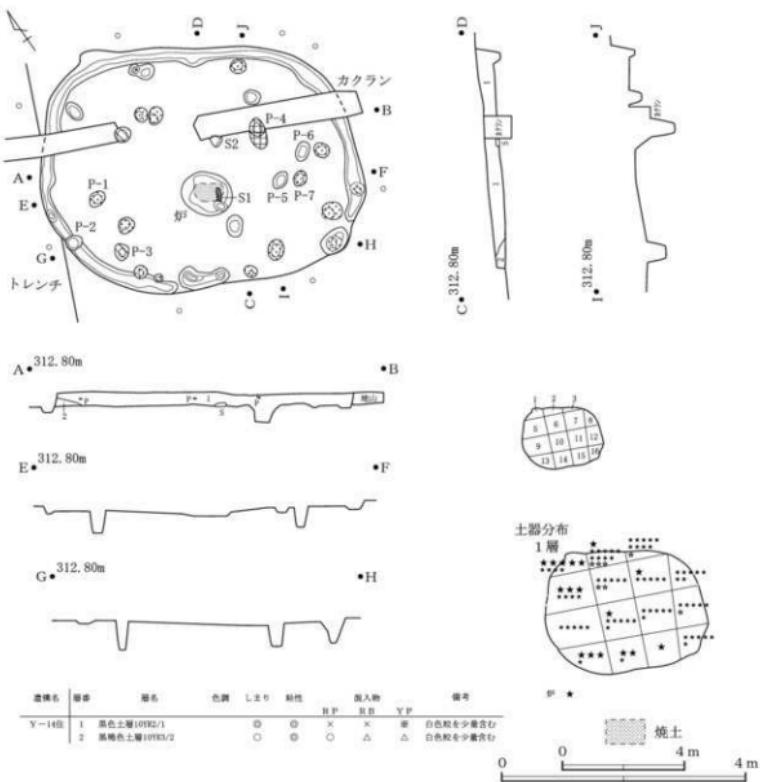
第1000図 原田頭B区Y-11号住居址実測図



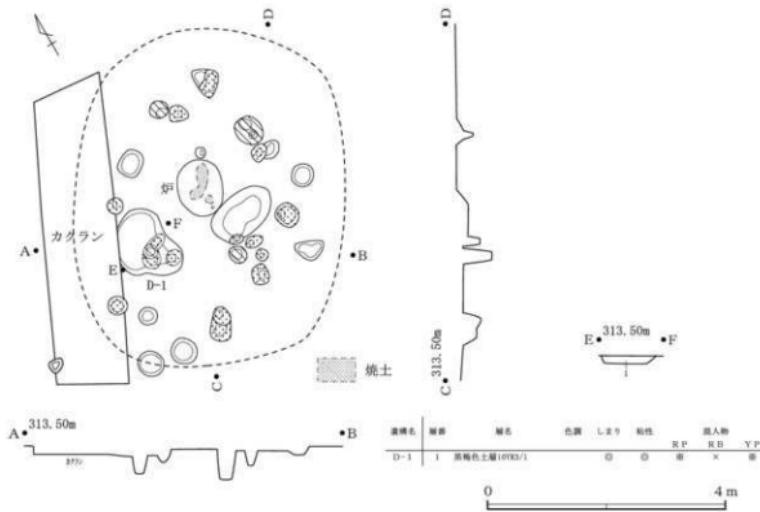
第1001図 原田頭B区Y-12号住居址実測図



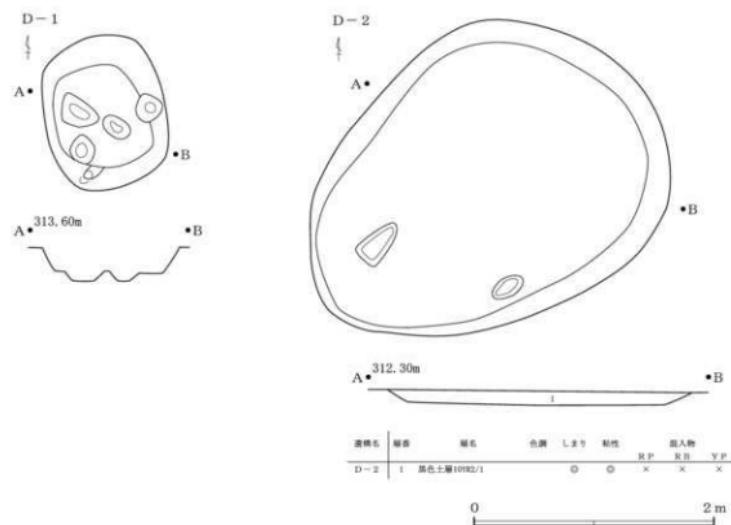
第1002図 原田頭B区Y-13号住居址実測図



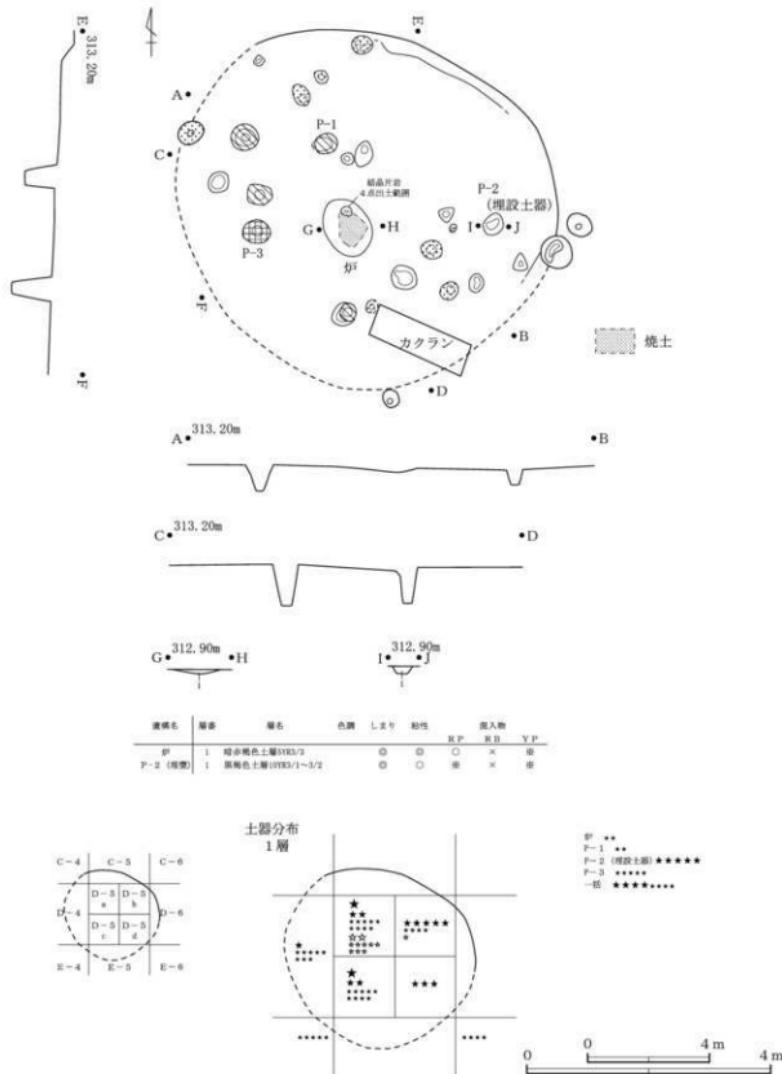
第1003図 原田頭B区Y-14号住居址実測図



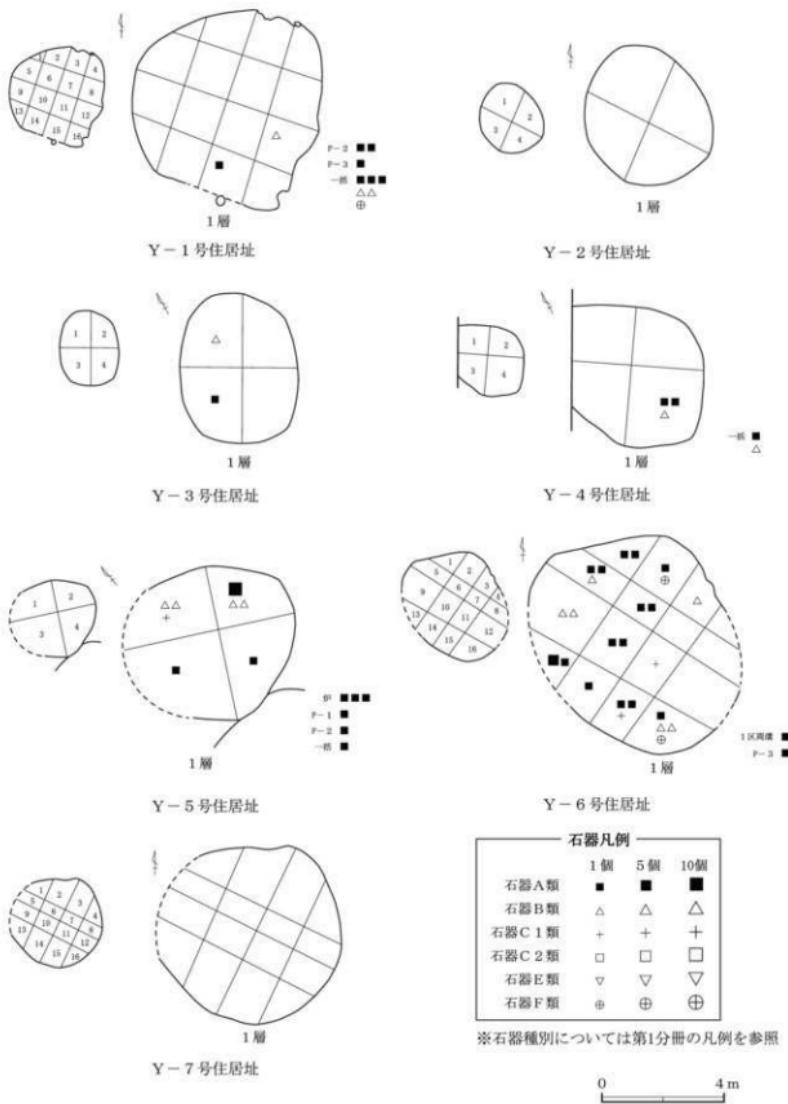
第1004図 原田頭B区Y-15号住居址実測図



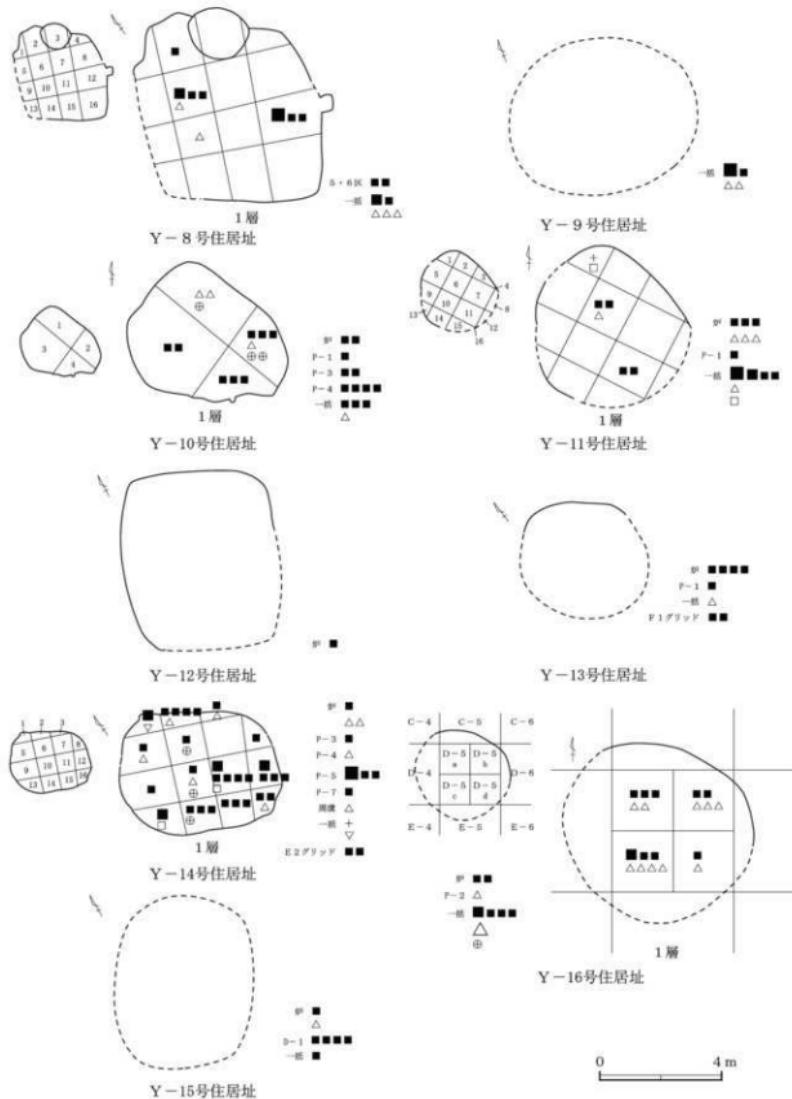
第1005図 原田頭B区土坑実測図



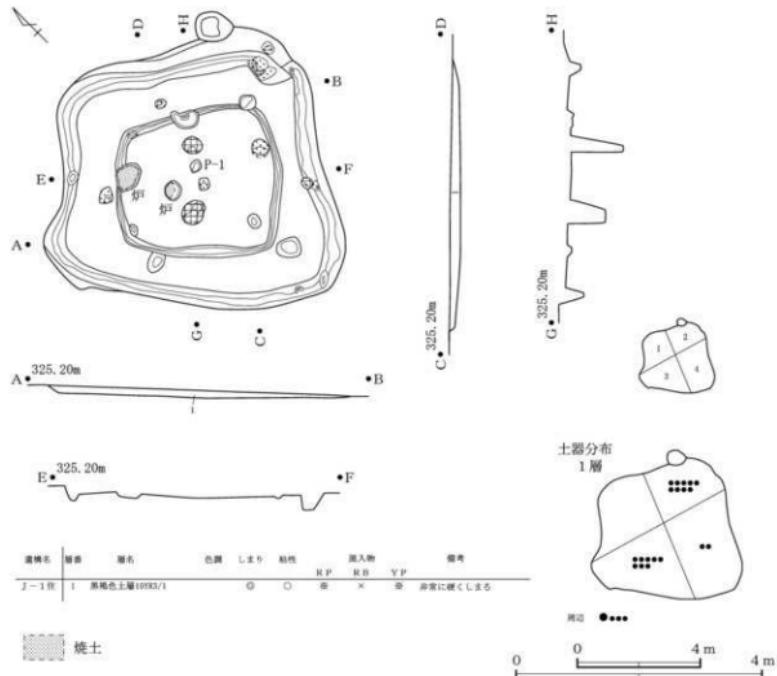
第1006図 原田頭B区Y-16号住居址実測図



第1007図 住居址出土石器分布図(1)



第1008図 住居址出土石器分布図(2)



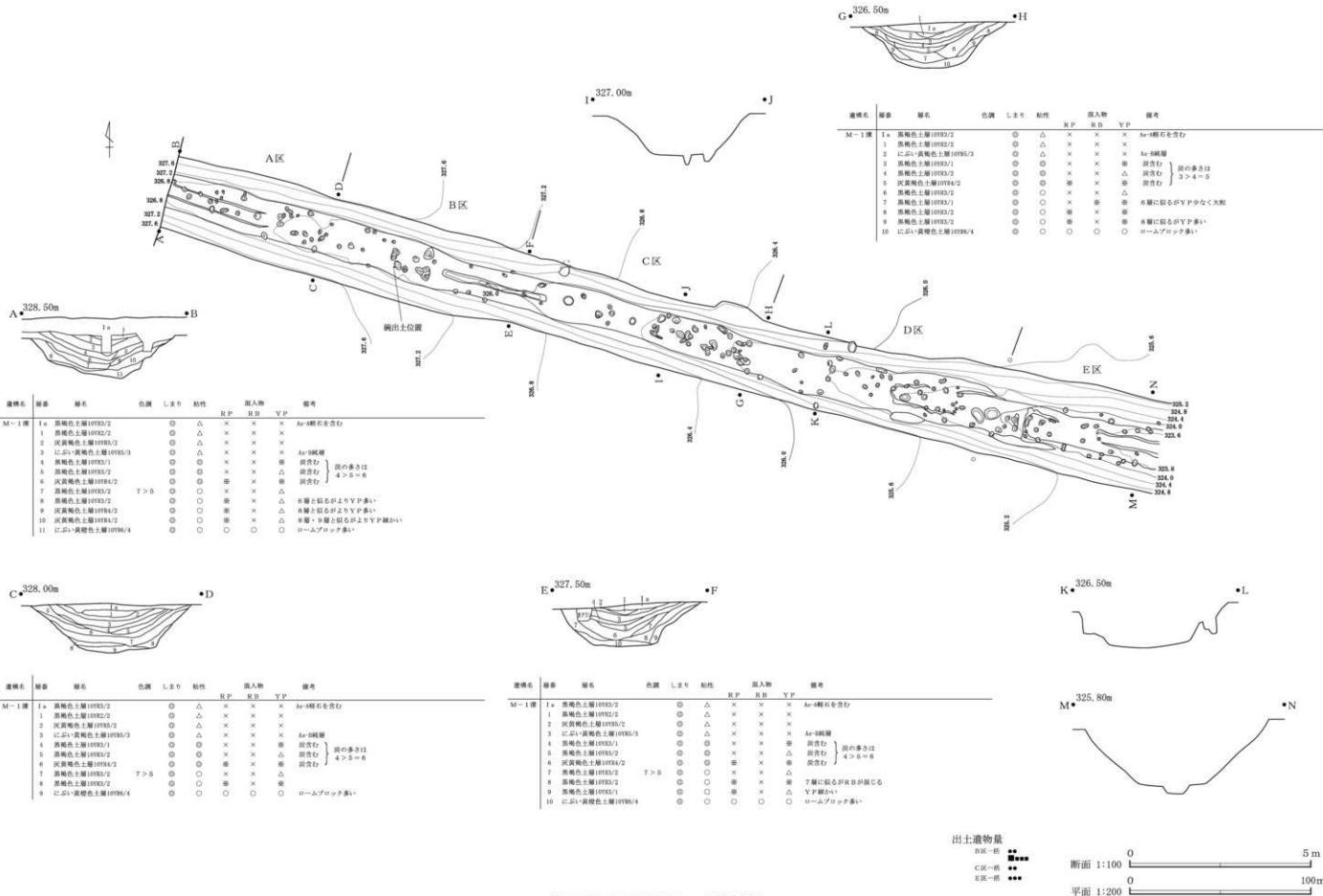
第372表 二軒在家原田頭遺跡縄文時代遺構観察表(1)

縄文時代住居址観察表

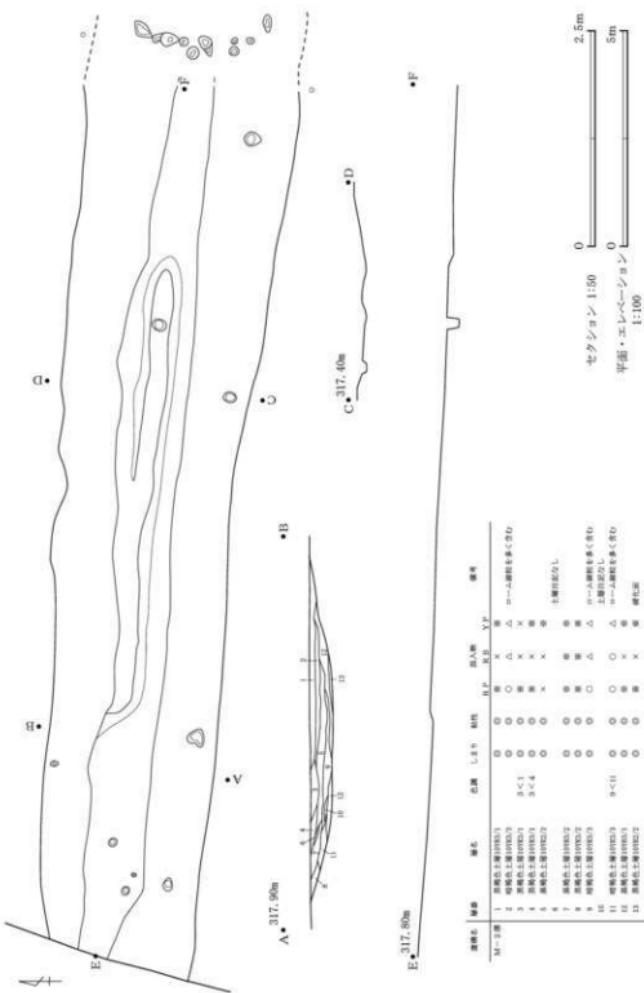
| 住居名 | 位置 | 平面形態 | 規模(m) | | | 主軸方向 | 施設 | | 遺物量 | | 時期 | 備考 | | | |
|---------|----|--------------|-------|-----|--------------|------|------------|------------|------|----|----|-------|-------------------|--|--|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | 主柱穴 | 剖面 | 土器 | 石器 | | | | | |
| | | | | | | | | 位置 | | | | | | | |
| 原田頭J-1住 | D区 | 不整形な 楕円方形 | 4.9 | 3.6 | 0.1 ~ 0.2 | — | 4本 方形配列 | 中央・ 中央西 | 地床剖面 | ○ | ○ | 有尾・黒浜 | 壁面溝が二重にめぐらし、括張住居か | | |

凡例

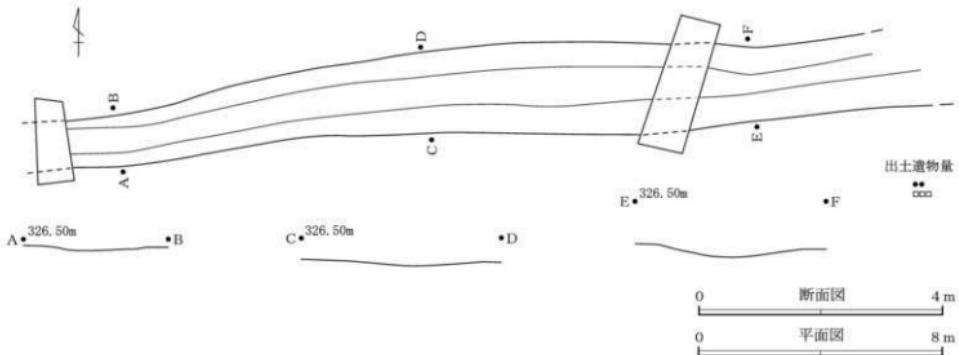
遺物量 土器 ○: 1,000g 以上 ○: 1,000g 未満
石器 ○: 30点以上 ○: 30点未満



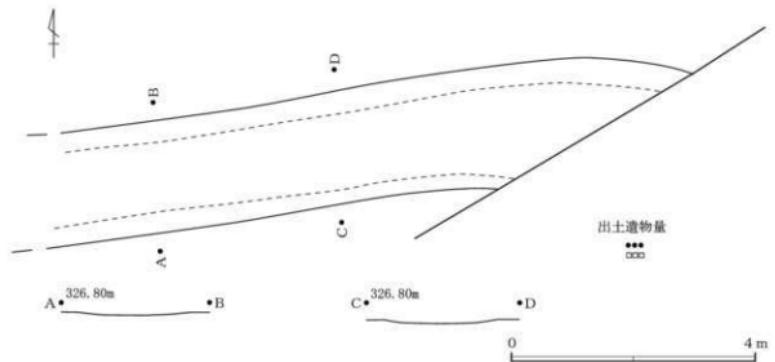
第1010図 原田頭E区M-1号清実測図



第1011圖 原田頭C區M-2號溝某剖面



第1012図 原田頭D区M-3号溝実測図



第1013図 原田頭D区M-4号溝実測図

古代溝観察表

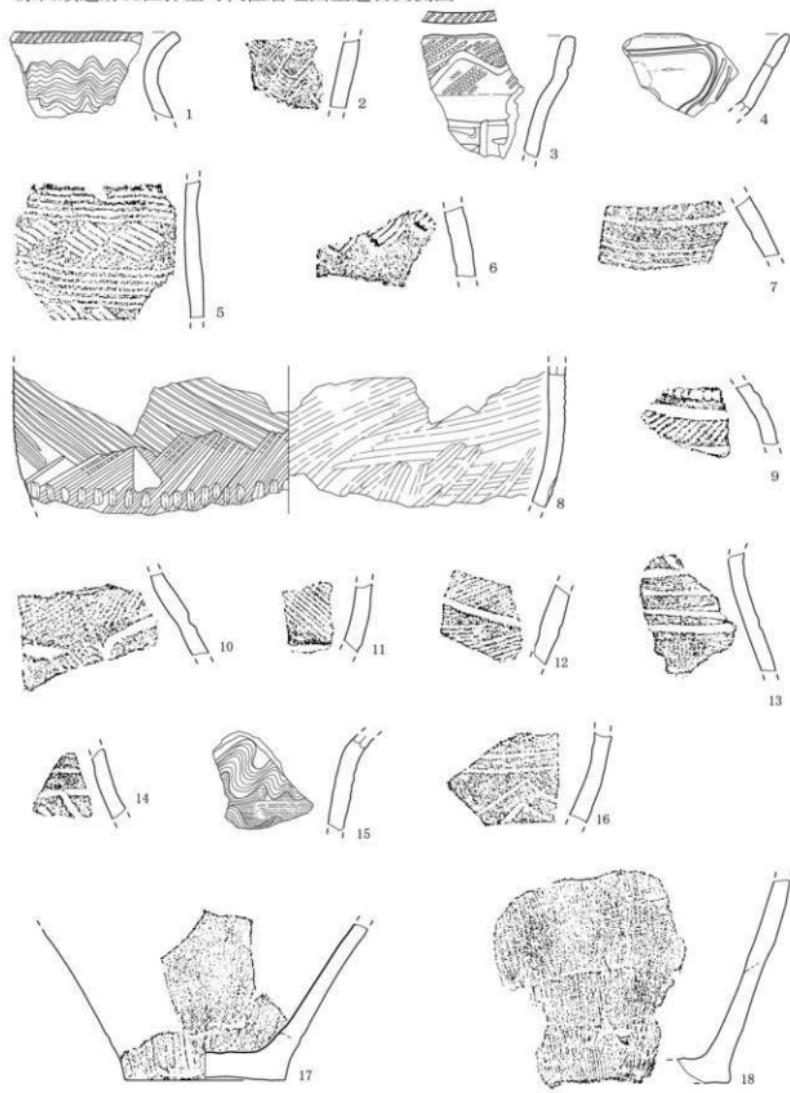
| 遺構名 | 位置 | 断面形態 | 規模 (m) | | | 時期 | 遺物 | 備考 |
|------------------|--------|--------------|------------|--------------|--------------|----|----|----------------------------------------------------------------------------|
| | | | 全長 <残存> | 幅 | 深さ | | | |
| 原田頭M-1溝 (区画溝) | E区 | 路幅または U字状 | <56.5> | 3.8 ~ 5.0 | 1.4 ~ 1.7 | 古代 | ■ | 層土上位から中位にかけて As-B が弓状に堆積する。溝の 形状や層土の堆積状況は台地上の他の遺跡で確認されている 区画溝と同様である。 |
| M-2溝 | A + C区 | 浅いV形 | <53.0> | 2.5 ~ 4.5 | 0.3 | 古代 | ■ | 底、部分的に硬化面を有する性格不明。 |
| M-3溝 | D区 | 浅いV形 | <30.0> | 1.5 ~ 3.0 | 0.1 ~ 0.2 | 古代 | | 形状、深さ共に安定せず性格不明。 |
| M-4溝 | D区 | 浅いV形 | <11.0> | 1.5 ~ 2.0 | 0.1 ~ 0.2 | 古代 | | 形状、深さ共に安定せず性格不明。 |

凡例

遺物 土器 ■ : 1 ~ 1,000g. △ : 1,001 ~ 5,000g. ○ : 5,001 ~ 10,000g. ◎ : 10,001g 以上

第373表 二軒在家原田頭遺跡古代遺構観察表(1)

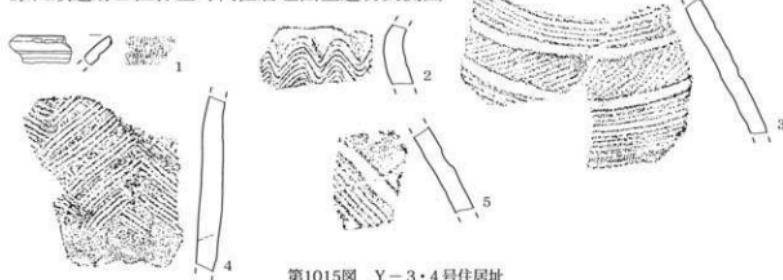
原田頭遺跡A区弥生時代住居址出土遺物実測図



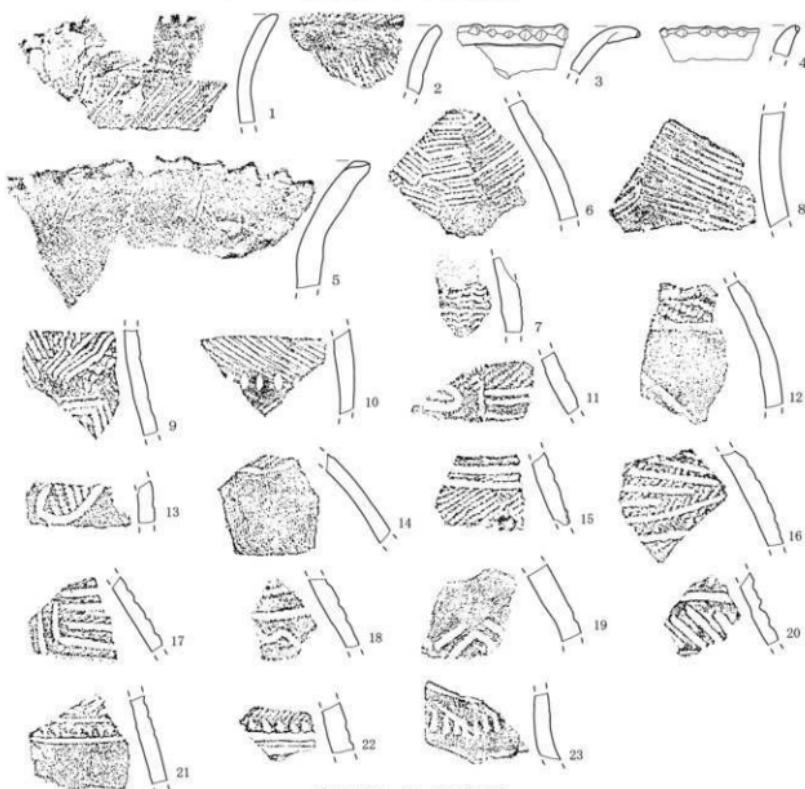
第1014図 Y-1号住居址

0 1:2 5cm

原田頭遺跡B区弥生時代住居址出土遺物実測図

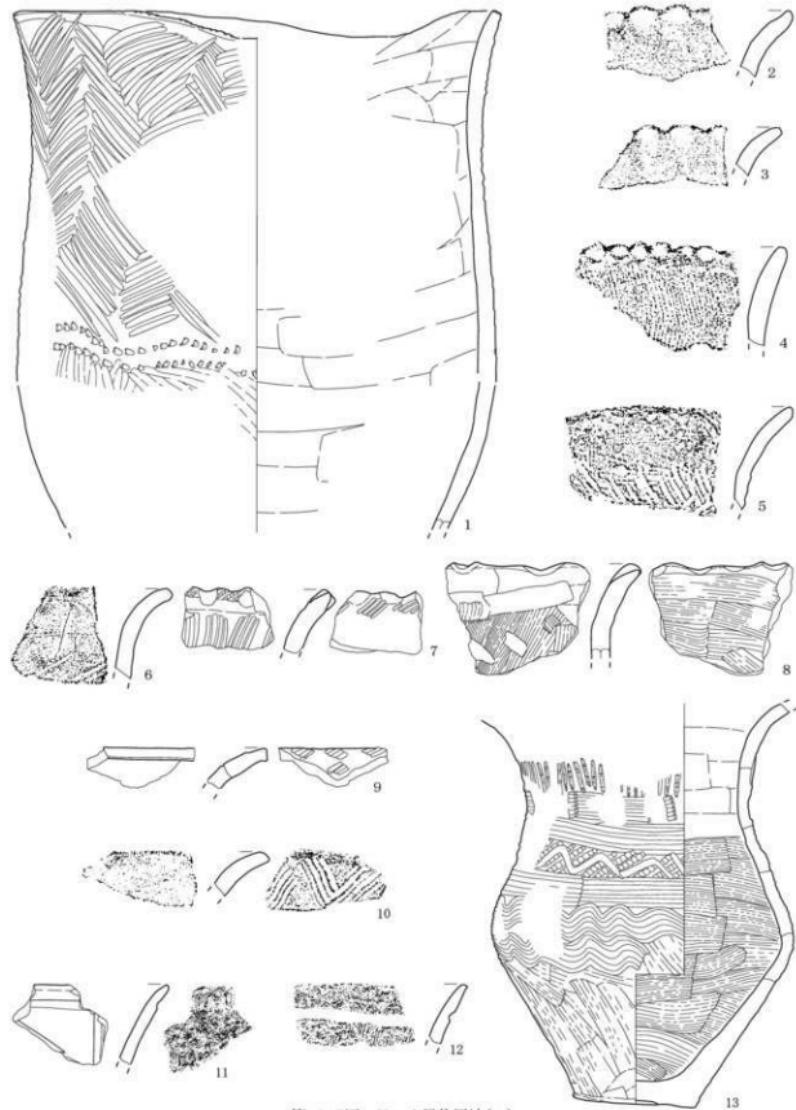


第1015図 Y-3・4号住居址



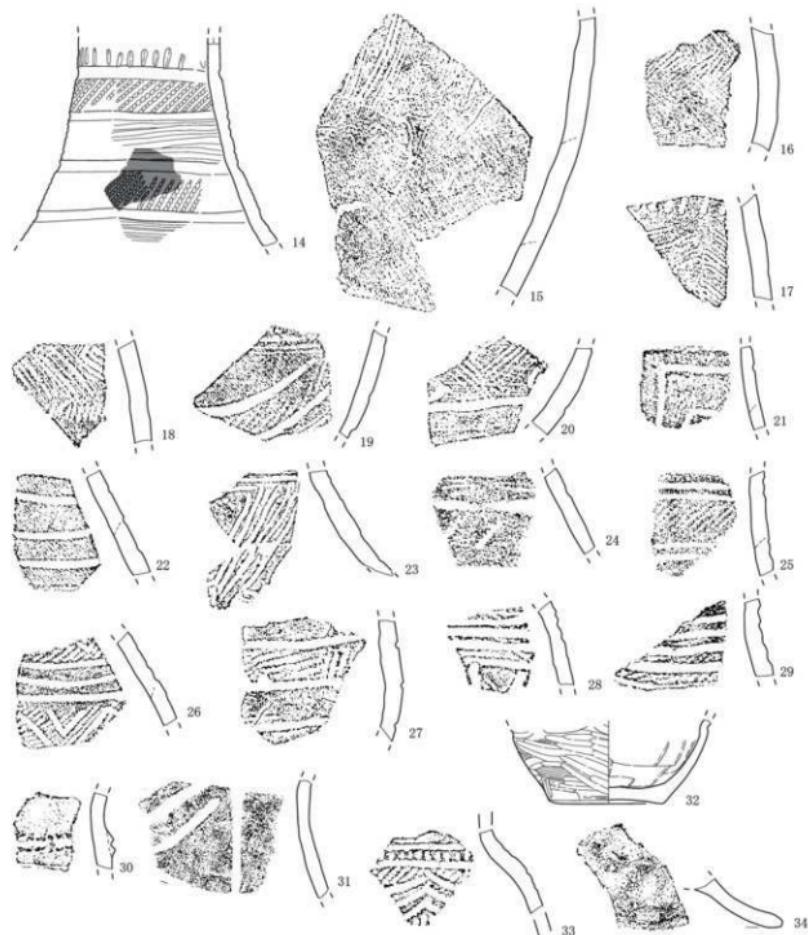
第1016図 Y-5号住居址

0 1 : 2 5 cm



第1017図 Y-6号住居址(1)

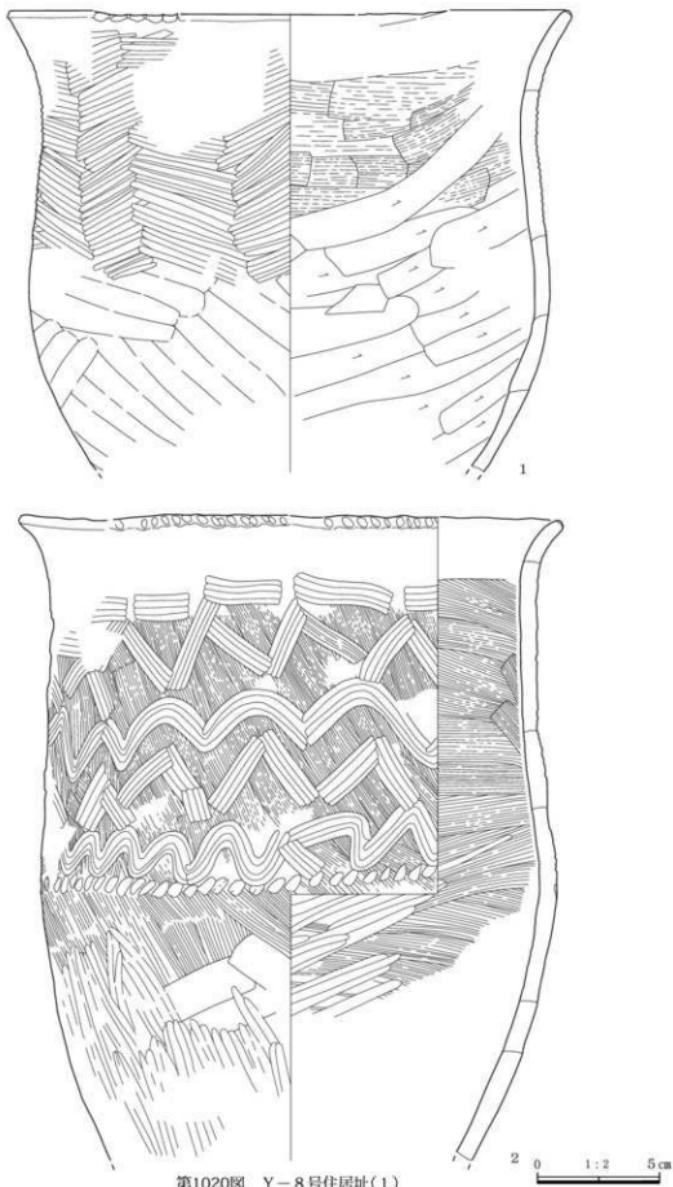
0 1:2 5 cm



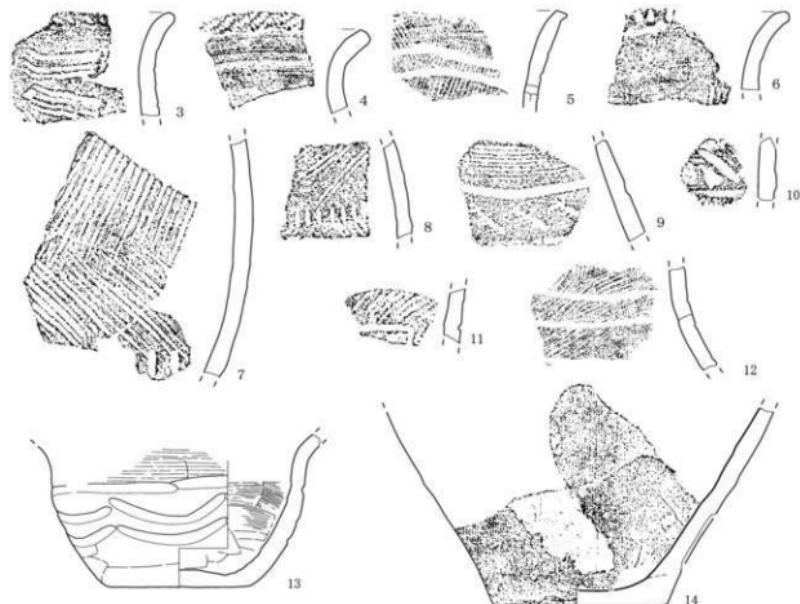
第1018図 Y-6号住居址(2)



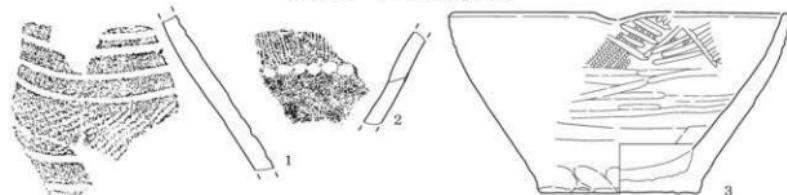
第1019図 Y-7号住居址



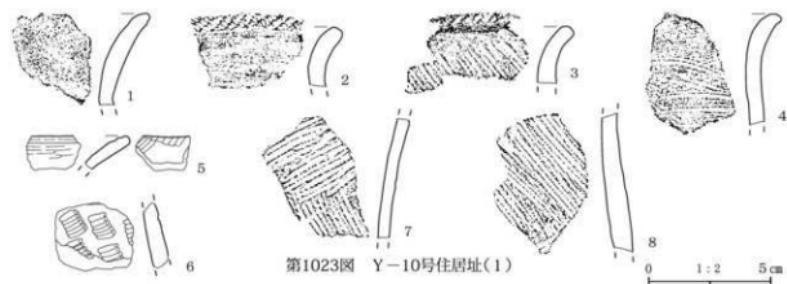
第1020図 Y-8号住居址(1)



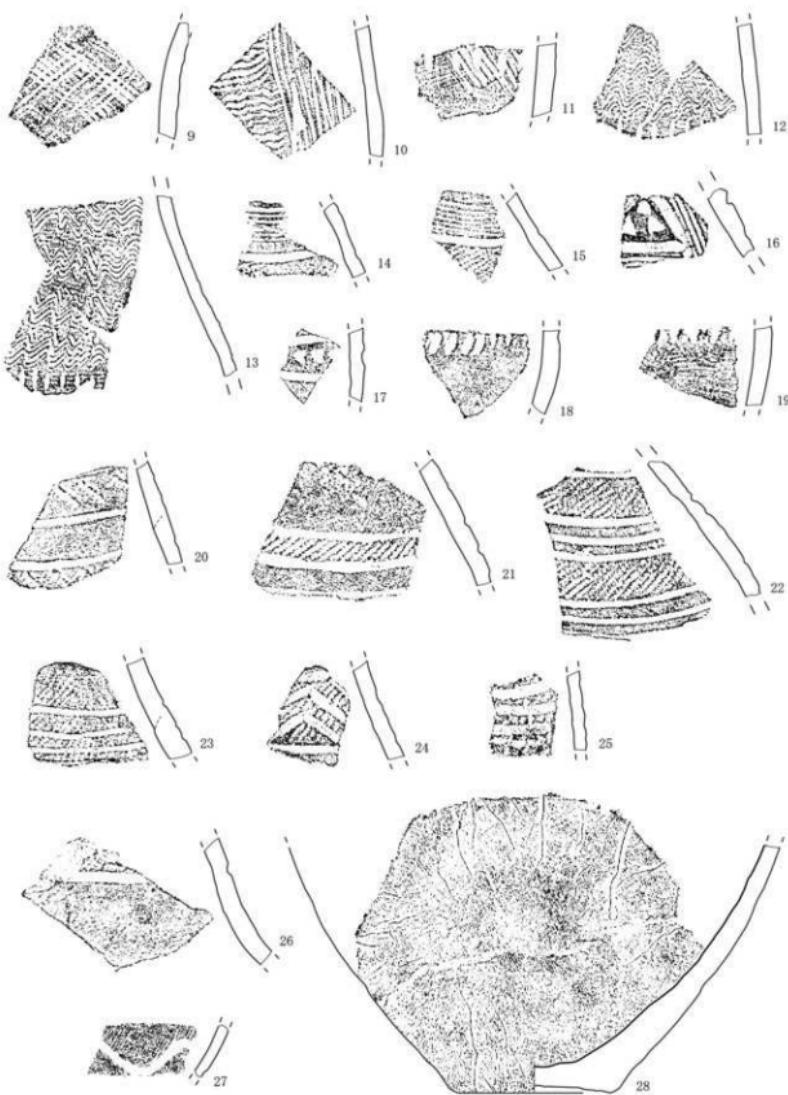
第1021図 Y-8号住居址(2)



第1022図 Y-9号住居址

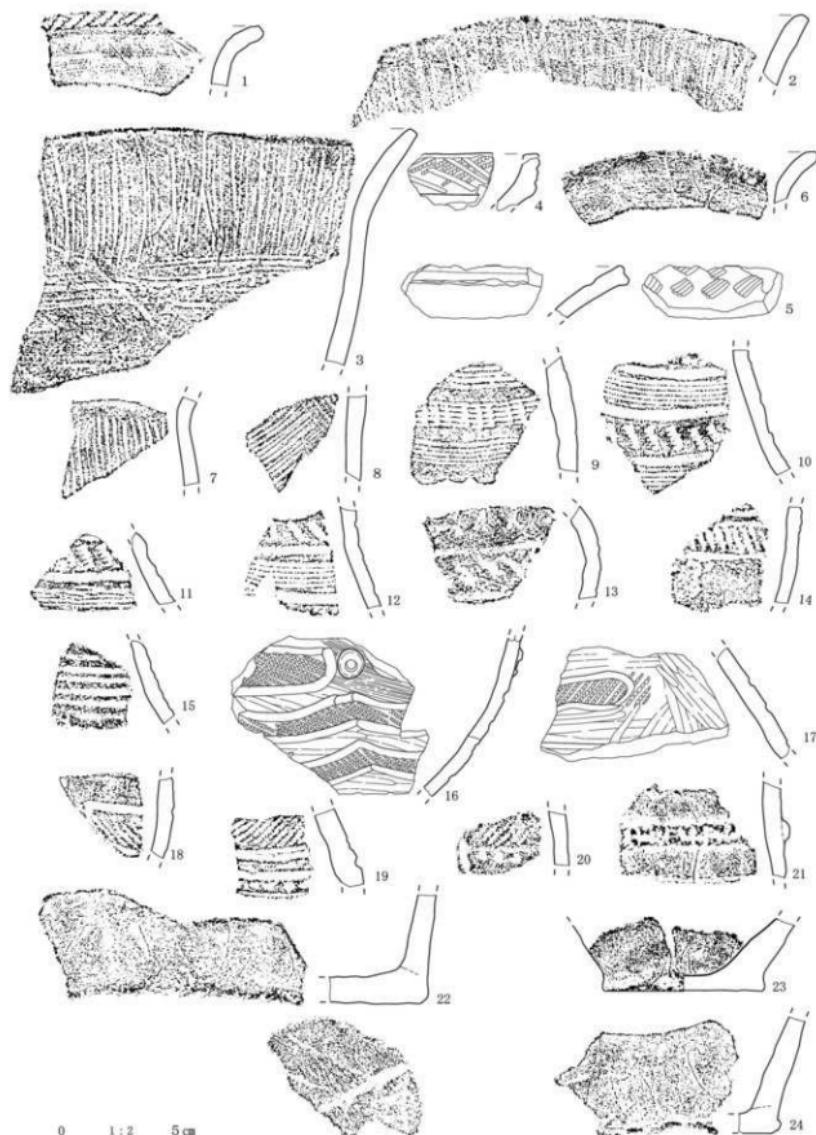


第1023図 Y-10号住居址(1)

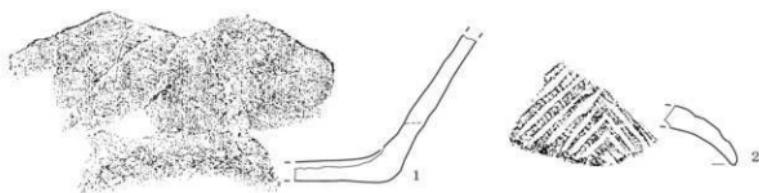


第1024図 Y-10号住居址(2)

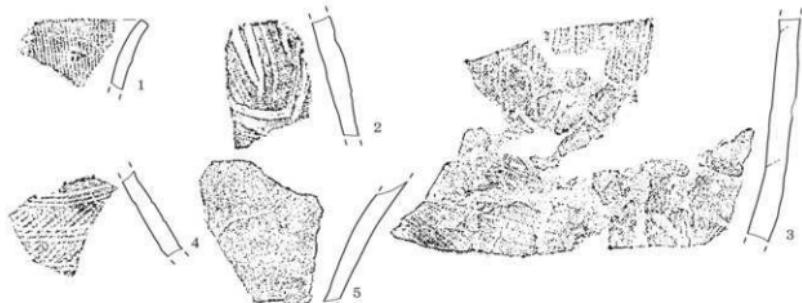
0 1 : 2 5 cm



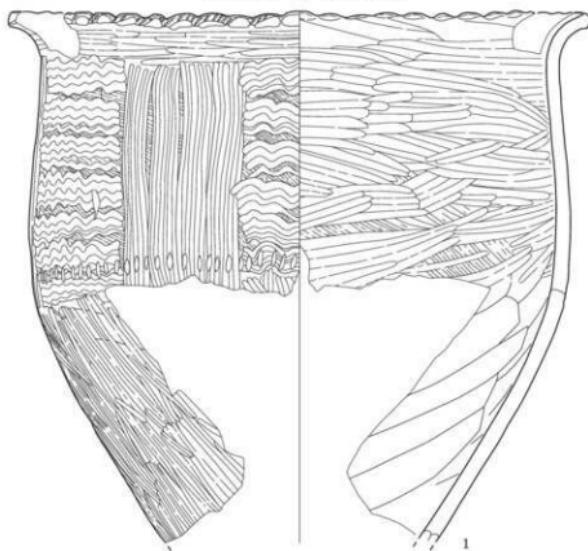
第1025図 Y-1100号住居址



第1026図 Y-12号住居址

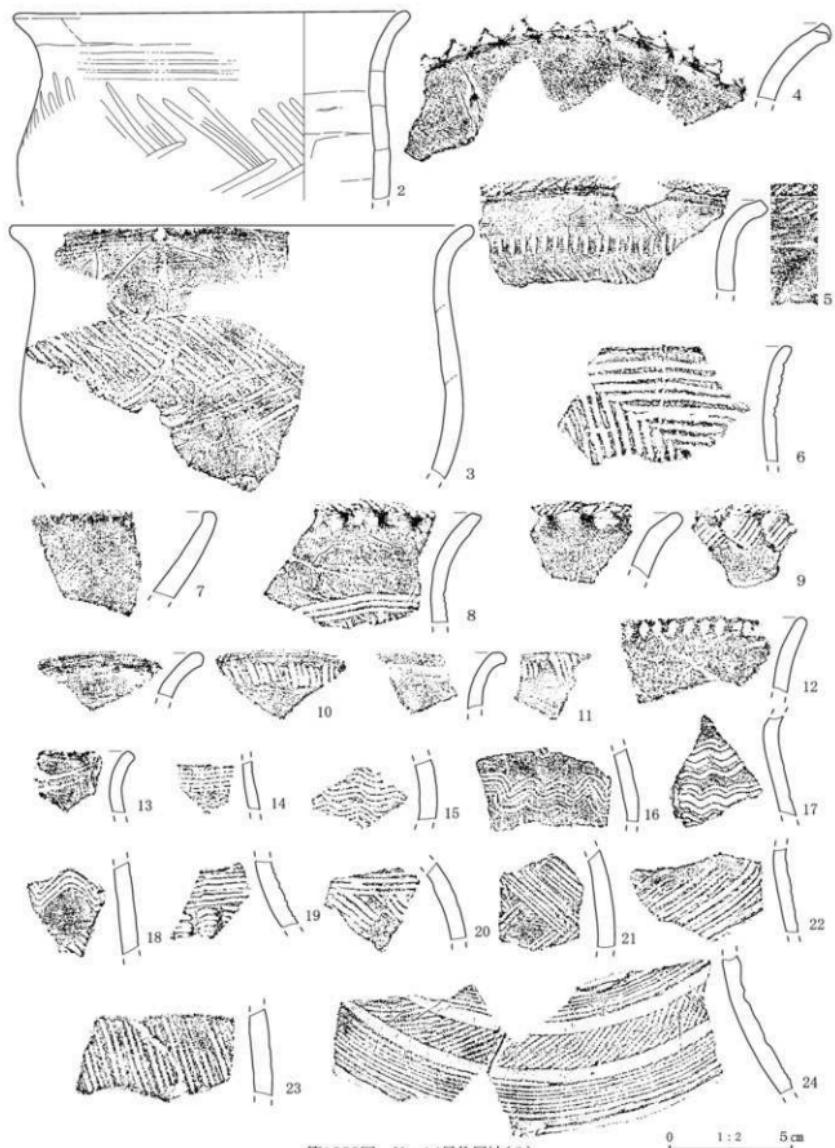


第1027図 Y-13号住居址

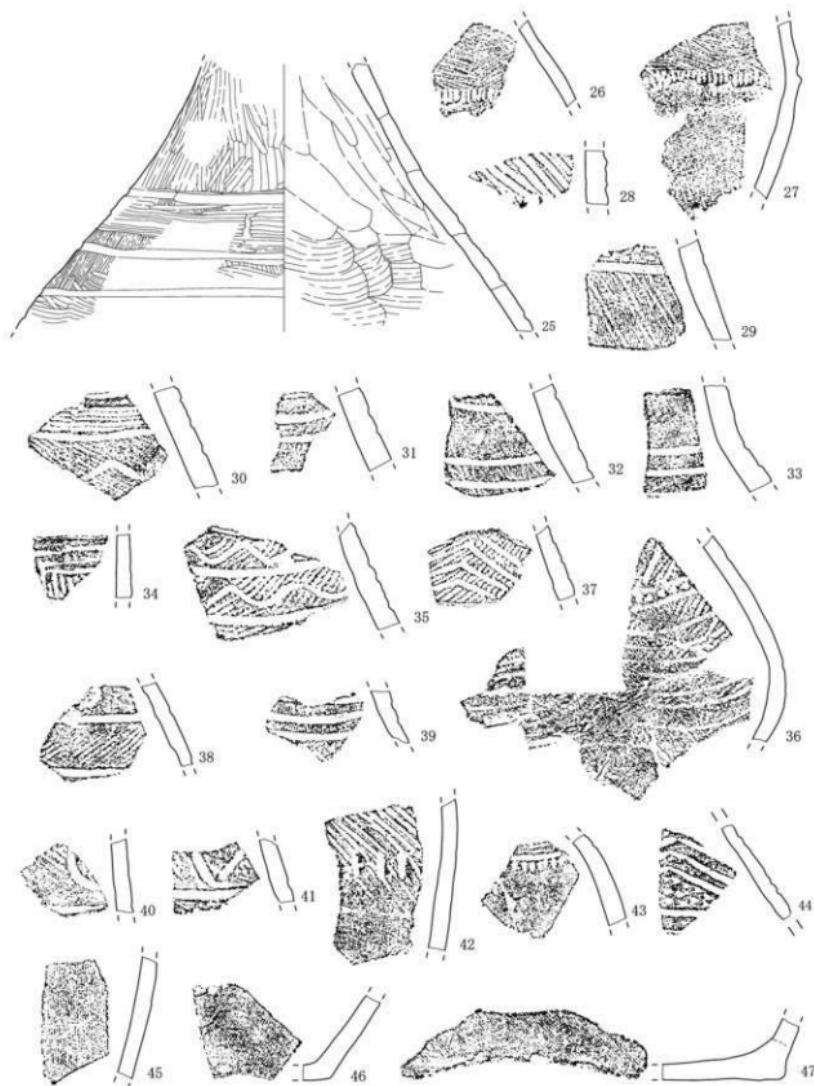


第1028図 Y-14号住居址(1)

0 1:2 5 cm

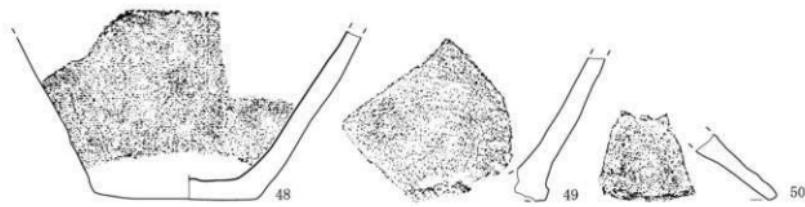


第1029図 Y-14号住居址(2)

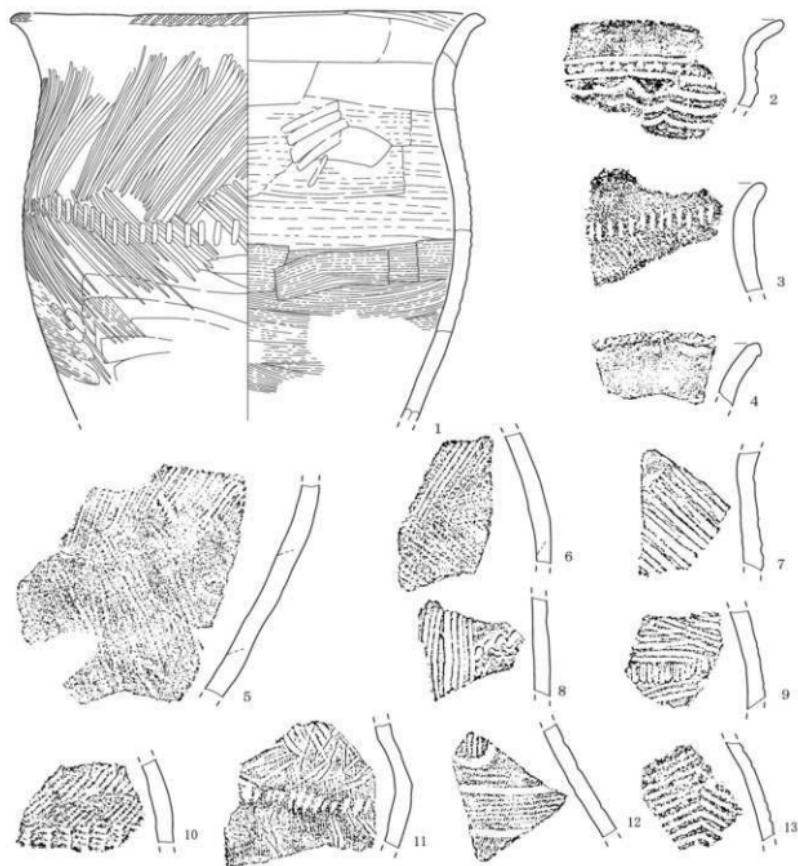


第1030図 Y-14号住居址(3)

0 1 : 2 5 cm

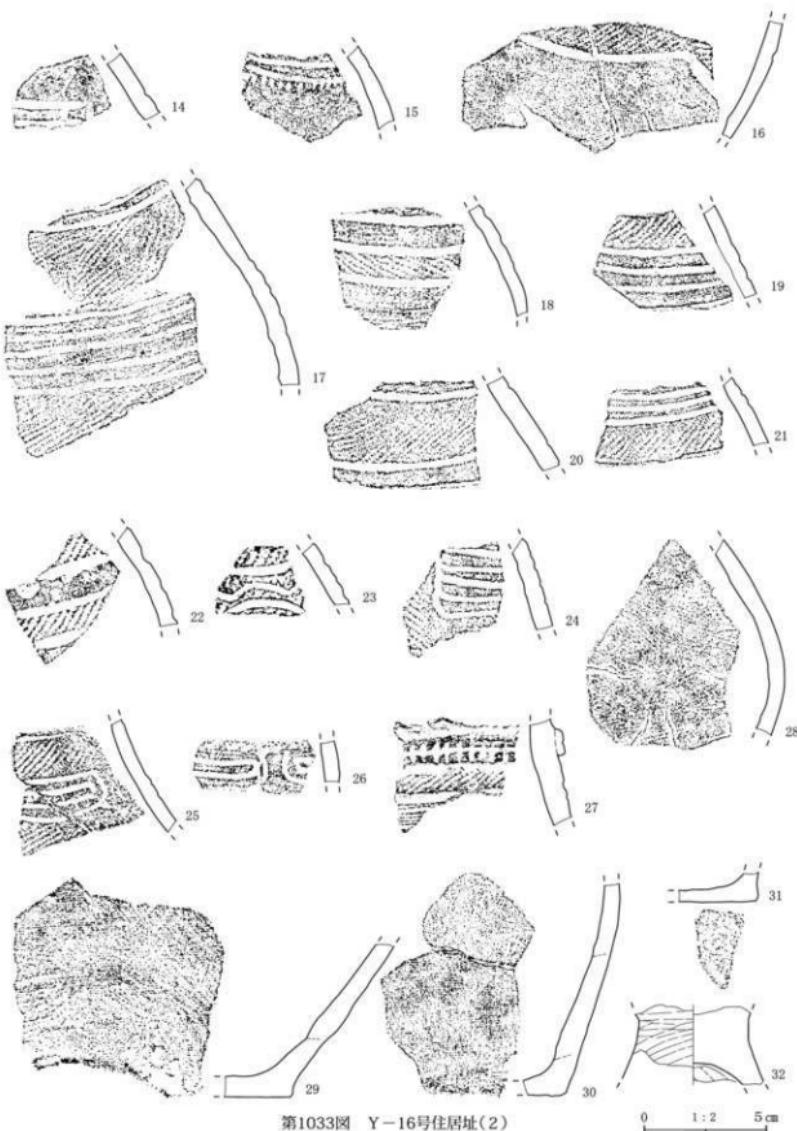


第1031図 Y-14号住居址(4)



第1032図 Y-16号住居址(1)

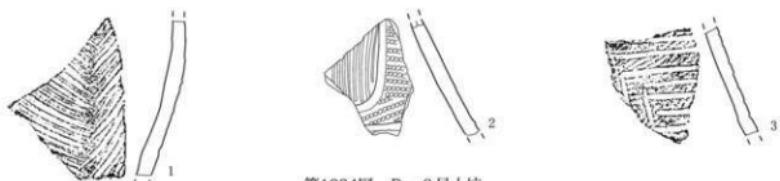
0 1 : 2 5 cm



第1033図 Y-16号住居址(2)

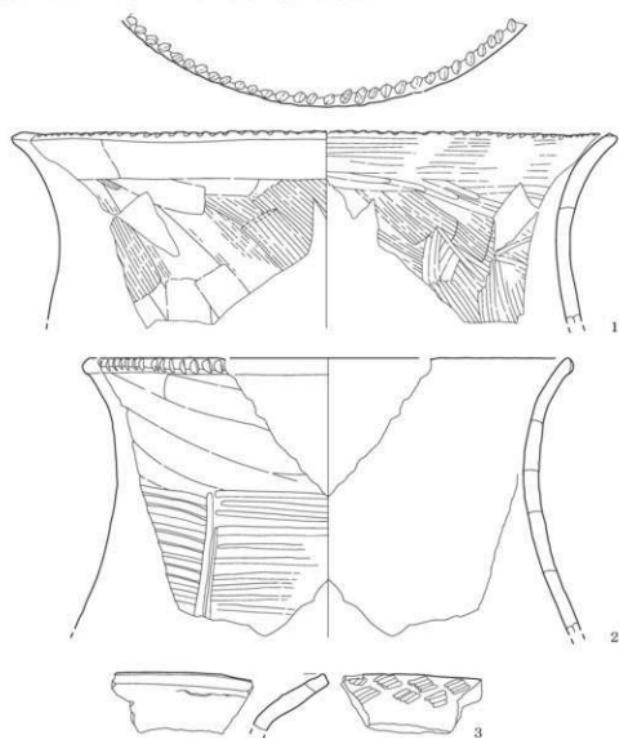
0 1:2 5cm

原田頭遺跡B区弥生時代土坑出土遺物実測図



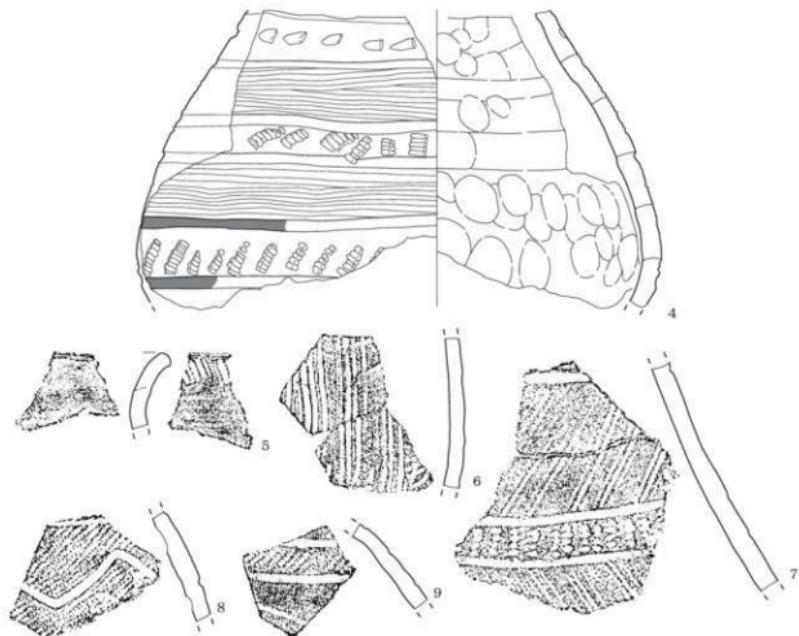
第1034図 D-2号土坑

原田頭遺跡B区弥生時代グリッド出土遺物実測図

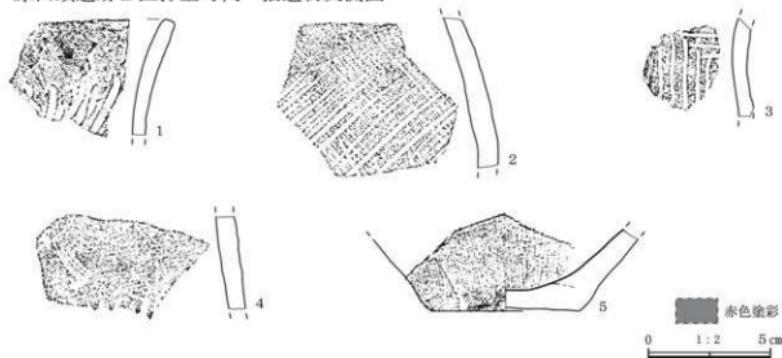


第1035図 グリッド(1)

0 1:2 5cm



原田頭遺跡B区弥生時代一括遺物実測図



第1036図 グリッド(2)・調査区一括

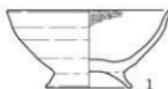
原田頭遺跡D区縄文時代住居址出土遺物実測図



第1037図 J-1号住居址

0 1:4 10cm

原田頭遺跡E区平安時代溝出土遺物実測図



第1038図 M-1号溝

0 1:4 10cm

二軒在家原田頭遺跡Y-1号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①船土 | ②色調 | ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------------------------------|-------------------|-------------------------|--------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------|
| 1 | 甕 | 一括 | ①石英、白色粒子 | ②2.5 YR 6/4にぶる黄色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: - | 外面、口縁部に単節L R 縱溝文施。頸部ナデ調整→9→ナデ 10単位の横擦波状文。内面、ナデ調整。 | ナデ | 中期後半 |
| 2 | 甕 | 一括 | ①白色粒子 | ②10 YR 4/2 広黄褐色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: - | 外面、ナデ調整→4条単位の波状文の上下2段に施す。ナデ 内面、斜め方向細かいハケ。 | ナデ | 中期後半 |
| 3 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、石英 | ②7.5 YR 7/6 橙色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: - | 外面、口縁部に単節L R 縱溝文施。口縁部単節L R 縱溝文ナデ 施文→波状文。肩部横位平行沈線3単位以上→疑位单次 溝。内面、ヨコハゲ後ヨコミガサ。 | ナデ | 中期後半 |
| 4 | 鉢 | 一括 | ①白色粒子、黑色粒子 | ②5 YR 5/6 明赤褐色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: - | 外面、ナデ調整→2条の平行沈線の横 U字文。内面、ヨコナデ。外面上に赤彩。 | ナデ ユビオサエ | 中期後半 |
| 5 | 甕 | P-1 (柱穴) | ①白色粒子、黑色粒子 | ②2.5 YR 6/4 黄褐色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (5.5) | 外面、斜め方向ハケ調整→ナデ→横衝状工具による6条 の横帶文→間にある衝突状工具による5条の斜走文を光瓶。 内面、斜め方向ハケ調整。 | ナデ ユビオサエ | 中期後半 |
| 6 | 甕 | E区周溝 | ①石英、白色粒子、黒色 粒子 | ②10 YR 6/4にぶ る褐色 | ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.8) | 外面、ナデ調整→横衝状工具による4条の斜走文。内面、ナデ 調整。 | ナデ | 中期後半 |
| 7 | 甕 | 一括 | ①白色粒子 | ②2.5 YR 6/4 6/4にぶる褐色 | ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.5) | 外面、ナデ調整→上から棒状工具による爪形文、横位ナデ 溝、横衝状工具による4条以上の横帶文を順に施す。内 面、横方向ハケ。 | ナデ 横帶文 | 中期後半 |
| 8 | 甕 | A区1層 NP-1Y-4 住5K1 層 | ①白色粒子、角閃石 | ②2.5 YR 3/2 黑褐色 | ③頸部 ・胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (5.7) | 外面、胴部6~7条1単位の横衝状工具による横位羽状 文→中位板状工具による刺突列文。内面、ヨコナデ→ ヨコハナメミガサ。外面上スカリび化物らしき墨色 付着物あり、内面ヨコゴ。 | ナデ 羽状文 | 中期後半 |
| 9 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、石英 | ②10 YR 3/2 黑褐色 | ③頸部 ・胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.4) | 外面、縄文施文→平行沈線で上下を区画→上部に爪形文、縄文 内面、ナデ調整。 | ナデ 縄文 | 中期後半 |
| 10 | 甕 | 一括 | ①角閃石、白色粒子 | ②2.5 Y 6/6 橙色 | ③胴部 ・片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.3) | 外面、縄文施文→擬泥水あるいは横U字文を施す。内面、斜め 方向ハケ調整。 | ナデ 横U字文 | 中期後半 |
| 11 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子 | ②10 Y 6/3 6/4にぶる黃褐色 | ③胴部 ・片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.8) | 外面、斜め方向ハケ調整→下部に横位沈線。内面、斜めハケ 調整。 | ナデ 横位沈線 | 中期後半 |
| 12 | 甕? | 一括 | ①白色粒子 | ②10 YR 6/4 黑褐色 | ③胴部 ・破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.9) | 外面、斜め方向ハケ調整→山形文。内面、斜め方向ハケ。 ナデ | ナデ 山形文 | 中期後半 |
| 13 | 甕 | I区1層 | ①白色粒子 | ②10YR3/1 黑褐色 | ③胴部 ・破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.7) | 外面、糸状方向細かいハケ調整→ナデ→丸棒状工具による 横位沈線4条。沈線上面に山形文またはV字文。内面、 ナデ調整。 | ナデ 糸状方向 | 中期後半 |

第374表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(1)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|-----------|---------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|----------------|
| 14 | 壺 | 2区1層 | ①白色粒子 ②10YR3/1 黒褐色 ③頸部破片 | 口径: — 底径: — 器高: (2.7) | 外面、ナデ調整→2条以上の横波沈線。沈線上面に重ねナデ V字文。内面、ナデ調整。 | 中期後半 |
| 15 | 不明 | 8区1層 | ①石英、黑色粒子、白色 粒子 ②10YR7/4にぶ い黄褐色 ③頸部・胴部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: — | 外面、細かいヨコハケ→8~9単位の櫛衝状工具による細かいハ ケ模様状文。内面、ヨコナデ→ヨコミガキ。 | 中期後半 (小松系?) |
| 16 | 壺 | 8区1層 | ①白色粒子、雲母粒 ②10 YR6/4にぶい黄褐色 ③頸部破片 | 口径: — 底径: — 器高: (3.5) | 外面、ナデ調整→上から擬槌文、2状の細い平行沈線、ナデ 重ね山形文を順に施す。内面、ハケ調整→ナデ。 | 中期後半 |
| 17 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10YR4/7/6にぶ い黄褐色 ③胴部→底部破 片 | 口径: — 底径: — 器高: (6.1) | 外面、瓶方向窓→瓶方向へタミガキ。内面、斜め方向ハケ ハケ→ナデ。スス付着。 | 中期 |
| 18 | 甕 | 14区1 層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②7.5YR3/1黒褐色 ③胴部→底部破片 | 口径: — 底径: — 器高: (8.3) | 外面、瓶方向細かいハケ調整。上面にスス付着。内面、細かいハ ケ斜め方向細かいハケ調整。瓶入品か。 | 中期 (小松系?) |

Y-3・4号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------|------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------------|------|
| 1 | 甕 | 住居周辺 | ①石英、白色粒子 ②10 YR7/4にぶい黄褐色 ③口縁 破片 | 口径: — 底径: — 器高: — | 外面、口唇部角棒状工具によるキザミ。口縁部2条以上ナデ の櫛衝状工具による横波描文。内面、疑闇文施工。 | 中期後半 |
| 2 | 甕 | 住居周辺 | ①黒色粒子、白色粒子 ②10YR4/2灰黃褐色 ③頸部・胴部破片 | 口径: — 底径: — 器高: (2.3) | 外面、ナデ→9本以上單位の櫛衝状工具による横波形ナデ 文。内面、ナデ→ラミガキ。 | 中期後半 |
| 3 | 甕 | 住居周辺 | ①白色粒子、石英、砂礫 ②7.5YR4/7にぶい黄褐色 ③櫛衝破片 | 口径: — 底径: — 器高: (5.5) | 外面、闇文施工→櫛衝状工具による横波文と、内側に棒闇文 状工具による横波で闇文を区別する。内面、ナデ。 | 中期後半 |
| 4 | 甕 | 住居周辺 | ①白色粒子 ②10YR 5/2灰黃褐色 ③胴部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (7.1) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による継位羽状文を施す。上位ナデ にスス付着。内面、斜め方向ハケ。 | 中期後半 |
| 5 | 甕 | 住居周辺 | ①白色粒子 ②7.5YR 7/4にぶい褐色 ③胴部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (3.7) | 外面、ナデ→櫛描文と沈線による直三角文の内側に半截ナデ 竹管状工具による病突を施す。内面、ナデ。 | 中期後半 |

Y-5号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------|-----------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------|------|
| 1 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子、雲母粒 ② 2.5Y2/1黒色 ③口縁 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (4.4) | 外面、口唇部はヘラ状工具による粗み目。ナデ→頸部上ナデ り下は櫛衝状工具による横波羽状文。内面、斜め方向ハ ケ→ナデ。 | 中期後半 |
| 2 | 甕 | 3区1層 | ①白色粒子 ②10YR 7/4にぶい黄褐色 ③口 縁 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (2.8) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による横波羽状文。口縁端部にナデ 闇文施工。内面、ナデ→ハラミガキ。 | 中期後半 |
| 3 | 甕 | P-1 | ①白色粒子、黑色粒子 ②5YR4/1灰色 ③口 縁 破片 | 口径: — 底径: — 器高: — | 外面、口唇部板状工具によるキザミ。頸部ナデ調整。内ナデ 面、細かいハケ調整。外面に焼成時の黒斑。 | 中期 |
| 4 | 甕 | (柱穴) | ①白色粒子、黑色粒子 ②10YR7/6明黄色 ③口縁 破片 | 口径: — 底径: — 器高: — | 外面、口唇部丸棒状工具によるキザミ。口縁部ナデ調整。ナデ 内面、口縁部ナデ調整。 | 中期 |
| 5 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10YR3/1黒褐色 ③底 部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (5.2) | 外面、斜め方向ハケ→口縁端部はユビオサエによる波状ハケ を呈す。内面、斜め方向ハケ→ナデ。 | 中期後半 |
| 6 | 甕? | 1区1層 | ①白色粒子、雲母粒 ② 2.5Y1/3黒褐色 ③胴 部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (4.8) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による足の短い櫛状文あるいはナデ 羽状文を施す。内面、ナデ→ラミガキ。 | 中期後半 |
| 7 | 甕? | 4区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10YR3/1黒褐色 ③底 部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (3.2) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による波状文。全面にスス付着。ナデ 内面、ナデ→ラミガキ。 | 中期後半 |
| 8 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10YR7/3にぶい褐 色 ③櫛衝破片 | 口径: — 底径: — 器高: (4.3) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による継位羽状文。内面、ヨコナデ ナデ。 | 中期後半 |
| 9 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子 ②10YR 4/2灰褐色 ③胴部破片 | 口径: — 底径: — 器高: (4.2) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による継位羽状文と刺突文をナデ 施す。下半は重ね櫛コの字。内面、ナデ。 | 中期後半 |
| 10 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子 ②10YR 7/3にぶい黄褐色 ③胴 部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (3.3) | 外面、ナデ→櫛衝状工具による横位羽状文の中位に棒状ナデ 工具による刺突文。上半は黒甕。内面、斜め方向ナデ。 | 中期後半 |
| 11 | 甕 | 1区1層 | ①白色粒子 ②7.5YR 6/4にぶい褐色 ③胴部 破片 | 口径: — 底径: — 器高: (2.3) | 外面、闇文施工→横位に変形工字文。内面、ナデ。 | 中期後半 |

第375表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(2)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------|------------------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------|------|----|
| 12 | 壺 | 1区1層 | ①黒色粒子、白色粒子、石 質母片 ②7.5 YR 5/3 にぶい褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(5.1) | 外面、調文施文→棒状工具により横U字あるいは棒円形調文 区画内に參差→下部はナデ→波状文。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 13 | 壺 | 1区1層 | ①白色粒子、白色粒子、 質母片 ②7.5 YR 5/3 | 口径：— 底径：— 器高：(1.7) | 外面、調文施文→棒状工具により横U字あるいは棒円形調文 区画内に參差→外側はナデ。 | 中期後半 | |
| 14 | 壺 | 3区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 2/1 黑色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.1) | 外面、調文施文→棒状工具により横U字あるいは棒円形調文 区画内に參差→外側はナデ→波状文。内面、斜め方向ハケ。 | 中期後半 | |
| 15 | 壺 | 4区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄褐色 ③胴 部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.1) | 外面、調文施文→棒状工具による沈縫2条。下部調文 にボタン状粘り付け文。内面、斜め方向ハケ。 | 中期後半 | |
| 16 | 壺? | 4区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10 YR 4/2 黄褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.8) | 外面、調文施文→棒状工具による横位沈縫と上部に羽状調文 を組み合わせたもの。内面、斜め方向ハケ。 | 中期後半 | |
| 17 | 壺? | 1区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10 YR 6/4 にぶい黃 褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.3) | 外面、調文施文→横位に変形工字文。内面→斜め方向ナデ 文。 | 中期 | |
| 18 | 壺 | 2区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黄褐色 ③胴部 破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.3) | 外面、ナデ→棒状工具による横位沈縫2条→下部に波状ナデ 文。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 19 | 壺 | 1区1層 | ①白色粒子、角閃石、雲 母片 ②7.5 YR 5/2 黄 褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.9) | 外面、ナデ→棒状工具による重ね山形文。内面、ナデ→ナデ ヘラミガキ。 | 中期後半 | |
| 20 | 壺 | 4区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②7.5 YR 6/4 にぶい黃 褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.8) | 外面、ナデ→上下に棒状工具による沈縫を2条→間に斜ナデ 文あるいはV字文を描く。上部に刺突文。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 21 | 壺 | 2区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③胴 部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.5) | 外面、ナデ→位に棒状工具による沈縫2条→間に竹節ナデ 文を密に充填→下部は菱形あるいは山形文を施す。内面、 ナデ。 | 中期後半 | |
| 22 | 壺 | 1区1層 | ①黑色粒子 ②7.5 YR 4/2 灰褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.2) | 外面、調文施文→前面に棒状工具による2条以上の平行調文 沈縫→刺突文。非彩あり。内面、ヨコナデ。 | 中期後半 | |
| 23 | 壺 | 1区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③胴 部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.8) | 外面、ナデ→上端に花瓶→棒彫状工具による列点文を寄 ナデに施す。内面、斜め方向ナデ。 | 中期後半 | |

Y-6号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|----|
| 1 | 甕 | 2区1層 + 6.1P.1 層 + 2 + 10 Y + 1層 + Y-9 + X床直 | ①角閃石、白色粒子、石 英 ②10 YR 6/4 にぶい黃 褐色 ③口縫底部1/3 + 10 Y 住 + Y-9 住 + X床直 | 口径：(20.0) 底径：— 器高：(21.2) | 外面、口端底部板状工具によるギザミ。胴部ナデ調整→上ナデ 半3条1単位の櫛彫状工具による継位羽状文→中位半竹 管状工具による刺突列文2條。胴部下半タテミガキ。 内面、ヨコナデ、外面脚部ス付着、下半部には炭化物 らしき黒色付着物が顕著。 | 中期後半 | |
| 2 | 甕 | 10区 ベルト | ①白色粒子、黑色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黃 褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.6) | 外面、ナデ→口縫部はユビオサエによって波状を呈す。ナデ 全面にスス付着。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 3 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、雲母粒 ②10 YR 7/3 にぶい黃色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(2.0) | 外面、ナデ→口縫部はユビオサエによって波状を呈す。ナデ 全面にスス付着。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 4 | 甕 | 11区 ベルト1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②10 YR 4/2 黄褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.1) | 外面、ナデ→口縫部はユビオサエによって波状を呈す。ナデ 縫端部は棒状工具の押圧により刺込み付ける。内面、 ナデ→ヘラミガキ。 | 中期後半 | |
| 5 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黑色粒子 ②7.5 YR 6/4 にぶい黃 褐色 ③胴部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.2) | 外面、ナデ→頭部下に櫛彫状工具による4条単位の斜走ナデ 文。口縫端部に調文施文。内面、ナデ→ヘラミガキ。 | 中期後半 | |
| 6 | 甕 | 10区 ベルト | ①白色粒子、黑色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黃 褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.7) | 外面、ナデ→頭部以下は櫛彫状工具による横位羽状文。ナデ 口縫端部はユビオサエによって波状を呈す。スス付着。 内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 7 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子 ②2.5 Y 5/2 黄褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：— | 外面、口縫端指壓跡除→單車LIR調文施文。口縫部4單ナデ 位の櫛彫状工具による継位櫛彫。内面、ヨコナデ→ロ ボット底面下に外面調文と同一工具による斜行短線文。外 面スス付着。外端には炭化物らしい黒色付着物もあり。 | 中期後半 (小松系?) | |
| 8 | 甕 | 13区1 層 | ①白色粒子、角閃石 ② 2.5 Y 4/1 黄褐色 ③口 縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：— | 外面、細かいタラハケ→口縫部ヨコナデ。内面、口縫部ハケ 直下押圧跡、口縫部ヨコハケ。外側面にスス付着。 | 中期後半 (小松系?) | |
| 9 | 甕 | 16区1 層 | ①黑色粒子、多量の白 色粒子 ②10 YR 7/1 黑 褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：— | 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ→3~4単位の櫛彫状ナデ 工具による斜行短線文2條。外側スス付着、内面ヨコゴレ。 | 中期後半 (小松系?) | |
| 10 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、雲母粒 ② 10 YR 6/3 にぶい黃褐色 ③口縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(1.8) | 外面、ナデ。内面、ナデ→口縫近くは櫛彫状工具によるナデ 5条のV字文を横位に並べる。 | 中期後半 | |
| 11 | 甕 | 12区1 層 | ①白色粒子、石英 ②10 YR 7/6 黄褐色 ③口 縫底部破片 | 口径：— 底径：— 器高：— | 外面、ナデ→口縫文。内面、調文施文。 | 中期後半 | |

第376表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(3)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|----------------|-------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|
| 12 | 甕 | 7区1層 | ①黒色粒子、白色粒子、石英、角閃石 ②10 YR 7/3に似る黄褐色 ③肩部・底部4/5残存 腹部片 | 口径：— 底径：— 器高：— | 外面、底部～肩部上平6条L.R.横彫状工具・横彫工具ナデによる沈文を上から横位彫刻状文・横位彫描文・單節L.R.彫文上に波状沈文・横位彫描文・横位彫描波状文2段・上位同一の彫刻状工具による刺突列点文。 底部下半ナメナデ・底部剥落らしい。内面、肩部ヨコナデ→胸部細かいヨコハケ。外面胸部スス付着、中位の一部に一次剥落。 | 中期後半 | |
| 13 | 小形甕 | 1区No.1 4住周辺 | ①白色粒子、石英 ②10 YR 6/3に似る黄褐色 ③頸部～底部4/5残存 | 口径：— 底径：5.1 器高：<(16.5) | 外面、底部～肩部上平は横彫状工具による横彫工具ナデによる单節彫文を上から横位彫刻状文・横位彫描文・單節L.R.彫文上に波状沈文・横位彫描文・横位彫描波状文2段・上位同一の彫刻状工具による刺突列点文。 胸部下半ナメナデ・底部剥落らしい。内面、肩部ヨコナデ→胸部細かいヨコハケ。外面胸部スス付着、中位の一部に一次剥落。 | 中期後半 | |
| 14 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、石英 ②10 YR 7/4に似る黄褐色 ③頸部4/1残存 | 口径：— 底径：— 器高：<(8.5) | 外面、单節L.R.彫文上に4単位の横彫状工具による横彫工具ナデによる区画上位板状工具による刺突列点文。内面、 | 中期後半 | |
| 15 | 甕 | 9区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1灰褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(11.3) | 外面、ナデ～下半はヘラケズリ。上部は彫削状工具によナデによる横位羽状文。スス付着。内面、斜め方向ヘラケズリ。 | 中期後半 | |
| 16 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1灰褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.5) | 外面、斜め方向細かいハケ～上位に彫削状工具による彫削細かいハケ位羽状文。全面にスス付着。内面、斜め方向細かいハケケ | 中期後半 | |
| 17 | 甕 | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1灰褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.1) | 外面、ナデ～上面に彫削状工具による刺突文。中～下部ナデにかけて彫削工具による横位羽状文を施す。内面、横向細かいハケ。 | 中期後半 | |
| 18 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1灰褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.2) | 外面、ナデ～上位に彫削状工具による刺位羽状文～下位ナデにヘル工具による緻密な刺突文。内面、ナデ～ラミガキ。 | 中期後半 | |
| 19 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 4/4に似る褐色 ③胸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.4) | 外面、彫文施文～上部に棒状工具による横位沈線～下部彫文は交互に彫文を充填する2段以上の連弧文。内面、斜め方向ハケ。 | 中期後半 | |
| 20 | 鉢？ | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 5/2灰褐色 ③胸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.8) | 外面、斜め方向ハケ～ナデ～上位にかけて棒状工具ハケによる菱形あるいは椿円形の沈線画を千鳥状に配し、外側に彫削工具による5条のV字彫文を充填する。赤影あり。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 21 | 甕 | 10区ベルト | ①白色粒子、石英 ②5 YR 6/6褐色 ③胸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.3) | 外面、ナデ～棒状工具による重ねコの字彫文。内面、磨滅ナデが激しく不明。 | 中期後半 | |
| 22 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、石英 ②10 YR 6/2灰褐色 ③頸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.2) | 外面、斜め方向細かいハケ～棒状工具による横位沈線を細かいハケ5条施す。内面、ハケ～ナデ。 | 中期後半 | |
| 23 | 甕 | 13区1層 | ①白色粒子、黒色粒子、片岩 ②5 YR 5/4に似る褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.3) | 外面、ナデ～棒状工具による重ね三角形文～内側に刺突。ナデ内面、磨滅が激しく不明。 | 中期後半 | |
| 24 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子、片岩 ②5 YR 6/6褐色 ③頸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.3) | 外面、ナデ～中位に棒状工具による横位沈線。沈線上位ナデに横彫文。下位に彫削状工具による6条単位の列点文。 | 中期後半 | |
| 25 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子 ②5 YR 5/6褐色 ③頸部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.2) | 外面、彫文施文～上位に棒状工具によるそれぞれ2条の彫文。沈線～線の外側はナデ。内面、磨滅が激しく不明。 | 中期後半 | |
| 26 | 甕 | 11区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4に似る黃褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.5) | 外面、彫文施文～中位に棒状工具による沈線3条。上下彫文に重ね山形文。内面、ハケ～ナデ。 | 中期後半 | |
| 27 | 器種不明 | 15区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3に似る黃褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(4.9) | 外面、彫文施文～棒状工具による横位沈線を等間隔に施す文。上から2段目の彫文を残し、他はナリ消し。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 28 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5 YR 5/4に似る赤褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.4) | 外面、彫文施文～棒状工具による横位沈線を4条以上。内面、下部に重ね山形文から内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 29 | 甕 | 13区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3に似る黄褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.2) | 外面、彫文施文～棒状工具による横位沈線を5条以上。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 30 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、石英 ②7.5 YR 5/4に似る褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.5) | 外面、ナデ～上部は斜め方向ハケ。中位にヘラによる刺突ナデ～み目と、中心に赤鉄を滲した暗帯を付け、さらに下部に棒状工具による沈線を施す。内面、ナデ。 | 中期後半 | |
| 31 | 甕 | 3区1層 | ①石英、白色粒子、片岩 ②10 YR 7/4に似る黄褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.1) | 外面、ナメナデ～彫文施文～花瓶文。内面、ヨコナデ。擬彫文 | 中期後半 | |
| 32 | 鉢 | 5区1層 | ①石英、黄褐色、白色粒子 ②10 YR 6/4に似る黄褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：4.7 器高：— | 外面、胸部上位丸棒状工具による連弧文1単位残存。下部ハケ～ナデ。 | 中期後半 | |
| 33 | 甕？ | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/2黒褐色 ③腹部破片 | 口径：— 底径：— 器高：(3.5) | 外面、彫文施文～上～中位にかけて棒状工具による2条彫文。沈線を施し、間に刺突文を充填する。沈線下部は3条の連弧文。さらにその下部に刺突文あるいは縦方向の沈線を並べる。赤影あり。内面、斜め方向ハケ～ラミガキ。 | 中期後半 | |
| 34 | 高坏 | 13区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 7/3に似る黄褐色 ③脚部底径：— 残存 器高：(2.5) | — | 外面、ナデ。内面、ナデ。 | 中期後半 | |

第377表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物觀察表(4)

Y-7号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 | ②色調 | ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|-------|-------------------------------------|-----------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------|----|------|----|
| 1 | 甕 | 12区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 雲母粒 | ②10YR 4/2 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.5) | 外面、ナード下部に棒状工具による縦位羽状文。内面、斜め方向ハケ→ナード。 | | 中期後半 | |
| 2 | 壺? | 12区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 6/4にぶい黄褐色 褐色 | ③底部破片 | 口径: - 底径: - 高さ: (2.9) | 外面、ナード下部に棒状工具による細い沈線を模位に棒ナード状工具による横位沈線を等間隔に施文。上から2段目の模位。内面、ナード。 | | 中期後半 | |

Y-8号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 | ②色調 | ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|----------------|----------------------------------------|---------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------|----|
| 1 | 甕 | 6区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 6/2灰黃褐色 ③口縁部 | 15残存 | 口径: (29.2) 底径: - 高さ: (<18.8) | 外面、口唇部棒状工具によるギザミ。肩部ナメナメナード→上から4~6単位の棒状工具を用いた縦位羽状文。内面、細かいヨコハケ→口縁部ヨコナード。肩部ナメナメナード。外面網目スス付着。内面網目ヨゴレ。 | | 栗林1? | |
| 2 | 甕 | 一括+図7 7'ヨリ? | ①白色粒子、角閃石 ②10YR 6/3にぶい黄褐色 ③口縁部 | 15残存 | 口径: (22.3) 底径: - 高さ: (<26.4) 2/3残存 | 外面、口唇部棒状工具による押捺。道ヨコナード。肩部ヨコハケ→中位刺突列点文→上半4單ヶ位の横位文を下から波状文→敵衛文→波状文→敵衛文→又下行沈線の頃に施文→ナードギヨミガキ調整。内面、口縁部ヨコナード。肩部ヨコハケ→下半ナナメミガキ調整。外面部に焼成時の黒斑。 | | 中期後半 | |
| 3 | 甕 | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 5/3にぶい黄褐色 ③口縁部 | 2/3残存 | 口径: - 底径: - 高さ: (4.2) | 外面、ナード類部以下は棒状工具による4条の短いナード網目文。口縁端部に獨立。ヨコ縫部にスス付着。内面、 | | 中期後半 | |
| 4 | 甕 | 2区床直 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 3/1黒褐色 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.2) | 外面、ナード口縁端部に獨立。ヨコ縫部にスス付着。内面、ナード類部以下は棒状工具による4条の短いナード網目文。口縁端部に獨立。ヨコ縫部にスス付着。内面、 | | 中期後半 | |
| 5 | 壺 | 3区1層 | ①白色粒子、角閃石 ②10YR 6/3にぶい黄褐色 ③口縁部 | 破片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.2) | 外面、ナード概論文文→平行沈線文2。内面、ヨコ縫文ナード→ヨコミガキ。外面に焼成時の黒斑あり。 | | 中期後半 | |
| 6 | 甕 | 2区床直 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 7/4にぶい黄褐色 ③口縁部 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.3) | 外面、細かいハケ→ナード→張部以下は棒状工具による横位網目ハケ。内面、ヨコ縫羽状文 | | 中期後半 (小松系?) | |
| 7 | 甕 | 6区床直 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 6/4にぶい黄褐色 ③口縁部 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.9) | 外面、新めな方縫網目ハケ→棒状工具による横位羽状文→下部に同工具による横位点文。内面、斜めカケ | | 中期後半 | |
| 8 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 8/4浅黄褐色 ③口縁部 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.8) | 外面、ナード下部にハケ工具による刺突文を横位に施文→刺突文の上に棒状工具による横位羽状文。 | | 中期後半 | |
| 9 | 甕 | 6区床直 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5YR 6/6褐色 ③底部破片 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.8) | 外面、棒状工具による等間隔で3条の沈線を施文→ナード→ナードの区画内は棒状工具による横帶文。下の区画には同工具による点立文。内面、磨滅が激しく不明。 | | 中期後半 | |
| 10 | 器種不明 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 6/4にぶい黄褐色 ③口縁部 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (2.6) | 外面、ナード棒状工具による三角形の区画を施す→内ナード間に刺突文。内面、ナード。 | | 中期 | |
| 11 | 甕? | No.1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5YR 6/4にぶい赤褐色 ③口縁部 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (2.4) | 外面、調文施文→下部に棒状工具による沈線でヨコ字調文あるいは難かず文を描く。区画の内側は調文をすり消す。内面、ナード。 | | 中期 | |
| 12 | 壺 | 8区1層 | ①角閃石、白色粒子 ②10YR 5/3にぶい黄褐色 ③底部破片 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.2) | 外面、調文施文→平行沈線文3。内面、ナメナメナード。横縫文 | | 中期後半 | |
| 13 | 鉢 | 2区1層 | ①白色粒子、チャート ②10YR 6/3にぶい黄褐色 ③底部破片 | 器高: 6.1 底径: <6.0 | 口径: - 底径: - 高さ: (6.3) | 外面、肩部ヨコナード。肩部ヨコナード→上から棒状工具による横位单沈線と連弧文2単位。内面、肩部ヨコナード。肩部上半細かいヨコハケ→下ヨコナード。 | | 中期後半 | |
| 14 | 壺? | 6区2付 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4にぶい黄褐色 ③底部破片 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (3.2) | 外面、ナード。内面、ナード。 | | 中期後半 | |

Y-9号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 | ②色調 | ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|-----|------|----------------------------------------|-----|--------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----|------|----|
| 1 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4にぶい黄褐色 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (6.3) | 外面、調文施文→上部に棒状工具による4条の横位沈線→4~5条の間のみ幅広く、調文を残す。それ以外はナード→ナード調文。内面以下にも多量以上の沈線。内面、ナード。 | 調文 | 中期後半 | |
| 2 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、角閃石 ②10YR 4/2灰黃褐色 | 片 | 口径: - 底径: - 高さ: (6.3) | 外面、ヨコ縫文→調文施文以下にも多量以上の沈線。内面、ナード。 | 調文 | 中期後半 | |
| 3 | 片口鉢 | 一括 | ①白色粒子、角閃石 ②10YR 7/3にぶい黄褐色 ③1/3残存 | 片 | 口径: (14.0) 底径: (6.7) 高さ: (7.4) | 外面、口縁部ナード調整→單刃LR調文施文→敵衛文。肩部ナードヨコナード→肩部ヨコビオサエヨコミガキ。内面および底部表面の摩擦が激しく観察不可。外面に焼成時の黒斑。 | | 中期後半 | |

第378表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(5)

Y-10号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①白粘子 ②色調 ③残存 C2フリット | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|--------|-------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------|
| 1 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 4/1 褐灰色 ③白粘子破片 | 口径: - 高さ: (3.7) | 外面。ナデ→口縁端部はユビオサエにより波状を呈す。 内面、ハケ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 2 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/2 黑褐色 ③口縁破片 | 口径: - 高さ: (2.4) | 外面。ナデ→口縁端部に施文。内面、ナデ→ヘラミガキ。ナデ | ナデ | 中期後半 |
| 3 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②砂塊 ③10 YR 4/1 褐灰色 ④口縁破片 | 口径: - 高さ: (2.4) | 外面。ナデ→口縁部直下から横彎状工具による横位羽状ナデ 文あるいは斜走文。ロ縁端部は施文を施す。内面、ナデ→ ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 4 | 甕 | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 に似る 褐色 ③口縁破片 | 口径: - 高さ: (4.4) | 外面、横向方ナデ→頸部より下は横彎状工具による継位ナデ 文。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 5 | 甕 | 3区1層 | ①白色粒子 ②2.5 YR 4/2 灰褐色 黄色 ③ロ縁部 破片 | 口径: - 高さ: (4.4) | 外面、ヨコナデ→ヨコミガキ。内面、ヨコナデ→口縁部ナデ 直下に5単位の彎曲状工具による斜行短線文。外面部化 物らしき黒色付着物あり。内面ヨコゴザ。 | ナデ | 中期後半 (小松系?) |
| 6 | 不明 | 2区1層 | ①白色粒子 ②10 YR 4/2 灰黃褐色 ③胴部破 片 | 口径: - 高さ: (4.4) | 外面、6条1單位の彎曲状工具による斜行短線文。内面、ナデ ヨコナデ。内面スズおよび炭化物らしき黒色付着物あ り。内面ヨコゴザ。 | ナデ | 中期後半 (小松系?) |
| 7 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (4.8) | 外面。ナデ→彎曲状工具による横位羽状文。内面、ナデ→ ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 8 | 甕 | C2フリット | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1 黑褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (5.7) | 外面。ナデ→彎曲状工具による横位羽状文。スズ付着。ナデ 内面→ツミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 9 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/3 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (4.8) | 外面、ナデ→彎曲状工具による継位羽状文あるいは斜格ナデ 文。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 10 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5 YR 6/4 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (5.4) | 外面、斜め方向細かいハケ→彎曲状工具による継位波状下 文と横位波状文を交互に施す。全周にスズ付着。内面、ケ | ナデ | 中期後半 |
| 11 | 甕 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/1 黑褐色 | 口径: - 高さ: (5.8) | 外面、斜め方向細かいハケ→下部はヘラミガキ。上部細かいハ ケ→スズ。内面、斜め方向細かいハケ→ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 12 | 甕 | D1フリット | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/2 灰黃褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (4.6) | 外面、ナデ→彎曲状工具による3条の横位波状文を3段ナデ 以上。下部に列点文。内面、ナデ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 13 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 灰黃褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (5.0) | 外面、ナデ→彎曲状工具による6条の横位波状文を4段ナデ 以上。下部に列点文。内面、ナデ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 14 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (2.9) | 外面、ヨコ文施文→中位に棒状工具による横位の沈織を1回文 矣。沈織の上部はナデ→彎曲状工具による6条の横帶文。 | ナデ | 中期後半 |
| 15 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (3.0) | 外面、ヨコ文施文→中位に棒状工具による横位の沈織を1回文 矣。沈織の上部はナデ→彎曲状工具による横帶文。内面、 斜め方向カーナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 16 | 壺? | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (5.0) | 外面、ナデ→彎曲状工具による沈織→棒状工具により三ナデ 角形に区画する。内側に刺突。内面、斜め方向カーナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 17 | 器種不明 | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 4/2 黑褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (3.1) | 外面、斜め方向細かいハケ→棒状工具による横位沈織2回かい 矣。沈織間に刺突文。内面、磨擦が激しく不明。ケ | ナデ | 中期後半 |
| 18 | 甕 | 3区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5 YR 2/2 黑色 ③胴部 破片 | 口径: - 高さ: (3.5) | 外面、ナデ→棒状工具による横位刺突文。内面、斜め方向ナデ 向かヘナダ。 | ナデ | 中期後半 |
| 19 | 甕 | 3区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5 YR 2/1 黑色 ③胴部 破片 | 口径: - 高さ: (3.2) | 外面、斜め方向細かいハケ→ナデ→棒状工具による横位継位 刺突文。スズ付着。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 20 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/3 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (4.2) | 外面、斜め方向細かいハケ→棒状工具による3条以上の継位 沈織。それぞれ棒状工具による列点文。ナデ消し ケ→ナデ。を行う区画を交互に配置する。内面、斜め方向細かいハ ケ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 21 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/4 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (5.0) | 外面、斜め方向細かいハケ→中→下部にかけて棒状工具継位 による3条の沈織。上から1→2→3条間の区画のみヨコ文をケ 施す。内面、斜め方向ハケ。 | ナデ | 中期後半 |
| 22 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/3 に似る 褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (7.2) | 外面、ヨコ文施文→棒状工具による3条単位の横位沈織をヨコ 文施し。沈織区画内には施文消し。内面、斜め方向ハケ。 | ナデ | 中期後半 |
| 23 | 甕 | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/2 灰黃褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (3.9) | 外面、ヨコ文施文→中→下部にかけて棒状工具による横位沈織 4條。上部に波状文あるいは横線文。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 24 | 壺 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/2 灰黃褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (3.9) | 外面、ヨコ文施文→上→下に棒状工具による横位沈織→内側ヨコ 文に重ね山形文。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 25 | 器種不明 | - | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/2 灰黃褐色 ③胴部破片 | 口径: - 高さ: (3.2) | 外面、ヨコ文施文→棒状工具による幅広の沈織を3条。下ヨコ 文に刺突文を横位に施す。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |

第379表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(6)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|----------|--------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------|----|------|
| 26 | 壺 | C2 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 8/3 浅黄褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (4.6) 高さ: — | 外面、調文施文→ナデ→ミガキ。上面に棒状工具による沈線1条。沈線より上は調文を残す。内面、ナデ。 | 調文 | 中期後半 |
| 27 | 器種不明 | 一括 | ①石灰、白色粒子など の細砂多量 ②10 YR 6/4/2.5 浅黄褐色 ③ | 口径: — 底径: — 高さ: — | 外面、調文施文→波状沈線文。内面、ヨコナデ。 | 調文 | 中期後半 |
| 28 | 壺? | P-6 | ①白色粒子、黒色粒子、口沿: 石英 ②10 YR 7/4 浅 黄色 ③底部→脚部破片 | 口径: — 底径: (6.6) 高さ: (10.1) | 外面、ナデ。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |

Y-11号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|-------|---------------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------|----------------|
| 1 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/3 にかい黄 褐色 ③口縁部破片 | 口径: — 底径: (2.5) 高さ: — | 外面、ナデ→口縁端部に調文施文。口縁直下から内面にかけて赤芯、スス付着。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 2 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子、 砂漠 ②7.5 YR 3/1 黒 褐色 ③口縁部破片 | 口径: — 底径: (2.9) 高さ: — | 外面、ナデ→口縁直下から脚部破片による粗い痕跡 ②スス付着。内面、ナデ→ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 3 | 甕 | I区床直 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/1 黑褐色 ③ 口縁部破片 | 口径: — 底径: (9.7) 高さ: — | 外面、ナデ→脚部破片による粗い痕跡 ②スス付着。内面、ナデ→ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 4 | 壺 | 一括 | ①白色粒子 ②7.5 YR 4/4 棚色 ③口縁部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: — | 外面、口縁部単純L R調文施文→脚部調整。 | 單節L R調文 | 中期後半 |
| 5 | 壺 | 一括 | ①白色粒子・角閃石 ② 2.5 YR 6/2 灰黄色 ③ 脚部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: — | 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ→4単位の横筋状工具による横筋状紋。ナデ | ナデ | 中期後半 (小松式?) |
| 6 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 實母粒 ②5 YR 5/3 に かい赤褐色 ③口縁部破 片 | 口径: — 底径: — 高さ: (1.9) | 外面、ナデ→口縁端部は棒状工具による押圧によりやや波状を呈す。スス付着。内面、斜め方向ハケ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 7 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 4/1 褐灰色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (3.4) 高さ: — | 外面、ナデ→脚部工具による横筋状紋。スス付着。ナデ | ナデ | 中期後半 |
| 8 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子、 角閃石 ②10 YR 4/1 褐 灰色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (2.6) 高さ: — | 外面、ナデ→脚部工具による縱羽状紋。内面、ナデ→ヘラケツリ。 | ナデ | 中期後半 |
| 9 | 壺 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/3 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (4.8) 高さ: — | 外面、ナデ→上下に間隔をあけて横筋状工具にて横筋状紋。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 (小松式?) |
| 10 | 壺 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 灰黃褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (4.9) 高さ: — | 外面、ナデ→棒状工具による横筋線を等ナデ | ナデ | 中期後半 |
| 11 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (2.8) 高さ: — | 外面、ナデ→中位に棒状工具による模様沈線。下部はナデ | ナデ | 中期後半 |
| 12 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (3.8) 高さ: — | 外面、ナデ→棒状工具による3条以上の横筋線を等ナデ | ナデ | 中期後半 |
| 13 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1 褐灰色 ③ 脚部破片 | 口径: — 底径: (3.8) 高さ: — | 外面、ナデ→脚部工具による3条以上の横筋線を等ナデ | ナデ | 中期後半 |
| 14 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (3.9) 高さ: — | 外面、ナデ→上部に棒状工具による横筋沈線→沈線間に棒状工具による列点文。内面、磨耗が激しく不明。 | ナデ | 中期後半 |
| 15 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (3.2) 高さ: — | 外面、ナデ→棒状工具による6条以上の横筋沈線。内ナデ | ナデ | 中期 |
| 16 | 甕 | 2区1層 | ①石英、白色粒子、黒 色粒子 ②10 YR 5/4 に かい黄褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: — | 外面、横かいいハケ調整→横U字文と平行添弧文4単位→横かいいハケ | 調文 | 中期後半 |
| 17 | 甕 | 2区1層 | ①石英、白色粒子、 黑色粒子 ②10 YR 5/4 に かい黄褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: — | 外面、横かいいハケ調整→横U字文と平行添弧文4単位→横かいいハケ | 調文 | 中期後半 |
| 18 | 器種不明 | II区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 5/4 にかい黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: (3.3) | 外面、調文施文→棒状工具にて長方形あるいは幾何学調文 の区画。区画外は調文擦り消し。内面、斜め方向横筋 | 調文 | 中期 |
| 19 | 甕 | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 灰黃褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: (3.2) 高さ: — | 外面、調文施文→棒状工具による3条以上の横筋沈線。調文 上段は調文、中段は無文帶、下段は調文を擦り消した後、棒状工具による横筋突起。 | 調文 | 中期後半 |
| 20 | 甕? | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 8/6 浅黄褐色 ③脚部破片 | 口径: — 底径: — 高さ: (2.1) | 外面、調文施文→下部は擦り消した後、棒状工具による横筋突起。 | 調文 | 中期後半 |

第380表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(7)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------|------------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------------------------|----|------|
| 21 | 壺? | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/2 灰黃褐色 ③頸部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (3.7) | 外面、ナデ→下部に棒状工具による横位沈線1条。中位に陳帯をめぐらせる。瓶方向に刻み目を付けた後。 | ナデ | 中期後半 |
| 22 | 甕? | 一括 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (4.4) | 外面、ノフ。底部に木薬瓶。内面、ナデ。全面にスス付着。 | ナデ | 中期後半 |
| 23 | 甕? | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (3.2) | 外面、ハケ→ナデ。内面、斜め方向ハケ→ナデ。 | ハケ | 中期後半 |
| 24 | 甕 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (4.6) | 外面、ナデ。スス付着。内面、斜め方向ハケ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |

Y-12号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|------|------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|----|------|
| 1 | 壺? | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/1 黑褐色 ③底部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (5.8) | 外面、ナデ→斜め方向ハラミガキ。内面、斜め方向ハケ。 | ナデ | 中期後半 |
| 2 | 蓋? | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/3 にぶい橙色 ③蓋部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (2.4) | 外面、圓文施文→棒状工具にて重ねV字文。内面、ナデ。圓文。 | 圓文 | 中期 |

Y-13号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|--------|-------------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------|-----|------|
| 1 | 甕 | F2?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にぶい黄褐色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (2.8) | 外面、口縁部にかけて陳記文。内面、ナデ。 | 陳記文 | 中期後半 |
| 2 | 器種不明 | F2?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 3/1 黑褐色 ③側部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (4.9) | 外面、ナデ→棒状工具にて稍円あるいは菱形文を重ねる。内面、ナデ。 | ナデ | 中期 |
| 3 | 甕 | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 Y 7/3 にぶい黄色 ③側部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (10.2) | 外面、ナデ→側部羽状文。内面、斜め方向ハケ→ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 4 | 蓋 | F2?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄褐色 ③側部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (3.2) | 外裏、圓文施文棒状工具による2条の横位沈線を等間隔に3段以上内面。ナデ。 | 圓文 | 中期後半 |
| 5 | 壺? | P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③側部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (4.3) | 外面、ナデ→縱方向ハラミガキ。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |

Y-14号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|---------------------------------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|
| 1 | 甕 | 4区1層+ 5区1層+ 7区1層 1/4残存 | ①石英、白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③口縁部→胸部 ④口縫部破片 | 口径: (23.9) 底径: - 縦高: <22.7> | 外面、口縫部指頭押捺→單筋L字彫文施文。脛部ヨコミガキ。脣部上半細かいナナメハケ圓文→左方向から4単位の櫛状工具による横位波状文を6~7段以上から下へ→殿位直下4単位左から右へ→横位波状文の順に施文→胸部中位に板状工具による刺突例立文→胸部下半ナナメミガキ。内面、脣部上半ナメハケ→下半ナナメナデ→下半ナナメミガキ。外裏、脣部中位以上スス付着および焼成時の黒斑あり。内面脣部中位以下ヨゴイおよび焼成時の黒斑、瘤痕状に剥離が判斷する。 | 陳記文 | 中期後半 |
| 2 | 甕 | 13区 | ①白色粒子、黒色粒子。 石英 ②10 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③口縫部→胸部 ④口縫部破片 | 口径: (16.3) 底径: - 縦高: <7.8> | 外裏、口縫部ヨコナタ。脣部横位平行波状文。脣部上位櫛状羽状文。内面、ヨコナタ。外裏表面の荒れ激しく。脣部文様剥落箇所多い。外面スス付着。 | ナデ | 中期後半 |
| 3 | 甕 | E2?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 Y 1/3 黑褐色 ③口縫部破片 | 口径: (18.6) 底径: - 縦高: (10.3) | 外裏、斜め方向細かいハケ→ナデ。脣部以下は櫛状工具による横位羽状文。内面、ナデ→ハケ。 | 陳記文 | 中期後半 |
| 4 | 甕 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 灰黃褐色 ③口縫部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (3.2) | 外裏、ナデ。口縫近くにスス付着。内面、ナデ。口縫端部は特に内面側を強く指で押圧するため、縫が三角形を呈す。 | ナデ | 中期後半 |
| 5 | 甕 | D2?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 Y 5/2 増暗黃色 ③口縫部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (3.7) | 外裏、ナデ→ハラ状工具にて頸部に例立文→頸部下に櫛状工具による横位羽状文。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 6 | 甕 | E3?*P? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③口縫部破片 | 口径: - 底径: - 縦高: (4.7) | 外裏、ナデ。棒状工具により口縫近くまで重ねコの字を施す。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 7 | 甕? | I区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 Y 7/4 にぶい黄褐色 ③口縫部破片? | 口径: - 底径: - 縦高: (3.6) | 外裏、ナデ→斜め方向ハケ。内面、斜め方向ハケ。 | ナデ | 中期後半 |

第381表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(8)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 法長(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|----------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 8 | 甕 | E2 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 雲母粒 ②7.5 YR 5/3 にぶい褐色 ③口縁部破 片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.5) | 外面、ナードー櫛歯状工具による頸部に3条単位の横縞。 口縁端部は纏文を施した後、ユビオサエによって波状を呈す。 内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 9 | 甕 | 12 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 3/2 黒褐色 ③ 口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.7) | 外面、ナードー櫛歯状工具による頸部あるいは横位羽状文。 口縁端部は纏文を施し、ユビオサエによって波状を呈す。 スヌ付着。内面、ナード→口縁近くは櫛歯状工具による5条の斜走文。 | ナード 中期後半 |
| 10 | 甕 | 12 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 7/4 にぶい、黄 褐色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (1.8) | 外面、ナード。 口縁端部は強くなられ、やや突出する。 内面、ナード→口縁近くは櫛歯状工具による4条以上 の斜走文。 | ナード 中期後半 (小松式?) |
| 11 | 甕 | E2 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 7/4 にぶい、黄 褐色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.2) | 外面、ナード。口縁端部は強くなられ、やや突出する。 内面、ナード→口縁近くは櫛歯状工具による4条以上 の斜走文。 | ナード 中期後半 (小松式?) |
| 12 | 甕 | E3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 6/3 にぶい、褐 色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.1) | 外面、ナード→口縁端部に棒状工具による刻み目。 スヌ付着。内面、ナード。 | ナード 中期後半 (小松式?) |
| 13 | 甕 | 16 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 4/2 灰褐色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.5) | 外面、ナード棒状工具による斜縞文？口縁端部に刻 み目。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 14 | 甕？ | E3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 6/4 にぶい、褐 色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.0) | 外面、ナード下部に櫛歯状工具による波状支を施し た後、上部に6条以上の横位波状文。内面、ナード。 | ナード 中期後半 (小松式?) |
| 15 | 甕？ | 15 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 砂粒 ②5 YR 5/4 にぶ い赤褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.4) | 外面、ナード櫛歯状工具による3条単位の波状文を 3段以上。内面、斜め方角。 | 纏文 中期後半 |
| 16 | 壺 | D3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②2.5 Y 3/1 黒褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.0) | 外面、ナード櫛歯状工具による5条単位の波状文を 上下2段以上。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 17 | 甕 | D3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 7/3 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.2) | 外面、斜め方角細かいハケー櫛歯状工具による5条 単位の波状文を上下2段以上。内面、ナード→ラミ ガキ。 | 纏文 中期後半 |
| 18 | 甕 | 11 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 4/1 黒褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.4) | 外面、ナード上部は櫛歯状工具による波状文。下部 は斜走文。内面、斜め方角。 | ナード 中期後半 |
| 19 | 壺 | D3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 4/1 黑褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.5) | 外面、ナード櫛歯状工具による5条以上の横位粗縞 文→上部に横縞文。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 20 | 器種不明 | 5 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 4/1 黒褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.1) | 外面、ナード櫛歯状工具による横縞文を上部に施し た後、3条の斜走文。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 21 | 甕 | E2 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②5 YR 4/1 黒褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.9) | 外面、斜め方角細かいハケー櫛歯状工具による横位 羽状文。内面、ナード→ラミガキ。 | 纏文 中期後半 |
| 22 | 甕 | 15 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 2/4 灰褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.4) | 外面、斜め方角細かいハケー櫛歯状工具による3条 単位の斜縞文あるいは横位羽状文。内面、斜め方 角。 | 纏文 中期後半 |
| 23 | 甕 | E2 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 7/4 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.5) | 外面、ナード櫛歯状工具による横位羽状文。内面、 ナード。 | ナード 中期後半 |
| 24 | 壺 | 14 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 6/4 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (5.7) | 外面、ナード櫛歯状工具による横位波状文を2条以 上施し、3段以上の区画をもくる。上下段の反張は 充填する。内面、ナード。 | 纏文 中期後半 |
| 25 | 壺 | I 区床直 Y-16 住 6 区 I 層 | ①白色粒子、角閃石 ② 10 YR 6/3 にぶい、黄褐色 ③脚部上位 2/3 残 存 | 口径: - 底径: - 器高: <11.1 | 外面、斜め方角細かいタテハケーヨコヨ ミガキ棒状工具による横位平行弦3位・平行 波状間に3位の櫛歯状工具による横位櫛歯3位 横位波状文を施す。下部はナード→扇方向へラミガキ。 ナード、外面上部 黒褐色。 | 纏文 B 中期後半 |
| 26 | 壺 | 15 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 6/3 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.3) | 外面、斜め方角細かいハケー→ナード櫛歯状工具によ る粗い羽状突起文。下部に横位刺突を 施す。内面、ナード→ラミガキ。 | 纏文 中期後半 |
| 27 | 壺 | 16 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 6/3 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (7.3) | 外面、斜め方角細かいハケー→ナード櫛歯状工具によ る粗い羽状突起文。中位に櫛歯工具による横位刺突を 施す。内面、ナード→ラミガキ。 | 纏文 中期後半 |
| 28 | 甕？ | 12 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 3/2 黒褐色 ③ 脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.2) | 外面、ナード櫛歯状工具による粗い横位羽状文？下 部に刺突文。全体にスヌ付着。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 29 | 壺 | 9 区 A 层 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②10 YR 6/3 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.2) | 外面、ナード櫛歯状工具による粗い斜縞文。上部に 櫛歯工具による沈縞1条。沈縞の上に上下2段の刺 突文。内面、ナード。 | ナード 中期後半 |
| 30 | 壺 | D3 7号 | ①白色粒子、黒色粒子、 雲母粒 ②10 YR 7/4 に ぶい 黄褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.1) | 外面、纏文編文→中位に櫛歯工具による横位刺突を 施す。下部はナード→扇方向へラミガキ。内面、 ナード→ラミガキ。 | 纏文 中期後半 |
| 31 | 壺 | 11 区 I 層 | ①白色粒子、黒色粒子、 ②7.5 YR 7/4 にぶい、黄 褐色 ③脚部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (2.9) | 外面、ナード棒状工具による横位波状3条以上。内面、 ナード。 | ナード 中期後半 |

第382表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(9)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①始土 ②色調 ③残存 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|----------|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------|----|
| 32 | 壺 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4に似る黄 底径: — 縦高: (3.9) | 外面、ナデー棒状工具による横位沈線3条以上。内面、ナデー。 ナデー。 | 中期後半 | |
| 33 | 壺 | E3 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4に似る黄 底径: — 縦高: (3.9) | 外面、ナデー棒状工具による3条以上の横位沈線を 等間隔に施す。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 34 | 甕? | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 3/1黒褐色 底径: — 縦高: (2.6) | 外面、ナデー棒状工具によるヨコの字文あるいは幾何 文を3条以上重ねる。画面の中心は横位直線文で 構成する。内面、ナデー。 | 中期 | |
| 35 | 壺 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子、 高母板 ②10YR 3/1 黒 褐色 底径: — 縦高: (4.2) | 外面、繩文施文→棒状工具による横位沈線3段以上。 各段間に波状文1条。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 36 | 壺 | 3区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 4/6に似る 色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (8.4) | 外面、繩文施文→上部棒状工具による横位沈線2 条。沈線間に刺突文で充満。沈線上部は重ね山形文。 ナデー。 | 中期後半 | |
| 37 | 壺 | E2 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 6/4に似る 色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (2.8) | 外面、繩文施文→下部棒状工具による横位沈線1条。 棒状工具による重ね山形文5段以上。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 38 | 壺 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②5YR 6/6 橙色 ③脚 部破片 底径: (3.4) | 外面、繩文施文→棒状工具による横位沈線2段以上。 無文部と繩文を残す段を交互に配置する。内面、廢 底径: — 縦高: (2.3) | 中期後半 | |
| 39 | 壺 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 4/2灰黒褐色 底径: — 縦高: (2.1) | 外面、繩文施文→棒状工具による横位沈線3条。下 部に重ね山形文。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 40 | 器種不明 | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 6/3に似る 黄色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (3.1) | 外面、繩文施文→棒状工具による横位沈線。上部に 円形あるいは楕円形の沈線区画。内面、ハケ。 | 中期後半 | |
| 41 | 壺 | E2 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4に似る黄 底径: — 縦高: (2.3) | 外面、斜め方向細かいハケー部に繩文施文。棒状 工具による横位沈線→上部に山形文。内面、ハケ。 | 中期後半 | |
| 42 | 甕? | 5区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 砂礫 ②10YR 6/4に似 る灰褐色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (6.3) | 外面、斜め方向細かいハケー部は繩状工具によ る横位直線文→中位に棒状工具による刺突文。内面、 斜め方向細かいハケー。 | 中期後半 | |
| 43 | 壺 | 10区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 6/4に似る黄 底径: — 縦高: (3.4) | 外面、ナデー部に棒状工具による2条以上の横位 沈線。直下に刺突文を密に施す。内面、ナデー→ハ ミガキ。 | 中期後半 | |
| 44 | 甕? | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 4/1褐色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (4.5) | 外面、ナデー棒状工具による花巻にて三角形状に区 画。内側に刺突文を充填する。内面、ナデー。 | 中期 | |
| 45 | 壺 | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 5/3に似る黄 底径: — 縦高: (4.8) | 外面、斜め方向細かいハケー。上部にスス付着。内面、 ナデー。 | 中期後半 | |
| 46 | 甕? | P-1 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 4/2に似る 色 ③底部破片 底径: — 縦高: (3.2) | 外面、ナデー→ハラミガキ。内面、ハケ。 | 中期後半 | |
| 47 | 甕? | E2 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 7/4に似る 色 ③底部破片 底径: — 縦高: (2.3) | 外面、ナデー→ハラミガキ。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 48 | 甕? | 3区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5YR 7/3に似る 色 ③底部破片 底径: — 縦高: (6.8) | 外面、ナデー→縱方向細かいハケー。内面、ナデー→斜 め方向ハラミガキ。 | 中期後半 | |
| 49 | 甕? | E2 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/3に似る黄 底径: — 縦高: (5.7) | 外面、斜め方向細かいハケー。内面、ナデー。 | 中期後半 (小松式?) | |
| 50 | 高坏? | 2区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 5/2灰黒褐色 ③脚部破片 底径: — 縦高: (2.7) | 外面、ナデー→ハラミガキ。内面、ナデー。 | 中期後半 | |

Y-16 号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①始土 ②色調 ③残存 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|----------|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|
| 1 | 甕 | P-2 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/3に似る黄 底径: — 縦高: (19.4) 1/3 残存 | 外側、口端部單筋L型繩文施文。口縁部へ頸部ヨコナ デ。頸部ナメナメテー~4~6条1枚の横位沈線工具によ る横位羽状文→中位棒状工具による刺突列点文。頸 部下半粗いヨコハケー細かいヨコハケーヨコナデ。内面、 口縁部へ胸部ヨコナデ。粗いヨコハケー下半細か いヨコハケー。外側頸部中位二次被覆による変化。頸部 下半スヌおよび脚部化らしき黒色付着物あり。内面頸 部に焼成時の痕跡。 | 中期後半 | |
| 2 | 壺 | OS 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 4/2灰黒褐色 ③口縁~脚部破片 底径: — 縦高: (3.6) | 外側、ナデー→頸部に棒状工具による横位沈線2条→沈 線間に竹管文を密に施す。頸部以下は連弧文を3条重 ねる。内面、ナデー。 | 中期後半 | |
| 3 | 甕? | OS 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 7/4に似る黄 底径: — 縦高: (4.3) | 外側、ナデー。中位に横位沈線工具による横位列点文。列 点文以下は横位羽状文。口縁部に繩文施文。内面、 ナデー。 | 中期後半 | |
| 4 | 甕 | OS 7' 5" | ①白色粒子、黒色粒子 ②10YR 3/1黒褐色 ③口縁部破片 底径: — 縦高: (2.6) | 外側、横方向ナデー。口縁部に繩文施文。内面、ナデー。 | 中期後半 | |

第383表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(10)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①輪土 ②色調 ③残存 床底 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|------|-------|-----------------------------------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|
| 5 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (8.7) | 外面、ヘラケツリ→ナード標痕状工具による横位羽状文。内面、ヘラケツリ。 | ナデ | 中期後半 |
| 6 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 4/1 褐灰色 褐色 | 口径: — 高さ: (5.3) | 外面、ナード標痕状工具による横位羽状文。スヌ付着。ナード→ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 7 | 甕 | 6区1層 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (4.9) | 外面、ナード標痕状工具による横位羽状文。内面、斜め方向ナード。 | ナデ | 中期後半 |
| 8 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 YR 4/2 灰黄色 褐色 | 口径: — 高さ: (3.9) | 外面、ナード標痕状工具による3条単位の横位波状→同工具による縦位短線文。内面、ナード→ヘラミガキ。 | ナデ | 中期後半 |
| 9 | 甕? | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.6) | 外面、ナード標痕状工具による縦位羽状文→中位に同工具による縦位短線文をめぐらせる。内面、ナード | ナデ | 中期後半 |
| 10 | 甕? | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.8) | 外面、調文施文→下部に標痕状工具による4条以上單位の横位列点文。内面、ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 11 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (5.1) | 外面、斜め方向細かいハゲ→上部に標痕状工具による配置状文。最大径付近はヘラ形状で横位列点文。 | 細かいハゲ | 中期後半 |
| 12 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (4.3) | 外面部、調文施文→棒状工具による2条の横位波痕を施し3条以上に区画。上部は調文を残し、内側に方形区画を細き縦線文で充填。下段は標痕状工具による6条以上の横位線文。下段は調文をすり消す。内面、斜め方向ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 13 | 器種不明 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.6) | 外面、ナード棒状工具にて山形文を衝に重ねる。内面、ナード。 | ナデ | 中期後半 |
| 14 | 甕? | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 YR 4/2 灰黄色 褐色 | 口径: — 高さ: (3.6) | 外面、ナード棒状工具による長方形あるいは幾何学文。 | ナデ | 中期 |
| 15 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.1) | 外面、ナード上部に棒状工具による横位沈線2条。沈線に刺突文を密に施す。内面、ナード | ナデ | 中期後半 |
| 16 | 甕 | 床底 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (4.7) | 外面、調文施文→ナード 上部に棒状工具による穎やかで連弧文1条。連弧文より上は調文を残す。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期後半 |
| 17 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (8.6) | 外面、調文施文→上部に棒状工具による横位沈線1条。沈線を1条施す。3段に区画。下部は調文を残す。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期後半 |
| 18 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (4.4) | 外面、調文施文→棒状工具による横位沈線を3条施す。4段以上に区画。調文と無文帶を交互に配置する。内面、斜め方向ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 19 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.6) | 外面、調文施文→下部に棒状工具による4条以上の横位波痕を施す→沈線区画内はヘラミガキ。内面、斜め方向ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 20 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/2 灰黃褐色 褐色 | 口径: — 高さ: (3.9) | 外面、調文施文→ナード 上部に棒状工具による横位沈線を1条。その下に連弧文5条の平行沈線。下部は調文を残す。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期後半 |
| 21 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 5/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (2.7) | 外面、調文施文→上部に棒状工具にて横位沈線4条以降、調文区画を残す下部に1条を施す。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期後半 |
| 22 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 7/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.9) | 外面、調文施文→ナード 棒状工具による3条以上の横位沈線。調文と無文帶を交互に配置する。内面、ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 23 | 甕? | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (2.6) | 外面、調文施文→ナード 上部に棒状工具による横位沈線1条。その下に連弧文2条以上施す。内面、ナード。 | 調文 | 中期後半 |
| 24 | 器種不明 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/3 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (3.9) | 外面、調文施文→棒状工具にて長方形と、内側に横位沈線を充填する。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期 |
| 25 | 甕 | 床底 | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 YR 5/8 明赤褐色 褐色 | 口径: — 高さ: (4.2) | 外面、調文施文→上位に棒状工具による横位沈線。中位に回字文。内面、磨滅が激しく不明。 | 調文 | 中期 |
| 26 | 甕? | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 5/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (1.7) | 外面、ナード棒状工具にて横長の回字文を並列する。 | ナデ | 中期 |
| 27 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (4.1) | 外面、調文施文→中位に沈線を貼り付け、ヘラ状工具で削り目→中央に横位沈線。沈線より上は波状文? 下は棒状工具による横位波痕と、標痕状工具による横線。 | 細かいハゲ | 中期後半 |
| 28 | 甕 | 05717 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/2 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (8.1) | 外面、斜め方向細かいハゲ。内面、ナード。 | ナデ | 中期後半 |
| 29 | 甕 | 床底 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄 褐色 | 口径: — 高さ: (6.2) | 外面、ナード。内面、ナード。 | ナデ | 中期後半 |

第384表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(11)

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①始土 ②色調 ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|--------|---------|-------------------------------------|-------------------|-------------------------------|----|------|
| 30 | 甕? | F-3 | ①白色粒子、黒色粒子、雲母粒 ②10 YR 3/1 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (8.7) | 外面、ナデ→ヘラミガキ。内面、ナデ→上部は斜め方 向ハケ。 | ナデ | 中期後半 |
| 31 | 器種不明未底 | D5 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (1.2) | 外面、ナデ。底面に布目压痕。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 32 | 高坏 | D5 F'3? | ①白色粒子、角閃石、石英 ②2.5 Y 6/3 にぶい黄色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: < (3.5) | 外面、ヨコミガキ。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |

第385表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代住居址出土遺物観察表(12)

D-2号土坑

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①始土 ②色調 ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|--------|--------------------------------------|-----------------|--------------------------------------------------------|------------|------|
| 1 | 甕 | D-2 土坑 | ①白色粒子、黒色粒子、雲母粒 ②10 YR 4/1 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (6.3) | 外面、ナデ→櫛状工具による縦位羽状文。内面、斜め方向ハナナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 2 | 甕 | D-2 土坑 | ①白色粒子、石英、角閃石 ②10 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: - | 外面、単節 R.L. 漢文施文→垂下文と横位单沈綫→垂下文内に 7 単位の櫛状工具による縦位施文。内面ハケ。 | 単節 R.L. 漢文 | 中期後半 |
| 3 | 甕? | D-2 土坑 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (4.3) | 外面、漢文施文→棒状工具による重ねコの字文あるいは回字文。内面、ナデ。 | 漢文 | 中期後半 |

第386表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代土坑出土遺物観察表(1)

B区グリッド

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①始土 ②色調 ③残存 | 法量 (cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|---------|------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------|
| 1 | 甕 | B5 F'3? | ①石英、白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: (24.8) 高さ: - | 外面、口縁部板状工具によるキザミ。口縁部ヨコナギ。底部ヨコナメナメハケ。内面、口縁部ヨコナメナメハケ→ヨコミガキ。底部ナメハケ→タテヨコミガキ。外面部口縁部にスヌ付置。 | ナデ | 中期後半(小松系?) |
| 2 | 甕 | B3 F'3? | ①石英、白色粒子等縦位施文 ②10 YR 7/4 にぶい黄褐色 ③口縁~底部破片 | 口径: (20.1) 高さ: < (11.4) | 外面、口縁部板状工具によるキザミ。底部→胸部ナメナメハケ→脚部横位平行沈綫 11 単位以上→縦位平行沈綫 2 単位で区画。内面、摩耗激しく観察不可。外面部縁部に放物形化も。また青付け置物あり。 | ナデ | 中期後半 |
| 3 | 甕 | F2 F'3? | ①白色粒子を含む ②10 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: - | 外面、ヨコナメハケ。内面、ヨコカゲ→3~4 単位の櫛状工具による斜行短綫文 2 段。 | ナデ | 中期後半(小松系?) |
| 4 | 甕 | C0 F'3? | ①黒色粒子、白色粒子、石英 ②10 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: - | 外面、脚部 6~7 単位の櫛状工具による横位櫛彌文 2 段→下から上の順に丸棒状工具による平行沈綫 6~7 単位と櫛状工具の刺突列点文。内面、上部ヨコナメ→上半ヨコサエ。外面部沈綫文間に赤彩焼付。 | ナデ | 中期後半 |
| 5 | 甕 | F7 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子、雲母粒 ②7.5 YR 4/2 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (2.9) | 外面、横方向ナデ。内面、横方向ヘラミガキ→口縁附近に 5 単位の櫛状工具による斜走文。 | ナデ | 中期後半 |
| 6 | 甕 | D1 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (6.1) | 外面、斜め方向櫛彌文を施す。下部に横位点文。内面、ヨコハケ | ヨコハケ | 中期後半 |
| 7 | 甕 | C0 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 6/3 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (5.6) | 外面、ナデ→中位に棒状工具による横位沈綫を 2 条 施し、その間を 4 单位の櫛状工具による横位点文を施すことと櫛位羽状文を形成する。内面、ナデ。 | ナデ | 中期後半 |
| 8 | 甕 | H1 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子 ②7.5 YR 6/4 にぶい黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (4.1) | 外面、漢文施文。上部に棒状工具による横位沈綫 1 条、中位に波状文 1 条を施す。内面、磨滅が激しく不明。 | 漢文 | 中期後半 |
| 9 | 甕 | C0 F'3? | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 5/2 黄褐色 ③底部破片 | 口径: - 高さ: (3.1) | 外面、漢文施文→ナデ→ヘラミガキ。中位に棒状工具による平行沈綫 2 条。沈綫間に縫文を残す。下部に山形あるいは波状文 1 条。内面、ナデ。 | 漢文 | 中期後半 |

第387表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代B区グリッド出土遺物観察表(1)

B区一括

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 地文 | 備考 |
|----|----|-----------------|----------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------------------|--------|------|
| 1 | 甕 | B区 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/2 黄褐色 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.7) | 外面、斜め方向ハケ。頭部以下は櫛状工具による横打テクスチャ。口縁部に縞文施文。内面、斜め方向ハケ。 | | 中期後半 |
| 2 | 甕 | B区北側 試掘1ショット | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 4/1 黄褐色 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (5.9) | 外面、斜め方向細かいハケ→櫛状工具による横打テクスチャ。内面、斜め方向ハケ。 | | 中期後半 |
| 3 | 甕 | B区北側 試掘1ショット | ①白色粒子、黒色粒子 ②2.5 YR 4/1 黄褐色 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.3) | 外面、ナード棒状工具による重ねコの字文、内面、ナデ。ナデ。 | | 中期後半 |
| 4 | 甕 | B区北側 試掘1ショット | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 8/3 黄褐色 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.8) | 外面、斜め方向細かいハケ。下部に櫛状工具による横打テクスチャ。 | | 中期後半 |
| 5 | 甕? | B区 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 ぶい黄 ③底部破片 | 口径: - 底径: 6.0 器高: (3.0) | 外面、縦方向細かいハケ。内面、ナデ。 | 縦かいいハケ | 中期後半 |

第388表 二軒在家原田頭遺跡弥生時代B区一括遺物観察表(1)

J-1号住居址

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①焼成 ②胎土 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 備考 |
|----|----|------|----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------|-------|
| 1 | 深鉢 | 4区1層 | ①普通 ②砂粒、チャート、植物繊維混入 ③口縁部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.3) | やや外反する平口鉢か。単節LRR縞文を施す。 | 有尾・黒底 |
| 2 | 深鉢 | 2区1層 | ①普通 ②砂粒、白色粘土、植物繊維混入 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (4.0) | 無筋縞文を施す。 | 有尾・黒底 |
| 3 | 深鉢 | 2区1層 | ①普通 ②砂粒、植物繊維混入 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (6.1) | 羽状縞文(単節LRRとRLか)を施す。 | 有尾・黒底 |
| 4 | 深鉢 | 3区1層 | ①普通 ②砂粒、植物繊維混入 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (6.3) | 胴部上位の傾斜変換点付近と想定される。平底竹管状工具による横打線にて区画した後、沈線下位に羽状縞文を施す。 | 有尾・黒底 |
| 5 | 深鉢 | 3区1層 | ①普通 ②砂粒、雲母、植物繊維混入 ③胴部破片 | 口径: - 底径: - 器高: (3.4) | 平底竹管状工具押し引きによる糸形文にて区画する。三角形モチーフか。 | 有尾・黒底 |

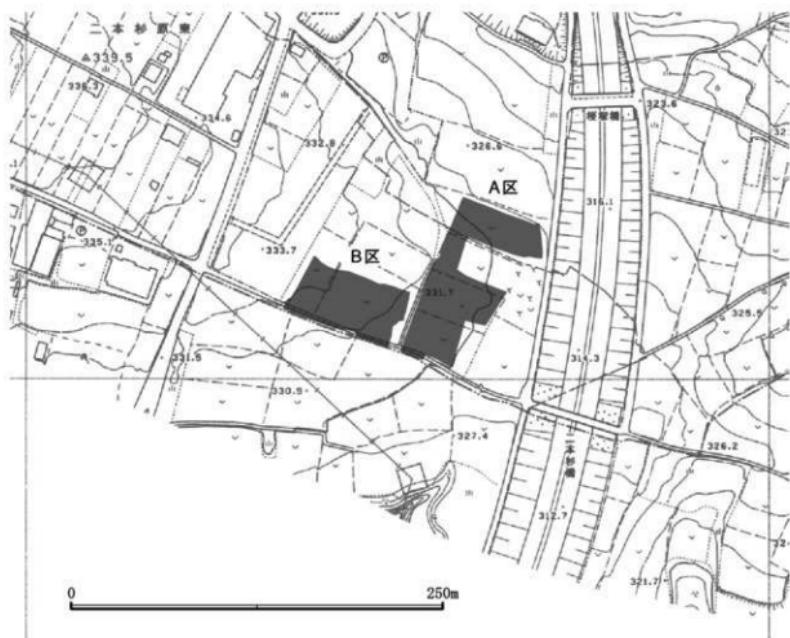
第389表 二軒在家原田頭遺跡縄文時代住居址出土遺物観察表(1)

M-1号溝

| 番号 | 器種 | 出土位置 | ①胎土 ②色調 ③残存 | 法量(cm) | 特徴 | 備考 |
|----|-------------|------|--------------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------------|-------|
| 1 | 須恵器 高台付碗 | 覆土中 | ①白色粒子、黒色粒子 ②10 YR 7/4 ぶい黄 ③口縁部～底部1/2 | 口径: 13.4 底径: 7.2 器高: 6.4 | 焼化粧焼成。内面、黒色処理を施した後、ヨコ・斜め方向のミガキ。底部に短い高台を付す。 | 9世紀後半 |

第390表 二軒在家原田頭遺跡古代溝出土遺物観察表(1)

行田二本杉原東遺跡



VII 行田二本杉原東遺跡

1 遺跡の概要

行田二本杉原東遺跡は妙義山から延びる横野台地の南端に位置する。遺跡地周辺の標高は約328～333mで緩い南傾斜をもつ平坦面だが、南側は急峻な段丘崖となっている。なお、崖下を流れる高田川との比高差は約80mである。今回の調査では、A・Bの2区において古代の溝1条が検出された。この溝は覆土や断面の状況から、隣接する二軒在家原田頭遺跡をはじめとする西横野中部地区遺跡群の調査で確認した区画溝と同一のものと判断される。

また、本遺跡の東には縄文時代前期の住居址2棟と古墳時代初頭の住居址3棟を検出した行田二本杉遺跡が隣接する。本遺跡においても当該時期の遺構検出が想定されたが、古代溝以外の遺構の検出には至らなかった。ただし、希薄ではあるが調査区の南側を中心に縄文時代遺物の包含層も確認され、前期の織維土器や中期後葉加曾利E式期の土器片などが採集されている。

(1) 古代の遺構

1. 溝跡

古代の溝が1条、富岡市との境界に沿うように検出された（行田二本杉原東M-1号溝）。

この溝は前述のとおり、台地上の過去の調査で確認された区画溝の延長にあたる。覆土が自然堆積し、さらに上層にA s-Bが積もる状況もよく似ており、古代以降に掘削されたと判断される。溝の断面を見ると、上からやや緩傾斜に掘りこんで椀状を呈す部分と、そこからさらに角度を変えやや急傾斜に掘り下げる、いわゆる二段掘りの形状をなす部分の2種類が確認できる。いずれの形状も長い距離続くもののではないため、これらは掘削時における作業工程単位や、現状における溝上部表土の残存状況の違いによるものと推定される。溝の堀底には多数の小ピットが確認されたがいずれも浅く、また規則的な配列が復元できるものはなかった。

本遺跡では部分的ではあるが、溝北側の際（=旧表土の平坦面から溝内部へ向かって傾斜が変わる付近）において、自然堆積の黒色土の上にローム混土が山状に重なる状況が確認された。これは、溝を掘削する過程で排出されたローム土を何らかの目的をもって、溝と並行する形に溝の際に置いた結果と考えられる。調査時にはかなり削平されていたものの、このローム盛土は調査区の複数の地点で確認されたことから、本来は全体、あるいは部分的に溝の北側に土壠状の高まりが設けられていたものと推定される。

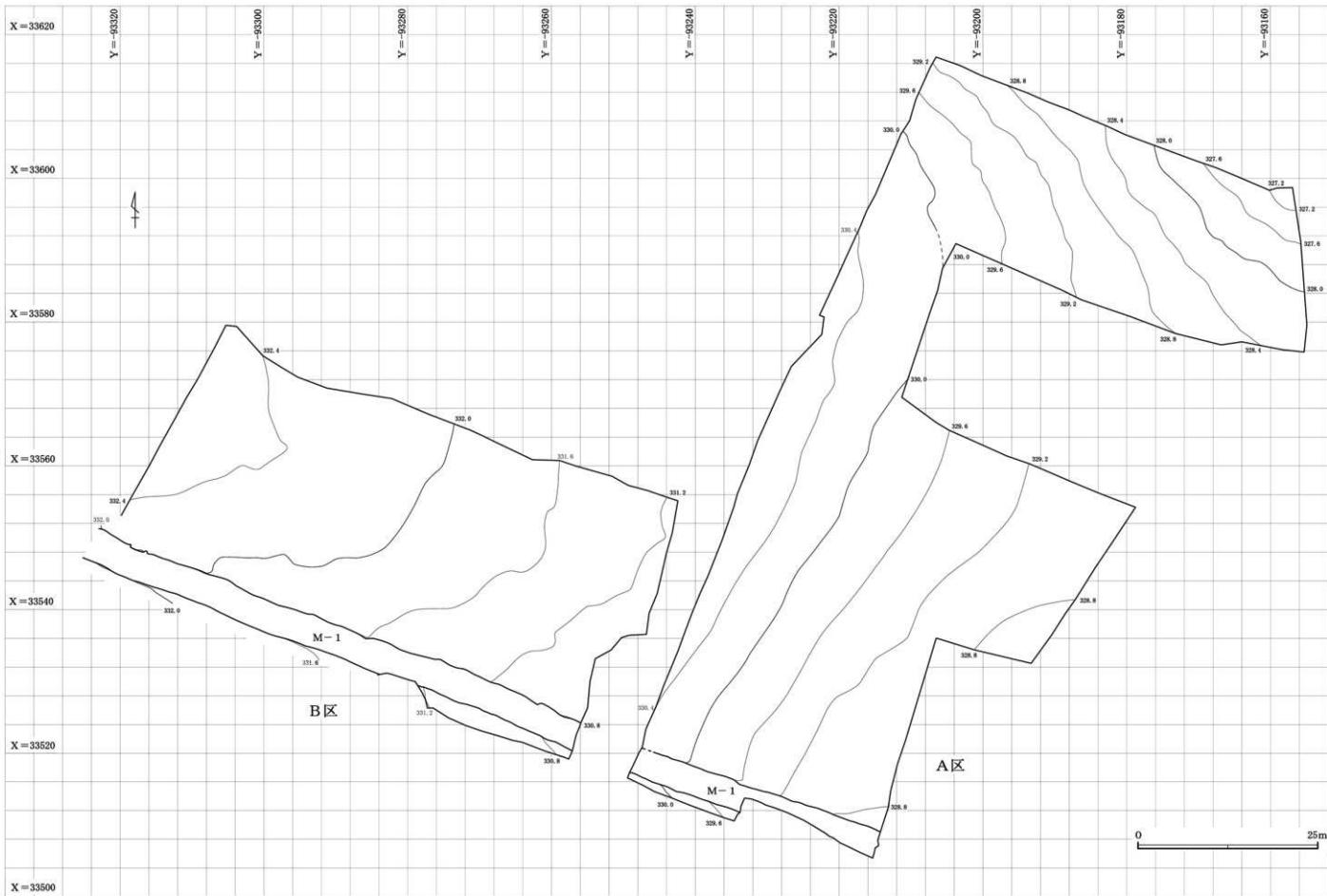
なお、人見三本松遺跡M-9号溝（台地北縁の区画溝）の「内側」でも、隣接する道路状遺構の覆土中にローム混土が確認されている。あわせて土壠状遺構の存在を示唆するものであろう。

(2) 遺物の概要

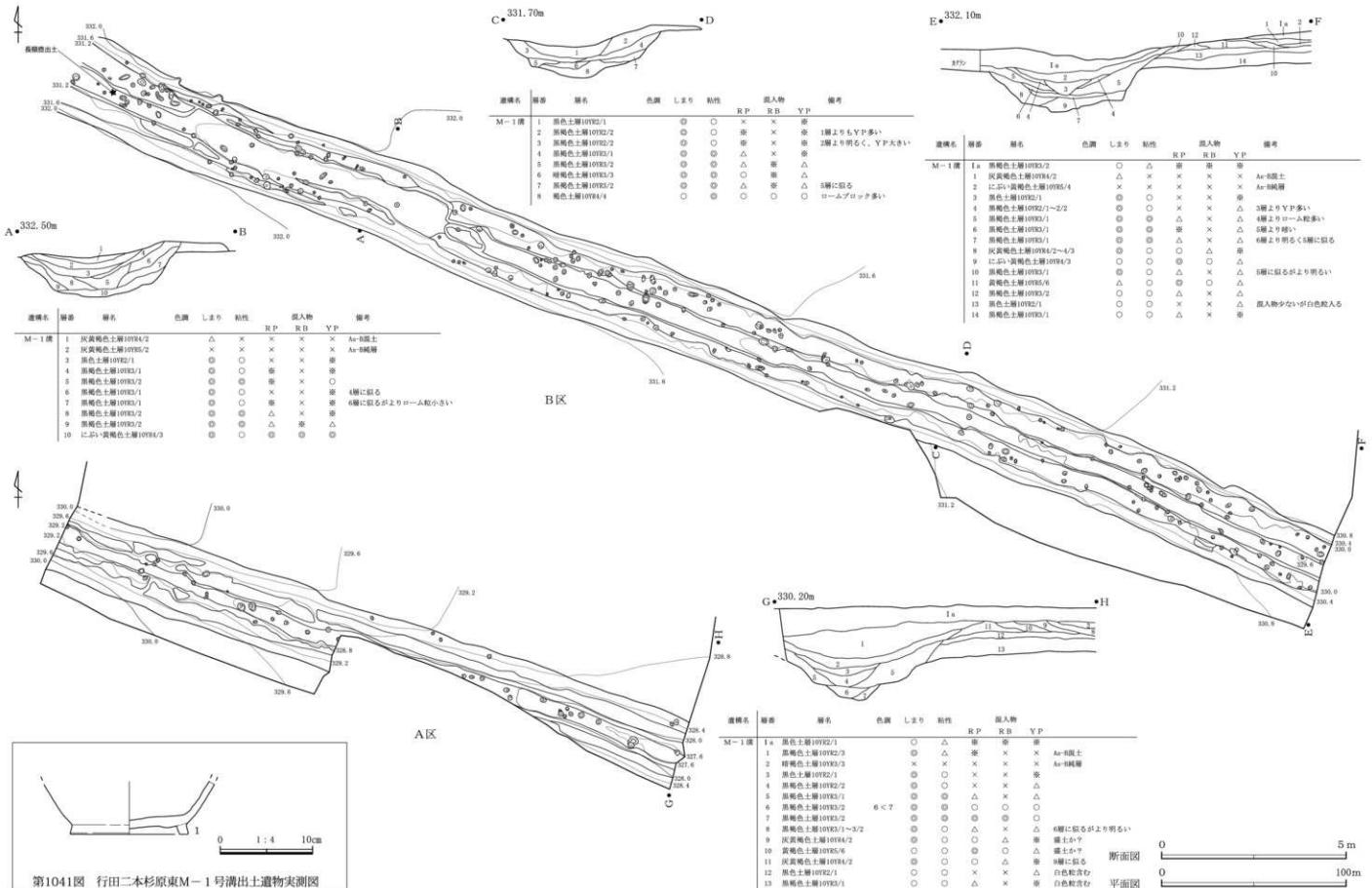
1. 古代の土器

B区M-1号溝覆土中、A s-B下の黒色土層中から長頸壺の底部が出土した（1）。高台の形状から9世紀後半ごろの所産と考えられる。それ以外の遺物については縄文時代前期～中期の土器片や石器が採集されているが、いずれも小片で図化には至らなかった。

(3) 遺物・遺構の実測図

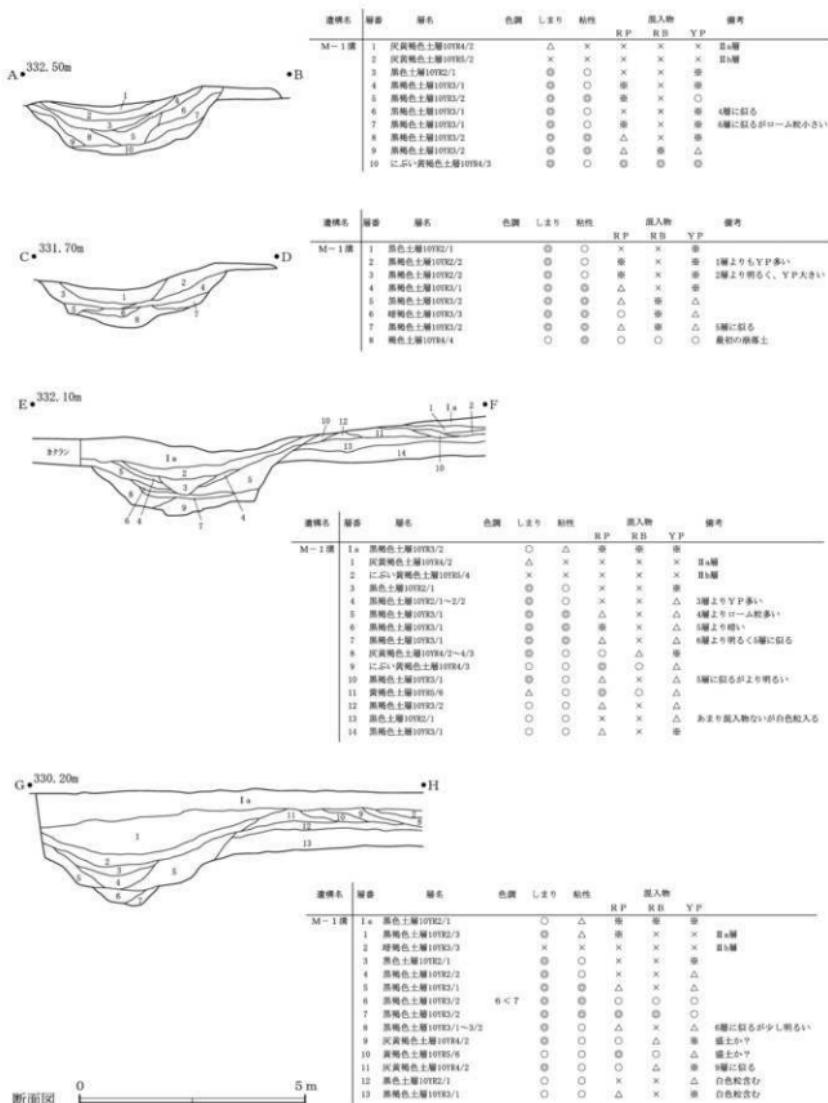


第1039図 行田二本杉原東遺跡 全体図



第1041図 行田二木本城原東M-1号溝出土遺物実測図

第1040図 M-1号溝 実測図



第1042図 M-1号溝A・B区 断面実測図および土層注記

VIII 成果と課題

7年間にわたり、9遺跡で合計10万m²以上という広大な範囲を調査した西横野中部地区遺跡群では縄文から弥生、古墳、古代奈良平安時代に至るまで数多くの遺構が確認された。縄文時代では前期中葉～後葉（有尾・黒浜～諸磯式期）、中期後葉（加曾利E I～IV式期）、後期前葉（堀之内式期）、弥生時代では中期後半（栗林1～2式期）、そして古墳時代前期を中心とした時期の集落が展開していることが明らかになった。また、古代においては横野台地上で以前から発見が続いている、牧関連区画溝の延長も確認された。本稿ではそれらの調査成果を総括しつつ、若干のまとめを行うこととする。

1 縄文時代

（1）縄文時代の調査成果

前期中葉～後葉の住居址は、二軒在家原田・原田II遺跡を中心に140棟近くからなる大規模集落が確認されている。同一台地上では東約4.5kmに位置する中野谷松原遺跡、また西約2.3kmの行田大道北遺跡などでも同様の展開がみられる。この時期の住居址は壁周溝や主柱穴が幾つも確認されることから、拡張や建て替えを繰り返しながら長期間集落が継続的に営まれていたと推定される。

中野谷松原遺跡では、特に有尾・黒浜式期の住居址は遺跡地北西方向にある浅間山を指向して「列状集落」を形成するとの指摘がある¹（大工原1996・1998など）。本遺跡の場合、当該期の住居址は西または北を向くタイプがあり、前者は列状集落の向きとほぼ合致することから、やはり浅間山（最高峰2,568m）を指向していると考えられる。一方、後者は列状集落の向きと90度近く主軸を違えている。仮に、浅間山のようなランドマークをその方向に求めると想定した場合、延長線上には榛名山（最高峰1,449m）が位置している。ただし、遺跡地から独立峰のように見える浅間山に対して、榛名山は山々が連なる「山系」状を呈しており指向対象としての「見え方」は大きく異なる。

前述のとおり、本遺跡における有尾・黒浜式期の住居址は標高の高い所・低い所の2地点にまとまって分布している。どちらも列状集落としての指向性は同様だが、高所の一群は住居址の主軸が北向き、低所の一群は主軸西向きの住居が多い傾向がある。この違いが住居の時期差、あるいはほかの要因によるものかについてはなお検討を要する。

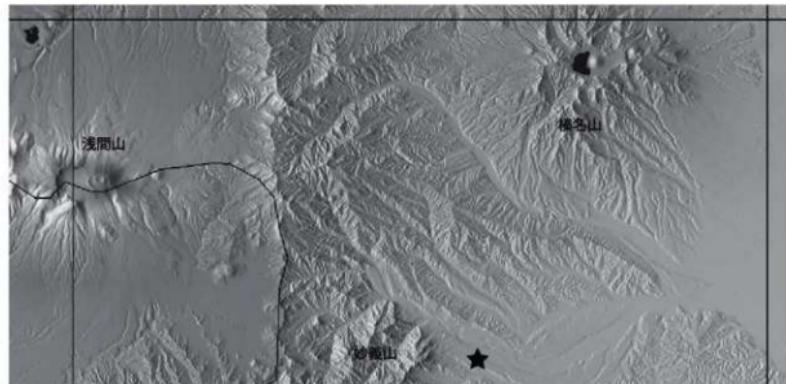
前期後葉は諸磯b～c式期の住居址が中心となる。列状に並んでいた前期中葉の住居群と比べると、その分布は台地の南北縁から中央へ侵入する様子がみられる。いわば、中期における環状集落形成へ至る過渡期ともいえる段階であり、この様子も中野谷松原遺跡などで確認されている²。住居の平面形態は長方形から隅丸方形・梢円形へ変化する。また、原田C区J-21号住（直径15m以上）のような大型住居が出現するのもこの時期である³。この背景には、例えば一つの住居に属する「家族」の多人数化や、生活の多様化に伴う建物種類の増加などが推測される。

なお、調査を通して掘立柱建物と思われる規則的な柱穴配列などは確認できなかったが、近隣の遺跡では検出例があることから実際は存在していた可能性はある。土坑墓についても未確認であるが、遺跡全体を通して块状耳飾が数点出土している。

中期後葉の住居址も前期と同様、二軒在家原田・原田II遺跡を中心に展開する。詳細な土器型式の分

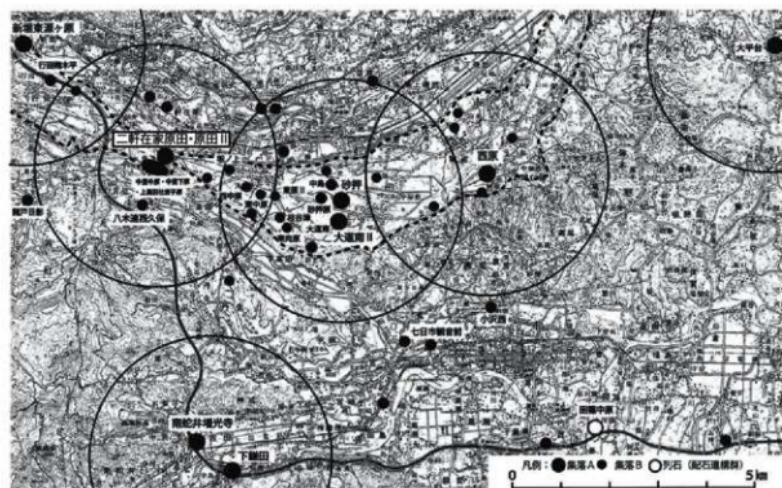
析まで行えなかったため、どの段階から集落形成が始まるのか明らかにできなかったが、少なくとも加曾利 E I 式期には台地の縁辺からやや離れ中央部近くに選地する住居が出現する。E II から III 式期には住居数が急増し、環状集落の最盛期をむかえる。

近隣の主な環状集落としては本遺跡の東約 4 km にある砂押遺跡、また西約 3.6 km に位置する新堀東源ヶ原遺跡が当該期の拠点遺跡として挙げられる。両遺跡とも、環状に展開する住居の内側に多数の



第 1043 図 二軒在家原田・原田 II 遺跡（★）と浅間山・榛名山・妙義山の位置関係

（カシミール 3 D を使用して作成。緯線・経線（黒線）は 30 分間隔）



第 1044 図 横野台地周辺の縄文時代中期後葉の遺跡分布（上下の破線で囲まれた内側が台地上面）

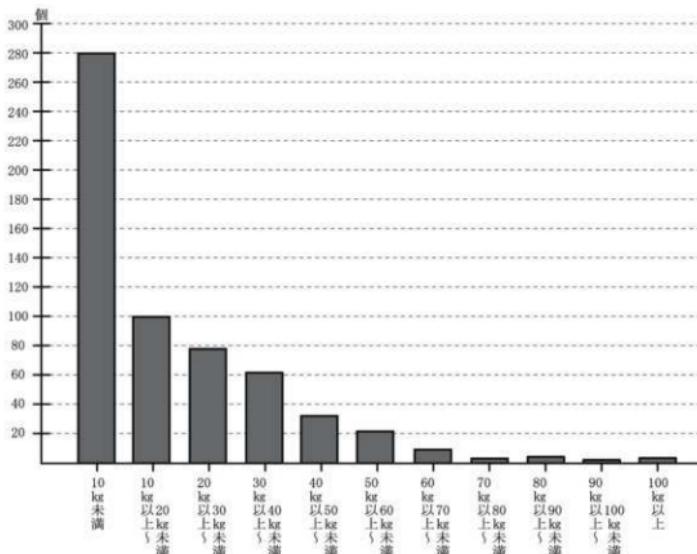
（井上 2014 報告書 873 頁第 5 図を引用、一部改変）

土坑が配置され、いずれも最盛期は加曾利 E II～III式期と考えられる。また曾利式や唐草文系、大木式系など異系統の土器が多く共伴する点も本遺跡と共通する。一方で、砂押・新堀の両遺跡においては中期後葉の環状集落形成以前に中期前葉（阿玉台式・勝坂式期）の住居址が確認されているが、本遺跡では少量の遺物が検出されたのみで明確な遺構はみられないといった相違もみられる。

次に、環状集落周辺における小規模集落の分布に目を向けると、砂押遺跡周辺にはこれら集落が、あたかも衛星関係にあるように群立⁴（井上 2014）、新堀東源ヶ原遺跡でも同様である。二軒在家原田・原田 II 遺跡の周辺には人見西原・坂ノ上遺跡で数棟程度が確認されている以外、目立った小集落はみられないが、これは遺跡周辺の台地幅が極端に狭いという地形的な要因に拘る可能性がある⁵。

本遺跡を中心とした中期集落の動向をまとめると、まず加曾利 E I 式期のうちに、後に環状集落が形成される台地中央に近い平坦地に住居がつくられはじめる。E II～III式期に急増した住居はやがて環状に集中し、拡張や建て替えを繰り返しながら長期間継続する大集落となる。墓坑の存在は明らかでないが、「環」内側の土坑群がこれに相当する可能性がある。破砕土器が集中する、いわゆる廃棄場所と考えられる遺構は住居址群の中に多くみられる。E IV式期以降は住居数も減少し、環状の集落形態が維持されなくなる。環状集落の南半に相当する、台地中央からやや南側に選地する傾向がみられ、同時に本集落から離れた場所に単独住居または小集落をつくる動きがみられる。

この一連の様相は、多少の時期の前後はあるものの台地上の環状集落および周辺小集落において凡そ共通した動向として確認でき先行研究でも触れられているとおり、拠点的集落は互いに一定の「領域」を有し、その中に小規模集落も含めた「集落群」を形成するものと想定される。



第 1045 図 二軒在家原田 II 遺跡 1 号列石 碑および石器の重量分布

中期後葉～末葉（加曾利 E III～IV式期）には住居の一部に敷石を配し、さらに小規模な張出部を付設する、いわゆる柄鏡形敷石住居が出現する。後期初頭以降の称名寺式～堀之内式期の住居は、平面柄鏡形が主体となり、徐々に張出部の伸長化がみられる。また、その分布は中期の環状集落から離れ遺跡地の南や西端に集中する。本遺跡で確認された住居址は凡そ堀之内式期を下限とする。後続する加曾利 B 式期の遺物も遺跡西側を中心に認められるが、その多くは後述する列石や配石墓の周辺に集中する。

列石は環状集落の北から西側にかけて「環」を構成する住居群と、内側の空白地の境界周辺に弧状に広がり、堀之内式期の所産と考えられる。遺構を構成する石材の大部分は在地河川から採集できる安山岩系のやや扁平な河原石であるが、片岩や凝灰岩などもわずかにみられる。重量 10 kg 未満の礫・石器が多いが、200 kg 近いと思われる大型石材の使用も認められた。なお、列石中には石材を弧状や直線状、楕円状などに配置した幾つかのまとまり（ユニット）が確認されたが、当該時期の住居址や土坑、墓などが近接して設けられるような状況はみられなかった。

配石墓は二軒在家原田 II A 区西側と H 区で検出された。立地と主軸方向から大きく 3 グループに分類したが、帰属時期はいずれも堀之内式～加曾利 B I 式期と考えられ、列石や住居址とほぼ重なることから三者の直接的な関係が想定される。A 区の配石墓（1 号配石墓群）は遺体の推定頭部位置に鉢などを置く、いわゆる「鉢被り」埋葬が行われた状況がみられることから、浅間山方向（北西）に頭を向けていたものと考えられる。H 区の配石墓は近接した位置に多数検出されており、主軸方向から 2 号・3 号配石墓群に分類した。推定頭位は北～やや北東向きと考えられ 1 号配石墓群とは異なるが、それぞれの配石墓群の列としての並び方に注目すると 1 号配石墓群とほぼ同じであるとみられる。

（壁・菅原）

註 1 大工原豊他 1996『中野谷松原遺跡－縄文時代遺構編－』群馬県安中市教育委員会、同 1998『中野谷松原遺跡－縄文時代遺物本文編一』同。

註 2 横野台地周辺における有尾、諸磯 b 式期遺跡のセトルメント・パターンは調査者大工原により上記報告書において詳述されている。本遺跡も大体では中野谷松原遺跡や行田大道北遺跡と同様の規模・性格と考えられるが、土壤墓や掘立柱建物址が未確認である点など若干異なる印象も受ける。これら 3 つの遺跡が隣接していたとすれば、両遺跡の中間に位置にある本遺跡はまた異なる性格だったのかもしれない。

註 3 本住居は外に埋葬溝が巡ることから 1 回の拡張または 2 棟の重複住居址と考えた。より多数回の重複が行われたとする見方もあるが、支柱穴の配置や深さ、平坦な床面、炉や燒土が未確認、規模の割に遺物量が少ないといった特徴から、最大径 = 1 棟の住居の端であり、さらには「集会施設」など通常とは異なる目的で使われた建物の可能性もあると考えている。

註 4 井上慎也他 2014『西横野東部地区遺跡群』群馬県安中市教育委員会。報告の中で調査者井上は、「数時期にわたって多数の住居、土坑等の遺構で構成する地域抱合の様相をもつ」ものを A 類（大規模集落）、「住居等の遺構が少なく、時期が限定される小単位の様相をもつ」ものを B 類（小規模集落）と分類し、横野台地の中期後葉集落の展開について述べている。

註 5 本稿の編集中、富岡市教育委員会の水田雅美氏より、氏が整理作業中の中里中原遺跡・中里下原遺跡の概要を御教示いただいた。両遺跡とも熊野沢川を挟んで本遺跡の対岸に位置している（第 1 分冊・第 4 図参照）。中里中原遺跡は、輪郭のやや不明瞭な小規模環状集落で内側に土坑群が分布する。集落の中心時期は加曾利 E III 式期と考えられる。一方、中里下原遺跡は住居址約 90 棟、土坑 280 基、配石墓 22 基、配石 4 基などが確認されており、やはり環状集落を形成する。土坑群は住居址群の内側ではなく外側に接して設けられており、これらは墓域と想定される。集落の中心時期は前期中葉藤坂 3 式併用期から加曾利 E 式（曾利式）期と考えられる、とのことである。各遺跡の詳細な時期比定は今後の課題であるが、性格の異なる環状集落が近接した距離に 3 カ所も集中する事象は特異である。水田氏には本稿に関わる貴重な情報を頂き、心より感謝を申し上げる次第である。

(2) 縄文時代の石器組成（二軒在家原田・原田II遺跡を中心に）

1. 概要

二軒在家原田遺跡及び二軒在家原田II遺跡で出土した石器はそれぞれ 11,332 と 3,453 点である。両遺跡は近接した位置関係にあり、諸磯期・加曾利E期など時期的にも重複することが多く、ここでは 2 遺跡の出土石器（合計 14,785 点）を統合した上で遺構内出土の石器を中心各時期における傾向を石器組成・石材組成について簡単に述べたいと思う。石器の帰属時期に関しては、出土した遺構の土器による時期決定に従い、単純に遺構の中から出土したものはその遺構の時期のものであると仮定した。そのため、詳細な時間差や後天的な混入などは捨象されている。

2. 石器組成

2-1. 各遺跡の石器組成

二軒在家原田遺跡における石器組成は以下の通りである。ただし、添付 DVD 上の観察表の器種は礫石器を中心にさらに細別が行われているので参考されたい。

| | |
|---------------------|------------------|
| 石鏃・石鏃未製品 262 点 | 原石・分割原石 74 点 |
| 尖頭器 1 点 | 剥片類・碎片 4,839 点 |
| 石錐 62 点 | 磨石類 381 点 |
| 石匙 65 点 | 特殊磨石・関連 6 点 |
| 楔形石器 447 点 | 凹石・多孔石 107 点 |
| 打製石斧・関連 1,224 点 | 敲石・関連 217 点 |
| へら形石器 4 点 | ストーンリタッチャー 2 点 |
| 横刃形石器 3 点 | 砥石・関連 146 点 |
| 磨製石斧・関連 136 点 | 石皿・関連 192 点 |
| 両極敲打痕のある剥片・関連 131 点 | 石棒 14 点 |
| 敲打痕のある剥片 3 点 | 石球 8 点 |
| 研磨痕のある剥片・関連 1 点 | 磨痕のある礫 3 点 |
| 礫器 6 点 | 凹みのある礫 1 点 |
| 石錐 1 点 | 研磨痕のある礫 1 点 |
| 二次的剥離のある剥片 395 点 | 二次的剥離のある分割礫 4 点 |
| 不規則剥離のある剥片 1,945 点 | 不規則剥離のある分割礫 17 点 |
| 石製品関連 14 点 | 片岩製石器 380 点 |
| 石核・両極石核 237 点 | |

二軒在家原田II遺跡における石器組成は以下の通りである。

| | |
|---------------|-------------------|
| 石鏃・石鏃未製品 38 点 | 横刃形石器 31 点 |
| 石錐 5 点 | 円形石器 4 点 |
| 石匙 36 点 | 磨製石斧・関連 70 点 |
| 楔形石器 10 点 | 両極敲打痕のある剥片・関連 3 点 |
| 打製石斧・関連 413 点 | 敲打痕のある剥片 1 点 |

| | |
|------------------|-----------------|
| 研磨痕のある剥片・関連 1 点 | 砥石・関連 144 点 |
| 磨耗痕のある剥片 1 点 | 石皿・関連 126 点 |
| 石鏃 11 点 | 石棒 8 点 |
| 二次的剥離のある剥片 50 点 | 丸石 7 点 |
| 不規則剥離のある剥片 452 点 | 石球 2 点 |
| 石製品関連 13 点 | 磨痕のある礫 8 点 |
| 石核・両極石核 4 点 | 磨+凹みのある礫 3 点 |
| 原石・分割原石 8 点 | 凹みのある礫 3 点 |
| 剥片類・碎片 1,272 点 | 研磨痕のある礫 3 点 |
| 磨石類 388 点 | 二次的剥離のある分割礫 2 点 |
| 特殊磨石・関連 7 点 | 不規則剥離のある分割礫 1 点 |
| 凹石・多孔石 20 点 | 片岩製石器 251 点 |
| 敲石・関連 57 点 | |

石製品関連にはバステル状石製品、玦状耳飾り、垂飾未製品などが含まれる。

2-2. 各時期の石器組成

●有尾・黒浜期の石器組成

1,186 点の石器が出土しており、石鏃・石鏃未製品、打製石斧・関連、磨製石斧・関連、磨石類、石皿・関連の 4 器種を中心に比較的多様な石器組成が看取できる。

有尾・黒浜期に帰属する 36 軒の住居に限れば、石鏃・石鏃未製品は 18 点、打製石斧・関連は 43 点、磨製石斧・関連は 13 点、磨石類は 91 点、石皿・関連は 39 点出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鏃・石鏃未製品は 0.50、打製石斧・関連は 1.19、磨製石斧・関連は 0.36、磨石類は 2.53、石皿・関連は 1.08 である。

●諸磯期の石器組成

2,412 点の石器が出土しており、有尾・黒浜期同様に石鏃・石鏃未製品、打製石斧・関連、磨製石斧・関連、磨石類、石皿・関連の 4 器種を中心に比較的多様な石器組成が看取できる。

諸磯期に帰属する 61 軒の住居に限れば、石鏃・石鏃未製品は 31 点、打製石斧・関連は 119 点、磨製石斧・関連は 19 点、磨石類は 187 点、石皿・関連は 39 点出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鏃・石鏃未製品は 0.51、打製石斧・関連は 1.95、磨製石斧・関連は 0.31、磨石類は 3.07、石皿・関連は 0.64 となる。

●五領ヶ台期の石器組成

出土石器は 26 点のみであり、石器組成も貧弱であり、打製石斧・関連や楔形石器がわずかに出土するにとどまる。

五領ヶ台期に帰属する住居は検出されておらず、1 軒あたりの出土点数の統計処理は行っていない。

●加曾利 E 期の石器組成

5,199 点の石器が出土しており、石鏃・石鏃未製品、打製石斧・関連、磨製石斧・関連、磨石類、石皿・関連の 4 器種を中心に多様な石器組成が看取できる。

加曾利 E 期に帰属する 98 軒の住居に限れば、石鏃・石鏃未製品は 95 点、打製石斧・関連は 797

点、磨製石斧・関連は 71 点、磨石類は 114 点、石皿・関連は 73 点出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鐵・石鐵未製品は 0.97、打製石斧・関連は 8.13、磨製石斧・関連は 0.72、磨石類は 1.16、石皿・関連は 0.74 となる。

●称名寺期の石器組成

出土石器はわずか 147 点であり、五領ヶ台期同様に石器組成も乏しい。

称名寺期に帰属する住居は 1 軒であり、石鐵・石鐵未製品は 2 点、打製石斧・関連は 6 点、磨製石斧・関連は 1 点、磨石類は 5 点、石皿・関連は 7 点出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鐵・石鐵未製品は 2.00、打製石斧・関連は 6.00、磨製石斧・関連は 1.00、磨石類は 5.00、石皿・関連は 7.00 となる。ただし、検出された当該期の住居が 1 軒であるため、数値はあくまで参考値とする。

●堀之内期の石器組成

450 点の石器が出土しており、石鐵・石鐵未製品、打製石斧・関連、磨製石斧・関連、磨石類、石皿・関連の 4 器種を中心に比較的多様な石器組成が看取できる。

堀之内期に帰属する 13 軒の住居に限れば、石鐵・石鐵未製品は 3 点、打製石斧・関連は 20 点、磨製石斧・関連は 12 点、磨石類は 38 点、石皿・関連は 34 点出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鐵・石鐵未製品は 0.23、打製石斧・関連は 1.54、磨製石斧・関連は 0.92、磨石類は 2.92、石皿・関連は 2.62 となる。

●加曾利 B 期の石器組成

出土石器はわずか 89 点であり、五領ヶ台や称名寺期同様に石器組成も乏しい。

加曾利 B 期に帰属する住居は 1 軒であり、磨製石斧・関連と磨石類が 1 点ずつ出土している。それを 1 軒あたりの出土点数に換算すると石鐵・石鐵未製品は 0.00、打製石斧・関連は 0.00、磨製石斧・関連は 1.00、磨石類は 1.00、石皿・関連は 0.00 となる。ただし、検出された当該期の住居が 1 軒であるため、数値はあくまで参考値とする。

3. 石材組成

3-1. 各時期の石材組成

はじめに、時期毎に石材利用の傾向を探りたいと思う。

●有尾・黒浜期の石材組成

20 種類の石材が使用され、総点数は 1,186 点、総重量は 239,611.3g である（有尾・黒浜期の遺構は住居 36 軒他）。主な石材を見ると凝灰岩、細粒凝灰岩が 36.2% (429 点 / 22,067.6g) を占める。他に黒曜石が 18.3% (217 点 / 919.6g)、安山岩、麥賀安山岩、無斑晶質安山岩が 17.7% (210 点 / 163,464.5g) と続く。

●諸磯期の石材組成

21 種類の石材が使用され、総点数は 2,412 点、総重量は 346,425.3g である（諸磯期の遺構は住居 61 軒他）。主な石材を見ると凝灰岩、細粒凝灰岩が 29.4% (708 点 / 36,646.4g) を占める。他に黒曜石が 27.5% (664 点 / 3,296.6g)、安山岩、麥賀安山岩、無斑晶質安山岩が 18.7% (450 点 / 239,642.7g) と続く。

●五領ヶ台期の石材組成

8種類の石材が使用され、総点数は26点、総重量は1,087.6gである（五領ヶ台期の遺構は全て土坑、住居なし）。主な石材をあげると凝灰岩、細粒凝灰岩30.8%（8点/241.6g）、黒曜石30.8%（8点/22.8g）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩11.5%（3点/502.5g）、頁岩11.5%（3点/180.2g）である。

●加曾利E期の石材組成

25種類の石材が使用され、総点数は5,199点、総重量は690,631.4gである（加曾利E期の遺構は住居98軒他）。主な石材を見ると黒曜石が33.2%（1,724点/3,327.6g）を占める。他に凝灰岩、細粒凝灰岩が31.3%（1627点/109,181.9g）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が13.4%（699点/447,367.4g）と続く。

●称名寺期の石材組成

14種類の石材が使用され、総点数は147点、総重量は43,274.5gである（称名寺期の遺構は住居1軒他）。主な石材を見ると安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が21.8%（32点/31,968.9g）を占める。他に黒曜石19.7%（29点/49.9g）、凝灰岩、細粒凝灰岩19.7%（29点/1,379.9g）と続く。

●堀之内期の石材組成

16種類の石材が使用され、総点数は450点、総重量は443,234.3gである（堀之内期の遺構は住居13軒他）。主な石材を見ると凝灰岩、細粒凝灰岩が37.6%（169点/13,885.8g）を占める。他に安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩33.6%（151点/399,563.2g）、黒曜石6.2%（28点/57.2g）と続く。

●加曾利B期の石材組成

11種類の石材が使用され、総点数は89点、総重量は80,198.9gである（加曾利B期の遺構は住居1軒他）。主な石材を見ると凝灰岩、細粒凝灰岩が42.7%（38点/1,944.6g）を占める。他に安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩24.7%（22点/61,708.3g）、緑泥片岩7.9%（7点/14,461.0g）と続く。

3-2. 主要石器の石材組成

次に、特定の4器種を対象として時期毎に石材利用の傾向を探りたいと思う。

●有尾・黒浜期の主要石器における石材組成

石鎌・石鎌未製品18点中、黒曜石が16点（最多使用石材、88.9%）、チャートが2点を占める。打製石斧・関連43点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が29点（最多使用石材、67.4%）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が9点、頁岩が4点、砂岩が1点を占める。

磨製石斧・関連13点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が10点（最多使用石材、76.9%）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が1点、砂岩が1点、その他（斑纈岩）1点を占める。

磨石類91点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が82点（最多使用石材、90.1%）、砂岩が6点、凝灰岩、細粒凝灰岩が2点、緑泥片岩1点を占める。

石皿・関連39点中、緑泥片岩が21点（最多使用石材、53.8%）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が18点を占める。

●諸磯期の主要石器における石材組成

石鎌・石鎌未製品35点中、黒曜石が22点（最多使用石材、62.9%）、チャートが7点、ガラス質黒色安山岩が5点、頁岩が1点を占める。

打製石斧・関連136点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が77点（最多使用石材、56.6%）、頁岩が23点、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が20点、結晶片岩が6点、緑泥片岩が3点、ホルンフェルスが3点、砂岩が3点、ガラス質黒色安山岩が1点を占める。

磨製石斧・関連 22 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 15 点(最多使用石材、68.2%)、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 1 点、砂岩が 1 点、その他が 5 点(緑色岩 4 点、蛇紋岩 1 点)を占める。

磨石類 204 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 186 点(最多使用石材、91.2%)、凝灰岩、細粒凝灰岩が 10 点、砂岩が 5 点、緑泥片岩 1 点、結晶片岩が 1 点、その他(閃綠岩)が 1 点を占める。

石皿・関連 43 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 23 点(最多使用石材、53.5%)、緑泥片岩が 15 点、砂岩が 3 点、結晶片岩が 2 点を占める。

●五領ヶ台期の主要石器における石材組成

当該期において石鎚・石鎌未製品と磨製石斧・関連は出土していない。

打製石斧・関連 2 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 1 点、砂岩が 1 点を占める。

磨製石斧・関連は 1 点のみ出土しており、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩製である。

石皿・関連は 1 点のみ出土しており、緑泥片岩製である。

●加曾利 E 期の主要石器における石材組成

石鎚・石鎌未製品 103 点中、黒曜石が 92 点(最多使用石材、89.3%)、チャートが 7 点、ガラス質黒色安山岩が 2 点、硬質頁岩が 1 点、頁岩が 1 点を占める。

打製石斧・関連 882 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 553 点(最多使用石材、62.7%)、頁岩が 148 点、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 140 点、ホルンフェルスが 20 点、砂岩 12 点、緑泥片岩が 2 点、結晶片岩が 2 点、その他が 5 点(石英片岩 3 点、黒色片岩 1 点、緑色片岩 1 点)を占める。

磨製石斧・関連 81 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 66 点(最多使用石材、81.5%)、砂岩が 5 点、緑泥片岩が 1 点、その他が 9 点(透閃石岩 3 点、蛇紋岩 3 点、緑色岩 2 点、砂質片岩 1 点)を占める。

磨石類 155 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 137 点(最多使用石材、88.4%)、砂岩が 9 点、凝灰岩、細粒凝灰岩が 8 点、緑泥片岩が 1 点を占める。

緑泥片岩 1 点、結晶片岩が 1 点、その他(閃綠岩)が 1 点を占める。

石皿・関連 88 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 48 点(最多使用石材、54.5%)、緑泥片岩が 25 点、砂岩が 10 点、結晶片岩 3 点、凝灰岩、細粒凝灰岩が 1 点、その他(砂質片岩)が 1 点を占める。

●称名寺期の主要石器における石材組成

石鎚・石鎌未製品 2 点は黒曜石製である。

打製石斧・関連 13 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 8 点(最多使用石材、61.5%)、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 3 点、ガラス質黒色安山岩が 1 点、砂岩 1 点を占める。

磨製石斧・関連 4 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 2 点(50.0%)、その他(緑色岩)(50.0%)が 2 点を占める。

磨石類 10 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 8 点(最多使用石材、80.0%)、砂岩が 2 点を占める。

石皿・関連 16 点中、砂岩が 8 点(最多使用石材、50.0%)、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 7 点、その他(砂質片岩)が 1 点を占める。

●堀之内期の主要石器における石材組成

石鎚・石鎌未製品 4 点は全て黒曜石製である。

打製石斧・関連 26 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 16 点(最多使用石材、61.5%)、安山岩、変質安山岩、

無斑晶質安山岩が 5 点、頁岩が 5 点を占める。

磨製石斧・関連 13 点は全て凝灰岩、細粒凝灰岩製である。

磨石類 46 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 41 点（最多使用石材、89.1%）、凝灰岩、細粒凝灰岩が 3 点、砂岩が 1 点、綠泥片岩が 1 点を占める。

石皿・関連 39 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 32 点（最多使用石材、82.1%）、綠泥片岩が 4 点、砂岩が 2 点、結晶片岩が 1 点を占める。

●加曾利 B 期の主要石器における石材組成

石鐵・石鐵未製品は 1 点のみ出土しており、黒曜石製である。

打製石斧・関連 9 点中、凝灰岩、細粒凝灰岩が 7 点（最多使用石材、77.8%）、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 2 点を占める。

磨製石斧・関連 4 点は全て凝灰岩、細粒凝灰岩製である。

磨石類 6 点中、安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩が 5 点（最多使用石材、83.3%）、綠泥片岩が 1 点を占める。

石皿・関連 6 点は全て安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩製である。

4. 時期別の傾向

4-1. 石器組成

今回の統計処理で対象となる値が極端に少ない五領ヶ台、称名寺、加曾利 B 期を除いて傾向を述べたい。

打製石斧・関連における、1 軒あたりの出土点数は有尾・黒浜期に 1.19、諸磯期に 1.95、加曾利 E 期に 8.13、堀之内期に 1.54 と変化している。増加率を見ると、有尾・黒浜期から諸磯期にかけては 1.63 倍であるが、諸磯期から加曾利 E 期にかけては 4.17 倍であり、諸磯期から加曾利 E 期にかけての増加率は他に比べて著しいことがわかる。一転堀之内期になると、加曾利 E 期の約 1/5 にまで減少している。

打製石斧・関連と同様に石鐵・関連は有尾・黒浜から加曾利 E 期にかけては増加し、加曾利 E 期にピークを迎える。加曾利 E 期以降は減少傾向にある。

磨製石斧・関連と石皿・関連も有尾・黒浜から諸磯期にかけては一度減少しているが、諸磯期以降は増加に転じ、堀之内期にピークを迎える。磨石類は有尾・黒浜から諸磯期にかけては増加し、諸磯期にピークを迎える。加曾利 E 期には一度減少しているが、再び堀之内期にかけては増加に転じている。

4-2. 石材組成

対象期間を通して主要石材としての役割を担っているのが凝灰岩、細粒凝灰岩と安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩と黒曜石の 3 石材である。

特に凝灰岩、細粒凝灰岩はほぼ全期間にわたって安定的に 30 ~ 40% 前後を占めている。五領ヶ台、称名寺、加曾利 B 期を除くと、有尾・黒浜から諸磯期にかけては一度減少しているが、諸磯期以降は堀之内期まで増加傾向にあり、堀之内期にピークを迎える。

安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩は有尾・黒浜から諸磯期にかけては増加し、一度加曾利 E 期で減少し、再び堀之内期にかけて増加傾向にあり、堀之内期にピークを迎える。

黒曜石は出土点数上では有尾・黒浜から加曾利 E 期にかけては増加し、加曾利 E 期にピークを迎える。

加曾利 E 期以降は減少傾向にある様に見えるが、黒曜石の重量を住居跡 1 軒あたりに換算するとピークは 1 軒あたり 54g 保有する諸磯期がピークである。有尾・黒浜期が約 23.5g、加曾利 E 期が 34g、称名寺期は 1 軒だけでありデータの信頼性が担保されないが 49.9g、堀之内期 4.4g、加曾利 B 期も 1 軒であるが 0.3g と堀之内期以降は明らかに減少していることが看取される。

上記以外にも翡翠や滑石など数点のみ使用される石材が散見されるが、これらは主に石製品関連などその使用は限定的である。

最後に主要石器と石材の関連性を見ると、時期による出土点数の偏りや僅少さのため、時期的推移を述べることは難しいが、全期間を通して石鎚・石鎌未製品は黒曜石の使用度が高いが、諸磯期ではチャートの使用率が 20% あり、有尾・黒浜期が 11%、加曾利 E 期が 6.8%、他の時期が 0% と比べるとやや高いことが指摘できよう。打製石斧・関連と磨製石斧・関連は凝灰岩・細粒凝灰岩の使用度が高い。磨石類は安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩の使用度が高く、石皿類は安山岩、変質安山岩、無斑晶質安山岩あるいは緑泥片岩の使用度が高い。いずれも 1 あるいは 2 種類の石材で半分以上が古められている。

5.まとめ

特定の器種を中心に石器組成・石材組成の観点から各時期を俯瞰して見た結果を簡単にまとめると、住居の検出が確認できる有尾・黒浜期以降、出土数や器種組成を徐々に充実させながら、磨石類は諸磯期に、石鎚・石鎌未製品と打製石斧・関連は加曾利 E 期に、磨製石斧・関連や石皿・関連は堀之内期にピークを迎えていることが看取される。特に打製石斧の急増は從来の加曾利 E 期の石器様相と合致するものであるといえよう。石材面では器種ごとに非常に偏った石材利用がほぼ全期間を通して見られることを指摘できる。ただし、黒曜石の利用に関しては諸磯期が最も多く、堀之内期以降は明らかに減少してゆく傾向が本遺跡では確認された。このように黒曜石の利用に関して從来から指摘されてきた傾向を追認できたと思われる。

(アルケーリサーチ 藤波啓容)

| 調査記号 | 地区 | 遺構名 | 片岩製石器 | | | | | | | | | | | | 片岩製石器 | | 不規則形の ある分類 | 磨痕のある 分類 | 計 |
|--------------|----|-------|----------|----|------|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|-------|----|---------------|-------------|--------------------------|
| | | | 石錐・石錐未製品 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | 石錐 | | | |
| N-14 A J014 | | 1 | | 1 | 2 | | | | | 1 | 7 | 4 | 12 | 3 | 3 | 4 | 1 | 2 | 2 43 |
| N-14 A J015 | | 1 | | 1 | 4 | | | | | 6 | 1 | 13 | 1 | 2 | | | 1 | 1 | 1 31 |
| N-14 A J002 | 4 | 5 8 8 | 4 1 1 | 24 | 56 | 1 | 7 | 11 | 122 | 14 | 1 | 4 | 17 | 1 | 1 | 2 | 23 | 315 | |
| N-14 A J040 | | 4 | | 1 | | 4 | | | | 4 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 3 | 20 |
| N-14 A J040b | | 5 11 | 2 3 | 5 | 24 | 2 | 13 | 5 | | | 1 | | 6 | | | | 8 | 85 | |
| N-14 A J043 | 2 | 8 3 | | 4 | 5 | 6 | 1 | 1 | 23 | 3 | 1 | 6 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 6 | 75 | |
| N-14 A J006 | 7 | 2 3 | | | 1 | 3 | 4 | 2 | 27 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | | | 3 | 62 | |
| N-14 B J005 | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | 5 |
| N-14 B J006 | | | | | | | 4 | | | | 3 | 3 | | 1 | | | | | 11 |
| N-14 B J010 | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 2 | 15 |
| N-14 C J002 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 |
| N-14 C J006 | 1 | 1 | | | | 5 | 4 | | | 15 | 4 | 2 | 2 | | 1 | | 1 | 1 | 36 |
| N-14 C J007 | 1 | 2 1 | 2 | 8 | 17 | | 1 | 1 | 23 | 9 | 2 | 4 | | 1 | 2 | | 4 | 78 | |
| N-14 C J008 | 1 | 1 | | 4 | 14 | 1 | | | 24 | 5 | 1 | 2 | 1 | | | | 2 | 56 | |
| N-14 C J009 | | 1 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 4 | |
| N-14 C J013 | | | | | 1 | | | | | 5 | 3 | | | | 1 | 2 | | 12 | |
| N-14 C J015 | 1 | | 1 | | 2 | 2 | | | | | | | | 2 | | | | 8 | |
| N-14 C J017 | | | | | | 2 | | 3 | 1 | 1 | 2 | | | | | 1 | 10 | | |
| N-14 C J020 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | 2 | |
| N-14 C J024 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A J012 | 2 | 1 | | | | 22 | | | 38 | 6 | | | 3 | 5 | | 19 | 96 | | |
| N-16 A J060 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A J069 | 1 | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | 2 | 6 | | |
| N-16 A J071 | 1 | | | | | 2 | | | 5 | 2 | | | 1 | | | | | 11 | |
| N-16 A J080 | | | | | | 1 | 1 | | 14 | 5 | 1 | 4 | | | 5 | | 31 | | |
| N-16 A J081 | 1 | | | | | 4 | | | 6 | 2 | 1 | 1 | 2 | | 4 | | 21 | | |
| N-16 A J082 | | 1 | | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 4 | | |
| N-16 A J087 | | | | | | | | | 5 | | | | | | | 1 | 6 | | |
| N-16 A J089 | 2 | 1 | | | | 2 | 2 | | 2 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 14 | | |
| N-16 A J093 | | 1 | 1 1 | | | 1 | | | 8 | 3 | | | | | | 2 | 17 | | |
| N-16 A J032 | | 1 | 1 | | | 2 | | 1 | 15 | 2 | | | | | | 3 | 25 | | |
| N-16 A J034 | 3 | | 1 | | 1 | 1 | 5 | | 7 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | 2 | 24 | | |
| N-16 A J039 | 1 | | | | | 3 | | | 3 | 2 | | | | | | 2 | 11 | | |
| N-16 A J104 | | | 1 | | | | | | 3 | | | | | | | | 4 | | |
| N-16 C J085 | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | 1 | 3 | | |
| N-16 D J018 | | 1 | | | 1 | 8 | | | 9 | 8 | | | 2 | | | 1 | 30 | | |
| 計 | 18 | 1 20 | 28 43 | 1 | 1 13 | 10 | 2 | 2 | 64 | 207 | 4 | 19 | 14 | 416 | 91 | 2 | 20 | 47 | 1 16 39 1 1 1 2 102 1186 |

第391表 有尾・黒浜期石器組成

| 調査記号 | 地区 | 遺構名 | 石器類別 | | | | | | | | | | | | 計 | |
|--------------|----|-----|------|---------|------------|----|-------|----|-------|-------|----------|-------|----------|----------|---|-----|
| | | | 石器 | 石器・鐵製工具 | 石器・鐵製工具・骨器 | 骨器 | 骨器・貝殻 | 貝殻 | 貝殻・骨器 | 貝殻・貝殻 | 貝殻・貝殻・骨器 | 骨器・貝殻 | 骨器・貝殻・貝殻 | 貝殻・貝殻・貝殻 | | |
| N-14 A J004 | | 石器 | 1 | 1 | 2 | 2 | | | | | | | | | | 28 |
| N-14 A J012 | | 石器 | 1 | 1 | 2 | 3 | | | | | | | | | | 74 |
| N-14 A J016 | | 石器 | 2 | | 1 | 8 | | | | | | | | | | 114 |
| N-14 A J048 | | 石器 | 1 | | 1 | 3 | | | | | | | | | | 37 |
| N-14 A J051 | | 石器 | 1 | 1 | 2 | 7 | 2 | 3 | | | | | | | | 79 |
| N-14 A J041 | | 石器 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | | | | | | | | | 35 |
| N-14 A J056b | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A J035 | | 石器 | 3 | 3 | 1 | 2 | 8 | 3 | 2 | | | | | | | 151 |
| N-14 A J080 | | 石器 | 1 | 1 | 1 | 6 | | | | | | | | | | 28 |
| N-14 A J061 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 A J050 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| N-14 A J059 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 B J002 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 B J003 | | 石器 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 33 |
| N-14 B J004 | | 石器 | 2 | 1 | 3 | 3 | 1 | | | | | | | | | 54 |
| N-14 B J008 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 B J011 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 B J012 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 B J013 | | 石器 | 1 | 4 | | 1 | | | | | | | | | | 51 |
| N-14 B J014 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 B J009 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 C J001 | | 石器 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 19 |
| N-14 C J004 | | 石器 | 1 | 1 | 3 | 9 | 1 | 1 | | | | | | | | 148 |
| N-14 C J005 | | 石器 | 1 | 3 | 3 | | | | | | | | | | | 85 |
| N-14 C J005b | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 13 |
| N-14 C J018 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 C J021 | | 石器 | | | | | 1 | | | | | | | | | 9 |
| N-14 C J010 | | 石器 | 3 | | | | | | | | | | | | | 179 |
| N-16 A J004 | | 石器 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 16 |
| N-16 A J005 | | 石器 | | | | | 1 | 2 | 1 | | | | | | | 28 |
| N-16 A J009 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| N-16 A J010b | | 石器 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A J015 | | 石器 | 1 | 1 | 4 | 1 | | | | | | | | | | 8 |
| N-16 A J022 | | 石器 | 1 | 2 | 1 | 4 | 2 | | | | | | | | | 21 |
| N-16 A J025 | | 石器 | | | | | 4 | 8 | 1 | 1 | 24 | 11 | 5 | 11 | 2 | 87 |
| N-16 A J055 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 11 |
| N-16 A J055b | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| N-16 A J056 | | 石器 | 1 | 1 | 13 | 1 | 1 | | | | 15 | 1 | 51 | 10 | 1 | 123 |
| N-16 A J059 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-16 A J063 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 13 |
| N-16 A J065 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 23 |
| N-16 A J070 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| N-16 A J072 | | 石器 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | 4 |
| N-16 A J073 | | 石器 | 3 | | | | | 1 | 2 | | | | | | | 14 |
| N-16 A J079 | | 石器 | | | | | | 1 | | | | | | | | 10 |
| N-16 A J088 | | 石器 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | 7 |
| N-16 A J091 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-16 A J095 | | 石器 | | | 1 | 1 | | | | | 1 | 8 | 3 | | | 16 |
| N-16 A J096 | | 石器 | 1 | 2 | | | | | | | 7 | 20 | 6 | 2 | | 40 |
| N-16 A J103 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-16 A J114 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-16 A J038 | | 石器 | 1 | | | | | | | | 7 | 7 | 4 | 1 | 1 | 22 |
| N-16 A J054 | | 石器 | 2 | | 5 | 1 | | | | | 11 | 44 | 5 | 1 | 2 | 80 |
| N-16 A J058 | | 石器 | 3 | 1 | 11 | 1 | | | | | 1 | 24 | 52 | 27 | 2 | 114 |
| N-16 A J001 | | 石器 | | | 2 | | 1 | | | | 1 | 6 | 10 | 4 | 1 | 28 |
| N-16 A J027b | | 石器 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 3 | 2 | 1 | 11 |
| N-16 B J003 | | 石器 | 4 | | 1 | 5 | | | | | 3 | 7 | 8 | 1 | 1 | 92 |
| N-16 B J006 | | 石器 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-16 C J083 | | 石器 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 5 |
| N-16 C J084 | | 石器 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 2 | 3 | | 9 |
| N-16 E J029 | | 石器 | | | 2 | | | | | | 2 | | 13 | 4 | | 22 |
| N-14 A D001 | | 石器 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | | | 4 |

第392表 諸機期石器組成1

| 調査記号 | 地区 | 遺跡名 | 片岩製石器 | | | | | | 片岩製石器 二次的産のある部分 | 片岩製石器 三次的産のある部分 | 片岩製石器 三次的産のある部分 |
|---------------|----|-----|-------|----|----|-------|-------|----------|--------------------|--------------------|--------------------|
| | | | 丸石 | 石棒 | 石錐 | 石刀・石鎌 | 四角・孔石 | 特殊磨・削・削通 | | | |
| N-14 A D019 | | | 2 | | | | 1 | 7 | | | 10 |
| N-14 A D039 | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| N-14 A D042 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 A D057 | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| N-14 A D066 | | | | | | | 2 | 7 | | | 9 |
| N-14 A D067 | | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| N-14 A D074 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 A D079 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 A D080 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| N-14 A D10a | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| N-14 A D110a | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 A D115 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| N-14 A D115a | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 A D118 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 A D124 | | | | | | | 1 | 1 | 2 | | 4 |
| N-14 A D126 | | | | | | | | | | | 0 |
| N-14 A D129 | | | | | | | 5 | 5 | 15 | 3 | 26 |
| N-14 A D130 | | | 1 | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D104 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 A D077 | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| N-14 A D085 | | | | | | | | 3 | | | 3 |
| N-14 A D091 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| N-14 A D109 | | | 1 | 1 | | | 3 | 2 | | | 7 |
| N-14 A D109a | | | | | | | 2 | | | | 1 |
| N-14 A D117 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 B D004 | 1 | | | | | | 3 | | | | 4 |
| N-14 B D008 | | | | 1 | | | 3 | 1 | | | 5 |
| N-14 B D015 | 1 | 1 | | | | | 1 | 2 | | | 5 |
| N-14 B D016 | | | 1 | | | | 1 | | | | 2 |
| N-14 B D023 | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 B D023a | | | | | | | 2 | 2 | | | 4 |
| N-14 B D023a* | 1 | | | | | | 4 | 1 | 6 | | 12 |
| N-14 B D023b | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 B D024 | | | | | | | | 4 | | | 5 |
| N-14 B D026 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 B D028 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| N-14 B D035 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 B D036 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 B D038 | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| N-14 B D002 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 B D005 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 B D019 | 4 | | | | | | 1 | 3 | | | 6 |
| N-14 B D033 | 2 | | | | | | 1 | 2 | 2 | | 12 |
| N-14 B D003 | | | | | | | | | 1 | | 2 |
| N-14 C D001 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| N-14 C D004 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| N-14 C D013 | | | | | | | 2 | 2 | 2 | | 6 |
| N-16 A D033 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| N-16 A D075 | | 1 | | | | | | 2 | | | 3 |
| N-16 A D125 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-16 A D140 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 |
| N-16 A D144 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| N-16 A D149 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-16 A D158 | 1 | | | | | | 1 | 2 | | | 4 |
| N-16 A D273 | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-16 A D275 | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| N-16 A D289 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-16 A D002 | | | | | | | | 2 | 1 | 1 | 4 |
| N-16 A D003 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-16 A D209 | 1 | | | | | | | 1 | | | 3 |
| N-16 A D220 | | 3 | | | | | | 1 | 1 | | 6 |
| N-16 A D239 | | | | | | | | 1 | | | 1 |

第393表 諸礫期石器組成2

| 調査記号 | 地区 | 遺構名 | 石器 | | | | | | | | | | | | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|-----|------|---|----|------|----|-----|---------|---|-----|------------|---|---|-----|-----|---|----|----|------|-----|---|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|-----|------|
| | | | 打製石器 | | | 磨製石器 | | | 研磨・削成石器 | | | 研磨・削成・打製石器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石核 | | | 石片類 | | | 磨石類 | | | 刮削器 | | | 研磨・削成器 | | | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D244 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D222 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D030 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D034 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D016 | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D240 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | D120 | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-14 A | P005 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-14 A | P001 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-14 B | P004 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| N-16 A | M002 | | | 2 | | | 1 | | 1 | 2 | | 3 | 2 | 1 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | 35 | 1 | 10 | 18 | 41 | 136 | 1 | 6 | 122 | 9 | 2 | 1 | 198 | 397 | 5 | 53 | 13 | 1035 | 204 | 5 | 21 | 45 | 52 | 43 | 1 | 3 | 5 | 3 | 1 | 2 | 141 | 2412 |

第394表 諸磯期石器組成

| 調査記号 | 地区 | 遺構名 | 石器 | | | | | | | | | | | | 計 |
|--------|------|-----|------|---|---|------|---|---|---------|---|---|------------|---|---|----|
| | | | 打製石器 | | | 磨製石器 | | | 研磨・削成石器 | | | 研磨・削成・打製石器 | | | |
| 石核 | | | 石片類 | | | 磨石類 | | | 刮削器 | | | 研磨・削成器 | | | |
| N-14 A | D018 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A | D071 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A | D097 | 1 | | | 2 | | 1 | 4 | | | | | | | 8 |
| N-14 A | D133 | 1 | 1 | 1 | | | | | 5 | | | | | | 8 |
| N-16 A | D069 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A | D267 | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | | 3 |
| N-16 A | D323 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 3 |
| 計 | | | 2 | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 12 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 26 |

第395表 五領ヶ台期石器組成

| 調査記号 | 地区 | 遺跡名 | 石器類 | | | | | | | | | | | | 計 |
|--------------|----|-----|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-----|-------|---------|
| | | | 石器 | 石器未発見 | 石器 | 石器未発見 | 石器 | 石器未発見 | 石器 | 石器未発見 | 石器 | 石器未発見 | 石器 | 石器未発見 | |
| N-14 A J001 | | | 1 1 | 2 4 | 1 | 4 9 | 1 1 | 15 1 | 1 | 1 2 | | | | | 1 44 |
| N-14 A J003 | | | 3 3 | 1 11 | 15 1 | 1 1 2 | 4 23 | 4 | 109 1 | 2 1 | 3 4 | | | | 1 9 198 |
| N-14 A J005 | | | 4 | 2 | | | 5 | | 8 1 | 1 | | | | | 1 22 |
| N-14 A J008 | | | 1 6 | 9 | 1 | | 7 15 | | 34 1 | | | | | | 4 78 |
| N-14 A J009 | | | 1 1 | 7 15 | 1 | | 6 14 | 2 | 45 2 | 2 | | | | | 2 98 |
| N-14 A J010 | | | 1 | 3 | 1 | | 1 2 | | 3 | | | | | | 1 11 |
| N-14 A J013 | | | 2 1 | 6 6 | | | 7 5 | | 29 | 1 2 | | | | | 1 60 |
| N-14 A J019 | | | 1 1 | 6 10 | 1 | 2 | 5 20 | 2 1 | 23 | 2 | 1 | | | | 1 76 |
| N-14 A J020 | | | 3 1 | 5 22 | 3 2 | 1 | 10 22 | 4 1 | 41 2 | 3 3 | 2 | 1 | 1 | | 2 129 |
| N-14 A J021 | | | 7 2 | 14 26 | 2 1 | | 10 28 | 1 | 54 2 | 2 | 3 1 | | | | 1 3 157 |
| N-14 A J022a | | | 1 | 3 | | | 2 5 | 1 | 12 | | | | | | 24 |
| N-14 A J022b | | | 1 | 4 | 2 1 | | 5 4 | 2 | 12 | 1 | | | | | 1 33 |
| N-14 A J022c | | | 1 | 1 | 4 | | 3 7 | | 1 10 | | | | | | 27 |
| N-14 A J023 | | | 2 2 | 9 12 | 2 | 1 | 6 23 | 3 1 | 56 1 | 1 2 | 3 1 | | | | 1 126 |
| N-14 A J024 | | | 1 | 2 | | | 2 | | 1 1 | 1 | | | | | 1 9 |
| N-14 A J025 | | | 2 1 | 1 10 | 49 | 3 6 | 8 48 | 8 1 | 86 | 2 1 | 3 2 | | | | 231 |
| N-14 A J026 | | | 1 1 | 5 5 | | | 8 10 | 4 | 32 | 2 | 1 | | | | 2 71 |
| N-14 A J027 | | | 15 2 | 5 36 | 58 | 4 6 | 2 | 13 75 | 1 17 | 2 224 | 4 | 1 6 | 6 5 | 2 | 1 6 491 |
| N-14 A J028 | | | 1 3 1 | 8 10 | | 1 | 3 18 | 2 | 27 | 1 | 3 2 | | | | 1 84 |
| N-14 A J029 | | | 1 1 | 3 17 | 3 | | 1 18 | 5 1 | 19 4 | 3 | 1 | 1 | | | 1 7 86 |
| N-14 A J029b | | | 1 | | | | 3 | | | | | | | | 5 |
| N-14 A J030 | | | 1 1 | 10 30 | 1 2 | | 4 31 | 2 1 | 72 2 | 4 6 | 1 1 | | | | 2 5 176 |
| N-14 A J032a | | | 1 | | | | 1 | | 4 | | | | | | 6 |
| N-14 A J032b | | | 2 | | | | 1 3 | | 4 | | | | | | 10 |
| N-14 A J033a | | | 4 | | 1 | | 3 | | 3 | | 1 | 2 | | | 14 |
| N-14 A J033b | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| N-14 A J033e | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 2 |
| N-14 A J034 | | | 1 | 2 | 3 | | 1 4 | | 9 | | | | | | 20 |
| N-14 A J037 | | | 5 1 | 1 | 6 23 | 2 | 1 | 5 24 | 6 | 51 2 | 1 7 | 7 2 | 2 | | 6 152 |
| N-14 A J039 | | | | | 16 | 1 | | 10 | | 6 3 | 1 | 2 | | | 39 |
| N-14 A J045 | | | 1 | 1 | 2 | 1 | | 5 1 | 13 1 | | | | | | 1 26 |
| N-14 A J046 | | | | 2 | | | 3 | 1 | 1 | 1 | | | | | 8 |
| N-14 A J049 | | | 1 | 1 | | | 2 | | 8 | 1 | | | | | 13 |
| N-14 A J052 | | | 1 | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | | | | | 8 |
| N-14 A J053 | | | 1 | | | | | | 3 | 1 | | | | | 5 |
| N-14 A J059 | | | 1 | 1 | | | 2 | | 2 1 | 1 | 2 1 | | | | 1 12 |
| N-14 A J062 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A J063 | | | 2 | 1 | 1 | | 3 | | 1 | | 3 | | | | 11 |
| N-14 A J065 | | | 6 | | | | 1 3 | | 3 2 | 2 1 | 3 1 | | | | 1 2 25 |
| N-14 A J066 | | | 2 | 2 | 3 | | 2 11 | 1 | 9 1 | | | | | | 31 |
| N-14 A J067 | | | 1 | 4 18 | 4 4 | | 1 11 | 1 | 29 2 | 1 | 1 | 1 | | | 76 |
| N-14 A J069 | | | 7 | | | | 1 4 | | 5 3 | 1 | 1 | | | | 22 |
| N-14 A J071 | | | 1 | 3 | 1 | | 7 | | 2 | 1 | 1 | | | | 1 1 18 |
| N-14 A J072 | | | 1 | 1 | 8 | | 1 4 | 1 | 7 | | | | | | 23 |
| N-14 A J073 | | | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 10 1 | 1 1 | 1 3 | | | | 25 |
| N-14 A J074 | | | 1 | 2 | 1 | | 8 | | 5 | | 1 | 1 | | | 1 20 |
| N-14 A J076 | | | 1 | 3 | 1 | | 1 6 | 2 | 2 1 | 2 | 1 | | | | 1 21 |
| N-14 A J077 | | | 4 | 1 | | | 1 5 | | 5 1 | 1 | 1 | | | | 19 |
| N-14 A J078 | | | 2 | 12 | 1 | | 3 | | 5 | 1 | 1 | 1 | | | 1 27 |
| N-14 A J079 | | | 1 2 | 28 | 3 3 | | 2 9 | 2 | 19 3 | 3 2 | 2 | | | | 1 2 82 |
| N-14 A J081 | | | 1 | | | | 1 | | 2 | | | | | | 4 |
| N-14 A J082 | | | 1 | 1 | | | 1 5 | 1 | 2 | | | | | | 3 14 |
| N-14 A J022 | | | 5 2 | 12 60 | 1 1 | | 12 40 | 4 3 | 82 6 | 2 6 | 1 2 2 1 | | | | 12 254 |
| N-14 A J030a | | | 4 | 1 2 | 8 | 1 3 | 2 8 | 1 1 | 26 | 1 1 | 2 | | | | 1 62 |
| N-14 A J030c | | | 8 | 13 21 | 2 8 | | 4 35 | 4 1 | 111 3 | 1 5 | 1 | | | | 1 218 |
| N-14 A J030e | | | 1 | 2 8 | 1 1 | | 3 10 | | 20 1 | | | | | | 4 51 |
| N-14 A J033 | | | 2 | 4 1 | 1 1 | | 2 8 | 1 | 19 2 | | | | | | 1 2 44 |
| N-14 A J038a | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | 1 4 |
| N-14 A J042 | | | 2 5 | | | | 1 14 | | 21 | 1 4 | 1 2 | | | | 2 53 |
| N-14 A J044 | | | 2 1 | 11 | 1 | | 2 13 | 3 | 15 2 | 1 4 | 2 2 | | | | 2 61 |
| N-14 A J047 | | | 3 | 8 55 | 3 2 | | 5 29 | 2 | 54 3 | 1 3 | 3 2 1 | | | | 2 176 |
| N-14 A J047a | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |

第396表 加曾利E期石器組成1

| 調査記号 | 地区 | 遺物名 | 石器・石器未製品 | | | | | | | | | | | | 片岩有無 | 片岩の有無 | 計 |
|--------------|----|----------|----------|-------|-----|------|-------|-----|-----|----|-----|----|----|----|------|-------|------|
| | | | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | 石器 | | | |
| N-14 A J047b | | 1 3 | | | | | 1 | 2 | | | | | 1 | | | | 8 |
| N-14 A J057 | | 1 | | | 1 1 | | 6 | 1 | 2 | | | | | | | | 12 |
| N-14 A J031a | | 3 | | | | | 7 | 1 | | | | | | | | | 11 |
| N-14 A J031b | | 1 | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | 3 |
| N-14 A J068b | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| N-14 A J064 | | 1 1 3 3 | | | 5 | 1 2 | 4 | 2 | 2 | 4 | 8 | | | | 1 | | 27 |
| N-14 A J030d | | 2 1 1 | | | 4 | | 3 | | | | | | | | | | 2 15 |
| N-14 B J007 | | 1 2 | | | 1 | | 3 4 | | | | | | | | | | 2 14 |
| N-14 C J011 | | 1 6 1 | | 3 8 | | 8 | 1 | 1 | | | | | | | | | 29 |
| N-14 C J012 | | 2 | | | 1 1 | | | | | | | | 1 | | | | 5 |
| N-14 C J014 | | 1 | | | | | 2 | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A J013 | | 14 1 | 1 | | 1 3 | | 13 | | | | | | | | | | 33 |
| N-16 A J016 | | 13 | 1 | | 5 | | 7 | 3 | 1 | 2 | 3 | | | | | 6 | 41 |
| N-16 A J017 | | 1 1 11 1 | | 1 2 9 | | 14 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 6 | 54 |
| N-16 A J019 | | 6 | 1 | | 1 6 | | 8 3 | | 2 2 | | | | | | | 2 | 31 |
| N-16 A J023 | | 4 | | | 6 | 1 | 12 4 | | 2 | | | | 1 | | | 3 | 33 |
| N-16 A J030 | | 2 | | | | | 4 | | | | | | | | | 1 | 7 |
| N-16 A J041 | | 4 20 2 | | | 1 7 | 1 1 | 116 8 | | 1 | 5 | 1 | | | | | 8 | 175 |
| N-16 A J057 | | 8 2 | | | 1 5 | | 10 2 | | 1 | | | | | | | 2 | 31 |
| N-16 A J062 | | 7 2 1 | | | 3 | | 7 | | 1 | 2 | 1 | | | | | 1 | 25 |
| N-16 A J066 | | 5 1 | | | 3 | | 12 3 | | | | | | | | | 1 | 25 |
| N-16 A J067 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A J075 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A J078 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A J094 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A J100 | | 1 1 30 3 | | | 4 | | 32 5 | 1 2 | 1 4 | | | | | | | 1 | 85 |
| N-16 A J106 | | 2 | | | | | 3 | | 1 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | 9 |
| N-16 A J112 | | 10 1 1 | | | | | 12 5 | 1 1 | 1 2 | 1 | | | | | | 36 | |
| N-16 A J113 | | 4 1 | | | | | 4 | | | | | | | | | 10 | |
| N-16 A J099 | | | | | 1 | | 1 | | 4 | | | | | | | 1 | 7 |
| N-16 A J105 | | 1 | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | 1 | 6 |
| N-16 A J033 | | 6 1 | | | 1 1 | | 6 4 | | 1 | | | | | | | 20 | |
| N-16 A J036 | | 1 1 | | | 2 | | 1 2 | | | | | | | | | 3 | 19 |
| N-16 A J098 | | 4 1 1 | | | 1 | | 8 | 1 | 1 2 | | 0 1 | | | | | 20 | |
| N-16 G J052 | | 1 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A D002 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D003 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A D004 | | 1 3 | | | 1 3 | 1 | 18 1 | | | | | | | | | 29 | |
| N-14 A D005 | | | | | 2 | | 2 | | | | | | | | | 4 | |
| N-14 A D006 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A D011 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D015 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D016 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A D020 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A D023 | | 2 | | | | 1 | 4 | | | | | | | | | 7 | |
| N-14 A D025 | | 2 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 4 | |
| N-14 A D026 | | 1 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A D028 | | 2 | | | | | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 7 | |
| N-14 A D030 | | | | | | | 1 | 6 | | | | | | | | 7 | |
| N-14 A D031 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D032 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D033 | | 1 1 | | | | | 2 1 | 3 | | | | | | | | 1 | 2 |
| N-14 A D035 | | 1 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A D036 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A D040 | | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A D047 | | 1 | | | | | | 3 | | | | | | | | 4 | |
| N-14 A D048 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D050 | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | 2 | |
| N-14 A D052 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D053 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A D054 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |

第397表 加曾利E期石器組成2

| 調査記号 | 地区 | 遺跡名 | 石器類 | | | | | | | | | | 計 |
|-------------|----|-----|-----|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| | | | 石器 | 石核 | 石片 | 石核・石片 | |
| N-14 A D056 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D060 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D061 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D064 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A D065 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D101 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D102 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D111 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D114 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D125 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D127 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D145 | | | | | | | | | | | | | 6 |
| N-14 A D152 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A D154 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A D155 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A D159 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D165 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| N-14 A D174 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D176 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D180 | | | | | | | | | | | | | 8 |
| N-14 A D181 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| N-14 A D182 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D187 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D188 | | | | | | | | | | | | | 4 |
| N-14 A D191 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D194 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D014 | | | | | | | | | | | | | 6 |
| N-14 A D029 | | | | | | | | | | | | | 3 |
| N-14 A D184 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 A D034 | | | | | | | | | | | | | 16 |
| N-14 A D143 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-14 A D168 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-14 C D012 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D038 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D040 | | | | 1 | 1 | | | | | | | | 2 |
| N-16 A D054 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D067 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D068 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 |
| N-16 A D072 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D077 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D078 | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D079 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D141 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D152 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D159 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 5 |
| N-16 A D162 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D166 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 |
| N-16 A D177 | | | | 1 | | 2 | 2 | | 1 | | | | 6 |
| N-16 A D178 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D189 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| N-16 A D204 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D214 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | 4 |
| N-16 A D216 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D223 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D224 | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | 4 |
| N-16 A D230 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D232 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| N-16 A D234 | | | | | | 1 | | 1 | | | | | 2 |
| N-16 A D243 | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| N-16 A D246 | | | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 4 |
| N-16 A D253 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | 2 |
| N-16 A D254 | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 4 |
| N-16 A D260 | | | | | | | | 3 | 1 | | | | 6 |

第398表 加曾利E期石器組成3

| 調査記号 | 地区 | 遺物名 | 石器 | | | | | | | | | | | | 片岩製石器 | 片岩製石器 | 計 |
|-------------|----|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----|----|-----|----|-------|----|----|----|----|----|-------|-------|----|
| | | | 石器・石器未製品 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | 石頭 | | | |
| N-16 A D261 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | 1 | 16 |
| N-16 A D272 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| N-16 A D277 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D278 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | |
| N-16 A D280 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D283 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| N-16 A D285 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D286 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D292 | | | 19 1 3 | | | | 3 8 | | 20 14 | | 2 | 1 | 1 | | | 2 | 74 |
| N-16 A D294 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D296 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D297 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 4 | |
| N-16 A D301 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | |
| N-16 A D305 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D308 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D311 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D315 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D324 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D326 | | | 3 | | | | 1 | | | | | | | | | 4 | |
| N-16 A D335 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D050 | | | 1 | | 2 | 3 | | 1 | | | | | | | | 5 | |
| N-16 A D188 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D005 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| N-16 A D006 | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | |
| N-16 A D114 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D076 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D161 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D229 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D293 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D049 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D073 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D130 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 A D165 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-16 H D086 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | |
| N-14 A P011 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | |
| N-14 A P013 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A P014 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A P020 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A P026 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A P033 | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | | | 4 | |
| N-14 A U003 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A U005 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A U006 | | | 3 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | 4 | |
| N-14 A U012 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A U017 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A U018 | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | 5 | |
| N-14 A U001 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A U008 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A U010 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 4 | |
| N-14 A U013 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | |
| N-14 A U014 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A U016 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-14 A U019 | | | 1 | | 2 | | | | | | 3 | | 1 | | | 7 | |
| N-14 A U023 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | |
| N-14 A U009 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| N-14 A T001 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 計 | | | 103 31 21 219 882 14 81 60 1 3 2 2 184 843 4 95 23 1966 155 2 48 91 1 92 88 11 1 4 2 2 1 2 2 14 149 | | | | | | | | | | | | | 5199 | |

第399表 加曾利E期石器組成4

| 調査記号 | 遺物名 | 遺物 | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-----|----|---------|----|----|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|---|---|----|-------|
| | | | 石器・石器玉類 | 石劍 | 石刀 | 石斧 | 石錐 | 石錐・石錐 | | | | | |
| N-14 A J055 | | | 2 | 2 | 3 | 6 | 1 | 5 | 3 | 2 | 1 | 23 | 5 | 1 | 1 | 4 | 7 | 5 | 71 |
| N-14 A D189 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 1 | 3 |
| N-14 A D166 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | 5 |
| N-14 A D149 | | | | | 1 | | | | | | | 4 | 2 | | 2 | 1 | | 10 | |
| N-14 A D150 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | | 2 | | 1 | 1 | | | 10 | |
| N-14 A D178 | | | | 1 | | | | | | | | 3 | | | | | | 4 | |
| N-14 A D123 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| N-14 A D135 | | | | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | 1 | 4 | |
| N-14 A D122 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 2 | |
| N-16 A D013 | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| N-16 A D167 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | |
| N-16 A D250 | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | 2 | |
| N-16 A D252 | | | 1 | | | | | | | | | 7 | | | | | 1 | 9 | |
| N-16 A D256 | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 2 | |
| N-16 A D287 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | | |
| N-16 A D015 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 3 | |
| N-16 A D031 | | | | 2 | | | | | | | | 5 | | 1 | | | | 8 | |
| N-16 A D043 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | |
| N-16 A D048 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | |
| N-16 A D063 | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | |
| N-16 H D111 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | |
| 計 | | | 2 | 2 | 4 | 13 | 4 | 1 | 7 | 10 | 2 | 1 | 52 | 10 | 1 | 5 | 8 | 16 | 9 147 |

第400表 称名寺期石器組成

| 調査記号 | 地区 | 遺物名 | 石器・石器未製品 | | | | | | | | | | | | | | | 片治製作面 | | 計 | | | | | | | | | | |
|------|----|-------|----------|----|------|------|---------|------|--------|------------|------------|-------|-----|----|--------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------------|-------|----|----|---|---|---|---|----|-----|
| | | | 石器 | 石器 | 複形石器 | 打製石斧 | 打製石器・関連 | 磨製石器 | 内核・多孔石 | 不規則断面のある断片 | 二次的剥離のある断片 | 石核・圓錐 | 磨片類 | 砂片 | 圓石・多孔石 | 石核・圓錐 | 石核・圓錐 | 研石・圓錐 | 骨頭の有無 | 不規則断面のある断片面 | 一次的剥離のある断片面 | 片治製作面 | 計 | | | | | | | |
| N-14 | A | J054 | 3 | 1 | 1 | | | | | 2 | | 7 | 2 | 1 | 17 | 3 | 5 | 3 | 2 | 15 | | 1 | 4 | 68 | | | | | | |
| N-16 | A | J002 | | 1 | 2 | | 4 | | | | | 5 | 1 | | 10 | 8 | 2 | 4 | 9 | 2 | | 1 | 1 | 50 | | | | | | |
| N-16 | A | J076 | | | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 8 | | | | | | | |
| N-16 | A | J020 | | 5 | | | | | | 1 | 3 | | | | | | | | 5 | | | 2 | 26 | | | | | | | |
| N-16 | E | J028 | 1 | 4 | 5 | 2 | 9 | 1 | | 1 | 25 | 7 | 3 | 7 | 4 | | | | 1 | | 2 | 72 | | | | | | | | |
| N-16 | F | J037 | | 3 | 1 | | | | | 8 | | | | | 20 | 7 | | | 1 | | 4 | 44 | | | | | | | | |
| N-16 | H | J043 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | |
| N-16 | H | J053 | | | 1 | 2 | 1 | | | | | | | 8 | 3 | | | | | 1 | | | 16 | | | | | | | |
| N-16 | H | J061 | | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 4 | | | | 21 | 4 | 3 | 3 | 5 | 3 | 1 | | 3 | 56 | | | | | | | |
| N-16 | H | J102 | | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | 1 | 3 | | | | | | | | 6 | | | | | | | |
| N-16 | H | J050 | | | | | | | | | | 1 | | | 6 | | | | | | | 1 | 8 | | | | | | | |
| N-16 | H | J040 | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| N-16 | H | J045 | | | | | | | | | | 1 | | 3 | 1 | 1 | | | 2 | | | 1 | 9 | | | | | | | |
| N-14 | A | D179 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-14 | A | D062 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-14 | A | D093 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-14 | A | D151 | 2 | 1 | | | | | | 2 | | | | 2 | 2 | | | | | | | | 9 | | | | | | | |
| N-14 | A | D070 | | 1 | | | | | | 3 | | | 1 | | | | | | 2 | | | | 7 | | | | | | | |
| N-14 | A | D139 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| N-14 | A | D141 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | A | D134 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | A | D127 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | 3 | | | | | | | |
| N-16 | A | D139 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | |
| N-16 | A | D146 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| N-16 | A | D153 | | | | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| N-16 | A | D228 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | A | D233 | | | | 1 | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| N-16 | A | D248 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| N-16 | A | D290 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | A | D306 | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | 1 | | | | | | | 5 | | | | | | | |
| N-16 | A | D322 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| N-16 | A | D333 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | A | D314 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| N-16 | A | D041 | | | | | | | | 1 | | | 5 | 1 | | | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| N-16 | H | D088 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | H | D094 | 1 | | | | | | | | | 2 | | 3 | 1 | | | | | | | | 7 | | | | | | | |
| N-16 | H | D100 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 0 | | | | | 1 | | | | 3 | | | | | | | |
| N-16 | H | D113 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | H | D096 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | H | D099 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | |
| N-16 | H | 4号配石器 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | | | | | | | |
| 計 | | | 4 | 1 | 3 | 4 | 26 | 2 | 1 | 13 | 2 | 4 | 4 | 55 | 3 | 2 | 3 | 154 | 46 | 10 | 13 | 27 | 39 | 3 | 2 | 2 | 1 | 1 | 25 | 450 |

第401表 堀之内期石器組成

| 調査記号 | 地区 | 遺物名 | 石器・石器未製品 | | | | | | | | | | | | | | | 片治製作面 | | 計 | | | |
|------|----|------|----------|----|------|------|---------|------|--------|------------|------------|-------|-----|----|--------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------------|-------|---|
| | | | 石器 | 石器 | 複形石器 | 打製石斧 | 打製石器・関連 | 磨製石器 | 内核・多孔石 | 不規則断面のある断片 | 二次的剥離のある断片 | 石核・圓錐 | 磨片類 | 砂片 | 圓石・多孔石 | 石核・圓錐 | 石核・圓錐 | 研石・圓錐 | 骨頭の有無 | 不規則断面のある断片面 | 一次的剥離のある断片面 | 片治製作面 | 計 |
| N-16 | H | J101 | | | | | | | | 1 | | 2 | 3 | 1 | | 1 | | | | | | | 8 |
| N-16 | H | D112 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| N-16 | A | 1号例石 | 1 | 1 | 9 | 1 | 3 | 1 | 1 | 8 | 1 | 21 | 4 | 2 | 1 | 10 | 6 | 1 | 1 | 7 | 79 | | |
| 計 | | | 1 | 1 | 9 | 1 | 4 | 1 | 1 | 10 | 1 | 24 | 6 | 2 | 1 | 11 | 6 | 1 | 1 | 7 | 89 | | |

第402表 加曾利B期石器組成

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑品質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|-----------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|-----|
| 石墨・未製品 | 16 | 2 | | | 29 | 9 | | | 4 | | 1 | | 18 |
| 打製石斧・関連 | | | | | 10 | 1 | | | | | 1 | 1 | 13 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | 2 | 82 | 1 | | | | 6 | | 91 |
| 磨石類 | | | | | | 18 | 21 | | | | | | 39 |
| 石皿・関連 | 16 | 2 | 0 | 0 | 41 | 110 | 22 | 0 | 4 | 0 | 8 | 1 | 204 |

第403表 有尾・黒浜期石材組成(36軒他)

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑品質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|-----------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|-----|
| 石墨・未製品 | 22 | 7 | | 5 | | | | | 1 | | | | 35 |
| 打製石斧・関連 | | | | 1 | 77 | 20 | 3 | 6 | 23 | 3 | 3 | | 136 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | 15 | 1 | | | | | 1 | 5 | 22 |
| 磨石類 | | | | | 10 | 186 | 1 | 1 | | | 5 | 1 | 204 |
| 石皿・関連 | 22 | 7 | 0 | 6 | 102 | 230 | 19 | 9 | 24 | 3 | 12 | 6 | 440 |

第404表 諸礪期石材組成(61軒他)

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑品質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|-----------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|---|
| 石墨・未製品 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 打製石斧・関連 | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | | 1 | | | | | | 0 | |
| 磨石類 | | | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| 石皿・関連 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 |

第405表 五領ヶ台期石材組成(0軒他)

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑品質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|-----------|---------------------------|------|------|-----|---------|----|-----|------|
| 石墨・未製品 | 92 | 7 | 1 | 2 | | | | | 1 | | | | 103 |
| 打製石斧・関連 | | | | | 553 | 140 | 2 | 2 | 148 | 20 | 12 | 5 | 882 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | 66 | | 1 | | | | 5 | 9 | 81 |
| 磨石類 | | | | | 8 | 137 | 1 | | | | 9 | | 155 |
| 石皿・関連 | 92 | 7 | 1 | 2 | 628 | 325 | 29 | 5 | 149 | 20 | 36 | 15 | 1309 |

第406表 加曾利E期石材組成(98軒他)

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑品質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|-----------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|----|
| 石墨・未製品 | 2 | | | | 1 | 8 | 3 | | | | 1 | | 2 |
| 打製石斧・関連 | | | | | | 2 | | | | | 2 | | 13 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | | | 8 | | | | 2 | | 4 |
| 磨石類 | | | | | | | 7 | | | | 2 | | 10 |
| 石皿・関連 | 2 | 0 | 0 | 1 | 10 | 18 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 3 | 45 |

第407表 称名寺期石材組成(1軒他)

| 堀之内期石材組成 (13軒他) | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----|------|------|-----------|---------------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|-----|
| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、 細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑晶質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
| 石躰・未製品 | 4 | | | | | | | | | | | | 4 |
| 打製石斧・関連 | | | | | 16 | 5 | | | 5 | | | | 26 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | 13 | | | | | | | | 13 |
| 磨石類 | | | | | 3 | 41 | 1 | | | | | 1 | 46 |
| 石皿・関連 | | | | | 32 | 4 | 1 | | | | 2 | | 39 |
| | 4 | 0 | 0 | 0 | 32 | 78 | 5 | 1 | 5 | 0 | 3 | 0 | 128 |

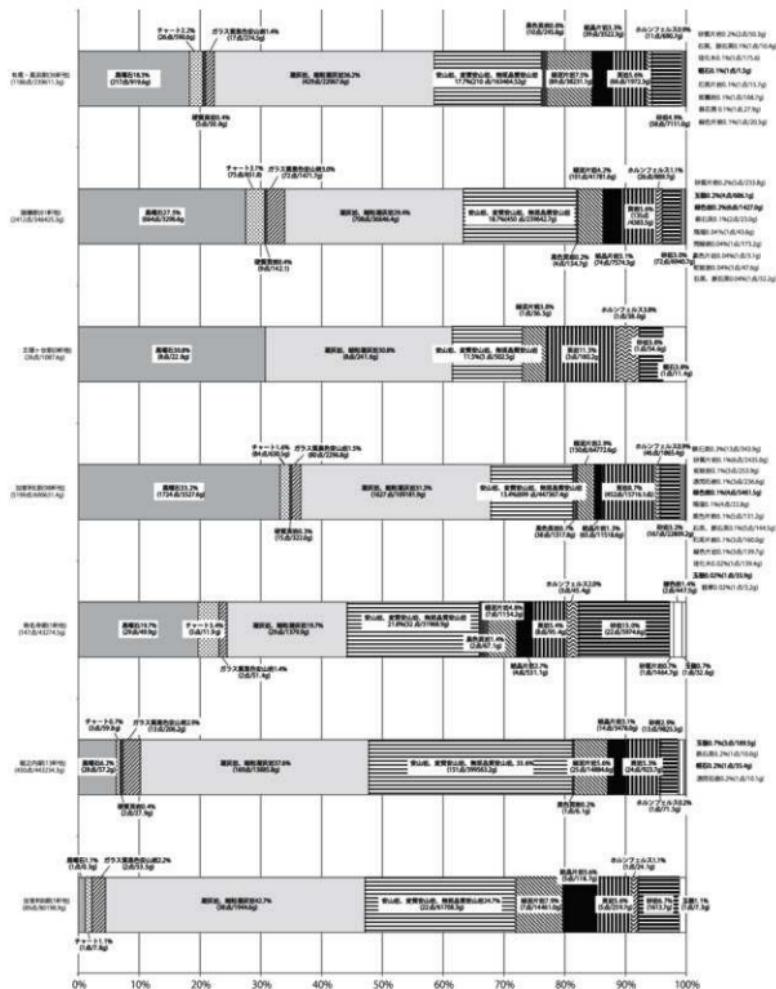
第408表 堀之内期石材組成 (13軒他)

| | 黒曜石 | チャート | 硬質頁岩 | ガラス質黑色安山岩 | 凝灰岩、 細粒凝灰岩 | 安山岩、 変質安山岩、 無斑晶質安山岩 | 縞状片岩 | 結晶片岩 | 頁岩 | ホルンフェルス | 砂岩 | その他 | 計 |
|---------|-----|------|------|-----------|---------------|---------------------------|------|------|----|---------|----|-----|----|
| 石躰・未製品 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 打製石斧・関連 | | | | | | 7 | 2 | | | | | | 9 |
| 磨製石斧・関連 | | | | | 4 | | | | | | | | 4 |
| 磨石類 | | | | | | 5 | 1 | | | | | | 6 |
| 石皿・関連 | | | | | | 6 | | | | | | | 6 |
| | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26 |

第409表 加曾利B期石材組成 (1軒他)

| | 有尾・黒浜期 | 諸磯期 | 加曾利E期 | 堀之内期 |
|---------|---------|------|-------|------|
| 石鎌・木製品 | 18 | 31 | 95 | 3 |
| | 36 | 61 | 98 | 13 |
| | 点数 / 軒数 | 0.50 | 0.51 | 0.97 |
| 打製石斧・関連 | 43 | 119 | 797 | 20 |
| | 36 | 61 | 98 | 13 |
| | 点数 / 軒数 | 1.19 | 1.95 | 8.13 |
| 磨製石斧・関連 | 13 | 19 | 71 | 12 |
| | 36 | 61 | 98 | 13 |
| | 点数 / 軒数 | 0.36 | 0.31 | 0.72 |
| 磨石類 | 91 | 187 | 114 | 38 |
| | 36 | 61 | 98 | 13 |
| | 点数 / 軒数 | 2.53 | 3.07 | 1.16 |
| 石皿・関連 | 39 | 39 | 73 | 34 |
| | 36 | 61 | 98 | 13 |
| | 点数 / 軒数 | 1.08 | 0.64 | 0.74 |

第410表 各時期の主要石器における住居1軒あたりの出土点数



第411表 各時期における石材利用比率

2 弥生時代

(1) 弥生時代の調査成果

弥生時代の遺構は二軒在家原田頭遺跡で確認された。等高線に沿うように、中期後半栗林式1～2式期を中心とした住居址が帶状に分布する。住居址の拡張や重複がほとんどみられない点や遺物の年代観から、短期間のうちに形成され廃絶または他地域に移動していった集落と考えられる。遺跡地周辺では小支谷を挟んだ対岸台地上において、本遺跡より若干新しいとみられる栗林2式を中心とした集落遺跡が展開する。なお、集落の内外を画する溝や土坑墓（再葬墓）などは確認されなかった。

遺物の多くは小破片であり、器種別の重量比率を求めた訳ではないが壺と壺で全体の9割近くを占める印象である。櫛描きによる横位沈線文と波状文（山形文）を交互に配す、沈線による区画内に刺突を配す、変形工字文を用いるなどといった栗林式期の中でも比較的古い様相を示す土器が、特定の住居址に偏るのではなく全体的にみられる。また、入り組み状の沈線区画に磨消繩文を配すものや、重三角文の内側に刺突を施すといった、栗林式以前に比定される特徴をもつ土器も散見される。さらに、土器の外面に櫛歯状工具による横位沈線文とストロークの短い簾状文を交互に配したり、口縁端部内面に櫛描きによる斜行短線文を施すといった北陸地方の小松式の特徴がみられる土器も一定量存在する。いずれも小片ばかりで全形を復元できるものはないが、近隣の弥生時代集落でもこれだけ多くの小松式（系）土器が確認された遺跡は少ないと思われる。

穀物の種子圧痕は観察の結果、イネ玄米1点、アワ有ふ果7点、キビ有ふ果1点を同定した。付着が確認された土器の中には栗林1式と考えられるものも含まれており、横野台地における稻作と雑穀栽培が当該時期まで遡りうる可能性を示唆する好資料である。

特殊な遺構として、Y-8号住の東壁に接する位置で検出された浅い土坑（D-1）から黒曜石の原石と剥片が集積された状態で検出された。調査時の印象としては土坑内に埋納したというより「まとめて置いた」という感じであった。住居址全体におけるY-8号住の黒曜石（剥片・製品含む）出土点数は突出して多い訳ではなく、むしろ周辺住居からの出土数の方が多い。遺構の性格としては、集落内で製作する黒曜石製石器の素材をデボ（集積）しておいた場所の可能性がある。

（壁・菅原）

(2) 二軒在家原田頭遺跡周辺の栗林式期集落

1. はじめに

二軒在家原田頭遺跡では弥生時代中期後半栗林式期を中心とした住居址を16棟検出した。遺跡地の中でも標高の高い「馬の背」部分に近く、さらに南側には小支谷（熊野沢川）が立地する緩い南傾斜において凡そ東西に広がるように展開している。住居同士の重複はほとんど見られず、一定の間隔を保つて配置されているように見える。出土遺物は栗林1～2式期のものがほぼすべてを占め、中には北陸の小松式、またはその影響を受けた特徴のある土器も一定量存在する。また、後述するように栗林式土器文化圈内の長野盆地産と考えられる緑色岩類製の「楓田型」磨製石斧の存在もあわせ、中部高地や北陸加賀地域からの影響が土器・石器の双方から看取される遺跡である。

本遺跡は遺跡群中において唯一の弥生時代集落である。周辺を概観すると、前述のとおり小河川の対岸約1km南東にある富岡市上高田社宮子原遺跡が栗林2式期を中心とした集落である以外、目立った集落址は見当たらない。しかし、少し広くみると本遺跡のある横野台地は比較的古い時期から弥生時代

の遺跡が確認できる地域である。次に先行調査を踏まえこれら台地周辺の遺跡を概観することで、改めて本遺跡の特色について考えてみたい。

2. 横野台地周辺の弥生時代遺跡

本市における弥生時代の遺跡については、その大局が若狭徹によってまとめられている（若狭2001）。地域的特徴と照らし合わせると、前期から中期前半（I～III期）は台地や丘陵上を中心に展開し、中期後半（IV期）以降は低地近くまで分布域を拡大する。その中で、ほぼすべての時期を通して横野台地は遺跡分布の中心となっている。次に、当該時期の遺構が確認された主な遺跡（住居址）を下図に示した。なお、これ以外にも同時期の遺物が出土した遺跡は存在するが、遺構・遺物の双方が確認されているものに限定した。以下、各遺跡の立地や遺構・出土遺物の特徴について概略を記す。

①二軒在家原田頭遺跡

立地：台地上の東西に貫流する小支谷の源頭部にある。南側の谷地との比高差は約7mで、対岸の台地は遺跡地よりもやや高い。住居址は南向き緩斜面にあり、東西100m×南北30m程度の範囲にあまり重複せず帶状に並ぶ。

住居形態：楕円形のものが多いが、おおむね隅丸方形を意識しているようである。壁周溝は約半数で確認されたが、ほぼすべてに伴うと考えられる。主柱穴は4基を基本とする。炉は各柱穴を結んだ内側、住居の中央付近に設けるものが多い。

出土遺物：土器は壺と甕が大半を占め、やや後者が多い印象がある。異系統土器と思われるものは主に小松式（系）と想定され、16棟中6棟で1～数点ずつ確認されている。特定の遺構に極端に偏るような傾向はみられない。石器については後述の論稿を参照されたい。



- ①二軒在家原田頭遺跡（16棟） ②国衙地区遺跡群（2棟） ③小日向遠地谷戸遺跡（2棟） ④長谷津遺跡（10棟）
⑤大王寺遺跡（2棟？） ⑥上高田社宮子原遺跡（29棟） ⑦古立東山遺跡（9棟）

第1046図 二軒在家原田頭遺跡周辺における主な栗林式期集落の分布

②国衙地区遺跡群（国衙朝日・下辻遺跡）

立地：（朝日遺跡）九十九川とその支流に挟まれた丘陵の端部にある。遺跡地周辺は緩やかな南傾斜である。（下辻遺跡）朝日遺跡の南約 600 m の丘陵末端にある。東側は浸食され段丘崖となっており、現河床との比高差は約 13 m である。住居址は南向き緩斜面にある。

住居形態：隅丸長方形か。壁周溝と炉は確認されていない。主柱穴は 4 基と思われる。

出土遺物：栗林 2 式の壺・甕がある。また、顕著な使用痕のある安山岩製の砥石と、緑色岩類製の独鉛石状石器（長さ 17.7cm × 幅 4.4cm × 厚さ 3.0cm）が共伴する。

③小日向遠地谷戸遺跡

立地：九十九川を南に臨む中位段丘端部の南向き緩斜面にある。現河床との比高差は約 10 m である。

住居形態：長方形か。主柱穴は 4 基と思われる。

出土遺物：栗林 2 式期の壺・甕がある。

④長谷津遺跡

立地：台地北縁の南向き緩斜面にある。北側の段丘崖下との比高差は約 40 m、南から東側は小河川による谷が徐々に深くなりながら崖下に接続する。住居址は遺跡地の中でも高所にあり、東西南北ともに約 60 m の範囲で環状に分布する。住居同士の重複はみられない。

住居形態：隅丸（長）方形で、壁周溝は 1 棟で確認された。主柱穴は 4 基で炉は住居の中央部に設けられるものが多い。

出土遺物：栗林 1 ~ 2 式期の壺や甕、坏など多種にわたる。また、栗林式以前のものも散見される。石器は石鎌や珪質頁岩製磨製石斧などがある。

⑤大王寺遺跡

立地：碓氷川南岸の段丘上にある。河床との比高差は約 30 m だが、同河川からは比較的離れており周辺は平坦である。一方、柳瀬川の南にひかる横野台地上面との差は約 40 m を測る。住居址は北向き緩斜面にある。

住居形態：隅丸（長）方形で、壁周溝は全周すると思われる。主柱穴は不明だが、炉はこれより外側に設けられていたと考えられる。

出土遺物：栗林 2 式期の壺と甕、石鎌、玄武岩製の磨製石斧（片刃）がある。

⑥上高田社宮子原遺跡

立地：北側を流れる熊野沢川が北西に大きく蛇行する、台地の端部にある。西側以外の三方は谷地に面している。河床との比高差は約 15 m を測る。住居址は南向き緩斜面上にあり、東西南北とも約 140 m の範囲において南東～北西方向に帶状に展開する。住居同士の重複はみられない。

住居形態：隅丸方形を基調とするものが大半を占める。壁周溝は 29 棟中 6 棟、炉はほぼすべての住居址で確認された。住居中央に設けるものが多い。主柱穴は 4 基と考えられるのが 26 棟、残りは 6 基と想定される。

出土遺物：壺や甕、坏など多種にわたる。栗林 2 式が中心だが、1 式やそれ以前に遡るもの、また 3 式に下ると考えられるものも見られる。特殊な例として双口壺（2 式）、土製匙などがある。北陸系、南関東系の土器も若干存在する。石器では石包丁や石鎌、緑色岩類製の「梗田型」磨製石斧を転用した石鎌、独鉛石状石器がある。

②古立東山遺跡

立地：妙義山から連なる丘陵の端部にあり、周辺は高田川に注ぐ小河川によって入り組んだ谷地が形成される。住居址はわずかな平坦面から北向き緩斜面にかけて認められる。住居同士の重複は少ない。

住居形態：隅丸長方形のものが多い。主柱穴は4基程度と思われ、炉は住居中央部、南北に偏るものがある。壁周溝は確認されていない。

出土遺物：壺・甕などがある。栗林式期が主だが、それ以前と考えられるものもある。石器は銅戈を模倣した石製品のほか、勾玉製作に用いられたと思われる砥石、石鎌などがある。「榎田型」磨製石斧は複数出土しているが、いずれも蛇紋岩製とみられる。

3.まとめにかえて

横野台地周辺における栗林1～2式期の集落址について、二軒在家原田頭遺跡を中心に概観してきた。ここで各遺跡間における共通点と相違点を幾つか挙げておきたい。まず遺跡の立地をみると、本遺跡をはじめ大半の遺跡が河川または一段下の段丘面から数十mの比高差がある「崖」の上に位置する。一方、河床面との比高差が比較的小さい中～下位段丘では遺跡の確認例は少ない傾向にある¹。前者では集落の周囲が谷などで隔てられ「閉じられた」環境にあるものが多い。本遺跡も、南北がそれぞれ崖と谷により分けられる点は共通する。なお、集落を囲む環濠や墓域は確認されていない²。

住居の配置については比較しうる資料が少ないので、上高田社宮子原遺跡と本遺跡は地形に沿うようにそれぞれ北西～南東、東西方向に帯状に並ぶ。長谷津遺跡は環状とみられるが、各住居が一定の距離を保つようにつくられ、かつ重複が少ない点、住居形態は隅丸方形～楕円形のものが普遍的にみられる点は共通する。また、栗林式期の集落は多くの遺跡で短期間のうちに終焉(移動?)する傾向があるようだ。

次に遺物をみると、出土量の多少はあるものの土器の器種組成には大差がないように思われる。石器についてはほとんどの遺跡から、栗林式土器文化圏に通有な「榎田型」磨製石斧が出土おり、その多くは緑色岩類製の搬入品と考えられる。また、古立東山遺跡の「銅戈形」石製品の存在も北信地域の影響を色濃く反映しており、各遺跡間で栗林式文化の受容度が異なることが分かる。二軒在家原田頭遺跡のような栗林1式期を中心とした集落の確認例はまだ少ないが、栗林式、また小松式のような日本海側の文化がどのように受容され、継承・変質していくのか、今後の資料増加を期待したい。
(菅原・壁)

註1　ただし、明確な住居址の確認例は少ないものの栗林式別の遺物は散見される。繰り返しになるが、本市全域（碓氷川流域）では弥生時代前期から中期にかけての遺跡は横野台地上にあるものが圧倒的に多く、中期から後期へ時期が下るにつれ下位段丘や対岸の台地に拡散・移動していく傾向がある。

註2　長谷津遺跡の報文では、その立地について「遺跡地は防護機能を意識した集落適地と捉えることも可能であろう」と述べている。弥生中期の集落に限定しての言ではないが、同様の立地が多くみられる背景を考えるとまったく無関係ではないだろう。

参考文献（※各報告書は紙面の都合上削愛した）

小松市・小松市教育委員会 2016『フォーラム・小松式土器の時代Ⅱ 小松発・北陸新幹線ルートの弥生文化を探る』報告資料

埼玉考古学会 2003『シンポジウム 北島式土器とその時代 一弥生時代の新展開一』

池澤正史 2009『新潟県出土の栗林式土器』『新潟県の考古学Ⅱ』

若狭徹 2001『安中市における弥生時代の概観』『安中市史第四巻 原始古代中世資料編』

(3) 二軒在家原田頭遺跡の弥生時代石器群

1. 石器の出土概要

石器は住居址覆土中及びその周辺で 383 点（搬入礫 2 点含む）が出土した。住居址から出土したものは状況から判断して廃棄によるものである。また、黒曜石が 23 点集積された遺構（ピット）が 1 か所、Y-15 号内土坑では原石を含む 4 点の黒曜石が出土した。この両遺構は黒曜石の保管場所（キャッシュ）であった可能性がある。石器群の特徴は黒曜石の原石・石核の搬入によって石鎚などの石器製作および他石材による剥片石器の製作、道具として石器が主体的であった器種組成を示している。なお、礫は安山岩を主体として砂岩、結晶片岩など 43 点が出土した。

各遺構で石器を集計した結果では、Y-2、7 号住居址以外で出土した。各住居別での出土状況は石器点数 10 点以下が 6 棟、11 点以上は 9 棟である。特に Y-14、16 号住居址の 2 棟では、多数の石器が出土した。石材別では黒曜石が全ての住居址で出土し、他石材の器種については住居ごとに偏りが認められた。同一規格の大きさをもつスクレイパー B 類（横刃形石器を含む）は、Y-16 号住居址で多数出土した。石鎚は 6 棟で出土し、石錐、スクレイパー A 類、楔形石器等の出土は少ない。黒曜石の原石は集積遺構を除き 6 棟の住居址から出土し、石核を含めると 12 棟で出土した。石鎚は 8 棟から 12 点が出土した。縄文時代からの伝統を引き継ぐ打製石斧は 2 棟から出土した。B 類剥片は石器製作による碎片と素材剥片としての搬入に分類され、後者が多かった。その他、県内において時期が判別できるもので最も古い大陸系磨製石器の太形蛤刃遺跡の完形品と破片が Y-14 号住居址から出土した。また、大小の管玉、メノウ原石などの石製品が出土した。

出土した石器の時期は遺構内（住居覆土）で弥生土器と共に伴し、遺構付近では縄文土器の混入が少ないとから、土器の年代と同時期で一括性が高いと考えられる。石器群の時期は神保富士塚式期（弥生 III-3 期）から栗林 1 式期（弥生 IV-1 期）に相当する中期中葉に帰属するものと判断される。

2. 器種系列組成

出土した石器 383 点はそれぞれ系列別に分類すると、A 類（押圧剥離系列の石器）が石器 28 点、原石・石核 48 点、剥片類 208 点である。B 類（直接打撃系列の石器）は石器 39 点、石核 5 点、剥片類 36 点である。A 類と B 類を主体とする石器群で、石材によって道具を使い分けて使用している。他の系列は少なく、C 類（形状選択系・使用痕系の石器）9 点、E 類（直接打撃・敲打・研磨等の複合技術による機能系の石器・石製品）2 点、F 類（複合技術による非機能系の石製品）7 点である。D 類（非機能系の石製品）は認められなかった。

A 類石器は黒曜石を石材として石鎚の製作を中心としており、石鎚未成品、石鎚素材となる楔形石器（素材）とスクレイパー類が組成する。原石・石核からの製作が認められる。黒色安山岩は石器製作が行われているが主体とはならず、錐、スクレイパーなどで黒曜石製とは別の形態をもつ器種が組成する。その他石器は全て搬入品である。

B 類石器はスクレイパー類と石鎚・打製石斧が主体である。剥片類はこれら両器種の石器素材となり得る大きさのものが多い。石器製作に伴う調整剥片、碎片類などは少ない。剥片類は石器素材として遺跡に搬入されたものに二次加工を施す石器製作が想定される。

C 類石器は食物加工具と石器製作等の工具に分類されるが、本遺跡では両器種とともに組成率が低い。

Y-14号住居址では床面で石皿、台石が出土した。

E類はY-14号住居址から大陸系磨製石器である大型蛤刃石斧が2点出土した。他の器種は出土しなかった。

F類は住居址から碧玉製の管玉、メノウの原石、軽石が出土した。

本石器群の特徴は黒曜石製の石器と遺跡内に原石を搬入して石器製作を活発に行っている点、斧形石器と大形スクレイパーといった農耕に関連する石器が多い点。また、遺跡内で打製石器の製作が行われている点、そして、他地域から搬入された弥生文化の波及を示す大陸系磨製石器、非在地石材（緑色の碧玉製）の管玉が存在する点である。こうした石器群は、縄文的石器群から水田農耕が本格化する弥生的石器群への移行期を示すものと言えよう。

3. 石材組成

出土した石器は石材の種類によって黒曜石石器群、黒色安山岩石器群、在地石材石器群の3群に大別できる。

石材は肉眼観察、石質により15種類に分類した。組成数では黒曜石、黒色安山岩、安山岩頁岩がほとんどを占め、他の石材は僅かである。各石材の特徴をみると、黒曜石は黒色透明で球顆が少なく不純物の少ない良質なものが多い。黒曜石の産地分析を行った結果、全点が諏訪系（星ヶ台群）であった（詳細は付編の高瀬論稿、黒曜石製石器産地推定結果を参照）。これは同時期における周辺遺跡（長野県佐久地域）の様相と一致しており、諏訪系の黒曜石が群馬県まで流通していた証拠となった。

黒色安山岩は灰白色のガラス鉱物が混入した硬質の石材で、本遺跡周辺では八風山周辺に産出地が求められ、鏗川流域に転石が分布する。石器石材として弥生時代に多用され、縄文時代の選択性とは対照的である。粗粒の安山岩は在地石材として碓氷川流域を中心として分布する。弥生時代では石鍛・打製石斧、スクレイパーとして多用される。安山岩系のグループに分類される緑色凝灰岩は縄文時代には選択されない石材であるが、弥生時代では石鍛あるいはスクレイパーとして使用する。産出地は群馬県南西部の南牧村周辺に分布する。

頁岩は鏗川流域（下仁田泥岩）と利根川流域等に分布する在地石材である。砂岩は群馬県南西部、高崎市吉井町の牛伏山周辺に分布する「牛伏砂岩」と呼ばれる赤褐色の石材である。粒子の粗さから主に砥石の石材として使用される。緑色岩類は2種類存在し、在地のものと輝緑岩に分類される。在地の緑色岩類は下仁田町の鏗川流域に分布するもので、縄文時代の磨製石斧と同一石材である。輝緑岩は弥生時代の石器のみに使用される緻密、重量のある石材で、長野市千曲川流域に分布する「櫻田型」磨製石斧の石材と同一である。メノウは茨城県久慈川流域に産出地が分布するが、鏗川流域において類似する石材が分布することから在地の可能性も考えられる。

石器石材の入手には縄文時代と同様、黒曜石等の非在地石材と遺跡周辺で採取可能な在地石材の2つの入手方法が存在し、用途に応じた器種（道具）によって石材を選択し、原石を持ち込んでの石器製作及び石器の搬入・使用が認められる。非在地石材の入手には原石の入手及び製品あるいは半製品が多いことから、他地域（黒曜石の場合、長野県の産出地及びその周辺部）との関係をもった石材流通、石器生産のそれぞれのシステムが存在した可能性が考えられる。

4. 石器各説

本報告では石材によって黒曜石器群、黒色安山岩石器群、在地石材石器群の3群に分類して各器種の特徴を述べる。なお、石器及び石材分類は安中市の報告で用いている縄文時代の分類基準をもとに、弥生時代に援用させた（大工原 1993 他、井上 2014 他）。

A類石器（第 1047～1052 図 1～78）

黒曜石器群について

石器石材である原石、素材を作出する石核、石器素材となる剥片類と調整剥片、製作された石鏃と石鏃製作工程で作出された素材をもとにしたスクレイバー類に分類される。

石器製作工程は次のとおりである。

「ズリ状の小形原石をそのまま潰すように打撃を加え、分割または剥片を剥離し、石核が生じる（一次剥離工程。この工程を繰り返して石核が消費され、残核となる）」→「両極剥離をもつ剥片あるいは小形不定形剥片が多数作出される（二次剥離工程）」→「石鏃素材に適した素材（矩形小形剥片、楔状剥片等）を選択する。また、不定形剥片はスクレイバー類等他の器種に利用される（器種製作調整加工の工程）」→「完成、他地域へ搬出、使用、廃棄」。

黒色安山岩製石器について

黒曜石に次いで石器に多く使用される石材で、スクレイバー類が主体となる。石核と剥片類が出土していることから、同石材による石器製作が認められた。剥片類は直接打撃によって一次剥離による大形の素材剥片は少なく、二次加工による微細あるいは小形の調整剥片が多い。

石鏃（第 1047 図 1～4）

黒曜石製 3 点、硬質頁岩 1 点の 4 点である。平基有茎式 1 点、凹基有茎式 2 点、凸基式 1 点に分類される。1 は、他地域からの搬入品であり、2 と 3 は遺跡内で製作されたものである。4 は、欠損するが、大形の石槍状と推定される。石鏃調整は粗雑な押圧剥離を主体とする。形態は縄文時代晩期からの系譜をもつもので、弥生時代中期初頭にみられる基部の抉り部が浅く、茎部の突出が低い「横間栗型」（2）が認められる。

石鏃未成品（第 1047 図 5～8）

4 点全て黒曜石である。三角形あるいは貝殻状の剥片を素材を片側から荒い押圧剥離によって成形し、最後に基部の調整を施して茎を作出する。出土した 4 点は、調整過程で折れてしまったもの、あるいは石鏃の厚さを調整で除去しきれないために廃棄されたと考えられる。

楔形石器（第 1047 図 9～12）

剥片の両端に潰れ状の細かい剥離痕（両極剥離）が観察されるもので、4 点出土した。全て黒曜石製である。楔として利用された可能性があるが、表面に自然面が残ることと小形剥片であることから両極剥離技法による石器素材の作出が存在した可能性が考えられる。

黒曜石製スクレイバー A類（第 1047 図 13～20）

7 点出土した。I a 形態（精緻な押圧剥離調整）1 点、III 形態（調整または使用による微細剥離痕）6 点である。III 形態は、石鏃製作工程で作出された小形剥片不定形剥片を素材としている。鋭利な刃部をもつ形状をそのまま素材としているため、精緻な調整は施されたものは少ない。

二次加工・使用痕ある剥片（第 1047 図 21・22）

3 点全て黒曜石である。小形剥片の一端に微細剥離痕が観察された石器である。

黒曜石原石（第 1048～1050 図 23～55）

黒曜石集積遺構（ピット）21 点、Y-15 号内土坑 3 点、住居址 8 点が出土した。原石の石質は、黒色透明で不純物、球願が少なく良質である。産地分析を行った結果、全て諏訪系（星ヶ台群）である。原石の大きさは重量 10～66 g（平均 23.7 g）、最大長 2.9～9.0 cm（平均 4.7cm）である。形状は、露頭を打ち欠いた大形の塊ではなく、自然面に覆われた小・中形のズリ状が主体である。

黒曜石の石核（第 1051 図 56～68）

13 点出土した。原石を分割あるいはそのまま利用して剥片を剥離する石核と剥離面に覆われた賽子状あるいは多面体で不定形となる石核に分類できる。石核から作出される形状は、小形であるため素材となるものは少ない。直接打撃による剥離が主体である。

石槍状石器（第 1051 図 69）

1 点出土した。黒色安山岩である。両面を粗雑な直接打撃調整によって石槍状に調整したものだが、尖端部は作出されていないが、形状から石槍状石器（刺突具）と判断した。

石錐（第 1051 図 70）

1 点出土した。黒色安山岩である。自然面を残す不定形剥片の 2 辺が突出する部分を調整し、尖端部が作出される。尖端部には微細剥離痕が観察される。

黒色安山岩製スクレイパー A 類（第 1052 図 71～74）

4 点出土した。Ⅱ 形態（直接打撃調整）1 点、Ⅲ 形態 3 点である。不定形剥片を素材に粗雑な直接打撃により調整されている。素材の形状をそのまま生かして使用され、縁辺部には微細剥離痕が観察される。72 の片面には、磨滅痕が観察される。

黒色安山岩の石核（第 1052 図 75～78）

4 点出土した。複数の剥離面に覆われた厚手の剥片が素材である。縁辺部が潰れて小さい剥離面で覆われているものは、中期前半にみられるもので敲石の可能性が考えられる（77）。

B 類石器（第 1053～1057 図 79～121）

在地石材石器群について

在地石材である安山岩と頁岩を利用したスクレイパー類と石鎌（打製斧形石器）を主体とする。縄文時代とは異なり、頁岩より安山岩を石材とする傾向がある。

石鎌（第 1053～1054 図 79～90）

形態的には打製石斧（打製斧形石斧）に類似するもので 11 点出土した。形態的には打製石斧と類似する。素材により自然面+剥離面（楕円礫）の a 類（79～84）と両面とも自然面（扁平礫）の b 類（85～90）に分類し、さらに基部形状が平坦（79、80、82、85、87～90）と尖端（81、84、86）に細分した。石鎌の形態は、器体中央で肩が張り、刃部が幅広で平刃、円刃となるもの（バチ形）、側縁が並行または開き気味となり、刃部が平刃となるもの（短冊形）に分類され、前者の形態が石鎌の特徴を示している。製作方法は、縁辺部のみに調整を施すものと裏面を中心して厚みを除去するために深く調整を施す 2 種類が認められる。調整は縁辺部に対して交互の直接打撃を施す。打面は縄文時代の打製石斧にみられる潰れ状とは異なり、線状（稜線状）となる。刃部には磨滅痕が観察されるものが認められる。

大形の2点(81・84)は、使用痕(磨滅痕)が無く、刃部が形成されていないため未成品の可能性がある。79の側縁には装着部と推定される抉りが各2か所作出されている。石材は82の緑色岩類以外は、全点在地の安山岩である。

打製石斧（第1054図 91・92）

2点出土した。91は、中央が括れ、縄文時代の分銅形（Ⅲ形態）に類似するが、刃部が幅広で細身であることから、出土状況と土器との共伴関係から弥生時代に帰属すると判断した。92は、両面加工で刃部両面に磨滅痕が観察される。基部の剥離面から判断して欠損したものと考えられる。2点とも石鎚に比べ小形であり、打製石斧と形態が類似する点や石材が頁岩であることから、石鎚とは対照的である。こうした打製石斧は、縄文時代に帰属する器種として混入扱いされていたが、中期中葉まで石鎚と共に伴関係する可能性が考えられる。

石鎚・打製石斧素材（第1054図 93・94）

2点出土した。93は角礫状の頁岩で、交互剥離によって片側のみ両面調整を施しているが、製作途中で廃棄された素材である。素材の厚さから石鎚製作以外を目的とした可能性があるが、推定できる器種は不明である。94は、板状の安山岩で形状が両自然面の石鎚に類似することから素材と認識した。側縁部に調整を施すことによって石鎚となると考えられる。

スクレイバーB類（第1055～1057図 95～117）

スクレイバーB類は、大きさと形状によって横刃形石器（中形と大形に細分）14点と小形スクレイバー（刃器状石器）9点に大別した。なお、本器種の機能・用途を解明するために23点の使用痕分析を行なった結果、4点について明確な使用痕が確認された。分析結果については、別稿の高瀬克範氏の報告を参照されたい。

中形横刃形石器（第1055図 95～98）

3点出土した。自然面を残す幅広・縦長剥片を素材としたもので、素材の形状をそのまま生かして使用している。縁辺部に微細の剥離痕が観察される。石材には安山岩と頁岩が利用されている。

大形横刃形石器（第1055～1056図 99～108）

形態的には大形打製石包丁に分類されるもので10点出土した。背面に自然面を残す幅広・横長剥片を素材としたもので、素材の形状をそのまま生かして使用している。打面付近に器体の厚みを整える調整が施される。また、刃部には直接打撃による連続する剥離痕が観察される（使用痕あるいは調整痕）。使用痕は石材の性質上不明である。Y-16号住居址では、同形態が5点まとめて出土した。石材は安山岩を主体とする。108は頁岩製で両面加工が施されたもので両側縁に微細剥離痕が観察される。

小形スクレイバー（第1057図 109～117）

9出土した。不定形剥片を素材としたものが主体で、調整を施すものは少なく、素材の形状をそのまま生かして使用している。縁辺部に微細剥離痕が観察される。117は、直接打撃による両刃となる形態で、器体にスス状の付着物がある。この形態には頁岩製が多いのが特徴である。

石核B類（第1057図 118～121）

4点出土した。小形剥片を剥離した残核状で、縁辺に微細剥離痕が観察され、石核自体が敲石等の石器素材の可能性があるもの（118～120）、原石状のもの（121）に分類される。全て頁岩である。

C類石器（第 1058 図 122～130）

凹石（第 1058 図 122）

磨石の片面に凹みのあるものが 1 点出土した。122 は、安山岩の円礫素材で、周辺部と平坦部に敲打と磨り状の使用痕が観察される。磨り面には小さな凹みが多数観察される。

磨石（第 1058 図 123～125）

3 点出土した。安山岩の自然礫で平坦面には磨り状の使用痕が観察される。125 は、頁岩を石材とし、全面に磨り痕が観察され、ミガキ石（土器研磨具）に類似する。

敲石（第 1058 図 126）

黒色安山岩製が 1 点出土した。石核とは異なり剥片剥離によるものではない縁辺部の敲打による潰れが観察される。この形態は、中期前葉に多くみられる。

砥石（第 1058 図 127）

牛伏砂岩製の荒砥が 1 点出土した。方形扁平で縁辺部に研磨痕が観察され、小さい抉りがある。

石皿・台石（第 1058 図 128～130）

3 点出土した。両器種は作業台か食物加工といった用途で区別されるが、使用による差を素材の形状では厳密には分類できないため、ここでは両器種で報告する。128 は、三角形の安山岩自然礫で平坦面に使用痕が観察された。129 は、平坦面に凹みが 1 か所観察された。130 は、使用痕は観察されなかったため、分類上では搬入礫としたが、作業台に適した平坦面があることから、石皿あるいは台石であった可能性が考えられる。

E類石器（第 1059 図 131・132）

磨製石斧（第 1059 図 131・132）

輝緑岩製の太形蛤刃石斧が 2 点出土した。131 は完形品で、成形伴う敲打痕が残る。器体全面は、丁寧な研磨が施されている。基部には二次的剥離痕がある。132 は、欠損部分である。破片の大きさから推定して、通常サイズより大形であった可能性がある。2 点とも栗林式土器文化圏に分布の中心をもつ「榎田型」石斧に分類される。

F類石器（第 1059 図 133～140）

管玉（第 1059 図 133・134）

3 軒の住居址から各 1 点出土した（完形 2 点、欠損 1 点）。133 と 134 は、大きさが異なるが規格は同一である。134 の大形管玉は、中期中葉（Ⅲ期）の墓坑（再葬墓等）から出土するものに類似する。全点石材は、非在地の深緑色をした碧玉に類似する。県内では、この頃の玉生産は在地では行われていないため、他地域からの搬入品と考えられる。

原石（第 1059 図 135～140）

軽石 1 点、メノウ原石 4 点、搬入礫 2 点（1 点は石皿・台石の可能性）が出土した。何らかの目的で搬入されたものだが、用途は不明である。メノウには剥離痕が観察されるが自然衝撃あるいは人為的にによるものかは判断がつかない。

5. 二軒在家原田頭遺跡における弥生時代中期中葉の石器群

本遺跡では、栗林1式期併行期の集落が確認され、農耕開始期における石器群の特徴が明らかとなつた。そこで本遺跡の特徴から、課題を整理し、まとめとしたい。

横野台地では、農耕開始期（前期末から中期前葉）の集落、墓域等が多数分布しており、遺跡群を形成している。中期の石器群については、集落遺跡が少ないため、様相についてはあまり分かっていない。黒曜石の流通及び石器石材としての利用は、これまで中期前葉の中野谷原遺跡で確認されていたが、当地域においても栗林1式期まで黒曜石を利用していたことが明らかとなった。しかし、栗林2式期以降は、黒曜石の利用はみられなくなり、県内では中期に画期が存在するものと考えられる。中期後半以降は、縄文系は斧形石器と剥片石器（スクレイバー）が主体を占めるようになり、他の器種は次第に衰退し、一部の石器に限定されるようになる。これは、本格的な水田稻作を主体とする農耕に対応した石器群となる転換期と重なっている。弥生時代における黒曜石は、遺跡内出土資料の産地分析によって諏訪系（星ヶ台群）にはほぼ限定される傾向がある。これまでの調査によって、群馬県では、栗林1式期まで黒曜石の利用が認められるが、県境にある長野県佐久平地域では、栗林2式頃まで利用が認められている点で地域による時期差が存在する可能性がある。

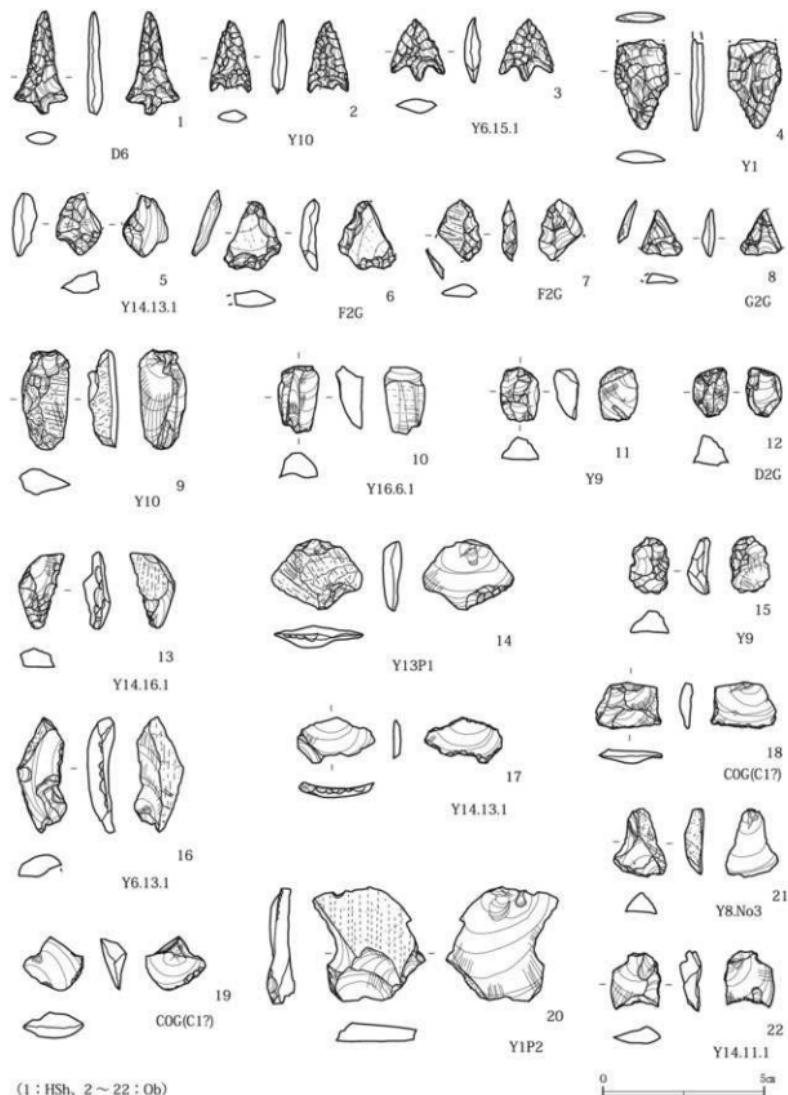
以上、本石器群の課題は次のようにまとめられる。

- ①本石器群は、農耕開始期で特徴的な斧形石器と大形剥片石器に加えて、黒曜石を使用した石器製作も行われており、縄文系石器群の伝統が残っている。一方で、大陸系磨製石器、他地域で製作された玉類といった弥生系石器も共存することが明らかとなった。県内では空白期であった栗林1式期の石器群の様相や県内における大陸系磨製石器の波及時期が明らかとなったのは、石器編年を検討する上で極めて重要な発見である。
- ②黒曜石では、石鏃を製作することを目的とし、原石から完成に至るまでの石器製作システムが存在する。小形素材を打ち割り、楔状あるいは貝殻状の小形剥片を石鏃素材として凹基有茎鏃を製作する技術が存在する。これは、小形の原石を効率よく消費しての製作である。
- ③出土した黒曜石の一部を螢光X線分析によって産地分析した結果、全て諏訪系（星ヶ台群）であることが判明した。分析以外の資料も肉眼観察による個体別分析により、同一地域の黒曜石である可能がある。
- ④石器群の組成から、狩猟活動を反映する石鏃、農耕に使用された土掘り具としての斧形石器や除草・収穫の可能性がある大形剥片石器といった農耕具といった生業活動あるいは日常的に使用される道具のほとんどに石器を使用している段階である。この点は使用痕分析の結果からも裏付けられる。

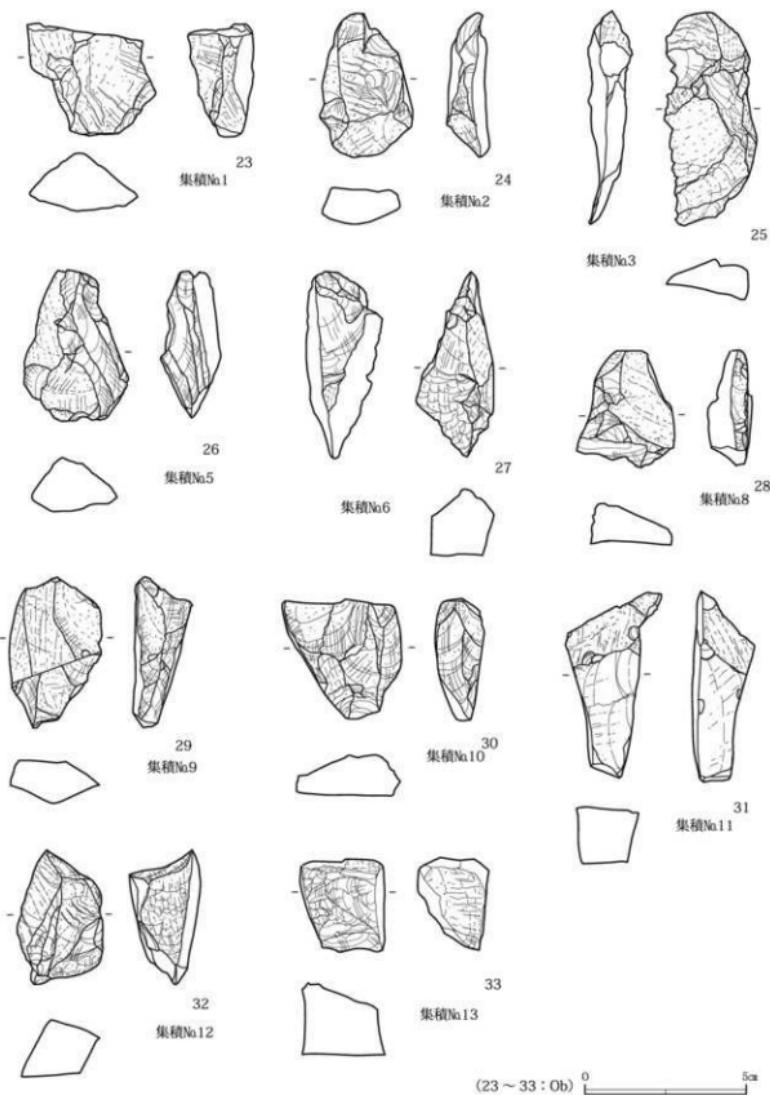
以上、本遺跡の石器群は、縄文時代の伝統を引き継ぐ石器群を主体とする点では、畑作を中心とする前期末～中期前半の初期農耕段階における石器組成を示している。しかし、大陸系磨製石器である太形蛤刃石斧の組成は、この地域において水田稻作農耕の波及を反映した可能性が考えられる。

本石器群は、本格化する農耕社会に適応していく新たな弥生時代における石器文化の構築を経る移行期段階として注目される。

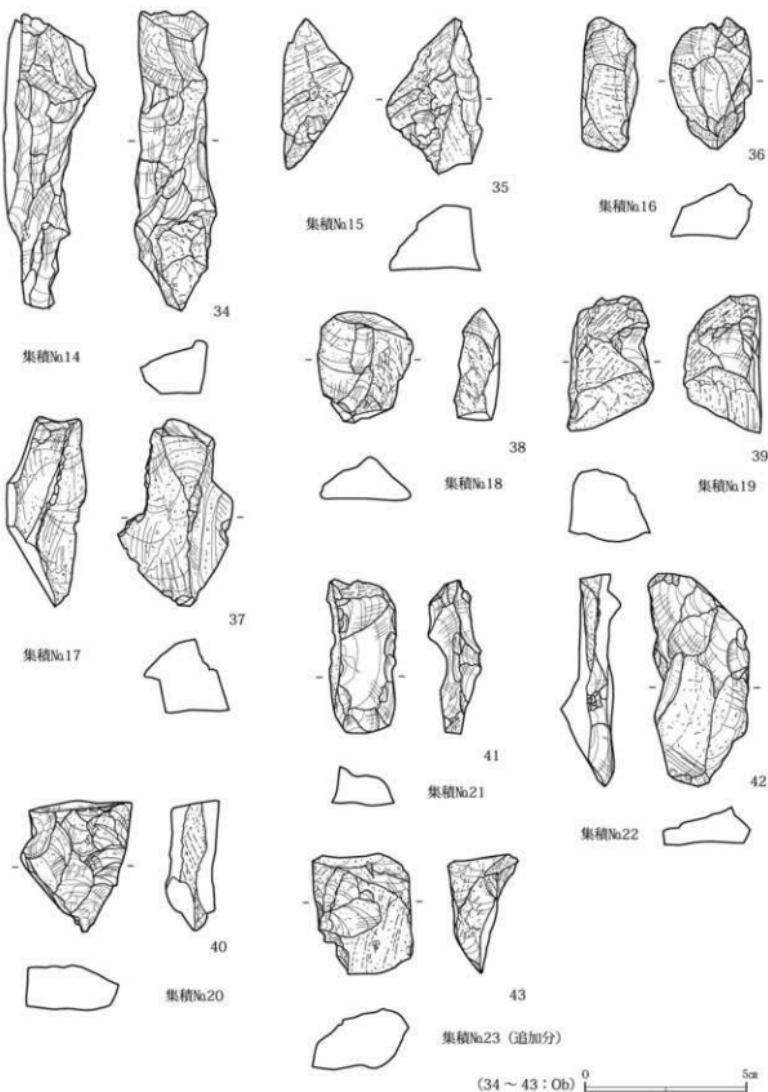
（井上慎也）



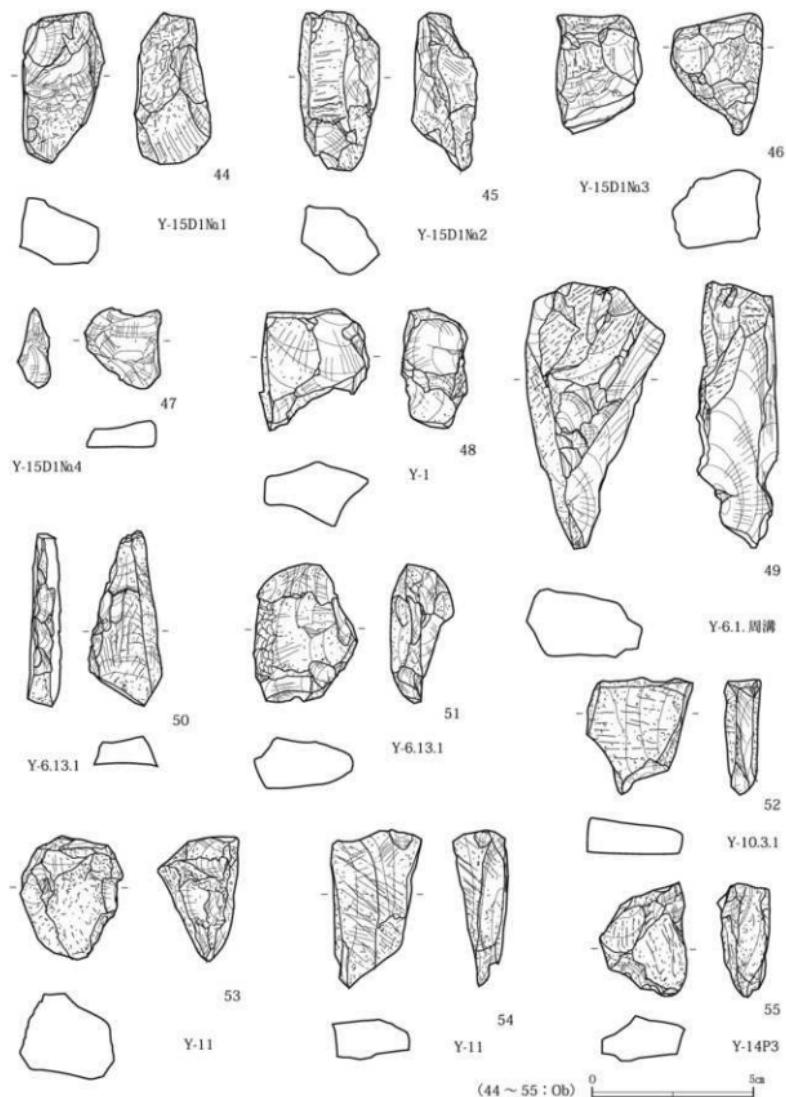
第1047図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図(1)



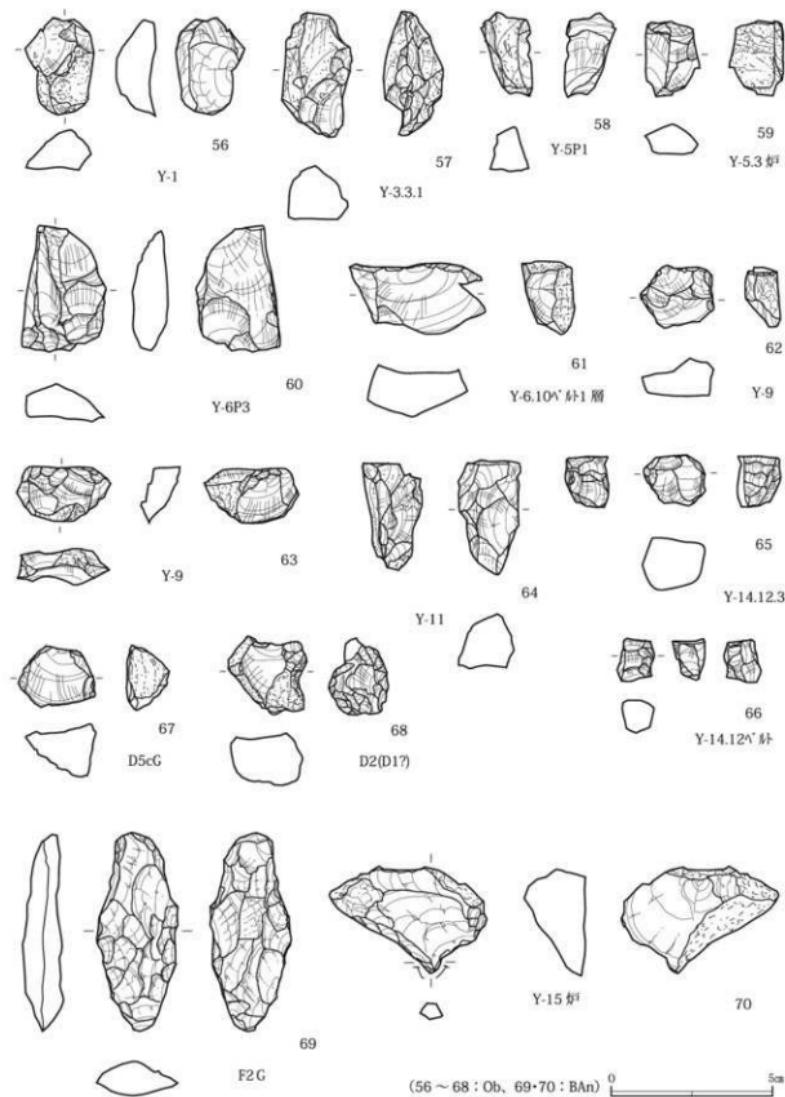
第 1048 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (2)



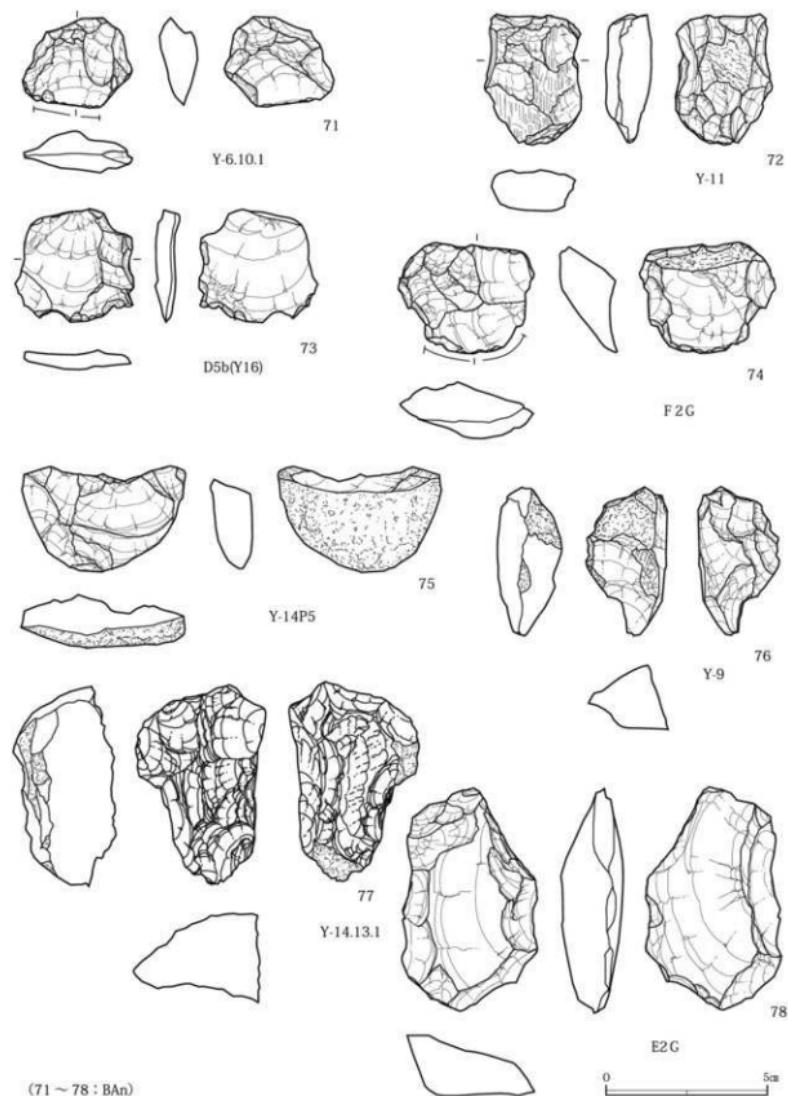
第1049図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図(3)



第 1050 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (4)

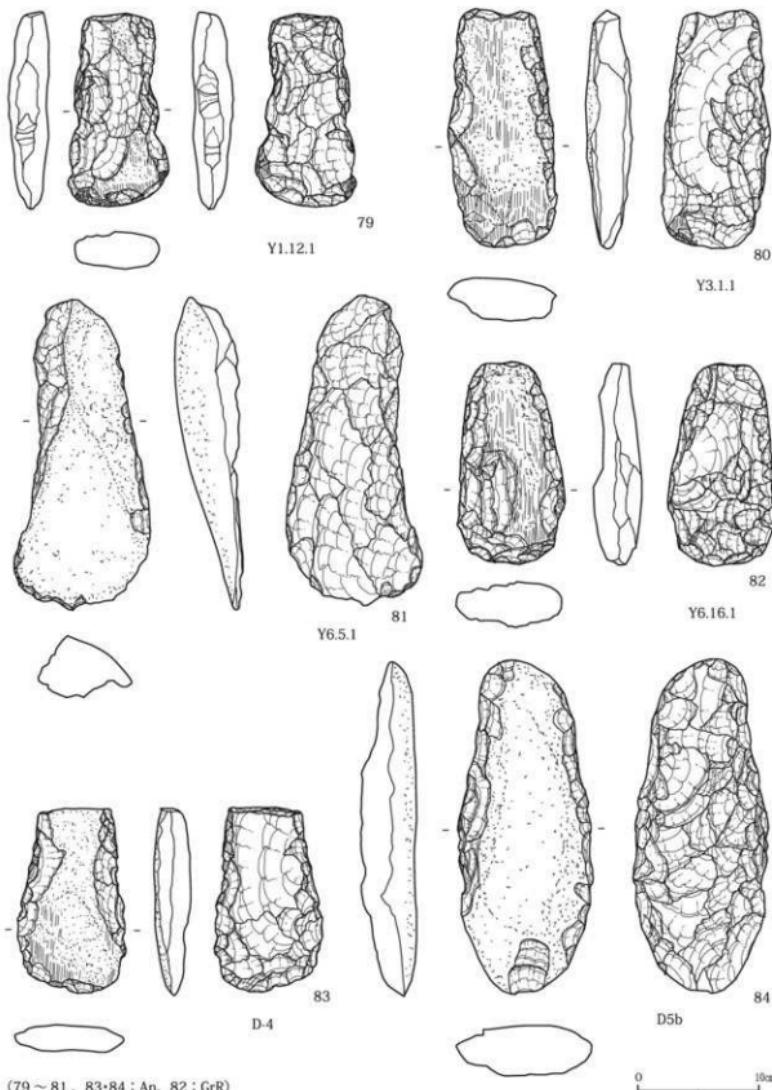


第1051図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図（5）

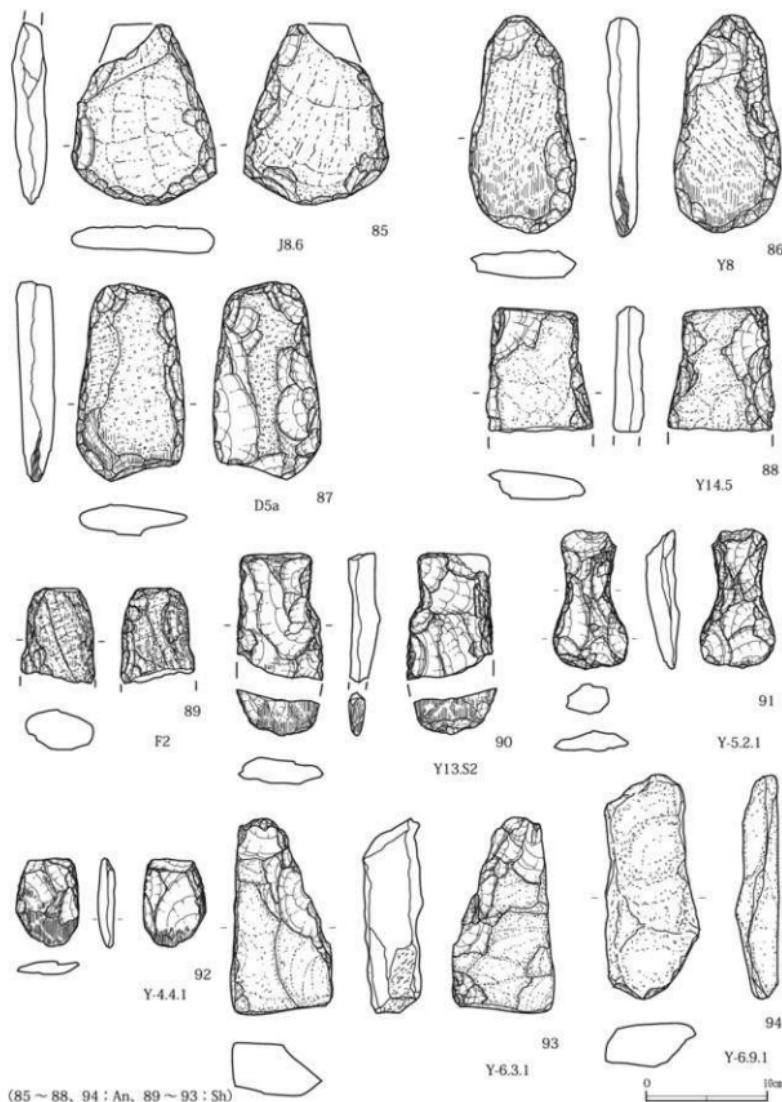


(71 ~ 78 : BAn)

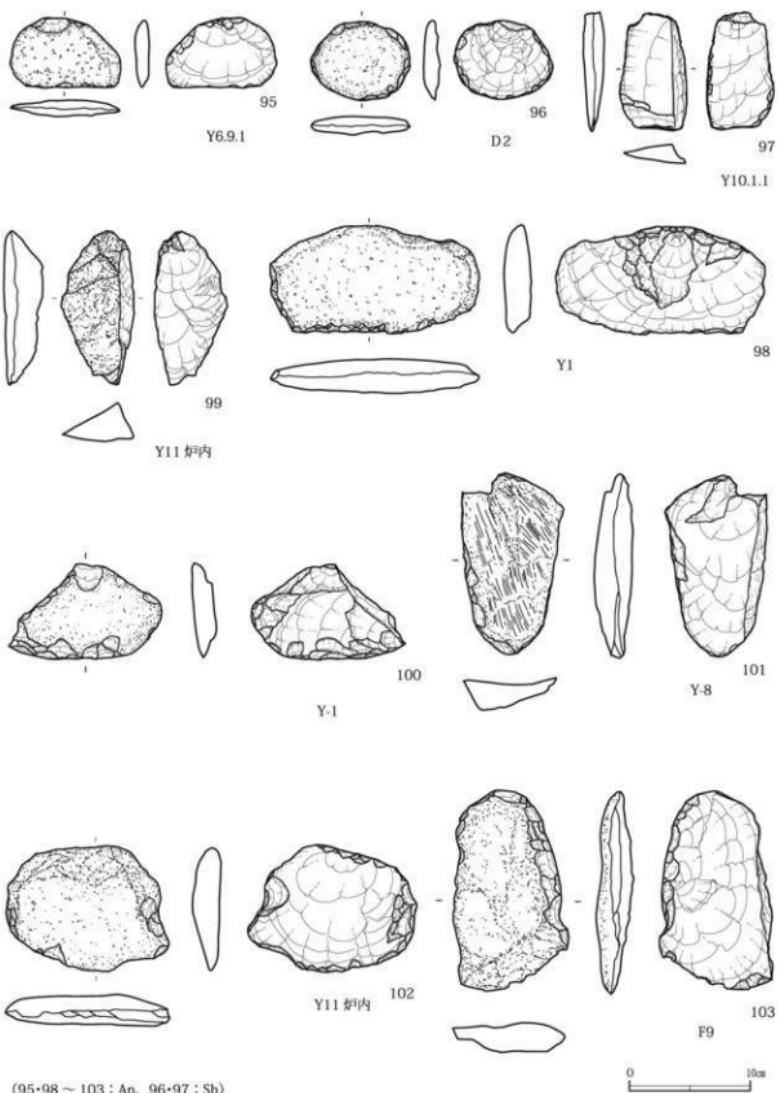
第 1052 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (6)



第 1053 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (7)

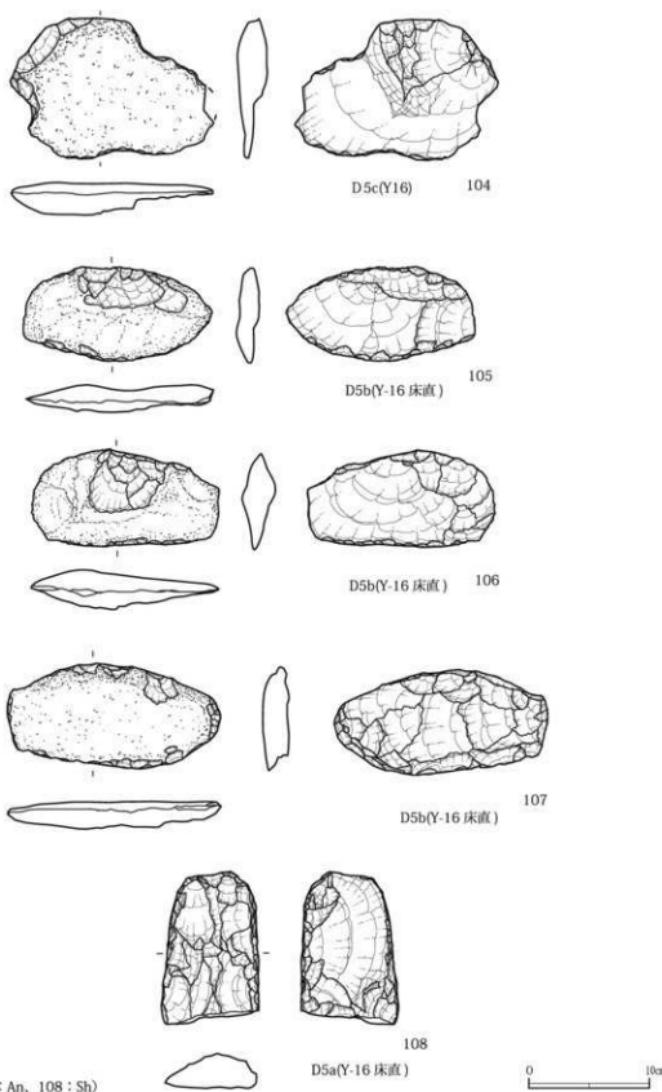


第 1054 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (8)

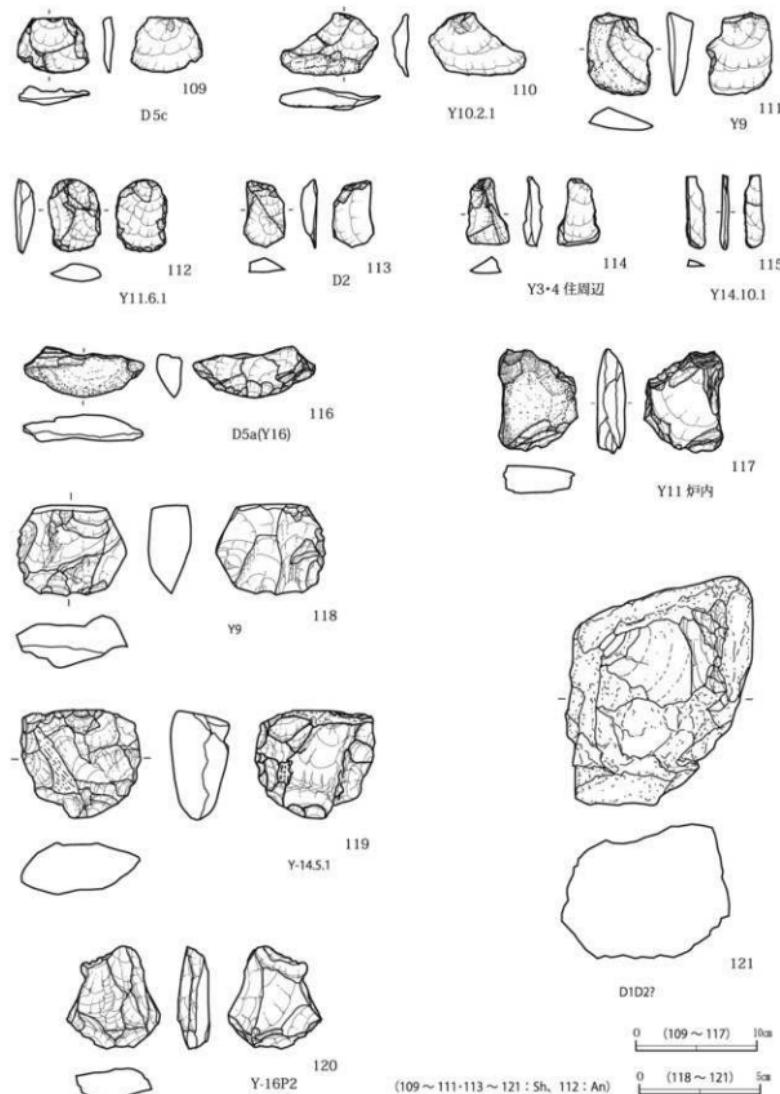


(95-98 ~ 103 : An, 96-97 : Sh)

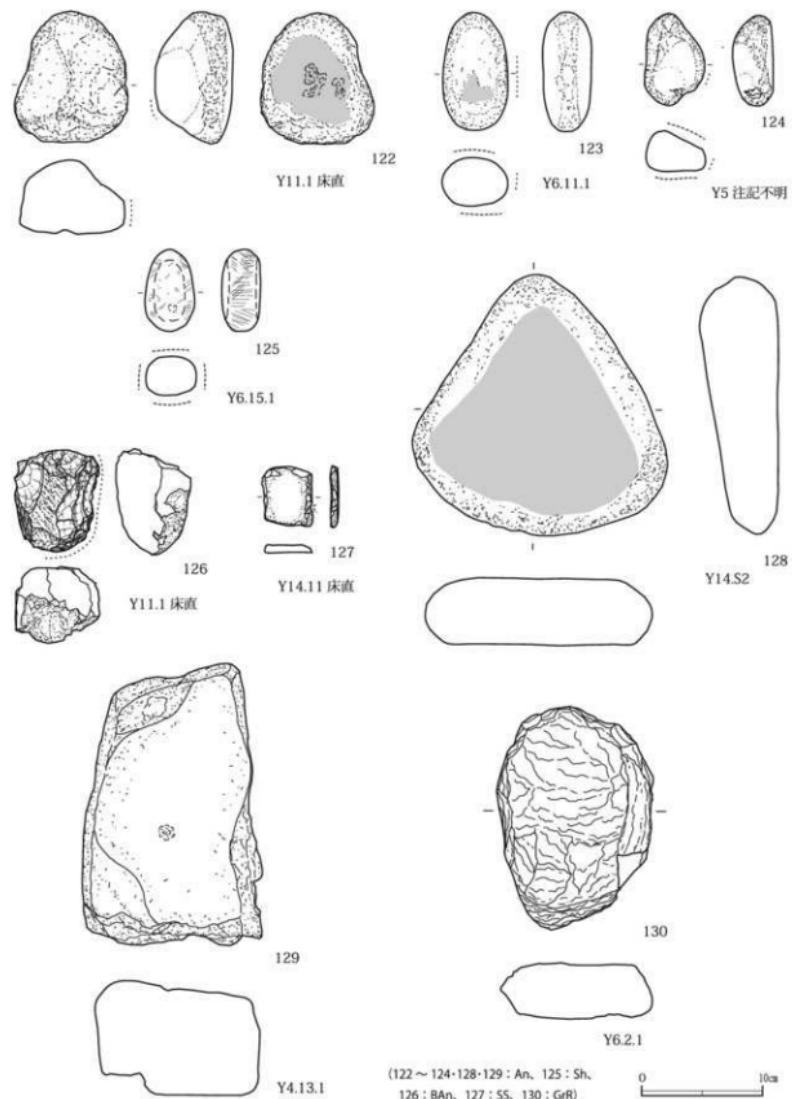
第1055図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図(9)



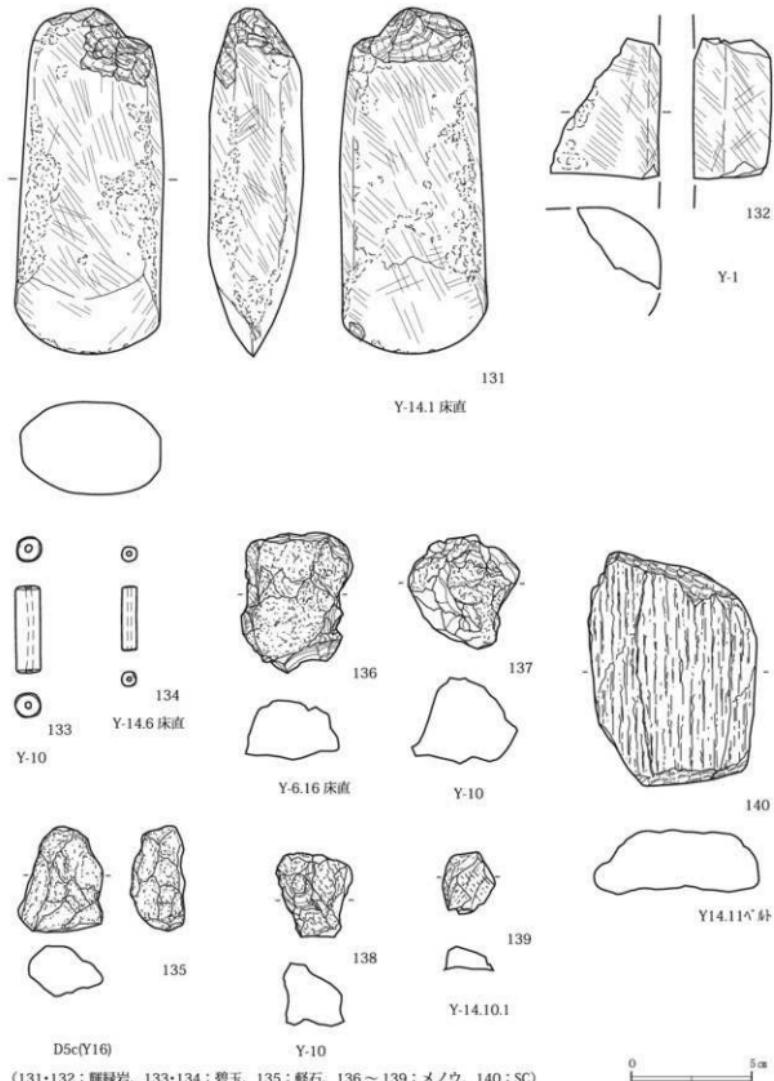
第 1056 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (10)



第 1057 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (11)



第 1058 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (12)



第 1059 図 二軒在家原田頭遺跡出土石器実測図 (13)

| 番号 | 遺構名 | 区 | 層 | その他 | 器種 | 形態 | 石材 | 高さ (mm) | 幅 (mm) | 厚さ (mm) | 重さ (g) | 備考 |
|----|-------------------|----|---|------|-----------|------|-------|---------|--------|---------|--------|------------|
| 1 | D67° リット (Y-16周辺) | | | | 石頭 | 三 | Hsh | 31.3 | 16.4 | 4.1 | 1.1 | |
| 2 | Y-10 | | | | 石頭 | 三 | (b) | 22.3 | 12.7 | 4.4 | 0.8 | 謙訪系 |
| 3 | Y-1 | 15 | 1 | 一括 | 石頭 | 三 | (b) | 19.8 | 16.7 | 4.4 | 0.8 | 謙訪系 |
| 4 | Y-1 | 13 | 1 | 一括 | 石頭 | 凸基 | (b) | 27.6 | 16.5 | 3.8 | 1.7 | 謙訪系 |
| 5 | Y-14 | | | | 石頭 | 未完成 | (b) | 19.3 | 13.9 | 6.6 | 1.2 | 謙訪系 |
| 6 | F23° リット (Y-13周辺) | | | | 石頭 | 未完成 | (b) | 21.3 | 17.2 | 4.4 | 1.5 | 折れ、謙訪系 |
| 7 | F23° リット (Y-13周辺) | | | | 石頭 | 未完成 | (b) | 18.3 | 13.5 | 4.1 | 0.7 | 折れ、謙訪系 |
| 8 | G22° リット | | | | 石頭 | 未完成 | (b) | 14.9 | 12.8 | 2.8 | 0.1 | 折れ、謙訪系 |
| 9 | Y-10 | 3 | 1 | 複形石器 | 石頭 | (b) | (b) | 30.4 | 15.1 | 8.4 | 3.5 | 複形石器 |
| 10 | Y-16 | 6 | 1 | 複形石器 | 石頭 | (b) | (b) | 20.7 | 13.1 | 8.3 | 1.9 | 複形石器 |
| 11 | Y-9 | 6 | 1 | 一括 | 複形石器 | (b) | (b) | 16.6 | 13.7 | 6.7 | 1.2 | 複形石器 |
| 12 | D-2土坑 (Y-14周辺) | | | | 複形石器 | (b) | (b) | 15.9 | 10.3 | 9.4 | 1.2 | 複形石器 |
| 13 | Y-14 | 16 | 1 | P-1 | ScA | I a | (b) | 25.1 | 11.7 | 6.4 | 1.6 | 未完成品、謙訪系 |
| 14 | Y-14 | | | | ScA | III | (b) | 21.1 | 28.2 | 5.4 | 2.5 | 石器素材、謙訪系 |
| 15 | Y-6 | | | 一括 | ScA | I a | (b) | 17.6 | 12.8 | 6.1 | 1.1 | 石器未成品、謙訪系 |
| 16 | Y-6 | 13 | 1 | | ScA | III | (b) | 35.4 | 13.1 | 7.3 | 3.1 | 謙訪系 |
| 17 | Y-4 | 13 | 1 | | ScA | III | (b) | 12.2 | 23.8 | 2.1 | 0.4 | |
| 18 | CO9° リット | | | | ScA | III | (b) | 13.9 | 19.9 | 3.9 | 1.1 | |
| 19 | CO9° リット | | | | ScA | III | (b) | 11.1 | 18.7 | 6.9 | 1.5 | |
| 20 | Y-1 | | | P-2 | [UF RF] A | (b) | (b) | 35.2 | 25.1 | 4.7 | 6.0 | 概形削痕有り、謙訪系 |
| 21 | Y-8 | | | | [UF RF] A | (b) | (b) | 21.3 | 16.5 | 5.1 | 1.1 | 概形削痕有り |
| 22 | Y-14 | 11 | 1 | | RFA | (b) | (b) | 17.3 | 15.1 | 4.3 | 0.9 | 二次加工有り |
| 23 | 黒曜石集積 | | | No1 | 原石A | (b) | (b) | 31.4 | 42.1 | 21.1 | 20.2 | 謙訪系 |
| 24 | 黒曜石集積 | | | No2 | 原石A | (b) | (b) | 44.3 | 28.9 | 12.6 | 13.9 | 謙訪系 |
| 25 | 黒曜石集積 | | | No3 | 原石A | (b) | (b) | 65.1 | 24.4 | 9.9 | 17.6 | |
| 26 | 黒曜石集積 | | | No5 | 原石A | (b) | (b) | 47.1 | 31.1 | 16.8 | 18.6 | 謙訪系 |
| 27 | 黒曜石集積 | | | No6 | 原石A | (b) | (b) | 56.2 | 21.8 | 18.5 | 23.4 | 謙訪系 |
| 28 | 黒曜石集積 | | | No8 | 原石A | (b) | (b) | 35.7 | 30.9 | 12.5 | 11.5 | |
| 29 | 黒曜石集積 | | | No9 | 原石A | (b) | (b) | 47.9 | 28.4 | 13.4 | 17.4 | 謙訪系 |
| 30 | 黒曜石集積 | | | No10 | 原石A | (b) | (b) | 36.7 | 37.5 | 12.8 | 13 | |
| 31 | 黒曜石集積 | | | No11 | 原石A | (b) | (b) | 57.2 | 20.3 | 15.6 | 22.6 | |
| 32 | 黒曜石集積 | | | No12 | 原石A | (b) | (b) | 39.5 | 23.3 | 19.3 | 19.1 | 謙訪系 |
| 33 | 黒曜石集積 | | | No13 | 原石A | (b) | (b) | 29.8 | 25.5 | 21.5 | 19.7 | 謙訪系 |
| 34 | 黒曜石集積 | | | No14 | 原石A | (b) | (b) | 90.5 | 27.9 | 21.7 | 47.6 | 謙訪系 |
| 35 | 黒曜石集積 | | | No15 | 原石A | (b) | (b) | 47.5 | 30.5 | 21.1 | 17.6 | 謙訪系 |
| 36 | 黒曜石集積 | | | No16 | 原石A | (b) | (b) | 41.5 | 28.7 | 17.1 | 17.8 | 謙訪系 |
| 37 | 黒曜石集積 | | | No17 | 原石A | (b) | (b) | 57.1 | 33.1 | 22.1 | 29.5 | 謙訪系 |
| 38 | 黒曜石集積 | | | No18 | 原石A | (b) | (b) | 33.4 | 28.0 | 12.8 | 11.3 | |
| 39 | 黒曜石集積 | | | No19 | 原石A | (b) | (b) | 44.3 | 33.5 | 22.9 | 27.1 | 謙訪系 |
| 40 | 黒曜石集積 | | | No20 | 原石A | (b) | (b) | 39.5 | 33.3 | 13.7 | 20.9 | 謙訪系 |
| 41 | 黒曜石集積 | | | No21 | 原石A | (b) | (b) | 48.7 | 20.1 | 9.3 | 12.7 | |
| 42 | 黒曜石集積 | | | No22 | 原石A | (b) | (b) | 65.7 | 29.8 | 8.9 | 25.9 | 謙訪系 |
| 43 | 黒曜石集積 | | | No23 | 原石A | (b) | (b) | 36.8 | 35.6 | 17.2 | 19.7 | |
| 44 | Y-15 | | | D-1 | 原石A | (b) | (b) | 45.6 | 23.3 | 24.9 | 29.0 | 謙訪系 |
| 45 | Y-15 | | | D-1 | 原石A | (b) | (b) | 49.8 | 25.9 | 18.6 | 24.3 | 謙訪系 |
| 46 | Y-15 | | | D-1 | 原石A | (b) | (b) | 37.4 | 26.1 | 28.4 | 33.5 | 謙訪系 |
| 47 | Y-15 | | | D-1 | FLA | (b) | (b) | 23.9 | 23.1 | 10.8 | 4.4 | |
| 48 | Y-1 | | | | 原石A | (b) | (b) | 32.9 | 32.2 | 19.5 | 22.1 | 謙訪系 |
| 49 | Y-6 | 1 | | 周溝 | 原石A | (b) | (b) | 83.4 | 43.7 | 22.4 | 66.3 | 謙訪系 |
| 50 | Y-6 | 13 | 1 | | 原石A | (b) | (b) | 52.7 | 22.4 | 8.8 | 10.2 | 謙訪系 |
| 51 | Y-6 | 13 | 1 | | 原石A | (b) | (b) | 43.0 | 31.8 | 17.7 | 21.7 | 謙訪系 |
| 52 | Y-10 | 3 | 1 | | 原石A | (b) | (b) | 33.8 | 28.6 | 10.8 | 13.1 | 謙訪系 |
| 53 | Y-11 | | | 一括 | 原石A | (b) | (b) | 35.5 | 29.2 | 24.2 | 29.2 | 謙訪系 |
| 54 | Y-11 | | | 一括 | 原石A | (b) | (b) | 48.7 | 29.8 | 15.5 | 19.7 | 謙訪系 |
| 55 | Y-14 | | | P-3 | 原石A | (b) | (b) | 33.9 | 26.7 | 13.1 | 12.9 | 謙訪系 |
| 56 | Y-1 | | | 一括 | 石核A | 残核 | (b) | 29.9 | 21.1 | 12.1 | 6.8 | |
| 57 | Y-3 | 3 | 1 | | 石核A | 残核 | (b) | 38.8 | 20.7 | 17.2 | 10.9 | |
| 58 | Y-5 | | | P-1 | 石核A | 残核 | (b) | 25.3 | 17.4 | 12.9 | 4.6 | |
| 59 | Y-5 | 3 | | 炉 | 石核A | 残核 | (b) | 22.5 | 16.8 | 8.6 | 3.6 | 炉状 |
| 60 | Y-6 | | | P-3 | 石核A | (b) | (b) | 38.6 | 23.4 | 10.4 | 9.2 | |
| 61 | Y-6 | 10 | 1 | | 石核A | (b) | (b) | 26.2 | 42.4 | 10.5 | 12.7 | |
| 62 | Y-9 | | | | 石核A | 残核 | (b) | 21.3 | 22.9 | 11.1 | 4.8 | |
| 63 | Y-9 | | | | 石核A | 残核 | (b) | 18.3 | 26.9 | 10.1 | 4.8 | |
| 64 | Y-11 | | | | 石核A | (b) | (b) | 33.9 | 23.4 | 18.5 | 11.0 | |
| 65 | Y-14 | 12 | 1 | | 石核A | 残核 | (b) | 15.5 | 20.7 | 14.9 | 5.9 | サイコロ状 |
| 66 | Y-14 | 12 | | | 石核A | (b) | (b) | 12.1 | 11.1 | 10.3 | 1.5 | |
| 67 | D59° リット (Y-16) | c | | | 石核A | 残核 | (b) | 19.4 | 24.1 | 15.9 | 6.1 | |
| 68 | D-2土坑 (Y-14周辺) | | | | 石核A | (b) | (b) | 24.3 | 23.9 | 18.6 | 10.2 | |
| 69 | F23° リット (Y-13周辺) | | | | 複状石器 | BAn | II a | 60.1 | 24.7 | 11.3 | 16.5 | 未完成? |
| 70 | Y-15 | | | | 石椎 | II a | BAn | 48.5 | 31.2 | 17.5 | 23.0 | |
| 71 | Y-6 | 10 | 1 | | ScA | III | BAn | 45.8 | 38.4 | 15.0 | 22.5 | |
| 72 | Y-11 | | | | ScA | II | BAn | 56.7 | 40.4 | 17.8 | 51.5 | |
| 73 | Y-16 | | | | 床直 | ScA | BAn | 48.7 | 45.1 | 5.9 | 17.5 | |
| 74 | F23° リット (Y-13周辺) | | | | ScA | III | BAn | 54.8 | 46.2 | 20.6 | 43.6 | |
| 75 | Y-14 | | | P-5 | 石核A | BAn | 66.1 | 44.6 | 20.2 | 53.8 | | |
| 76 | Y-9 | | | 一括 | 石核A | BAn | 70.4 | 45.3 | 36.7 | 48.5 | | |
| 77 | Y-14 | 13 | 1 | | 石核A | BAn | 83.3 | 53.6 | 42.1 | 172.5 | | |
| 78 | E22° リット (Y-14) | | | | 石核A | BAn | 91.1 | 58.1 | 22.6 | 111.8 | 二次加工 | |
| 79 | Y-9 | 12 | 1 | | 石核 | An | 159.5 | 84.9 | 28.4 | 512.9 | | |
| 80 | Y-3 | 1 | 1 | | 石核 | An | 190.7 | 87.8 | 33.8 | 803.3 | | |

第 413 表 二軒在家原田頭遺跡出土石器観察表(1)

| 番号 | 遺構名 | 区 | 層 | その他 | 理 | 形態 | 石材 | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 厚さ (mm) | 重さ (g) | 備考 |
|-----|--------------------|----|-----|-----|--------|----|-----|---------|--------|---------|--------|------------|
| 81 | Y-6 | 5 | 1 | | 石器 | | An | 255.3 | 108.5 | 50.4 | 1054.9 | |
| 82 | Y-6 | 16 | 1 | | 石器 | | GGr | 163.4 | 88.2 | 38.4 | 686.7 | |
| 83 | D49' "サト" (Y-16周辺) | | | | 石器 | | An | 151.8 | 90.2 | 25.9 | 483.6 | |
| 84 | Y-16 | | | 床直 | 石器 | | An | 270.1 | 112.5 | 40.2 | 1471.0 | 未成品か |
| 85 | Y-8 | 6 | | | 石器 | | An | 147.4 | 119.1 | 23.3 | 486.1 | |
| 86 | Y-8 | | | 一括 | 石器 | | An | 179.3 | 88.7 | 24.7 | 522.4 | |
| 87 | D59' "サト" (Y-16) | a | | | 石器 | | An | 159.7 | 88.5 | 25.3 | 522.1 | |
| 88 | Y-4 | | | 床直 | 石器 | | An | 101.6 | 87.5 | 22.8 | 325.2 | |
| 89 | F29' "サト" (Y-13周辺) | 5 | | | 石器 | | An | 76.7 | 60.9 | 32.1 | 197.5 | |
| 90 | Y-13 | | | | 石器 | | Sh | 137.8 | 70.4 | 21.3 | 217.5 | |
| 91 | Y-5 | 2 | 1 | | 打製石斧 | | Sh | 111.7 | 60.9 | 23.8 | 146.0 | |
| 92 | Y-4 | 4 | 1 | | 打製石斧 | | Sh | 72.1 | 52.3 | 11.1 | 53.1 | |
| 93 | Y-6 | 3 | 1 | | 素材 | | Sh | 154.7 | 85.6 | 47.1 | 789.5 | 石器・打斧素材 |
| 94 | Y-6 | 9 | 1 | | 素材 | | An | 183.2 | 77.1 | 36.9 | 617.4 | 石器・打斧素材 |
| 95 | Y-6 | 9 | 1 | | Schb模刃 | | An | 57.9 | 88.4 | 11.9 | 63.8 | |
| 96 | D-2土坑 (Y-14周辺) | | | | Schb模刃 | | An | 65.6 | 81.3 | 13.7 | 70.5 | |
| 97 | Y-10 | 1 | 1 | | Schb模刃 | | Sh | 96.5 | 54.9 | 16.3 | 76.8 | |
| 98 | Y-11 | | | | Schb模刃 | | Sh | 125.2 | 59.1 | 31.8 | 208.4 | |
| 99 | Y-1 | | | | Schb模刃 | | An | 172.2 | 92.1 | 19.6 | 486.2 | 大形打製石包丁 |
| 100 | Y-1 | | | | Schb模刃 | | An | 78.1 | 113.2 | 17.5 | 219.1 | 大形打製石包丁 |
| 101 | Y-8 | | | | Schb模刃 | | An | 148.3 | 82.4 | 29.1 | 325.0 | 大形打製石包丁 |
| 102 | Y-11 | | | | Schb模刃 | | An | 101.7 | 136.9 | 23.5 | 369.5 | 大形打製石包丁 |
| 103 | F99' "サト" | | | | Schb模刃 | | An | 160.2 | 83.8 | 17.1 | 417.6 | 大形打製石包丁 |
| 104 | Y-16 | | | | Schb模刃 | | GGr | 166.1 | 114.4 | 23.1 | 177.9 | 大形打製石包丁 |
| 105 | Y-16 | | | | Schb模刃 | | An | 78.8 | 154.1 | 29.6 | 298.9 | 大形打製石包丁 |
| 106 | Y-16 | | | | Schb模刃 | | An | 80.7 | 152.7 | 19.7 | 244.2 | 大形打製石包丁 |
| 107 | Y-16 | | | | Schb模刃 | | An | 86.1 | 175.2 | 20.9 | 367.7 | 大形打製石包丁 |
| 108 | Y-16 | | | | Schb模刃 | | Sh | 119.5 | 79.4 | 25.9 | 331.8 | 大形打製石包丁 |
| 109 | D59' "サト" (Y-16) | c | | | Schb | | Sh | 48.6 | 59.8 | 8.5 | 29.0 | |
| 110 | Y-10 | 2 | 1 | | Schb | | Sh | 50.4 | 80.9 | 13.7 | 42.6 | |
| 111 | Y-9 | | | | Schb | | Sh | 67.8 | 52.6 | 20.3 | 61.6 | |
| 112 | Y-11 | 6 | 1 | | Schb | | Sh | 59.2 | 41.8 | 14.5 | 40.3 | |
| 113 | D59' "サト" (Y-16) | a | | | Schb | | Sh | 57.1 | 33.5 | 12.5 | 18.9 | |
| 114 | Y-3・Y-周辺 | | | | Schb | | Sh | 55.6 | 34.2 | 12.5 | 21.5 | |
| 115 | Y-14 | 10 | 1 | | Schb | | Sh | 60.8 | 13.2 | 5.4 | 5.8 | |
| 116 | Y-16 | | | | Schb | | Sh | 38.2 | 100.5 | 19.3 | 77.3 | |
| 117 | Y-11 | | | | Schb | | Sh | 85.7 | 62.1 | 21.9 | 151.2 | 被熱痕あり |
| 118 | Y-9 | | | | Schb | | Sh | 35.8 | 45.2 | 17.6 | 33.6 | 兩刃・円盤状 |
| 119 | Y-14 | 5 | 1 | | P-2 | | Sh | 46.5 | 51.4 | 23.3 | 60.9 | |
| 120 | Y-16 | | | | Schb | | BSh | 58.6 | 51.7 | 16.8 | 46.2 | 蹲訪系 |
| 121 | D-2土坑 (Y-14周辺) | | | | Schb | | Sh | 88.6 | 71.9 | 55.7 | 482.6 | |
| 122 | Y-11 | 1 | | | Schb | | An | 103.7 | 91.4 | 59.7 | 780.0 | |
| 123 | Y-6 | 11 | 1 | | 磨石 | | An | 93.6 | 55.7 | 39.5 | 239.9 | |
| 124 | Y-5 | 1 | | | 磨石 | | An | 73.5 | 50.0 | 32.9 | 161.3 | |
| 125 | Y-6 | 15 | 1 | | 磨石 | | Sh | 66.3 | 41.3 | 31.4 | 113.6 | |
| 126 | Y-11 | 1 | | | 敲石 | | BAn | 85.0 | 64.3 | 61.1 | 403.6 | |
| 127 | Y-14 | 11 | | | 敲石 | | SS | 47.1 | 40.7 | 4.9 | 18.0 | |
| 128 | Y-14 | | | | 石皿 | | An | 209.0 | 200.0 | 65.3 | 3600.0 | |
| 129 | Y-14 | 13 | 1 | | 台石 | | An | 230.0 | 130.5 | 79.3 | 5150.0 | |
| 130 | Y-6 | 2 | 1 | | 搬入櫛 | | GGr | 181.0 | 126.8 | 44.2 | 1430.0 | 片岩系、石皿・台石か |
| 131 | Y-14 | 1 | | | 太形蛤刃石斧 | | GGr | 138.3 | 59.9 | 35.9 | 531.7 | 模田型 |
| 132 | Y-14 | | | | 太形蛤刃石斧 | | GGr | 56.7 | 50.0 | 21.8 | 78.4 | 大形破片 |
| 133 | Y-10 | 1 | 1 | | 管玉 | | 碧玉 | 34.9 | 10.3 | 10.3 | 7.1 | |
| 134 | Y-14 | 6 | | | 管玉 | | 碧玉 | 25.8 | 6.5 | 6.5 | 2.0 | |
| 135 | Y-16 | | | | 籽石 | | 碧玉 | 41.9 | 34.7 | 21.1 | 18.4 | 石製品 |
| 136 | Y-6 | 16 | | | 原石F | | 瑪瑙 | 59.3 | 44.9 | 24.9 | 77.9 | |
| 137 | Y-10 | 2 | 1 | | 原石F | | 瑪瑙 | 49.7 | 38.8 | 31.8 | 68.2 | |
| 138 | Y-10 | 2 | 1 | | 原石F | | 瑪瑙 | 36.3 | 30.2 | 18.8 | 28.8 | |
| 139 | Y-14 | 10 | 1 | | 原石F | | 瑪瑙 | 26.0 | 21.1 | 8.9 | 4.7 | |
| 140 | Y-14 | 11 | "朴" | | 搬入櫛 | | SC | 95.8 | 69.4 | 25.0 | 272.8 | |

| 器種凡例 | 石材凡例 |
|----------------|---------------|
| Sc : スクレイパー | Ob : 黒曜石 |
| UF : 使用痕のある剥片 | Ban : 黒色安山岩 |
| RF : 二次加工のある剥片 | Ch : チヤート |
| FL : 剥片類 | HSh : 硬質頁岩 |
| Co : 石核 | KSh : 珪質頁岩 |
| | Sh : 真岩 |
| | BSh : 黑色頁岩 |
| | An : 安山岩 |
| | Tuff : 凝灰岩 |
| | SS : 牛伏砂岩 |
| | GrR : 蘭嶼岩・閃綠岩 |
| | SC : 結晶片岩 |
| | Ryu : 流紋岩 |

第414表 二軒在家原田頭遺跡出土石器観察表(2)

3 古墳時代

(1) 古墳時代の調査成果

古墳時代の住居址は、遺跡群東半の人見西原・坂ノ上・三本松遺跡で60棟をこえる前期～中期の大規模集落が確認されたほか、中央部やや西側の二軒在家原田II遺跡で10棟弱からなる前期の小集落が検出された。前期初頭の住居址は台地北縁で単独1棟（人見坂ノ上遺跡）と台地中央の熊野沢川源頭部に近い南斜面で8棟（二軒在家原田II遺跡）、中期を中心とする住居址も猫沢川源頭部に近い南斜面に立地する。いずれも重複関係にあるものは少ない。炉を付設する住居は確認されておらず、屋内の加熱設備はすべて炉であったと考えられる¹ことから、集落の下限はおおむね中期前半（5世紀前半）と推定される。

本遺跡群における古墳時代集落の様相は、隣接する西横野東部地区遺跡群の動向とほぼ共通する²。土器の特徴からは、前期は口縁部から頸部中心に櫛描文や粘土紐輪積痕がみられる樽式・吉ヶ谷式系の系譜を引く在地の弥生系集団を中心に、S字状口縁台付甕を有する土器組成をもつ東海系集団、さらに畿内系の薄甕（布留甕）や北陸系の有段口絆甕を有す土器組成をもつ外來系集団の存在がうかがわれる。

石製（模造）品は白玉・勾玉・管玉・剣形が認められ、製品とともに多数の石核・剥片類も出土している。石材の大半は蛇紋岩系が占め、滑石や緑色凝灰岩などはわずかである。横野台地上では前述の西横野東部地区遺跡群のほか、加賀塚遺跡においても石製品製作址が確認されている。後者では特に、5世紀前半からの集落拡大期に石製品の製作工房が出現する。完成品と未完成品、また同一器種の中でも数段階の形式変化が看取できることから一定期間、製作体制が維持されていたことが分かる。

石製品の供給先は定かでないが、近隣の台地北縁には竪穴式石室を有し、剣形・有孔円盤形石製品が出土したと伝えられる中期円墳が立地する（磯部2・3号墳）。経塚・岩野谷57号墳といった碓氷川下流域の中期古墳とあわせて、製品供給先の一つと考えられる。

西横野中部・東部地区遺跡群の古墳時代集落は4世紀代から集落形成が始まり、5世紀前半～半ばに拡大しながらも同後半以降は急速に衰退する。両遺跡の集落は大局的には同一のものであり、当初から他地域へ移動することを視野に入れた短期的集落とみることができる。一方、加賀塚遺跡では住居数は減少するものの、両遺跡衰退後も後期まで継続する。石製（模造）品の製作址という共通点からみれば、西横野中部・東部地区遺跡群の集落が移動し、加賀塚遺跡に集約されていったとも考えられるが、これが横野台地に限定した動きなのかまたはより広域で通有なものなのかは検討を要する。（壁・菅原）

註1 横野台地における古墳時代住居址のカマド導入時期は加賀塚遺跡などの調査成果から中期後葉（5世紀後半）と推定される。市内においては、同一台地ではないが碓氷川の支流、九十九川沿岸に位置する国御下辻II遺跡、小日向田中西遺跡で5世紀第3四半期と考えられる住居が確認されており、当該時期が本地域のカマド導入期と捉えられよう。

註2 井上慎也他 2014『西横野東部地区遺跡群』群馬県安中市教育委員会

参考文献

若狭徹 1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳1』群馬土器研究会

かみつけの里博物館編 1998『人が動く・土器も動く』第2回特別展図録

井上慎也他 2007『加賀塚遺跡1』群馬県安中市教育委員会、同 2011『加賀塚遺跡2』同

(2) 横野台地の終末期古墳

1. 西横野中部地区遺跡群の古墳

西横野中部地区遺跡群では、二軒在家原田遺跡と隣接する原田Ⅱ遺跡において計4基の古墳を調査した。いずれも遺存状態が悪く、全形を復元できるものはなかった。立地を見ると原田遺跡の3基は台地のやや南斜面に、原田Ⅱ遺跡の1基は比較的標高の高い、台地上のいわゆる「馬の背」部分から南斜面にかけての平坦地にある。周囲の形状から、これらはすべて南側開口の横穴式石室と推定される。

原田遺跡C区K-1号墳は石室の床石はすべて失われていたが、石室内部と想定される付近から鉄刀（方頭大刀？）の柄と鍔の一部とみられる金銅製の刀装具が出土した。また、開口部付近で5カ所程度、須恵器片の集中地点が認められた。これらは大甕や皿、長頸壺といった器種に復元され、それぞれ時期差がみられることから、本墳では複数回の追葬あるいは墓前祭祀が行われていたと考えられる。K-1号墳を含む本遺跡群の古墳4基の築造時期は、埴輪の樹立が確認できない点や出土遺物の年代観からいざれも7世紀半ば以降と考えられ、その後8世紀代まで追葬・墓前祭祀が続けられていたものと推定される。

2. 周辺古墳の立地と様相

次に、本遺跡群周辺の台地上における古墳の分布をみると、ほぼすべて南側斜面にあり、かつ崖線と近接した位置にあることが分かる。いずれの古墳も墳丘は削平されており全形を復元できるものはないが、直径10～15m程度の円墳で南側開口の横穴式石室を主体部とし、大きな規模の違いはなさそうである。密集度は比較的低く2～3基で存在し、周囲同士が重複あるいは近接する例はなかった。

人見向原K-1号墳の推定石室内からは鉄刀1振が出土している。追葬あるいは墓前祭祀に伴う須恵器の年代観は、いずれの古墳も凡そ7～8世紀代とみられる。

石室に用いられた石材は安山岩系の自然石（川原石）を中心とし、加工痕は見られない。台地上に石材の露頭は存在しないことから、その入手先は台地の南側崖下を流れる高田川か、北側崖下の碓氷川河床付近が想定されるが、どちらも河床面から台地端部上面までの比高差が50m以上もあることを考慮すれば、より近い高田川から採取したとみるのが妥当であろう。

さて、本書中で述べているとおり古墳の南北を直線的に走る大溝（＝区画溝）は8世紀前半に掘削が開始され、9世紀代までは埋没することなく維持管理が行われていたと考えられている。掘削当時の旧表土はすでに大部分が削平されているが、残存部分の調査から凡そ幅4～5m、深さ1.5～2m以上の規模を有していたものと推定される。

溝の掘削は古墳建築から半世紀、あるいはそれ以上が経過してから行われたが、両者の位置関係をみると近接した距離にありながらいざれの古墳も溝に破壊された形跡ではなく、周囲外縁から少なくとも10m以上離れている。墳丘がすでに削平され周囲が埋没していた、更地あるいは小山程度の状態であれば古墳の一部は溝に壊されていても不思議ではないが、一定の距離をあけ、これらを避けるように掘削されていることは当時、墳丘と周囲が視認できる程度は残っていた、または定期的に維持管理がなされ築造当時に近い状態であったことを想起させる¹。各古墳から追葬・墓前祭祀に伴う8世紀代と考えられる須恵器が出土していることも、これを追認するものであろう。



第1060図 西横野中部地区遺跡群周辺の古墳分布

3. 古墳と周辺の集落址

本遺跡群周辺における古墳時代の集落址はおおむね前期から中期（4世紀～5世紀前半）にかけて大規模に展開し、一旦断絶する。その後、道路状構造や大溝の掘削が始まる後期末（7世紀末～8世紀初め）ごろから再び形成を開始し、9世紀前半ごろまで継続する。つまり、遺跡周辺の台地上は後期約200年の間ほぼ空白地であったか、あるいは居住地以外に使われていたと考えられ、墓域としての利用もその用途の1つであったと推定される。

これら終末期古墳と集落址の関係を直接結びつけるものはないが、7世紀半ば～後半の古墳築造と同時期の住居址は数軒程度にとどまり、8世紀以降にこれらが徐々に展開していく状況からすると被葬者の出自はこれら台地上の入植者でなく、別の地域に求めるのが適当かもしれない。古墳の立地が台地の北ではなく、南側に大きく偏っていることも考慮すれば、その出自は台地から眼下に見下ろした高田川流域の集落に求められようか。

註1 同一台地の東部、中野谷遺跡群内の細田道路において本道路群と指摘の類似した、おそらく同一遺構の延長と思われる大溝が円墳（東標野7号墳）を避けるように南側に削削されているとの指摘がある。

参考文献

- 大工原豊他 1993『中野谷地区遺跡群発掘調査概報4』群馬県安中市教育委員会
- 同上 1994『中野谷地区遺跡群 本文編』同上
- 山武考古学研究所 1993『妙義町の遺跡（2）』学術調査研究第3集

4 古代

(1) 古代の調査成果

古代（奈良・平安時代）の住居址は遺跡群の東半を中心に確認された。人見坂ノ上遺跡の2棟は7世紀後半、人見三本松・人見上ノ原・人見上西原遺跡の21棟は主に8世紀前半～9世紀前半に帰属すると考えられる。また、台地南東から北西に向けて直線状に縱貫する道路状遺構は7世紀後半～8世紀初頭、台地の南北端を地形に沿うように延びる区画溝は8世紀前半以降の掘削と推定される。

(2) 西横野中部地区遺跡群の古代牧関連遺構

1. 道路状遺構について

道路状遺構の性格については、隣接地における過去の調査から古代東山道駅路から分岐し甘樂郡へ向かう、郡同土を結ぶ「伝路」の可能性が考えられている（井上2014・2016など）。本遺構の北端部分は人見三本松遺跡の北西部において角度をやや北に変え、そのまま調査区外へ延びている。その延長線上にはかつて通行可能であったと想像される切通し状の凹地形が存在することから、この斜面から台地下へ向かったものと考えられる。その先の東山道駅路へ至るルートについては、地割・発掘調査の両面から検討しているが現在までその痕跡は捉えられていない。

本遺構の形状は約10mの間隔を保ち並行する2条1組の直線状溝である。この2条の溝は「道路」としての区画を、より明確にする目的で両側に設けられた側溝であると考えられる。横野台地において初めてこの道路状遺構が確認されたのは、人見大谷津遺跡（壁2002）であった。この時の調査では、三本松遺跡で確認されたものとほぼ同規模の2条の溝跡が約100mにわたり確認された。その後、隣接する西横野東部地区遺跡群の調査においても、人見大谷津遺跡の溝跡と形状・方向的に接続する一連の遺構が検出されている。この道路状遺構は、谷地を横断する際などにわずかに方向が変わることがあるが、全体的には直線を指向する。今回、人見三本松遺跡で確認された道路址は約550mであり、過去の調査事例も合わせると、横野台地上において検出された道路址は2,500m以上に及ぶことになる。

次に、道路状遺構の調査成果として3つ挙げてみたい。

まずは、後述する牧関連区画溝との重複部分が確認され、両者の切り合いから道路状遺構が古く、区画溝が新しいことが確実と判断されたことである。過去の調査では、確実に遺構に伴うと考えられる出土遺物が無く、時期の断定は困難であった。8世紀前半の区画溝掘削後は、道路は大規模な溝により分断されることとなり、当然その機能を失ったと言わざるを得ない。よって、道路が機能した下限は8世紀初頭とするのが妥当であろう。一方、道路の構築時期であるが、型式学・層位学的アプローチとともに困難はあるが、一般的に駅路・伝路の本格的な整備開始を中央集権体制の強化がみられる7世紀後半とすることは、一般論としてのコンセンサスを得ているものと認識している。よって、本遺構が「道路」として機能したのは、7世紀後半から8世紀初頭までのごく短期間であったと考える。

次に、道路状遺構が遺跡地の北西端部で屈曲し、台地北側の傾斜地を中位段丘面へ降下することが確認された点である。人見大谷津遺跡から人見三本松遺跡まで、約2,500mにわたりほぼ直線状に検出された道路址は、台地北縁に近い部分において約32°北へ屈曲する。そして、台地北側の傾斜地を斜め

に下るものと考えられる。現在、この部分には幅2m弱の切通し状道路が存在している。本遺構との位置関係より、現存するこの道路が重複する（そして、その後も道路として使用が続いた）可能性は高いと考えられる。しかし、台地上の道路が廃絶された後も、なぜ斜面を下る道だけが継続使用されたのかは不明である。

3つ目は、北西端部において新旧2組の溝跡が検出され、道路のつくり替えが行われた痕跡が確認された点である。この部分では、調査区域を斜めに横断するように検出された側溝（M-1・M-2号溝=人見大谷津遺跡・西横野東部地区遺跡群で検出されたものと同一遺構と想定）のほかに、もう1組の側溝（M-7・M-8号溝）が検出された。両道路状遺構の規模・形状は酷似するが、方向は約1°異なる。また、M-7・M-8号溝の南東端付近は次第に浅くなり、A・B調査区の境界付近では確認不能となる。このような状況から、M-7・M-8号溝も道路址と考えられるが、北西方向から構築を開始した道路（M-7・M-8号溝）を、何らかの理由により新道路（M-1号溝・M-2号溝）につくり替えた可能性が高いと思われる。

また、旧道路側溝の土層堆積状況をみると、一部を除き人為的な埋め戻しは行われていないことが分かる。つまり、道路のつくり替えが行われたという仮説が正しい場合、新しい道路面に旧道路側溝が残ったまま使用していることになる。前述のように、古代道路（官道）の建設は中央集権体制の確立に向け、7世紀後半ごろから始まったとされる。一般的に両側側溝は道路としての区画をより明確にするためのものであり「あくまでも直線的に、そして大規模に」建設することで国家としての威信を示し、中央集権への流れを加速させる狙いがあったと考えられる。横野台地上で検出された道路状遺構も実用以上の幅員を十分に有していると想定され、これまでの官道建設の意義を追認する資料と理解できる。

さて、傾斜地下位の中位段丘上においては現時点で道路址の延長は未確認である。本地域における東山道のルートが確定しない中、推測の域を脱しないが中位段丘上のルートについて検討してみたい。まず東山道のルートであるが、「坂本駅家」・「野後駅家」の位置については正確な場所は不明だが、現存する地名より坂本駅家を安中市松井田町坂本地区に、野後駅家を安中市安中地区（上野尻・下野尻という地名が現存）に比定することに異論はないであろう。両駅家を結ぶルートとして、現時点では松井田丘陵を越えて九十九川流域をたどるものと、中山道に沿うものの2つが推定されているが、筆者は後者であると考える。以下、その理由を2つ述べる。

まず、前者のルートでは標高差約100mの松井田丘陵を越えなければならず、さらに九十九川を渡河する必要がある。また、九十九川流域の小日向・高梨子地区の土地改良事業に伴う大規模発掘調査において、律令体制期または古代の所産と推定される道路址はまったく検出されていない。一方、後者のルートは大きな標高差もなく、大規模河川の渡河も生じない。

上記の理由から、後者ルートの方がより合理的と判断される。東山道が後世の中山道に沿うルートと仮定すると、三本松遺跡の道路址はどこかで碓氷川を渡河した後、東山道に合流する可能性が高い。ただし、碓氷川の河岸は急峻な崖となっており、渡河困難な場所が多い。そこで比較的渡河が容易と考えられる場所を推定する際、現在の橋梁や古地図が目安となる。ここに紹介した2地点は近世において上毛三山の一つ、妙義山へ参詣する際の「妙義道」のルート上で碓氷川の渡河地点として考えられている場所で、両岸とも比較的緩やかな地形である¹⁾。考古学的根拠のない仮説に基づいた推測ではあるが、現時点ではこのルートの可能性が高いと考える。今後の周辺における調査資料の増加を待ち、再検討したい。

2. 区画溝・古代集落について

「牧関連」区画溝と考えられる大溝は、中野谷地区遺跡群や西横野東部地区遺跡群でも確認されており、いずれも幅3～5m、深さ1.5～2.5mの「堀」とも言える規模を有する。断面は箱型またはU字状を呈し、覆土上位から中位にAs-Bが弓状に堆積する特徴をもつ。横野台地上における過去の調査により、この大溝は台地上の、特に中野谷地区以西を囲むように構築されていることが分かっている。人見三本松・上ノ原・上西原遺跡の調査では、台地を南北に縦貫する本区画の西端部を検出した。これにより区画範囲がほぼ確定したが、その面積は中野谷地区遺跡群の南北溝から人見三本松遺跡の南北溝に囲まれた範囲で300ha以上、さらに両南北溝の「外側」を台地縁辺に沿って延びる区画溝や台地内部の中小区画溝なども含め、台地ほぼ全体を1つの「牧関連遺構群」と捉えた場合、その広さは1,000ha以上にもなる。

また、この区画溝の外側には8世紀前半～9世紀前半を中心とする集落が展開する。今回の調査でも、人見三本松・上ノ原・上西原遺跡で約20棟の住居址が確認された。そして、区画溝の内側には同時期の住居がほぼ確認されないことから、これら区画溝の外側に展開する住居は意図的に区画の外側を選地したものと推測される。あわせて、区画溝が機能した時期も集落と同時期（8世紀前半から9世紀前半）とすることは合理性が高いと考えられる。

また、前述のように三本松遺跡において区画溝と道路址の重複が確認され、道路址が古く、区画溝が新しいことが確実となった。三本松M-2号溝の重複部分に近い場所で、覆土上位にローム土が混入する部分が認められたので若干の検討を試みる。

ローム土が確認されたのは区画溝の1つであるM-9号溝の南東側（区画内部側）、溝の上端より約1.5～5.5mの範囲である。ローム土は明黄褐色でしまりがあり、黒色土の混入はほとんど認められない。土層断面図（第1分冊第164図、セクションOP・QR間の1層に相当）より、M-2号溝が完全に埋没しない時期に、ローム土がレンズ状に薄く堆積する様子が看取できる。これは、M-9号溝の掘削土を東側に置いた際、新道路側溝であるM-2号溝が完全に埋まっていたため、掘削土であるローム土が覆土上位に堆積したのではないかと考えられる。旧道路であるM-7・8号溝は廃絶後、一定期間が経過していたためほぼ埋没しており、ローム土の混入がなかった、あるいはM-7・8号溝はM-1・2号溝より全体的に浅いため、少なくとも遺構確認をしたレベルまでは埋没していたと考えられる。

さらに、新道路北側側溝であるM-1号溝部分は区画溝に土橋が存在しており、区画内への出入り口としての機能を残すため掘削土が置かれなかったとも想定される。

この部分の各遺構の主な造成ポイントを整理すると、以下のようになる。

- ①旧道路（M-7・8号溝）が築造された。
- ②何らかの理由により新道路（M-1・2号溝）につくり替えが行われた。
- ③区画溝（M-9号溝）の築造に伴い新道路は分断され、その機能を失った。

前述のように区画溝は、堀と言えるほどの規模を有している。この溝の掘削に伴う多量の土砂は、溝に並行して置かれたと考えるのが、作業効率上合理的であろう。行田二本杉原東遺跡M-1号溝は台地南縁に延びる区画溝（人見三本松M-9号溝とT字形に接続する、人見上西原M-3号溝の延長と想定）であるが、本溝内側（北側）の傾斜部分において黒色土上部に掘削による排土と思われるローム混土が山状に堆積している状況が確認された。溝の内部でレンズ状に堆積するAs-Bが、ローム土上位では山状に堆積していることから、少なくとも12世紀初頭までは土壘状の高まりが残されていたと考えられ

る。本遺跡群内の区画溝に関連して、排土を（山状に）残置する痕跡はこの2カ所のみであるが、いずれも溝の「内側」に相当することから、全体もしくは部分的に土壠状の高まりが区画溝の付帯施設として構築されていた可能性は高いと言えよう。根拠に乏しい推論とは認識するが、一つの可能性として指摘しておきたい。

3. 「古代牧」としての横野台地

横野台地上の各所でこれまで発見されている大小規模の区画溝や住居址などの古代遺構は、総じて「牧関連遺構群」として捉えられている。例えば、台地の南北縁を走る（あるいは南北に縱貫する）幅広で深い大溝は馬を逃がさない（または外部の害獣を中に入れない）ための区画溝。中野谷地区の台地内部でみられるようなクランクを作ったり、谷地を囲むように配置される溝は囲い込みなど限定放牧目的とした施設（＝「格」）。羽口や鉄滓などを多数出土するが、製品がみられない建物遺構は「大鍛冶」的な工房址、など多種に及ぶ。そしてそれら遺構群が台地全体で有機的に機能していると考えられる。

しかし、この台地の「牧」は歴史上その存在が知られていないものである。古代上野国には9カ所の「御牧」（官営の牧）が存在したことが『延喜式』に記されているが、いずれも碓氷郡内に比定されるものはない。ここで考えられる可能性は2つある。1つは『延喜式』などの史料に未記載の官牧・私牧であったこと。もう1つは、本遺構群がおおむね9世紀代のうちに廃絶していることから『延喜式』が編纂される時点すでに廃された官牧だったこと、である。現時点でどちらの説が「正しい」のか比較する術はないが、いずれにせよ古代においてこの碓氷の地は重要な馬の集約地であった。

古代碓氷郡には畿内と東国を結ぶ東山道駿路が走っており、その道中に坂本駅と野後駅の二駅が設けられていた。ここに置かれた駅馬は坂本が15疋、野後は10疋であり、郡内にはさらに5疋が配備された。『延喜式』によれば当時の上野国全体の官馬配備数は75疋とあるので、実に4割もの馬が碓氷郡内に集められていたことになる。その背景の一つには、碓氷峠を背負ったこの地が信州と関東を結ぶ重要ルート上の要衝だったことが挙げられよう。

さて、台地上の各遺構を「古代牧」の構成物としてみるとそれらは決して全体に、均質的に配置されている訳ではないことが分かる。つまりは目的に応じて遺構配置に偏向が認められ、幾つかのエリアに分かれる可能性がある。まず「牧」の中心となるのは台地東半の中野谷地区エリアと考えられる。この地域は前述のとおり鍛冶遺構や調教施設といった、通常の住居址とは規模や形状、出土遺物が異なる性格の建物址が集中する。また、台地上のほかの地域と比べて谷地が多いためか、自然地形を巧みに利用した区画溝が多数配置されている。

次のエリアは中野谷地区と人見地区を中心とした、それぞれ台地を南北に縱貫する区画溝が検出された範囲である。ここは、西側に向かうにつれ徐々に台地の幅が狭まっている。この地域では台地の南北縁にも大溝が掘削されており、四方を取り囲むかのように区画溝が配されている。中野谷地区でみられたような特徴的な建物遺構は未確認だが、谷地周辺や区画溝の「外縁」に住居址（管理施設？）が展開する。いずれも重複は少なく、規模や出土遺物に大きな差は認められない。

3つ目のエリアは人見地区・二軒在家地区・行田地区を中心とする台地西側の範囲である。台地の幅はさらに狭まる。当該期の集落は谷地に沿うように区画溝の外側で展開がみられるが、西側ではほとんど確認されない。台地南縁では区画溝の延長が確認できるが、北縁の溝は構築されていない²。台地面と下位地形の比高差をみると、溝がある南側斜面の方が北側よりも急傾斜となっている。区画溝が台地

内に囲った馬の逃亡、または外部からの害獣などの侵入防止を目的とするのであれば台地の両端、あるいはより傾斜が緩やかな方に構築するのが常識的に理解しやすいと思われるが、なぜ南側だけ掘削が統けられたのかは不明であり、溝の性格に本来の「牧」以外の用途も考える必要があろう。

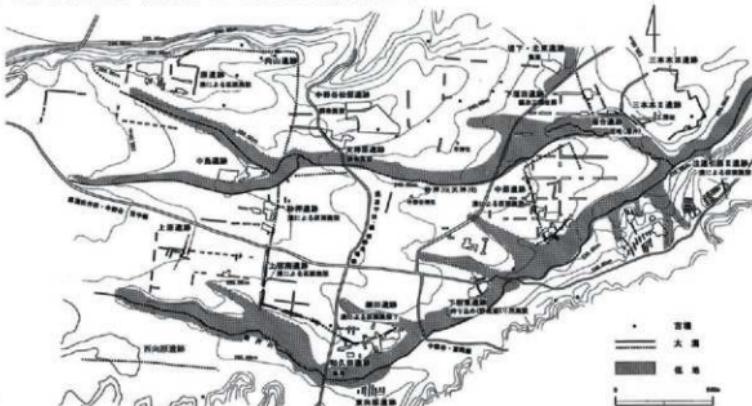
以上、横野台地の「古代牧」について、遺構の配置から大きく3つのエリアを想定した。それぞれの機能を管理中心地や自由・限定放牧地など一般的な牧のイメージの中で捉えるのは難しく、さらに農繁期と農閑期といった季節による管理体制の違いも考慮しなければならないが、広大な台地全体を「合理的」に管理・經營する一大事業を成すに値する重要性が古代碓氷郡の、この地に認められていたことは事実である。台地上での発掘調査は現在も継続中であり、今後の進展に期待したい。
(壁・菅原)

註1 特に、渡河ポイント1に示した地点の隣接地には「鳥留（からす）」という小字名が残る。『松井田町地名考』によれば、この地域は「水が多いときには、水がのるが、水がかかると州となる流れがゆるやかなところで、瀬州（かれす）が鳥となった船着場」とある。

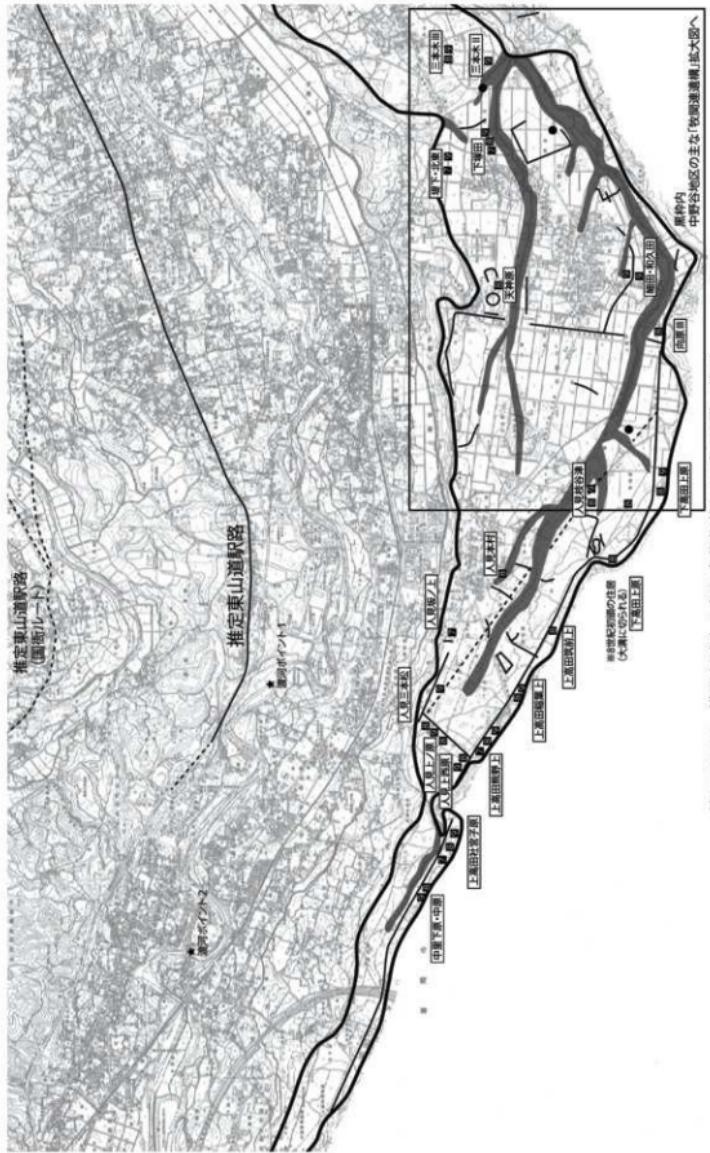
註2 台地北側の区画溝は人見三本松遺跡を境に、西側へは延びていないことが分かっている。

参考文献

- 大工豊也他 1994『中野谷地区遺跡群 本文編』群馬県安中市教育委員会
 群馬県教育委員会編 2001『歴史の道調査報告書 信仰の道 上毛三山を中心に』群馬県歴史の道調査報告書第二〇集
 安中市史刊行委員会編 2001『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』安中市
 壁伸明 2002『人見大谷津遺跡』松井田町教育委員会
 井上慎也他 2004『中野谷地区遺跡群2』群馬県安中市教育委員会
 山梨県考古学協会編 2005『牧と考古学 馬をめぐる諸問題』山梨県考古学協会 2005年度研究集会資料集
 猪澄雄 2007『松井田町地名考』松井田文化会
 高島英之 2008『上野國の牧』『牧の考古学』高志書院
 永井尚寿 2011『下高田上原遺跡 下高田原IV遺跡 松義東部地区遺跡群1』富岡市教育委員会
 井上慎也他 2014『西横野東部地区遺跡群』群馬県安中市教育委員会
 同 2016『落合II遺跡2・平塚遺跡2・三本木II遺跡2・三本木III遺跡2』同



第1061図 中野谷地区の主な「牧関連遺構」(安中市史第四巻 641頁より転載)



第1062図 横野台地上の主な古代集落および区画溝の位置
 ■内の数字は集落の帰属時期（7…7世纪代、8…8世纪代）を、●は水場の位置、★は碓氷川の推定浸河地点を表す。
 太い黒線は台地上の範囲（崖線）、細い黒線は区画溝、黒破線は道路状遺構、トーンは低地を表す。

付編 自然科学分析

1 二軒在家原田頭遺跡の自然科学分析（テフラ・炭化材同定を中心に）

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

二軒在家原田頭遺跡（群馬県安中市松井田町）は、碓氷川右岸に広がる河成段丘上に位置する。碓氷川の河成段丘は、須貝（1992）により、上位より H、I、II、III、IVの各面に区分され、I面、II面、IV面については堆積段丘面と侵食段丘面とに区分されている。本遺跡は、I面の堆積段丘面である I f 面上に位置している。なお I f 面は、段丘面上のテフラの産状により、35～30万年前以後に離水したとされている。本遺跡の発掘調査では、弥生時代中期後半の集落跡が確認されている。

本報告では、遺構の年代に関わる資料を得ることを目的として、遺構内に埋積する黒ボク土層あるいはそれと同層位とされる黒ボク土層を対象として、テフラの産状を確認する。特に弥生時代中期後半以降の重要な指標テフラである浅間 C テフラ (As-C: 新井, 1979) の有無に注目する。また、同様の層位について植物珪酸体分析を行い、当該期の古植生資料を得る。さらに、多数検出された住居跡に伴う炉跡を対象として、その焼土を対象として植物珪酸体分析を行い、燃料材について検討する。また、住居跡から出土した構築材の一部とされる炭化材の樹種同定を行い、木材利用について検討する。

1. 試料

試料は、M-2 号溝内および Y-10 号住居南側の土層断面、弥生時代中期後半の住居跡に伴う炉跡の焼土より採取された土壤と、Y-10 号住居の床面直上から出土した炭化材からなる。

上記した試料のうち炭化材を除く試料は、平成 25 年 9 月 20 日に当社技師 1 名が現地にて採取を行い、合せて各地点の土層断面および遺構埋積物の観察も実施した。現地での採取試料および担当者より受領した試料の一覧を表 1 に、試料採取の対象とした地点を図 1 に示す。以下に、現地調査所見および採取試料の概要を述べる。

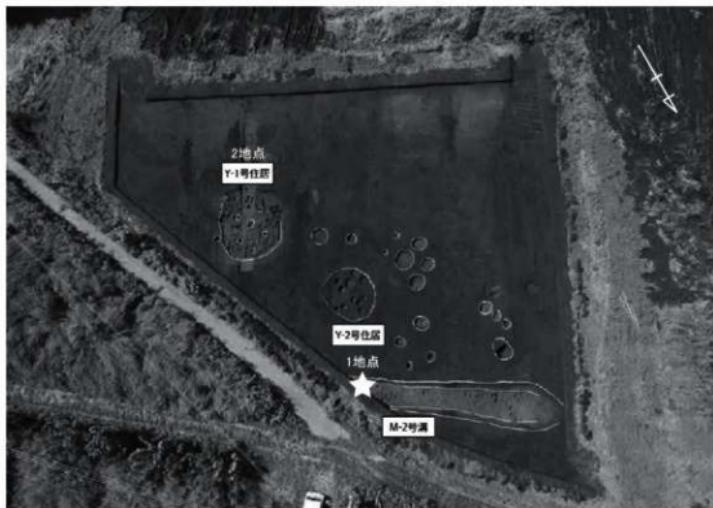
(1) 現地調査所見および試料の概要

本遺跡の調査区内は、後世の土地利用による切土や盛土が広範にわたって及んでおり、住居跡を埋積する黒ボク土層はそれほど厚くない。そのため、現地調査時には、弥生調査区①と②の黒ボク土層が比較的厚く残されている断面 2 箇所（1 地点, 3 地点）として対象としている。

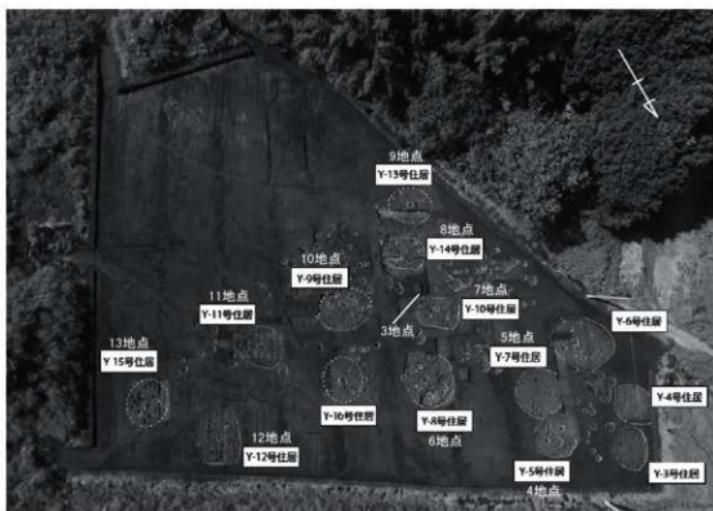
1) 1 地点

M-2 号溝は、弥生調査区②の北側、概ね東西方向に伸びる。1 地点は、M-2 号溝と調査区北壁と交わった箇所に作製された土層断面（以下、断面）に相当する。断面の上部、現地表から深度約 30cm までは、後世の切土と盛土による軽石混じりの耕作土である。耕作土中に混在する軽石は、径 5～10mm、灰白色を呈する。下記のように下位に As-B の降下堆積層があることとその層位と色調や粒径などから、この軽石は 1,783 年（天明 3 年）に浅間火山から噴出した浅間 A 軽石 (As-A: 新井, 1979) に由来する。なお、後述する 3 地点では As-A の軽石層が確認されている。

耕作土層の下位には、溝埋積層の断面が認められたが、その最上部には、その層位と層相から、埋積層の凹部に堆積したと思われる浅間 B テフラ (As-B: 新井, 1979) の降下堆積層が確認された。As-B は



弥生調査区①



弥生調査区②

図1. 試料採取地点の位置

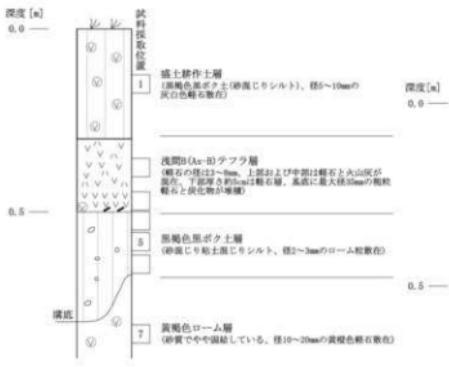


図2. 1地点の土層断面柱状図

1,108年(天仁元年)に噴出したとされている。テフラ層の厚さは約20cm、そのうち上部15cmは特に成層構造などは示さない軽石と火山灰の混在した層であり、下部約5cmは成層した降下軽石層を呈している。軽石の径は、上部も下部も3~8mm程度である。また、降下軽石層基底には径25~35mmにもなる粗粒の軽石が微量挿入する。さらに降下軽石層基底には炭化物も挟まれている。

As-B テフラの下位には溝を埋積した黒ボク土層が厚さ15~20cmで堆積する。黒ボク土層中には径2~3mmの褐色を呈する土壤粒子いわゆるローム粒の散在が認められるが、軽石等のテフラに由来する碎屑物は肉眼では認められない。

溝の基底を構成するのは黄褐色を呈する砂質のロームであり、径10~20mmの黄褐色を呈する軽石が散在する。この軽石は、遺跡の地理的位置およびその層位と層相から、1.5~1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP: 新井, 1962; 町田・新井, 2003)に由来すると考えられる。

試料は、耕作土層から試料番号1、As-Bの上部層から試料番号2、同下部層から試料番号3、その下位の黒ボク土層の上部、中部、下部からそれぞれ試料番号4、5、6、溝基底のローム層から試料番号7を採取した(図2)。

2) 3地点

3地点は、弥生調査区①の中央よりやや西側に位置するY-10号住居の南側に残された土層断面に相当する。断面の最上部には降下堆積後に掃き寄せられたとされているAs-Aの軽石層が堆積する。軽石の径は5~20mmであり、灰白色を呈し、発泡は比較的良好である。その下位約8cmは、軽石の混在する黒褐色を呈する黒ボク土であり、不明瞭な層界を経て、その下位約23cmは、黒色を呈する黒ボク土である。この黒ボク土中には径2~4mmという比較的細粒の灰白色軽石が散在する。さらに下位には厚さ17cm程度の黒色と暗灰褐色の色調が斑状を呈する黒ボク土が確認された。この黒ボク土中にも径2~5mmの灰白色軽石が散在する。この黒ボク土層の下位層との層界は波状を呈しながらも比較的明瞭であり、その下位には厚さ8cm程度の褐灰色を呈する土壤いわゆる黒ボク土層からローム層への漸移層に相当すると考えられる層が認められ、基底の灰褐色を呈するローム層へと続く。

試料は、As-A 軽石層直下の黒褐色黒ボク土層下部から漸移層まで厚さ5cm連続で10点(試料番号1~10)を採取した(図3)。

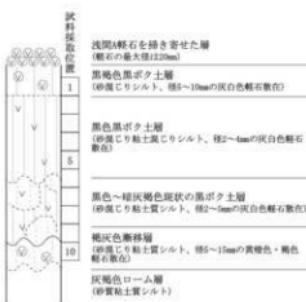


図3. 3地点の土層断面柱状図

表1. 分析試料一覧

| 調査区 | 地点名など | 試料番号 名称など | 備考 | 分析項目 | | | |
|--------|------------------|--------------|--------------------------|--------------|-----------|-------------|------|
| | | | | テフラの 検出同定 | 屈折率 測定 | 植物珪酸 体分析 | 樹種同定 |
| 弥生調査区② | 1地点 (調査区北壁断面) | 1 | As-A軽石混じり盛土 | | | | |
| | | 2 | M-2号溝を埋めるAs-B層 | | | | |
| | | 3 | | | | | |
| | | 4 | | | | | |
| | | 5 | M-2号溝底を構成する 黒ボク土層～漸移層 | ○ | ○ | ○ | |
| | | 6 | | | | | |
| | | 7 | ローム層最上部 | | | | |
| 弥生調査区① | 2地点 焼土 | Y-1号住居 炉跡 | | | | ○ | |
| | | 1 | As-A軽石混じり盛土 | | | | |
| | | 2 | | | | | |
| | | 3 | As-A軽石混じり盛土 (やや粘土質) | | | | |
| | | 4 | | | | | |
| | | 5 | | | | | |
| | | 6 | | | | | |
| | | 7 | 盛土下の黒ボク土層下部 | ○ | ○ | | |
| | | 8 | | | | | |
| | | 9 | | ○ | ○ | | |
| | | 10 | 漸移層 | | | | |
| | | 4地点 | 焼土 Y-5号住居 炉跡 | | | ○ | |
| | | 5地点 | 焼土 Y-6号住居 炉跡 | | | | |
| | | 6地点 | 焼土 Y-8号住居 炉跡 | | | | |
| | | 7地点 | 焼土 Y-10号住居 炉跡 | | | ○ | |
| | | 8地点 | 焼土 Y-14号住居 炉跡 | | | | |
| | | 9地点 | 焼土 Y-13号住居 炉跡 | | | ○ | |
| | | 10地点 | 焼土 Y-9号住居 炉跡 | | | | |
| | | 11地点 | 焼土 Y-11号住居 炉跡 | | | | |
| | | 12地点 | 焼土 Y-12号住居 炉跡 | | | | |
| | | 13地点 | 焼土 Y-15号住居 炉跡 | | | ○ | |
| | | Y-10号住居 | 炭1 床直出土炭化材 | | | | ○ |
| | | | 炭2 床直出土炭化材 | | | | ○ |
| | | | | 3 | 1 | 8 | 2 |

3) 2、4～13地点

いずれも弥生時代中期後半とされる住居跡に伴う炉跡である。炉跡は、赤褐色を呈する焼土塊により認識される。焼土塊と周囲の床面を構成するロームとの境界部は漸移的である。焼土塊は、赤褐色を呈し、固結しているが、ロームとの漸移部分なども確認されることから、ロームの変質した土壤であると考えられる。

(2) 試料の選択

テフラの検出同定には、1地点のAs-B層より下位の溝埋積土である黒ボク土から試料番号5、3地点のローム層上位の黒ボク土層下部より試料番号7・9の計3点を選択する。これらのうち、As-Cに対比される可能性があるとされた軽石が検出され場合には、その試料1点を選択し、軽石の屈折率測定を行う。植物珪酸体分析には、古植生にかかる資料を得ることを目的として、上述したテフラの検出同定と同一の試料3点を選択し、さらに住居の炉跡焼土を対象として、選択した住居跡の分布位置が偏らないことを考慮しながら、2、4、7、9、13地点の計5試料を選択した。炭化材試料は、2点ともに樹種同定の対象とした。

2. 分析方法

(1) テフラの検出同定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに目的とする軽石が検出された場合、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

（2）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由來した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由來した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土 1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を乾土 1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は 100 単位として表示し、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に 100 単位として表示した。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

さらに、主な分類群については、植物珪酸体含量を基に単位面積（層厚 1 cm）当たりの植物体生産量（単位 kg/m² · cm）を試算した。これは杉山（2000）を参考にしたもので、植物珪酸体含量に土壤試料の仮比重（0.9 と仮定）と各植物の換算係数（換算係数：メダケ属（ネザサ節として）：0.48、ヨシ属：6.31、ウクシクサ族（スキ属として）：1.24、機動細胞珪酸体 1 個体当りの植物体乾重：単位 10⁻⁵g）を掛けて算出する。

（3）炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面

表2. テフラ分析結果

| 地点名 | 試料番号 | スコリア | | 火山ガラス | | | 軽石 | | |
|-----|------|------|-------|--------------|--------|-----------|-----|--|--|
| | | 量 | 色調・形態 | 量 | 色調・発泡度 | 最大粒径 | | | |
| 1地点 | 5 | — | — | — | + | GW·sg(ox) | 2.0 | | |
| 3地点 | 7 | — | + | c1·nd, c1·pm | (+) | W·g(ox) | 1.5 | | |
| | 9 | — | + | c1·nd, c1·pm | + | W·g(ox) | 2.0 | | |

<凡例>

—: 含まれない, (+): きわめて微量, +: 微量, ++: 少量, +++: 中量, +++++: 多量,

c1: 無色透明, nd: 中間型, pm: 軽石型,

GW: 黄白色, W: 白色,

g: 良好, sg: やや良好, ab: やや不良, b: 不良,

(ox): 鮎方輝石斑晶有り, 最大粒径は mm.

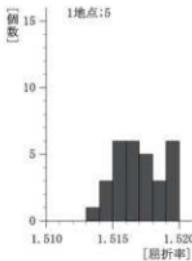


図4. 軽石の屈折率

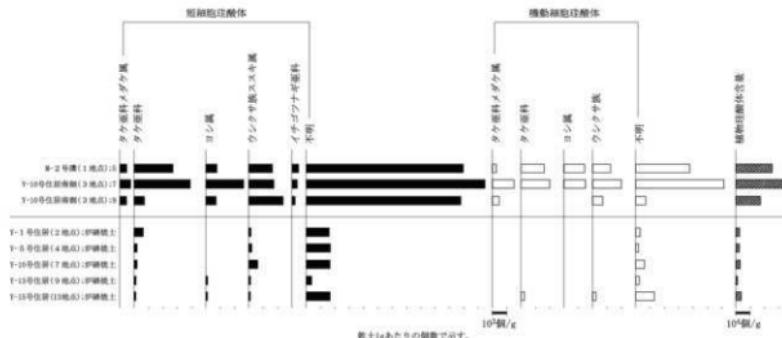


図5. 植物体糖体含量

表3. 植物体糖体含量

| 分類群 | 調査区② | | 調査区① | | 調査区② | | 調査区① | | 調査区① | |
|--------------|---------|--------|--------|-------|-------|-------|--------------|----------|-----------|-----------|
| | 1地点 | 3地点 | 2地点 | 4地点 | 7地点 | 9地点 | Y-10号(住居 南側) | Y-5号(住居) | Y-10号(住居) | Y-13号(住居) |
| | M-2号(構) | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 |
| イネ科葉部短細胞壁糖体 | 5 | 7 | 9 | 燒土 | 燒土 | 燒土 | 燒土 | 燒土 | 燒土 | 燒土 |
| タケア科メダケ属 | 500 | 800 | 500 | - | - | - | - | - | - | - |
| タケア科 | 2,700 | 3,900 | 700 | 600 | 200 | 200 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| ヨシ属 | 800 | 2,700 | 700 | - | - | - | 100 | 100 | 100 | 100 |
| ウシクサ族(スキ属) | 1,700 | 1,800 | 2,400 | 200 | 200 | 600 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| イチゴナギ族 | 500 | 400 | 200 | - | - | - | - | - | - | - |
| 不明 | 11,000 | 12,500 | 10,800 | 1,600 | 1,700 | 1,700 | 400 | 400 | 1,700 | 1,700 |
| イネ科葉身機動細胞壁糖体 | | | | | | | | | | |
| タケア科メダケ属 | 300 | 1,500 | 500 | - | - | - | - | - | - | - |
| タケア科 | 1,700 | 2,000 | - | - | - | - | - | - | - | 200 |
| ヨシ属 | 1,500 | 1,500 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| ウシクサ族 | 1,300 | 2,000 | 700 | - | - | - | - | - | - | 200 |
| 不明 | 3,800 | 6,200 | 700 | 300 | 200 | 600 | 300 | 300 | 1,300 | 1,300 |
| 合計 | | | | | | | | | | |
| イネ科葉部短細胞壁糖体 | 17,100 | 22,000 | 15,400 | 2,400 | 2,100 | 2,500 | 800 | 2,000 | | |
| イネ科葉身機動細胞壁糖体 | 8,400 | 13,300 | 1,900 | 300 | 200 | 600 | 300 | 1,800 | | |
| 植物壁糖体含量 | 25,500 | 35,300 | 17,300 | 2,700 | 2,300 | 3,100 | 1,100 | 3,800 | | |

*調査区①: 住生調査区①、調査区②: 住生調査区②

表4. おもな分類群の植物体生産量

| 分類群 | 調査区② | | 調査区① | |
|------------------------------------------------------|---------|-------|--------------|----------|
| | 1地点 | 3地点 | Y-10号(住居 南側) | Y-5号(住居) |
| | M-2号(構) | 試料番号 | 試料番号 | 試料番号 |
| イネ科葉身機動細胞壁糖体含量 | 5 | 7 | 9 | |
| (単位:個/g) | | | | |
| タケア科メダケ属 | 291 | 1,515 | 481 | |
| ヨシ属 | 1,456 | 1,515 | - | |
| ウシクサ族 | 1,262 | 2,019 | 721 | |
| 単位面積(厚さ1cm)当たりの植物体生産量 (単位:kg/m ² · cm) | | | | |
| メダケ属(ネザサ節として) | 0.01 | 0.07 | 0.02 | |
| ヨシ属 | 0.83 | 0.86 | - | |
| ウシクサ族(スキ属として) | 0.14 | 0.23 | 0.08 | |

表5. 炭化材同定結果

| 調査区 | 出土位置 | 試料番号 | 形状など | 種類(分類群) |
|--------|---------------|----------|--------------------------------|-------------------------|
| 弥生調査区① | Y-10号住居 床直 | 炭1 炭2 | 破片(半径約2.5cm以上) 破片(半径約4cm以上) | コナラ属コナラ亜属コナラ節 ケンボナシ属 |
| | | | | |

を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

(1) テフラの検出同定・屈折率測定

結果を表2に示す。M-2号溝のAs-B降下堆積層下位に堆積する溝埋積層の黒ボク土層(1地点 試料番号5)からは、微量の軽石が検出された。軽石は最大径約2.0mm、灰白色を呈し、発泡はやや良好である。斜方輝石の斑晶を包有する軽石も認められた。

Y-10号住居南側(3地点)のローム層の上位に堆積する色調が斑状を呈する黒ボク土層では、上部の試料番号7と試料番号9から火山ガラスと軽石が検出された。火山ガラスはいずれの試料においても微量であり、無色透明の中間型と無色透明の軽石型が混在する。軽石は、試料番号7からは極めて微量、試料番号9からは微量検出され、その特徴は両試料ともに同様である。最大径は1.5~2.0mm、白色を呈し、発泡は良好、斜方輝石の斑晶を包有するものも認められる。

屈折率の測定は、1地点の試料番号5の軽石を対象とした。測定結果を図4に示す。n1.513-1.519のレンジを示すが、モードは不明瞭である。

(2) 植物珪酸体分析

結果を表3・4、図5に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態は悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

1) 土層断面試料

M-2号溝、Y-10号住居南側の土層断面より採取した試料の植物珪酸体含量は、M-2号溝が2.6万個/g、Y-10号住居南側が1.7~3.5万個/gである。

M-2号溝を埋積する黒ボク土層(1地点 試料番号5)は、メダケ属を含むタケ亜科やスキ属の含量が高く、イチゴツナギ亜科なども検出される。また、温潤な場所に生育するヨシ属も比較的含量が高い。一方のY-10号住居南側の(3地点)の盛土下に見られた黒ボク土層下部のうち、試料番号7は1地点と同様な群集組成を示し、メダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、スキ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。試料番号9は、群集組成は類似するものの、試料番号7よりも植物珪酸体含量が低く、スキ属の短細胞珪酸体の含量が高くなるほかは、いずれも含量が低くなる、あるいは未検出という特徴を示す。

2) 住居跡 炉跡焼土

弥生調査区①・②より選択した住居跡5基(Y-1、5、10、13、15)の炉跡焼土の植物珪酸体含量は、1,100~3,800個/gであり、いずれも上述した土層断面試料に比べ低い値を示す。珪化組織片はいず

れの試料からも検出されず、単体のタケ亜科やススキ属を含むウシクサ族などがわずかに検出される程度である。

(3) 炭化材同定

同定結果を表5に示す。Y-10号住居の床面直上より出土した炭化材は、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節とケンボナシ属に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、道管は孔圈外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・ケンボナシ属 (*Hovenia*) クロウメモドキ科

環孔材で、孔圈部は1-3列、道管は孔圈外で急激に径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

4. 考察

(1) 黒ボク土層のテフラの産状

M-2号溝の溝底を埋積する堆積物（1地点 試料番号5）から微量検出された軽石は、その特徴と屈折率とから、As-Cに由来する軽石であると判断される。As-Cの噴出年代については、新井（1979）や町田・新井（2003）では4世紀中葉とされているが、これは、石川ほか編（1979）による、群馬県下のAs-Cの堆積層に直接関わる古墳や方形周溝墓および住居跡などから出土した土器型式の年代観から推定されたものである。一方、友廣（1988）などは、同様に土器型式の年代観から、古くとも4世紀初頭を下ることはないとの見解を示しており、さらに最近では3世紀に遡るという見解も出されていることが矢口（2011）には紹介されている。したがって、As-Cの軽石を含む黒ボク土からなる溝埋積層は、4世紀初頭前後以降に溝の周囲で形成された黒ボク土に由来すると考えられる。そしてその黒ボク土が風化や降雨などにより溝内に流れ込むことによって埋積層が形成されたことが考えられる。

Y-10号住居南側の土層断面の黒ボク土層の下部（3地点 試料番号7・9）から検出された軽石は、その特徴と漸移層に近い層位および無色透明の中間型と軽石型の火山ガラスを伴うことから、As-YPの軽石に由来すると考えられる。As-YPは、浅間火山最大の噴火とされる平原火碎流の噴出に先行して噴出した降下軽石であるとされている（早川, 2010）。また、平原火碎流の噴出後には火山灰の噴出が継続、この火山灰は関東地方に広域に分布し、南関東では立川ローム層上部ガラス質火山灰（UG: 山崎, 1978）と呼ばれている。したがって、3地点 試料番号7・9から検出された火山ガラスは、その形態的特徴からその火山灰に由来すると考えられ、試料が採取された黒ボク土層はその下位のローム層最上部に含まれるAs-YPの軽石や火山ガラスの再堆積物を包含しながら形成されたことが考えられる。また、上述したM-2号溝（1地点）の埋積層中に認められたAs-Cの軽石は含まれていないことから、その形成時期は新しくともAs-Cの降下以前であるとも考えられる。形成年代からみれば、弥生時代の堅穴住居の壁を構成していた黒ボク土層に相当する可能性もある。

(2) 古植生

M-2号溝（1地点）のAs-B降下堆積層下位の黒ボク土層は、上述したようにAs-Cの降灰以降As-B

の降灰までの時期に堆積したと考えられるから、試料番号 5 に認められた植物珪酸体群集はその時期の周辺植生に由来すると考えられる。得られた分類群からは、周辺にメダケ属やススキ属、イチゴツナギ亞科などのイネ科植物が生育していたと考えられる。また、湿润な場所を好むヨシ属も認められたことから、周辺には湿润な場所もあった可能性があると考えられる。

また、Y-10 号住居南側（3 地点）の黒ボク土層下部は、上述のテフラの産状から M-2 号溝（1 地点）を埋積する黒ボク土層よりも古い形成年代であると考えられたが、植物珪酸体群集は 1 地点の黒ボク土層とほぼ同様であり、メダケ属、ヨシ属、ススキ属、イチゴツナギ亞科などのイネ科植物が生育していたと考えられる。

（3）植物利用

弥生時代中期後半とされる各住居跡の炉跡に伴う焼土については、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多いことから、とくに珪化組織片の産状に着目した。今回の分析では、いずれの炉跡焼土からも珪化組織片は全く検出されなかったため、珪化組織片による燃料材の推定には至らなかった。なお、単体で検出された植物珪酸体には、タケアキ科やススキ属などを含むウシクサ族などが確認された。これらのイネ科植物は燃料材として利用されたと推定される事例が確認されていることから、これらの利用があった可能性もある。ただし、上述した土層断面試料からも同様の分類群が確認されていることや、単体の植物珪酸体として検出されている点などから、燃料材としての利用については炉跡が構築されたローム層における植物珪酸体の産状との比較による評価も重要と考える。

Y-10 号住居の床面直上より出土した炭化材（炭 1・2）は、いずれも破片であったため、本来の形状・木取りの詳細は不明である。なお、残存部の観察から、炭 1 は半径約 2.5cm 以上、炭 2 は半径約 4cm 以上の樹木であったと見積もられる。

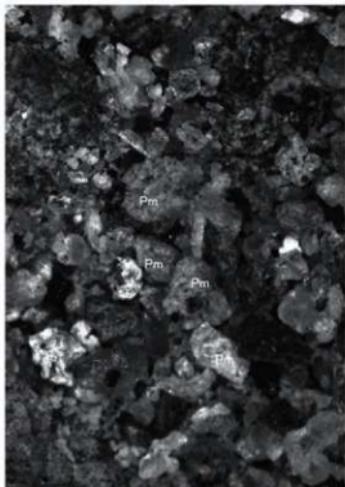
これらの炭化材の樹種同定の結果、コナラ節（炭 1）とケンボナシ属（炭 2）が確認された。コナラ節には、コナラ、ミズナラ、カシワ、ナラガシワなどが含まれる。現在の本地域ではコナラが一般的であるが、古墳時代頃まではナラガシワも関東平野に分布していたことが知られている。コナラ節は、二次林などを構成する落葉高木であり、その木材は重硬で強度が高い。一方ケンボナシ属は、ケンボナシとケケンボナシの 2 種があり、いずれも二次林や河畔林などに生育する落葉高木であり、木材の材質はやや重硬な部類に入る。今回の結果から、Y-10 号住居では、強度の高いコナラ節と、それよりは強度がやや劣るケンボナシ属の 2 種を住居の建築部材として利用したことが推定される。

本地域では、弥生時代中期後半頃の住居構築材と考えられる炭化材の調査事例は少ない。やや距離が離れ、遺跡の立地や時期がやや異なるが、中高瀬觀音山遺跡（富岡市）の弥生時代後期とされる住居跡の出土炭化材を対象とした調査事例では、広葉樹のクリを中心に、針葉樹のカヤ、広葉樹のヤマザクラ、アカガシ亞属、キハダ、ケヤキ、コナラ節、ケンボナシ属、トネリコ属、ニレ属、モモなどが確認されている（伊東・山田, 2012）。上述した事例には、Y-10 号住居より確認されたコナラ節とケンボナシ属が含まれており、共通する木材の選択・利用の特徴として注目される。

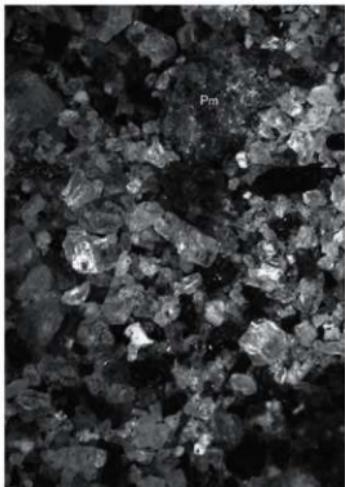
引用文献

- 新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層.考古学ジャーナル,157,41-52.
- 古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別.地質学雑誌,101,123-133.
- 早川由紀夫,2010,浅間山の風景に書き込まれた歴史を読み解く.群馬大学教育学部紀要 自然科学編 58,65-81.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一,1979,火山堆積物と遺跡 I .考古学ジャーナル,159,3-40.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載 I .木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載 II .木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載 III .木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV .木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載 V .木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編),2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 近藤錬三,2010,プラント・オパール図譜.北海道大学出版会,387p.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス.東京大学出版会,336p.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 須貝俊彦,1992,利根川支流、碓氷川における中期更新世以降の河成段丘発達史.地理学評論,65,339-353.
- 杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻 誠一郎(編著)考古学と自然科学 3 考古学と植物学.同成社,189-213.
- 友廣哲也,1988,古式土器器出現期の様相と浅間山C軽石.(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団編 群馬の考古学 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団創立十周年記念論集.群馬県考古学資料普及会,325-336.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 矢口裕之,2011,関東平野北西部、前橋堆積盆地の上部更新統から完新統にわたる諸問題.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 研究紀要 29,21-40.
- 山崎晴雄,1978,立川断層とその第四紀後期の運動.第四紀研究,16,231-246

図版1 テフラ・砂分の状況



1. As-Cの軽石(1地点;5)



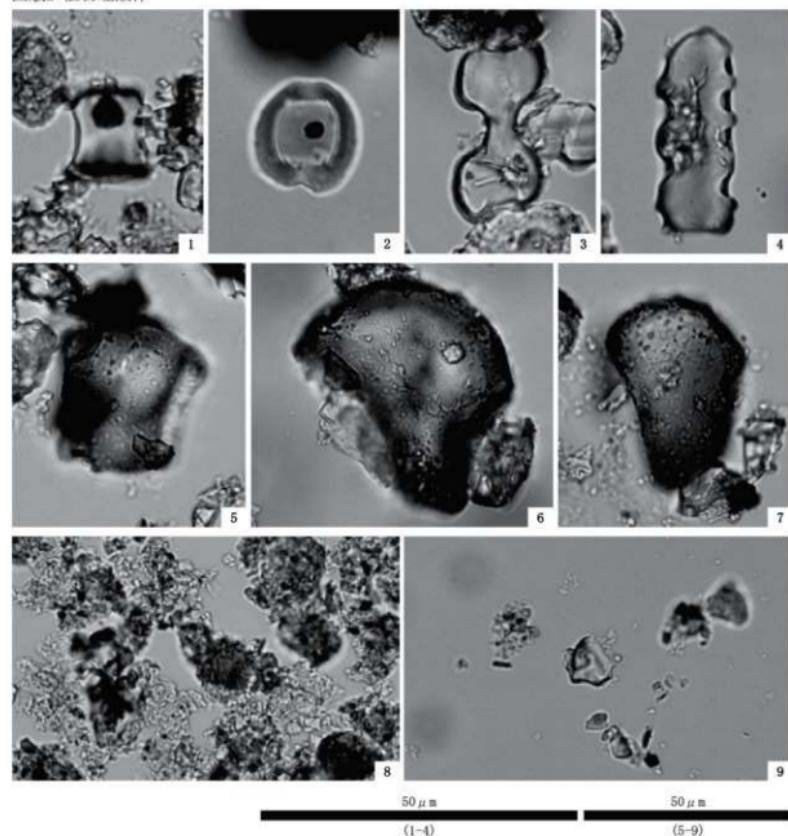
2. 砂分の状況(3地点;7)



3. 砂分の状況(3地点;9)

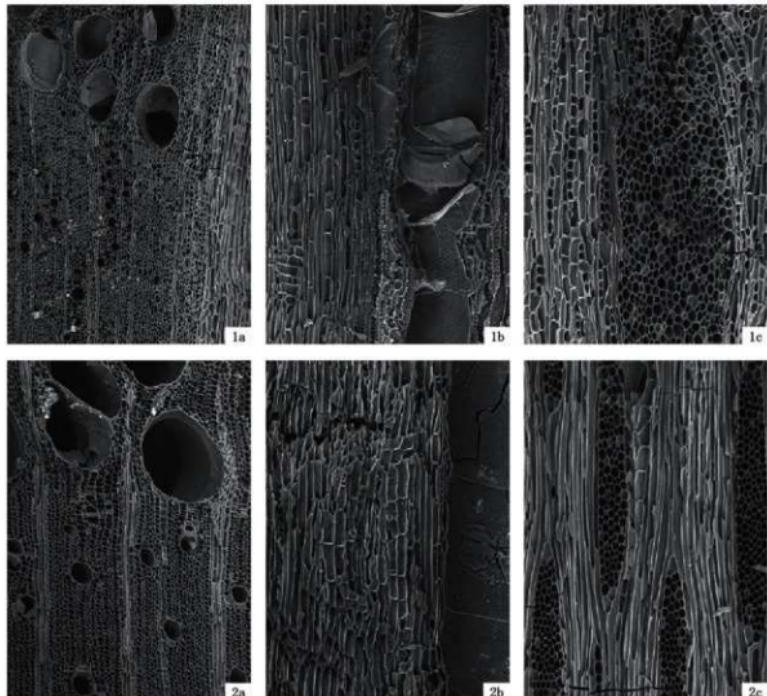
Pm:軽石.
2.0mm
1-3

図版2 植物珪酸体



1. メダケ属短細胞珪酸体(3地点;9)
2. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点;5)
3. ススキ属短細胞珪酸体(1地点;5)
4. メダケ属機動細胞珪酸体(3地点;7)
5. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;5)
6. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;5)
7. ウシクサ族機動細胞珪酸体(3地点;7)
8. 状況(飼物粒子が散在)(2地点;焼土)
9. 状況(飼物粒子が散在)(7地点;焼土)

図版3 炭化材



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節(Y-10号住居;炭1)

2. ケンボナシ属(Y-10号住居;炭2)

a:木口, b:柾目, c:板目

— 100 μm : a
— 100 μm : b, c

2 二軒在家原田頭遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

1.はじめに

安中市松井田町二軒在家に所在する二軒在家原田頭遺跡より出土した弥生時代中期後葉の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、二軒在家原田頭遺跡より出土した弥生時代中期後葉の黒曜石製石器40点である。また、比較対象として中野谷原遺跡より出土した弥生時代中期前半の黒曜石製石器12点、上人見遺跡より出土した弥生時代前期～中期初頭の黒曜石製石器3点、大上遺跡より出土した弥生時代中期中葉(Ⅲ期)の黒曜石製石器2点、注連引原Ⅱ遺跡より出土した弥生時代前期～中期初頭の黒曜石製石器3点の計20点も同時に分析した。表1に一覧を示す。試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジと精製水を用いて、表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 2004など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) \text{Rb 分率} = \text{Rb 強度} \times 100 / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$$

$$2) \text{Sr 分率} = \text{Sr 強度} \times 100 / (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$$

$$3) \text{Mn 強度} \times 100 / \text{Fe 強度}$$

$$4) \log(\text{Fe 強度} / \text{K 強度})$$

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する方法である。この判別図法は、原石同士の判別図が重複した場合には分離是不可能となるが、現在のところ、同一エリア内に多少の重複はあっても、エリア同士の重複はほとんどないため、産地エリアの推定に問題はない。また、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状や厚みなどの影響を比較的受けにくいという利点があり、非破壊分析を原則とし、形状が不規則で薄い試料も多く存在する考古遺物の測定に対して非常に有効な方法である。ただし風化試料の場合、log(Fe強度/K強度)の値が減少する(望月,

表1 分析対象

| 分析No. | 登録番号 | 出土遺構 | 区 | 層 | その他 | 器種 | 形態 | 備考 | 通番 | 遺跡 | 時期 |
|-------|------|--------|--------|-------|---------|------------|--------|----------|----|----|----|
| 1 | AT13 | Y10 | | | 一括 | 石鏹 | III | ほぼ完存 | | | |
| 2 | AT14 | Y6 | 15 | 1 | | 石鏹 | III | ほぼ完存 | | | |
| 3 | AT15 | Y1 | | | 一括 | 石鏹 | 凸基 | ほぼ完存 | | | |
| 4 | AT16 | Y14 | 13 | 1 | | 石鏹 | 未成品 | | | | |
| 5 | AT17 | F2G | | | | 石鏹 | 未成品 | 折れ | | | |
| 6 | AT18 | F2G | | | | 石鏹 | 未成品 | 折れ | | | |
| 7 | AT20 | Y10 | 3 | 1 | | 楔形石器 | | | | | |
| 8 | AT21 | Y16 | 6 | 1 | | 楔形石器 | | | | | |
| 9 | AT22 | Y9 | | | 一括 | 楔形石器 | | | | | |
| 10 | AT23 | D2 | | | | 楔形石器 | | | | | |
| 11 | AT24 | Y14 | 16 | 1 | | ScA | I a | 未成品 | | | |
| 12 | AT25 | Y9 | | | 一括 | ScA | I a | 石鏹未成品 | | | |
| 13 | AT26 | Y13 | | | P1 | ScA | III | 石鏹素材 | | | |
| 14 | AT27 | Y6 | 13 | 1 | | ScA | III | | | | |
| 15 | AT28 | Y1 | | | P2 | U, F(R, F) | | | | | |
| 16 | AT36 | Y1 | | | 一括 | 原石A | | | | | |
| 17 | AT37 | Y6 | 1 | | 周溝 | 原石A | | | | | |
| 18 | AT38 | Y6 | 13 | 1 | | 原石A | | | | | |
| 19 | AT39 | Y10 | 3 | 1 | | 原石A | | | | | |
| 20 | AT40 | Y14 | | | P3 | 原石A | | | | | |
| 21 | AT41 | Y6 | 13 | 1 | | 原石A | | | | | |
| 22 | AT42 | Y11 | | | 一括 | 原石A | | | | | |
| 23 | AT43 | Y15 | | | D1 | 原石A | No1 | | | | |
| 24 | AT44 | Y15 | | | D1 | 原石A | No2 | | | | |
| 25 | AT45 | Y15 | | | D1 | 原石A | No3 | | | | |
| 26 | AT46 | Y11 | | | 一括 | 原石A | | | | | |
| 27 | AT58 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No1 | | | | |
| 28 | AT59 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No2 | | | | |
| 29 | AT61 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No5 | | | | |
| 30 | AT62 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No6 | | | | |
| 31 | AT64 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No9 | | | | |
| 32 | AT67 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No12 | | | | |
| 33 | AT68 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No13 | | | | |
| 34 | AT69 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No14 | | | | |
| 35 | AT70 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No15 | | | | |
| 36 | AT71 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No16 | | | | |
| 37 | AT72 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No17 | | | | |
| 38 | AT74 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No19 | | | | |
| 39 | AT75 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No20 | | | | |
| 40 | AT77 | 黒耀石集中 | | | | 原石A | No22 | | | | |
| 41 | AT1 | Y-4住 | 5 | 1 | | 石鏹 | IIIc | 2 | 69 | | |
| 42 | AT2 | Y-5住 | 5 | 2 | | 石鏹 | I | 3 | 70 | | |
| 43 | AT4 | Y-11住 | 3 | 1 | | 石鏹 | IIIb | 5 | 72 | | |
| 44 | AT8 | 1W-80G | b | III | | 石鏹 | IIIa | 12 | 71 | | |
| 45 | AT9 | 26-75G | c | III | | 石鏹 | IIIc | 11 | 66 | | |
| 46 | AT18 | Y-4住 | 6 | 1 | | 石核A | | | | | |
| 47 | AT27 | Y-7住 | 9 | 1 | | 石核A | | | | | |
| 48 | AT49 | D-16 | 中 | | | 石核A | 両極 | | | | |
| 49 | AT54 | 2B-59G | a | III | Ob集中 | 原石A | 重No. 1 | | | | |
| 50 | AT55 | 2B-59G | a | III | Ob集中 | 原石A | 重No. 1 | | | | |
| 51 | AT56 | 2B-59G | a | III | Ob集中 | 原石A | 重No. 1 | | | | |
| 52 | AT57 | 2B-59G | a | III | Ob集中 | 原石A | 重 | | | | |
| 53 | AT2 | D-32 | No. 1 | | | 石鏹 | I | | | | |
| 54 | AT4 | 2I-460 | 7 | | | 石鏹 | 基部欠け | | | | |
| 55 | AT8 | D-54 | No. 14 | | | 原石A | | | | | |
| 56 | AT1 | Y-2住 | 9 | 1 | | 石錐 | I a | 58 | | | |
| 57 | AT11 | P-23 | | | 1ScAIII | | | 57 | | | |
| 58 | AT2 | C-4G | C | III層下 | | 石鏹 | III | 56, 片脚少欠 | | | |
| 59 | AT4 | C-12 | C | IV層上 | | 石鏹 | III | 54, 両脚欠 | | | |
| 60 | AT6 | D-30 | | | | 石鏹 | III | 55, 片脚欠 | | | |

1999)。試料の測定面には、なるべく奇麗で平坦な面を選んだ。原石試料は、採取原石を割つて新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に各原石の産地とそれぞれの試料点数、ならびにこれらのエリアと判別群名を示す。また、図1に各原石採取地の分布図を示す。

3. 分析結果

表3に測定値より算出された指標値を、図2、3に黒曜石原石の判別図に今回の石器50点の結果をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を椭円で取り囲んである。

分析の結果、51点が諏訪エリア星ヶ台群 SWHD、2点が和田エリア小深沢群 WDKB、1点が和田エリア鷹山群 WDTYと WDKBの重複域、1点が神津島エリア恩馳島群 KZOBの範囲にプロットされた。また、4点は図2では SWHDの範囲にプロットされたが、図3では SWHDの範囲の下方にプロットされた。これは先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月, 1999)、SWHDに属する可能性が高い。分析No.54は和田(WD)の判別群の近辺にプロットされるものの、一致する判別群がなく、産地不明であった。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

表4に遺跡別の産地推定結果を示す。60点中58点とほとんどが信州産であり、うち55点は諏訪エリア産の黒曜石であった。上人見遺跡の3点は、諏訪エリア産、和田エリア産、産地不明が各1点と産地にはらつきがみられた。また、中野谷原遺跡の12点は、和田エリア産2点、神津島エリア産1点が含まれていた。注連引原II遺跡の3点、大上遺跡の2点、二軒在家原田頭遺跡の40点は、すべて諏訪エリア産であった。

表2 黒曜石産地(東日本)の判別群名称(望月, 2004参照)

| 都道府県 | エリア | 判別群 | 記号 | 原石採取地 | |
|--------|--------|-------|-----------------|-------------------------|--------|
| 北海道 | 白浦 | 八号沢群 | STHG | 赤石山山頂・八号沢露頭・八号沢・ | |
| | | 黒曜の沢群 | STKY | 黒曜の沢・土木川(5) | |
| 青森 | 赤井川 | 曲川群 | AIMK | 曲川・土木川(5) | |
| | | 木造 | KDEK | 出来島海岸(10) | |
| 秋田 | 深浦 | 八森山群 | HJHM | 岡崎浜(7)、八森山公園(8) | |
| | | 金ヶ崎群 | OGRS | 金ヶ崎温泉(10) | |
| 岩手 | 男鹿 | 駿本群 | OGW | 駿本海岸(4) | |
| | | 北上川 | KKGD | 水沢市折居(9) | |
| 山形 | 羽黒 | 月山群 | HGGS | 月山莊前(10) | |
| | | 宮崎 | MZYK | 湯ノ倉貯(40) | |
| 宮城 | 色麻 | 根岸群 | SMNG | 根岸(40) | |
| | | 仙台 | 秋保1群 | SDA1 | 土蔵(18) |
| 福島 | | | 秋保2群 | SDA2 | |
| | | 塙釜 | SGSG | 塙釜(10) | |
| 新潟 | 新発田 | 板山群 | SBYI | 板山古場(10) | |
| | | 金津群 | NTKJ | 金津(7) | |
| 栃木 | 高原山 | 甘湯沢群 | THAY | 甘湯沢(22) | |
| | | 七尋沢群 | TINH | 七尋沢(3)、宮川(3)、枝持沢(3) | |
| 長野 | 和田(WD) | 鷹山群 | WDTY | 鷹山(14)、東駒鹿(16) | |
| | | 小深沢群 | WDKB | 小深沢(8) | |
| 和田(WD) | 土頭橋西群 | WDTB | 土頭橋西(11) | | |
| | | ブドウ沢群 | WBD | ブドウ沢(20) | |
| 諏訪 | 牧ヶ沢群 | WOMA | 牧ヶ沢下(20) | | |
| | | 萬松沢群 | WOTM | 萬松沢(19) | |
| 蓼科 | 星ヶ台群 | SWBH | 星ヶ台(35)、星ヶ塔(20) | | |
| | | 冷山群 | TSYT | 冷山(20)、麦草峠(20)、麦草峠東(20) | |
| 神奈川 | 箱根 | 芦ノ湯群 | HNAT | 芦ノ湯(20) | |
| | | 烟宿群 | HNNU | 烟宿(51) | |
| 静岡 | | 鍋冶屋群 | HNJK | 鍋冶屋(20) | |
| | | 上多賀群 | HNKT | 上多賀(20) | |
| 東京 | 天城 | 柏崎群 | AGNK | 柏崎(20) | |
| | 神津島 | 恩馳島群 | KZOB | 恩馳島(27) | |
| 鳥取 | | 砂糖崎群 | KZSN | 砂糖崎(20) | |
| | 越後 | 久見群 | OKJM | 久見バーライト(6)、久見採掘現場(5) | |
| | | 糸浦群 | OKMU | 糸浦海岸(3)、加茂(4)、岸浜(3) | |



図1 黒曜石産地分布図(東日本)

表3 測定値および产地推定結果

| 分析 No. | 遺跡 | R強度 (cps) | Mn強度 (cps) | Fe強度 (cps) | Rb強度 (cps) | Sr強度 (cps) | Y強度 (cps) | Zr強度 (cps) | Rb分率 | Mn*100 Fe | Sr分率 | log $\frac{Fe}{K}$ | 判別群 | エリア |
|-----------|----------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-------|--------------|-------|-----------------------|-----------|-----|
| 1 | | 246.8 | 97.3 | 970.7 | 598.0 | 218.9 | 286.7 | 558.5 | 35.98 | 10.03 | 13.17 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |
| 2 | | 309.0 | 119.2 | 1168.0 | 749.0 | 278.8 | 367.5 | 710.3 | 35.57 | 10.21 | 13.24 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 3 | | 315.7 | 127.4 | 1246.1 | 810.4 | 305.6 | 398.7 | 770.2 | 35.47 | 10.23 | 13.38 | 0.60 | SWHD | 諭訪 |
| 4 | | 278.9 | 113.8 | 1111.3 | 714.9 | 266.3 | 357.2 | 694.2 | 35.17 | 10.24 | 13.10 | 0.60 | SWHD | 諭訪 |
| 5 | | 338.8 | 129.9 | 1251.4 | 822.6 | 311.9 | 406.0 | 785.4 | 35.37 | 10.38 | 13.41 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 6 | | 347.8 | 113.6 | 1077.6 | 753.5 | 286.7 | 378.6 | 746.8 | 34.79 | 10.54 | 13.24 | 0.49 | SWHD? | 諭訪? |
| 7 | | 321.7 | 127.1 | 1217.4 | 805.0 | 304.8 | 399.6 | 770.0 | 35.32 | 10.44 | 13.37 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 8 | | 223.2 | 89.2 | 840.0 | 576.3 | 215.1 | 283.9 | 568.6 | 35.06 | 10.62 | 13.08 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 9 | | 312.0 | 121.2 | 1149.4 | 773.2 | 294.1 | 382.8 | 755.1 | 35.06 | 10.54 | 13.34 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 10 | | 283.4 | 112.1 | 1063.7 | 738.0 | 281.3 | 371.3 | 719.7 | 34.97 | 10.53 | 13.33 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 11 | | 414.9 | 122.1 | 1182.0 | 783.8 | 285.5 | 374.0 | 732.9 | 36.02 | 10.33 | 13.12 | 0.45 | SWHD? | 諭訪? |
| 12 | | 261.9 | 103.4 | 1016.6 | 665.0 | 249.4 | 329.8 | 642.1 | 35.26 | 10.17 | 13.22 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |
| 13 | | 312.8 | 123.6 | 1166.2 | 786.4 | 301.6 | 390.5 | 756.4 | 35.19 | 10.59 | 13.49 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 14 | | 287.6 | 111.6 | 1064.3 | 742.8 | 281.3 | 371.1 | 724.1 | 35.05 | 10.49 | 13.27 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 15 | | 234.0 | 93.9 | 876.2 | 590.0 | 223.5 | 298.8 | 579.0 | 34.88 | 10.72 | 13.22 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 16 | | 171.4 | 68.2 | 658.4 | 392.9 | 148.4 | 196.9 | 400.5 | 34.50 | 10.36 | 13.04 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 17 | | 252.9 | 99.8 | 936.1 | 562.5 | 209.3 | 275.2 | 554.0 | 35.13 | 10.66 | 13.07 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 18 | | 299.2 | 116.5 | 1095.9 | 743.0 | 279.7 | 367.7 | 713.2 | 35.32 | 10.63 | 13.30 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 19 | 二軒 在家 | 289.7 | 115.1 | 1076.8 | 720.7 | 272.0 | 359.3 | 695.7 | 35.20 | 10.69 | 13.28 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 20 | 原田原 遺跡 | 290.1 | 114.0 | 1075.3 | 728.3 | 279.9 | 371.0 | 714.4 | 34.79 | 10.60 | 13.37 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 21 | | 302.0 | 119.9 | 1114.3 | 754.6 | 286.9 | 374.5 | 725.6 | 35.23 | 10.76 | 13.40 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 22 | | 328.8 | 129.7 | 1233.4 | 796.3 | 301.2 | 385.7 | 749.6 | 35.66 | 10.51 | 13.49 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 23 | | 290.3 | 112.2 | 1078.3 | 707.9 | 268.0 | 350.3 | 678.2 | 35.35 | 10.40 | 13.28 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 24 | | 312.8 | 122.7 | 1156.1 | 753.7 | 283.3 | 370.8 | 720.6 | 35.41 | 10.62 | 13.31 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 25 | | 335.5 | 135.5 | 1257.8 | 848.5 | 319.4 | 417.8 | 813.6 | 35.37 | 10.77 | 13.31 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 26 | | 299.9 | 116.5 | 1119.7 | 726.2 | 275.1 | 360.2 | 692.1 | 35.37 | 10.41 | 13.39 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 27 | | 312.3 | 120.4 | 1118.7 | 735.6 | 278.2 | 362.0 | 706.0 | 35.34 | 10.76 | 13.36 | 0.55 | SWHD | 諭訪 |
| 28 | | 282.4 | 110.9 | 1042.4 | 689.2 | 263.0 | 348.0 | 666.8 | 35.04 | 10.64 | 13.37 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 29 | | 256.9 | 101.2 | 943.1 | 638.7 | 249.8 | 328.8 | 632.8 | 34.57 | 10.73 | 13.37 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 30 | | 320.1 | 123.3 | 1162.9 | 782.1 | 294.5 | 390.3 | 755.5 | 35.19 | 10.61 | 13.25 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 31 | | 313.7 | 124.8 | 1175.5 | 767.7 | 291.1 | 382.6 | 734.0 | 35.29 | 10.62 | 13.38 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 32 | | 334.0 | 131.6 | 1218.7 | 834.4 | 319.5 | 416.8 | 811.6 | 35.07 | 10.88 | 13.30 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 33 | | 316.7 | 121.3 | 1168.1 | 785.8 | 294.4 | 387.3 | 760.1 | 35.28 | 10.39 | 13.22 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 34 | | 192.6 | 74.2 | 682.3 | 485.1 | 187.3 | 253.4 | 495.4 | 34.13 | 10.88 | 13.18 | 0.55 | SWHD | 諭訪 |
| 35 | | 294.8 | 113.5 | 1072.8 | 712.3 | 268.0 | 356.7 | 680.7 | 35.34 | 10.58 | 13.20 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 36 | | 276.5 | 110.2 | 1026.2 | 697.0 | 265.0 | 347.9 | 680.5 | 35.02 | 10.74 | 13.31 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 37 | | 290.0 | 116.5 | 1081.5 | 739.2 | 279.4 | 368.0 | 715.6 | 35.16 | 10.78 | 13.29 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 38 | | 278.9 | 109.8 | 1038.6 | 702.0 | 264.3 | 350.4 | 690.1 | 34.98 | 10.57 | 13.17 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 39 | | 328.9 | 129.1 | 1201.2 | 820.9 | 311.2 | 407.6 | 799.9 | 35.08 | 10.75 | 13.30 | 0.56 | SWHD | 諭訪 |
| 40 | | 252.3 | 96.8 | 930.8 | 631.7 | 242.4 | 320.1 | 631.4 | 34.60 | 10.59 | 13.28 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 41 | 中野 谷原 遺跡 | 282.1 | 110.0 | 1075.1 | 673.8 | 253.2 | 328.0 | 645.1 | 35.46 | 10.23 | 13.33 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 42 | | 214.8 | 104.4 | 870.3 | 1034.2 | 68.9 | 494.6 | 582.8 | 48.77 | 11.79 | 9.35 | 0.61 | WTDTorWHD | 和田 |
| 43 | | 215.7 | 117.4 | 1469.3 | 352.6 | 445.2 | 274.7 | 747.3 | 20.18 | 7.99 | 25.49 | 0.83 | KZOB | 神津島 |
| 44 | | 295.0 | 129.3 | 1173.4 | 1248.6 | 97.5 | 507.4 | 716.4 | 48.59 | 11.02 | 3.79 | 0.60 | WDKS | 和田 |
| 45 | | 214.4 | 82.2 | 835.3 | 536.1 | 201.7 | 265.8 | 510.6 | 34.40 | 9.84 | 13.32 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |
| 46 | | 300.2 | 117.6 | 1157.7 | 710.4 | 266.4 | 352.5 | 673.2 | 35.48 | 10.15 | 13.31 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |
| 47 | | 362.2 | 120.4 | 1155.2 | 783.5 | 289.9 | 381.6 | 739.5 | 35.70 | 10.42 | 13.21 | 0.50 | SWHD? | 諭訪? |
| 48 | | 232.6 | 89.8 | 833.4 | 587.3 | 226.0 | 303.5 | 595.5 | 34.30 | 10.78 | 13.20 | 0.55 | SWHD | 諭訪 |
| 49 | | 204.9 | 81.2 | 777.6 | 502.5 | 191.2 | 253.5 | 494.3 | 34.86 | 10.44 | 13.27 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 50 | | 245.9 | 96.3 | 912.3 | 557.5 | 213.6 | 277.3 | 538.6 | 35.13 | 10.56 | 13.46 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 51 | | 307.9 | 121.4 | 1131.6 | 744.9 | 282.2 | 372.5 | 724.1 | 35.08 | 10.72 | 13.29 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 52 | | 288.4 | 116.0 | 1068.7 | 700.6 | 266.7 | 349.8 | 676.5 | 35.14 | 10.88 | 13.38 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 53 | 上人見 遺跡 | 310.8 | 154.4 | 1478.2 | 1481.9 | 204.8 | 625.3 | 937.7 | 45.60 | 10.44 | 6.30 | 0.68 | WDKB | 和田 |
| 54 | | 138.0 | 55.5 | 640.8 | 456.6 | 60.2 | 176.4 | 296.2 | 46.15 | 8.65 | 6.09 | 0.67 | ? | 不明 |
| 55 | | 287.3 | 112.0 | 1064.3 | 702.9 | 263.2 | 351.0 | 705.1 | 34.76 | 10.52 | 13.01 | 0.57 | SWHD | 諭訪 |
| 56 | | 312.9 | 124.7 | 1185.1 | 760.1 | 286.9 | 377.7 | 728.8 | 35.30 | 10.52 | 13.32 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 57 | 遺跡 | 245.6 | 98.1 | 944.2 | 619.1 | 235.4 | 312.3 | 601.1 | 35.02 | 10.38 | 13.31 | 0.58 | SWHD | 諭訪 |
| 58 | 注連 | 279.0 | 113.2 | 1089.5 | 714.0 | 267.1 | 345.8 | 675.6 | 35.65 | 10.39 | 13.34 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |
| 59 | 引原 II | 405.4 | 131.2 | 1269.5 | 849.4 | 315.9 | 408.3 | 789.4 | 35.94 | 10.34 | 13.37 | 0.50 | SWHD? | 諭訪? |
| 60 | 遺跡 | 252.6 | 96.8 | 971.8 | 605.7 | 224.9 | 292.5 | 557.5 | 36.04 | 9.96 | 13.38 | 0.59 | SWHD | 諭訪 |

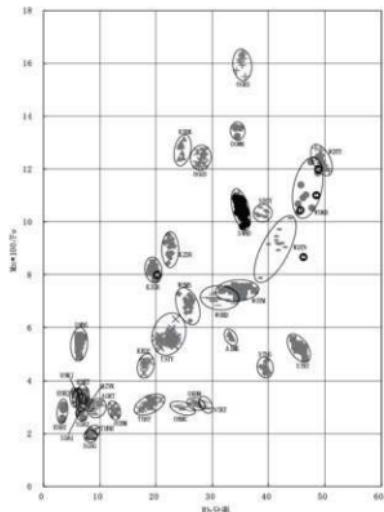


図2 黒曜石産地推定判別図(1)

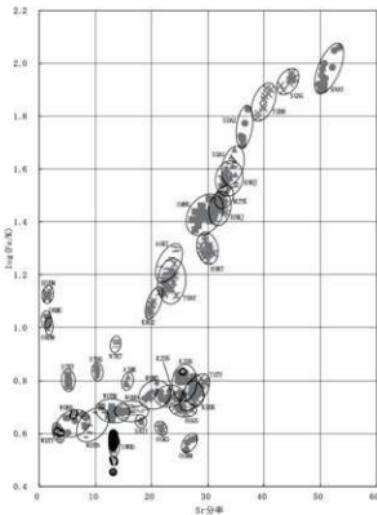


図3 黒曜石産地推定判別図(3)

4. おわりに

二軒在家原田頭遺跡、中野谷原遺跡、上人見遺跡、大上遺跡、注連引原II遺跡より出土した黒曜石製石器計60点について蛍光X線分析による产地推定を行った結果、1点は产地不明

表4 遺跡別の产地推定結果

| 遺跡 | 時期 | 諏訪 | 和田 | 神津島 | 不明 | 計 |
|---------|----------|----|----|-----|----|----|
| 上人見 | 前期末～中期初頭 | 1 | 1 | — | 1 | 3 |
| 注連引原 II | 中期初頭 | 3 | — | — | — | 3 |
| 中野谷原 | 中期前半 | 9 | 2 | 1 | — | 12 |
| 大上 | 中期中葉 | 2 | — | — | — | 2 |
| 二軒在家原田頭 | 中期後葉 | 40 | — | — | — | 40 |
| 計 | | 55 | 3 | 1 | 1 | 60 |

であったものの、55点が諏訪、3点が和田、1点が神津島エリア産と推定された。

引用・参考文献

- 望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編『埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 一上和田城山遺跡篇一』：172-179、大和市教育委員会。
- 望月明彦（2004）殿山遺跡出土の黒曜石製石器の产地推定。上尾市教育委員会編『殿山遺跡 先土器時代石器群の保管・活用のための整理報告書』：272-282、上尾市教育委員会。

3 二軒在家原田頭遺跡・上人見遺跡出土スクレイパー B 類の使用痕分析

高瀬克範（北海道大学大学院文学研究科）

1. 分析の目的

本稿の目的は、群馬県安中市二軒在家原田頭遺跡から出土したスクレイパー B 類の機能・用途を解明する点にある。安中市中野谷原遺跡出土資料の分析によって、この種の石器はイネ科植物の利用との関連性が高いことがすでに判明しており（高瀬 2004），本地域における弥生文化期の資源利用の理解にとって重要な情報を提供することが予測されるからである。また、比較資料としてやはり安中市に所在する上人見遺跡から出土したスクレイパー B 類の分析も実施し、その結果を二軒在家遺跡原田頭遺跡と対比する。

2. 分析の対象と方法

分析対象は、二軒在家原田頭出土スクレイパーのうち報告書（本書）に実測図が掲載された全点（23 点）、上人見遺跡出土スクレイパー B 類のうち報告書（井上編 2014）に実測図が掲載されている全点（16 点）の計 39 点である（第 1 表）。これらの石器に使用されている岩石は頁岩と安山岩であるが、とくに安山岩製の資料には稜線・縁辺の摩耗などが目立ち、肉眼でも物理的な風化を確認できる例が多い。

石器使用痕の観察は、Keeley（1977, 1980）による高倍率法にしたがった。資料の観察には、同軸落射照明付き金属顕微鏡（Olympus BX-FM）をもちい、総合倍率 100 ~ 500 倍を行った。観察にさきだって、エタノールによって資料表面に付着した油脂を除去した。必要に応じて顕微鏡用デジタルカメラ撮影装置（Wraymer NF1000）で写真撮影を行った。使用痕光沢面の分類は、梶原・阿子島（1981）、阿子島（1989）に準拠している。

3. 分析結果

分析結果を第 1 図、第 1 表にしめた。記載の便宜のため、実測図平面図のうち左側に配置されている面を「a 面」、右側に配置されている面を「b 面」と呼称する。二軒在家原田頭遺跡出土資料 23 点のうち、以下の 4 点に明確な使用痕が確認された。

- 1) No.97（第 1 図 1） b 面（素材剥片腹面側）の左側の縁辺に、滑らかで断面が丸みを帯びた使用痕光沢が分布しているのが確認された。光沢面はすべて B タイプに対比できるが、個々のパッチのサイズは 50 μ m 以下の小さいものばかりで（写真図版 1—1 ~ 3），分布密度も非常に低く縁辺部に散在するのみである。線状痕は、縁辺に対して平行方向である。使用痕光沢面は内部にまではほとんど分布せず、縁辺から 1 mm 以内に限定される。また、b 面の縁辺に B タイプ光沢および線状痕は確認できない。
- 2) No.103（第 1 図 2） 実測図下部の縁辺に、非常に滑らかで断面が丸みを帯びた光沢が分布している（写真図版 1—4 ~ 8）。使用痕光沢面は、B タイプ光沢に対比できる。線状痕は、使用痕光沢面の表面をあたかも刷毛ではいたかのような浅いものが優勢で、縁辺に対して平行方向にはしつっている。断面がより丸みを帯びた使用痕光沢面のパッチ上で、そうした線状痕が相対的に顕著に認められる。a・b両面とも B タイプ光沢が比較的内部にまで分布するが、b 面のほうで相対的に広く分布している。使用痕光沢面は、顕微鏡下で黒く観察される安山岩の斑晶上でよく発達しているが、白っぽく見える基質上にも確

実に形成されている。

3) No.104 (第1図3) 素材剥片の末端に相当する縁辺に、非常に滑らかで断面が丸みを帯びた使用痕光沢面が確認された（写真図版2-1～5）。Bタイプ光沢に対比できる。また、一部の箇所では、Bタイプ光沢が発達して相互に連結することで面的に拡大したAタイプ光沢も確認できる。a・b面ともに縁辺から2cm以上内部にはいった箇所まで使用痕光沢面が分布しているが、a面のほうで分布域がより広く、より内部にまで使用痕光沢面が確認できる。使用痕光沢面は、縁辺に対して平行方向のものが圧倒的に優勢であり、他の資料にくらべて線状痕がより明瞭に観察できる。このため、使用痕光沢面上は微細な凹凸がよりはげしくなっており、やや荒れていの印象をうける。また、使用痕光沢面内部のピットも他の資料にくらべてより目立っている。

4) No.109 (第1図4) 素材剥片の末端に相当する縁辺に、滑らかで断面形が丸みを帯びた使用痕光沢面が確認された（写真図版2-6～8）。やはり、Bタイプに対比できる。使用痕光沢面上には、縁辺に対して平行方向の線状痕が分布している。b面では縁辺から2mm程度内側まで使用痕光沢面が分布しているが、a面では縁辺のごくかぎられた範囲にのみ分布する。

これら4点以外の19点の資料には、いっさいの使用痕が確認できなかった。弥生文化期の住居の炉や床面上から出土した資料にも使用痕が認められなかったことから、先述のとおり、石器表面の風化が影響している可能性はこられる。しかしながら、顕微鏡観察では使用痕光沢面は分布しないものの石器表面が平滑化していたり、凸部が丸みを帯びたりしているような箇所はほとんど認められなかった。また、No.103, 104のような安山岩製石器でも使用痕が明確に残存している資料は存在している。したがって、使用痕が認められなかった原因を、表面の風化のみにとめることは危険である。

このほか、上人見遺跡出土資料16点も観察したが、線状痕および使用痕光沢面はいっさい確認できなかった。これらの石器にも、かつて使用痕光沢面が形成されていた可能性がある平滑な箇所や、丸みを帯びた凸部は認められなかった。やはり、使用痕が確認できなかった主たる要因が風化であると即断することはできないと考えられる。

4. 若干の考察

二軒在家原田頭遺跡出土のスクレイパーB類23点のうち4点に、明確な使用痕が認められた。そのすべての資料に、イネ科植物との相関性が高いBタイプ光沢と縁辺に対して平行方向の線状痕が確認された。この点は、中野谷原遺跡の分析結果とほぼ同じであり（高瀬2004）、スクレイパーB類に残存する使用痕光沢面の種類と線状痕の方向は一定のパターンを有していることが確認できた。

石器の利用方法を個別に検討すると、No.97には剥片長軸の縁辺に軽微な二次加工が加えられ、そこが刃部として利用されていたことがわかる。平行方向の線状痕を伴うBタイプ光沢が確認され、なおかつ使用痕光沢面の発達の程度が弱く、分布も散漫であることから、片手で石器を保持し、もう一方の手でもったイネ科植物を切断するような用途に用いられた可能性が高いと思われる。この条件下でもっとも想定しやすい動作は穀物の穂の切断であり、いわゆる穂摘みとは異なる穂刈りの行為であろう。使用痕光沢面の種類・分布および線状痕の方向からみて、No.109も同じような用途で用いられた蓋然性がきわめて高く、機能・用途論的な観点から両者は穂刈具として評価できる。ちなみに、No.97・No.109ともに、a面よりもb面で使用痕光沢面がより発達している。石鎌の収穫実験では使用時に下になっている面でより使用痕光沢面が発達することが指摘されているが（斎野2001），この点に配慮

するとどちらの資料も使用時は b 面が下をむいた（地面のほうをむいていた）状態で利用されていたと推定される。

No.103 は、使用痕の種類や線状痕の方向はともに中野谷原遺跡出土スクレイパー B 類と同じであるが、素材剥片の短辺が利用されている点に違いがある。残念ながら二軒在家原田頭遺跡では、No.99・105～107 のような横長の剥片を素材として製作されているスクレイパー B 類に使用痕が認められなかっただため、短辺の利用がどれほどの普遍性があるのかは現時点では判断できない。しかしながら、このような利用方法も実際に存在していたという点は、今後の検討にあたっても念頭においておくべきであろう。No.103 では使用痕光沢面は縁辺から 1.5cm 以上内部にまで使用痕光沢面が分布している。沢田（1995）による石器の使用実験によると、使用痕光沢面の縁辺からの侵入度は穂刈りの場合 0.1～0.2cm、根刈りの場合 0.7～0.9cm である。また、使用痕光沢面が分布する刃部の長さは、穂刈りの場合 3.2～4.6cm であるのに対して、根刈りの場合 8.2～11.9cm である。この数値を参考にすると、本資料は穂刈りではなく根刈りに用いられた可能性が高いと推定される。ただし、使用痕光沢面の発達程度と分布範囲からみて、その利用頻度はつぎに述べる No.104 よりは低かったと考えられる。また、b 面でより使用痕光沢面が発達し、分布域も広くなっている点は、この面が下に向かって操作された可能性が高いことを示している。

No.104 の特徴として、1) 使用痕光沢面が縁辺から 2cm ほど内部にまで分布する、2) 使用痕光沢面が非常に発達しており A タイプも確認される、3) 線状痕は縁辺に対して平行方向である、4) 使用痕光沢面上の線状痕・ピットが相対的に明瞭である、5) 大きな剥片の長い縁辺が作業刃部として利用されている、などをあげることができる。こうした点から、イネ科植物の穂刈りに用いられたと考えるよりも、根刈りに用いられた資料と考えるほうが合理的である。形態的にも、二次加工によって段が作出されているとみることができるために、いわゆる有肩扁状石器の範疇でとらえることが可能かもしれない。伊那谷における有肩扁状石器の用途は、着柄したうえでのイネ科植物の根刈り、除草、残柵処理が推定されている（御堂島 1989、2005）。今回の分析では情報がえられなかっただめ着柄の有無については保留するとしても、No.104 が有肩扁状石器と同様の用途に利用された蓋然性はきわめて高い。また、使用痕光沢面の分布範囲は a 面と b 面でやはり同じではなく、a 面で相対的に広い範囲に分布していることから、自然面である a 面を下にした状態で利用されたと推定される。

中野谷原遺跡における石製収穫・除草具は、穂刈具を中心であった（高瀬 2004）。しかし、本稿における分析結果から、二軒在家原田頭遺跡の石製収穫・除草具のなかには根刈具にくわえて根刈具も組成されていたと考えができる。弥生文化中期前半から後半のあいだに藁の利用が活発化した可能性があり、今後、この推定が同地域の中期後半～後期の石器の使用痕分析によって追認できるかどうかが確認される必要がある。また、本地域では弥生中期を通して穂摘みの動作による穀物の収穫は定着せず、一貫して穂刈りの動作が主流であったことが確認された。今後、弥生後期の資料の分析をとおして収穫方法の時間的推移を解明する必要があるであろう。

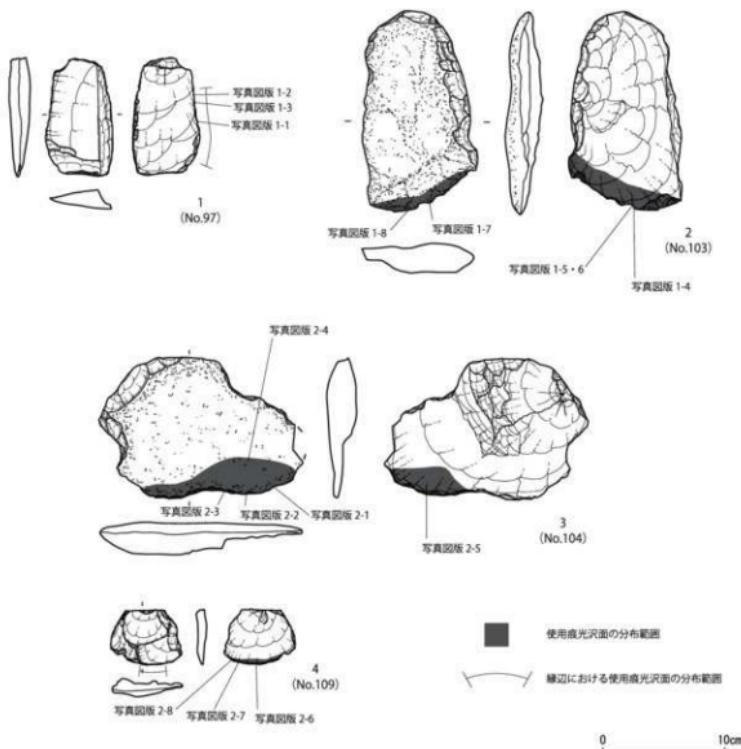
二軒在家原田頭出土の石器に使用痕が確認されたのに対して、上人見遺跡出土の同種の石器にはまったく使用痕が認められなかった。この点については、現段階において集落と墓地という遺跡の機能の違いが反映されていると考えておきたい。筆者が、群馬県冲 II・新保・行幸田山、埼玉県池上遺跡から出土したスクレイパー・剥片類を対象に使用痕分析を実施した際も、墓地遺跡である冲 II 遺跡出土資料にはいっさいの使用痕が確認できなかった（高瀬 2010）。他の遺跡の資料には数は少ないながらも使

用痕が確認できる例が含まれており、やはり遺跡の機能の差が使用痕をともなう資料の出現頻度と相関している可能性がある。しかしながら、墓地からスクレイパーB類や剥片がなぜ出土するのかという問題はなおのこっており、それらの解体具説（春成 1986, 1993）、剥片の分有説（設楽 2008）、剥片剥離行為の呪性説（石川 1993）など、諸仮説の検証の必要性は依然として今後の課題として残されている。

謝辞 本稿の執筆にあたり、井上慎也氏（安中市教育委員会）にお世話をになった。記して感謝申し上げる。本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金（課題番号 25244036、研究代表者：設楽博己）による研究成果の一部である。

引用文献

- 阿子島香 1989『石器の使用痕』ニュー・サイエンス社。
- 石川日出志 1993「再葬墓」『考古学の世界2』き“ようせい”。
- 井上慎也編 2014『西横野東部地区遺跡群（人見東原II遺跡・人見西下原遺跡・人見枝谷津遺跡・人見東向原遺跡・人見向原遺跡・人見東中原遺跡・人見西中原遺跡・人見西向原遺跡・人見本村遺跡・上人見遺跡）—県営農地整備事業松義東部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』安中市教育委員会。
- 梶原洋・阿子島香 1981「頁岩製石器の実験使用痕 研究一ホ “リッシュを中心とした機能推定の試みー”」『考古学雑誌』67(1)。
- 斎野裕彦 2001「石鎚の使用痕（上）」『古代文化』53(10)。
- 沢田敦 1995「下谷地遺跡出土「石庖丁」の使用痕分析—収穫具からみた弥生時代の越後における稻作農耕の形態—」『新潟考古』6, pp.21-42。
- 設楽博己 2008『弥生再葬墓と社会』塙書房。
- 高瀬克範 2004「中野谷原遺跡出土の収穫具」『中野谷地区遺跡群2』安中市教育委員会。
- 高瀬克範 2010「関東平野北部における弥生時代の剥片・スクレイパー類の使用痕分析」『論集忍路子』III, 忍路子研究会。
- 春成秀爾 1986「弥生時代」『図説 発掘か“語る日本史 第2巻 関東・甲信越編』新人物往来社。
- 春成秀爾 1993「弥生時代の再葬制」『国立歴史民俗博物館研究報告』49。
- 御堂島正 1989「有肩扁状石器の使用痕分析—南信州弥生時代における打製石器の機能ー」『古代文化』41(3)。
- 御堂島正 2005『石器の使用痕研究』同成社。
- Keeley, L.H. 1977 The function of paleolithic flint tool, Scientific American 237-5.
- Keeley, L.H. 1980 Experimental Determination of Stone Tool Uses: A Microwear Analysis, University of Chicago Press.



第1図 使用痕が確認された資料（写真番号は写真図版の番号と対応）

| No. | 遺跡 | 図番号 | 遺構・発掘区・番号など | 器種 | 岩石 | 線状痕 | 使用痕光沢面 |
|-----|---------|---------|-----------------|----------|-----|-----|--------|
| 1 | 二軒在家原田頭 | 95 | Y6.9.1 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 2 | 二軒在家原田頭 | 96 | D2 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 3 | 二軒在家原田頭 | 97 | Y10.1.1 | スクレイバーB類 | 頁岩 | 平行 | B |
| 4 | 二軒在家原田頭 | 98 | Y11炉内 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 5 | 二軒在家原田頭 | 99 | Y1 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 6 | 二軒在家原田頭 | 100 | Y-1 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 7 | 二軒在家原田頭 | 101 | Y-8 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 8 | 二軒在家原田頭 | 102 | Y11炉内 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 9 | 二軒在家原田頭 | 103 | F9 | スクレイバーB類 | 安山岩 | 平行 | B |
| 10 | 二軒在家原田頭 | 104 | D5c(Y16) | スクレイバーB類 | 安山岩 | 平行 | AB |
| 11 | 二軒在家原田頭 | 105 | D5b(Y-16床直) | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 12 | 二軒在家原田頭 | 106 | D5b(Y-16床直) | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 13 | 二軒在家原田頭 | 107 | D5b(Y-16床直) | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 14 | 二軒在家原田頭 | 108 | D5b(Y-16床直) | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 15 | 二軒在家原田頭 | 109 | D5c | スクレイバーB類 | 頁岩 | 平行 | B |
| 16 | 二軒在家原田頭 | 110 | Y10.2.1 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 17 | 二軒在家原田頭 | 111 | Y9 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 18 | 二軒在家原田頭 | 112 | Y11.6.1 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 19 | 二軒在家原田頭 | 113 | D2 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 20 | 二軒在家原田頭 | 114 | Y3-往周辺 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 21 | 二軒在家原田頭 | 115 | Y14.10.1 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 22 | 二軒在家原田頭 | 116 | D5a(Y16) | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 23 | 二軒在家原田頭 | 117 | Y11炉内 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 24 | 上人見遺跡 | 第546図13 | M2.2区 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 25 | 上人見遺跡 | 第546図14 | 2G-450 BT1 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 26 | 上人見遺跡 | 第546図15 | 2K-457.2区 BT8 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 27 | 上人見遺跡 | 第546図16 | D-119 No.7 BT13 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 28 | 上人見遺跡 | 第547図17 | 2R-467.2区 BT9 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 29 | 上人見遺跡 | 第547図18 | ZH-459.8区 BT3 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 30 | 上人見遺跡 | 第547図19 | D-135 No.1 BT28 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 31 | 上人見遺跡 | 第548図20 | ZG-459.11区 BT6 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 32 | 上人見遺跡 | 第548図21 | D-139 No.1 BT26 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 33 | 上人見遺跡 | 第548図22 | D-7 No.18 BT27 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 34 | 上人見遺跡 | 第548図23 | 2K-456.16区 BT19 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 35 | 上人見遺跡 | 第548図24 | ZH-459.5区 BT21 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 36 | 上人見遺跡 | 第548図25 | D-65 No.5 BT24 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 37 | 上人見遺跡 | 第548図26 | D-54 No.23 BT30 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |
| 38 | 上人見遺跡 | 第549図27 | 2N-456.2区 BT11 | スクレイバーB類 | 安山岩 | なし | なし |
| 39 | 上人見遺跡 | 第549図28 | 2P-457.4区 BT14 | スクレイバーB類 | 頁岩 | なし | なし |

第1表 分析資料・結果一覧

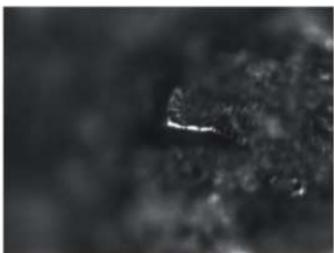


写真1 (200x)

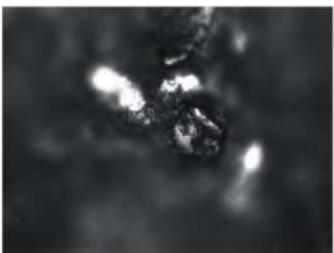


写真2 (200x)



写真3 (200x)



写真4 (100x)



写真5 (100x)

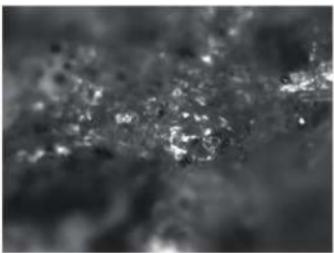


写真6 (100x)

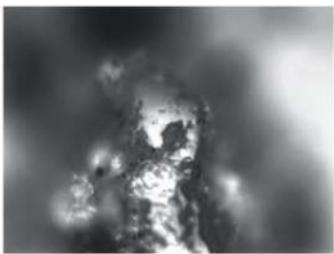


写真7 (200x)

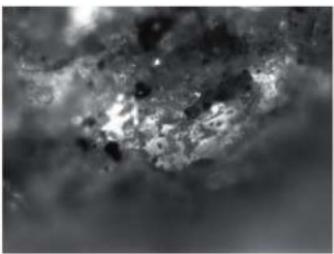


写真8 (200x)

0 200 μm 0 (100x) (200x) 100 μm

写真図版1 (写真1-3: No.97, 写真4-8: No.103)



写真1 (100x)



写真2 (100x)



写真3 (100x)



写真4 (200x)



写真5 (200x)

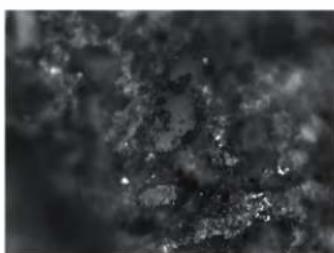


写真6 (200x)



写真7 (200x)



写真8 (200x)

0 200 μm 0 100 μm
(100x) (200x)

写真図版2 (写真1-5: No.104, 写真6-8: No.109)

4 二軒在家原田頭遺跡出土土器のレプリカ法調査

遠藤英子（明治大学 黒耀石研究センター）

本報告書で報告された二軒在家原田頭遺跡出土土器を観察対象としてレプリカ法調査を実施したので、その結果について報告する。レプリカ法とは、土器に観察される圧痕にシリコン樹脂を充填して型取りし、採取したレプリカを走査型電子顕微鏡(SEM)などで観察、同定を行う手法（丑野・田川 1991）で、その同定は現生動植物などとの形態的比較から行う。今回は離型剤としてパラロイドB-72溶剤を用いる福岡市埋蔵文化財センター方式（比佐・片多 2005）に基づく手順で実施した。このレプリカ法調査の目的は、本遺跡出土土器から推定される、栗林式期を中心に弥生時代中期中葉から中期後半という時間幅の中での栽培植物の有無やその組み合わせの検討である。

計704点の土器を観察し、動植物の残した圧痕と推定した20点のレプリカを採取し、これらレプリカを走査型電子顕微鏡（明治大学日本古代学研究所所蔵 KEYENCE VE-8800）で検鏡したところ、イネ玄米1点、アワ有ふ果7点、キビ有ふ果1点を同定した。このうちイネを同定した6号住居出土の壺胴部資料や、アワを同定した8号住居出土の甕資料は、報告書中で述べられているとおり栗林1式の可能性が高い資料であり、すでに栗林式の古い段階から遺跡周辺で穀物栽培の可能性を示唆する資料であるが、今後周辺地域での資料の蓄積が必要である。

参考・引用文献

丑野毅・田川裕美 1991「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24 日本文化財科学

会 13-36頁

比佐陽一郎・片多雅樹 2005『土器圧痕レプリカ法による転写作業の手引き』福岡市埋蔵文化財センター

| 資料番号 | 出土遺構 | 図版番号 | 器種 | 圧痕検出部位 | 圧痕検出面 | 種子同定 | 種子の状態 | 写真番号 |
|----------|--------|-----------|----|--------|-------|------|-------|-------|
| NKZ-0001 | Y-8 住 | 1020 図 1 | 甕 | 胴部 | 外面 | アワ | 有ふ果 | 写真1・2 |
| NKZ-0002 | Y-8 住 | 1021 図 13 | 鉢 | 胴部 | 外面 | キビ？ | 有ふ果 | |
| NKZ-0003 | Y-5 住 | 1016 図 15 | 壺 | 胴部 | 断面 | キビ？ | 有ふ果 | |
| NKZ-0004 | Y-5 住 | 1016 図 9 | 甕 | 胴部 | 内面 | アワ | 有ふ果 | |
| NKZ-0005 | Y-6 住 | 1018 図 33 | 壺？ | 胴部 | 内面 | イネ | 玄米 | 写真3・4 |
| NKZ-0006 | Y-13 住 | 1027 図 1 | 甕 | 胴部 | 内面 | キビ | 有ふ果 | 写真5・6 |
| NKZ-0007 | Y-14 住 | 1029 図 4 | 甕 | 胴部 | 内面 | アワ | 有ふ果 | |
| NKZ-0008 | Y-11 住 | 1025 図 23 | 甕？ | 底部内面 | 底部内面 | アワ | 有ふ果 | 写真7・8 |
| NKZ-0009 | 同上 | 同上 | 甕？ | 底部外面 | 底部外面 | アワ | 有ふ果 | |
| NKZ-0010 | 同上 | 同上 | 甕？ | 底部外面 | 底部外面 | アワ | 有ふ果 | |
| NKZ-0011 | 同上 | 同上 | 甕？ | 底部外面 | 底部外面 | アワ | 有ふ果 | |

第1表 圧痕が確認された土器一覧



写真1. 腹部外面にNKZ-0001の圧痕を検出した
8号住居出土壺



写真3. 腹部内面にNKZ-0005の圧痕を検出した
6号住居出土壺腹部破片



写真5. 腹部内面にNKZ-0006の圧痕を検出した
13号住居出土壺口縁部



写真7. 底部内面にNKZ-0008の圧痕を検出した
11号住居出土の甕?

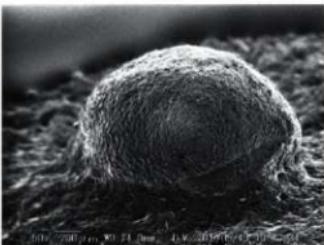


写真2. 外頸側に乳頭状突起と内外頸境目の
三日月状部位が観察されアワ有ふ果と同定

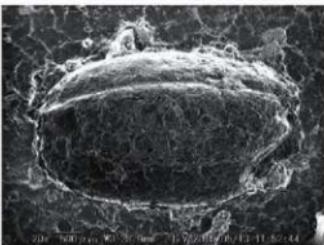


写真4. 細鉢形の全形、縦管束による凹凸、
胚の欠落が観察されイネ玄米と同定

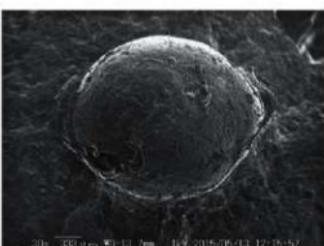


写真6. 両端の尖った全形、平滑な内外面表面、
その境目の段差からキビ有ふ果と同定



写真8. 平坦な内頸側に乳頭状突起、内外頸境目に平滑な
三日月状部位が観察されアワ有ふ果と同定

写真図版1 圧痕が確認された主な土器（左）とSEM写真（右）

発掘調査報告書 抄録

| | |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ふりがな | にしよこのちゅうぶちくいせきぐん（ひとみにしらいせき・ひとみさかのうえいせき・ひとみさんほんまついせき・ひとみうえのはらいせき・ひとみかみにしらいせき・にけんざいはらだいせき・にけんざいはらひがしいせき） |
| 書名 | 西横野中部地区遺跡群（人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡・人見三本松遺跡・人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡・二軒在家原田遺跡・二軒在家原田Ⅱ遺跡・二軒在家原田頃遺跡・行田二本杉原東遺跡） |
| 副書名 | 県営農地整備事業松義中部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 |
| 卷次 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 菅原龍彦・樋伸明・藤波啓容・井上慎也・パリノサーゲイエ園・西バレオラボ・高瀬克範・遠藤英子 |
| 編集機関 | 群馬県安中市教育委員会 |
| 編集機関所在地 | 379-0292 群馬県安中市松井田町新堀245 TEL027-382-1111 |
| 発行年 | 西暦2017（平成29）年3月24日 |

| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|----------------------------|--------------------------------------------|--------|------|-------------|--------------|----------------------------------------|------------------------------------|
| | | 市町村 | | | | | |
| ひとみにしら 人見西原 | あんなんくまつしままひら 安中市松井田町人見字 あらぎにしら 西原 | 102113 | N-6 | 36° 17' 28" | 138° 49' 34" | 20091203～20090319 | 県営農地整備事業 松義中部地区 (第1工区A) |
| ひとみかみのうま 人見坂ノ上 | ひとみあさかみのうま 人見坂ノ上 | | N-7 | 36° 17' 35" | 138° 49' 32" | 20090423～20091109 | |
| ひとみさんほんまつ 人見三本松 | ひとみあざんほんまつ 人見字三本松 | | N-10 | 36° 17' 37" | 138° 49' 15" | 20091201～20100319 20100422～20100928 | |
| ひとみうそのはら 人見上ノ原 | ひとみあうそのはら 人見字上ノ原 | | N-12 | 36° 17' 37" | 138° 49' 07" | 20101125～20110318 | |
| ひとみかみにしら 人見上西原 | ひとみあざかみにしら 人見字上西原 | | N-13 | 36° 17' 31" | 138° 49' 06" | 20101125～20110318 | |
| にけんざいせきはら 二軒在家原田 | にけんざいせきはら 二軒在家字原田 | | N-14 | 36° 17' 39" | 138° 49' 39" | 20110512～20111114 | |
| にけんざいせきはら 二軒在家原田Ⅱ | にけんざいせきはら 二軒在家字原田Ⅱ | | N-16 | 36° 17' 44" | 138° 49' 22" | 20111125～20120313 20120501～20121015 | 14,000m ² (第2工区B-1) |
| にけんざいせきはら 二軒在家原田頃 | にけんざいせきはら 二軒在家字原田頃 | | N-17 | 36° 17' 54" | 138° 47' 54" | 20121205～20130325 20130507～20130924 | 7,000m ² (第2工区B-2・C) |
| おくなだにほんすすぎはらひがし 行田二本杉原東 | おくなだあがにほんすすぎはらひがし 行田二本杉原東 | | N-18 | 36° 17' 52" | 138° 47' 41" | 20131216～20140329 20140522～20140716 | 6,700m ² (第3工区) |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|-----------|--------|------|--------------|---------|------------------------------------|
| 人見西原遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址2、土坑6 | 縄文土器・石器 | 中期加曾利E式期。 |
| | 集落 | 古墳時代 | 住居址50、土坑3 | 土師器・石製品 | 前期～中期の大規模集落。布留甕出土。 |
| 人見坂ノ上遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址4 | 縄文土器・石器 | 中期加曾利E式期。柄鏡形敷石住居2 |
| | 集落 | 古墳時代 | 住居址1 | 土師器 | 前期の住居址。 |
| | 集落、その他 | 古代 | 住居址2、溝2 | 土師器 | 牧闘連遺構とみられる大溝(区画溝)。 |
| 人見三本松遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址1 | 縄文土器・石器 | 前期諸磯c式期。 |
| | 集落 | 古墳時代 | 住居址16 | 土師器・須恵器 | 人見西原遺跡に西接する一連の集落。 |
| | 集落、その他 | 古代 | 住居址9、溝9 | 土師器・須恵器 | 大溝(区画溝)の延長部分。2条1対の道路状遺構も確認。 |
| 人見上ノ原遺跡 | 集落 | 古代 | 住居址3 | 土師器・須恵器 | 大溝(区画溝)の延長と、同時期の集落。 |
| 人見上西原遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址1 | 縄文土器・石器 | 中期加曾利E式期。 |
| | 集落、その他 | 古代 | 住居址9、溝3 | 土師器 | 大溝(区画溝)の延長と、同時期の集落。 |
| 二軒在家原田遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址139、土坑228 | 縄文土器・石器 | 前期有尾・黒浜～諸磯式期および中期加曾利E式期(環状)の大規模集落。 |
| | 古墳 | 古墳時代 | 古墳3 | 須恵器・鉄製品 | 横穴式石室をもつ終末期古墳。 |
| 二軒在家原田Ⅱ遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址114、土坑325 | 縄文土器・石器 | 二軒在家原田遺跡に西接する同一集落。 |
| | 集落、古墳 | 古墳時代 | 住居址8、古墳1 | 土師器・土製品 | 後期住居址、配石墓群、弧状列石も確認。前期の小規模集落と終末期古墳。 |
| 二軒在家原田頭遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 住居址1 | 縄文土器 | 前期有尾・黒浜式期。 |
| | 集落 | 弥生時代 | 住居址16 | 弥生土器・石器 | 中期後半栗林式期の集落。土器に穀物(イネ・キビ・アワ)の压痕。 |
| | その他 | 古代 | 溝4 | 土師器・須恵器 | 大溝(区画溝)の延長部分。 |
| 行田二本杉原東遺跡 | その他 | 古代 | 溝1 | 土師器 | 大溝(区画溝)の延長部分。 |

西横野中部地区遺跡群

(人見西原遺跡・人見坂ノ上遺跡・人見三本松遺跡・人見上ノ原遺跡・人見上西原遺跡・二軒在家原田遺跡・二軒在家原田Ⅱ遺跡・二軒在家原田頭遺跡・行田二本杉原東遺跡)

(本文編・第3分冊)

～県営農地整備事業松義中部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

発 行 日 平成29年3月24日
 編集・発行 安中市教育委員会
 印 刷 群馬県安中市松井田町新堀245
 上海印刷工業株式会社
 群馬県前橋市天川大島町305-1